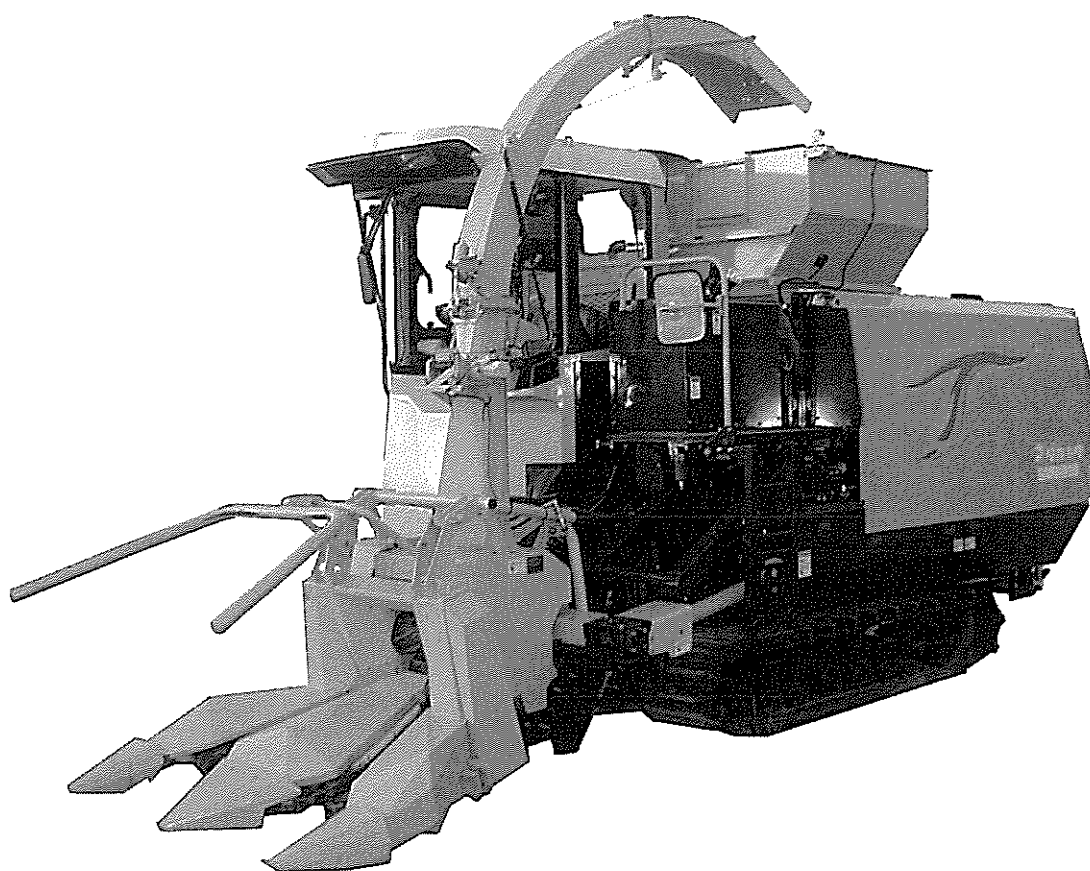


取扱説明書



汎用型飼料収穫機

SMR1000



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**汎用型飼料収穫機**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

安全に作業をするために..... 1	4. フロントコラム右パネル部..... 4 3
1. 安全作業をするために次のことがらを必ず 守ってください..... 1	(1) エコモード切替スイッチ..... 4 3
2. 走行・輸送をするときは..... 2	(2) アクセルダイヤル..... 4 4
3. 点検・整備をしてください..... 3	(3) 傾斜角調節ダイヤル..... 4 4
4. 作業・移動をするときには..... 4	5. フロントコラム左パネル部..... 4 5
5. 点検・整備をするときには..... 7	6. オールマイティシフトレバー部..... 4 5
警告ラベル貼付け位置	(1) オールマイティシフトレバー..... 4 5
本体..... 1 1	(2) UFO手動（車高調節）スイッチ 4 5
ハーベスタ..... 1 5	(3) リール前後スイッチ..... 4 6
アタッチ（ロックロップ）..... 1 6	(4) 刈取昇降スイッチ..... 4 6
（リールヘッダ）..... 1 7	(5) 刈取オートリフトボタン・ 刈取オートセットボタン..... 4 6
（ピックアップ）..... 1 8	(6) ノークラッチ副変速ボタン..... 4 7
本製品の使用目的と	7. サイドコラム部..... 4 7
サービスについて..... 1 9	(1) 副変速レバー..... 4 7
機体方向説明..... 2 0	(2) ベールクラッチ..... 4 8
各部の名称とはたらき..... 2 1	8. その他の操作関係..... 4 8
1. 外観..... 2 1	(1) セフティペダル..... 4 8
2. 運転操作部..... 2 5	(2) 駐車ブレーキロックレバー..... 4 8
3. キャビン部..... 2 9	(3) 旋回モード切替ノブ..... 4 9
4. 電装部..... 3 1	(4) 緊急停止スイッチ..... 4 9
本体..... 3 1	(5) 作業灯スイッチ..... 5 0
コントロールボックス..... 3 3	9. その他..... 5 0
5. アタッチ部..... 3 5	(1) ドライバーシート..... 5 0
ロックロップ..... 3 5	(2) 乗降ステップ操作レバー..... 5 1
リールヘッダ..... 3 6	(3) エンジンルームロックレバー 5 1
ピックアップ..... 3 7	(4) フットレスト..... 5 1
運転に必要な装置の取扱い..... 3 8	(5) 取扱説明書収納ポケット..... 5 2
1. フロントコラム中央..... 3 8	12. キャビン関係..... 5 2
(1) キースイッチ..... 3 8	(1) ドアハンドル（外側・内側） 5 2
(2) コンビネーションスイッチ..... 3 8	(2) ドア開閉レバー（車内）..... 5 2
(3) チルトレバー..... 3 8	(3) ドアウインドウ開閉レバー..... 5 3
2. ハンドル部..... 3 9	(4) ワイパー&ウォッシャースイッチ 5 3
(1) マルチハンドル..... 3 9	(5) ルームランプスイッチ..... 5 4
(2) リール制御スイッチ..... 3 9	(6) FM・AM付きCDラジオ..... 5 4
(3) ホーンボタン..... 3 9	(7) ファンスイッチ..... 5 5
3. センターディスプレイ部..... 4 0	(8) エアコンスイッチ..... 5 6
	(9) 温度コントロールレバー..... 5 6

目 次

(10) 吹出口切替レバー	56
(11) 風向きグリル	57
(12) サイドウインドウ開閉つまみ	57
(13) リアウインドウ開閉レバー	58
(14) ステップ (燃料タンクベース)	58
(15) バックモニター・ バックモニターカメラ・ サイドモニターカメラ	58
(16) 消化器	59
7. ハーベスタ部	59
(1) 切断長の調整	59
(2) 逆転ミッション切換レバー	60
(3) ハーベスタ昇降シリンダ用 ストップバルブの取扱い	61
(4) シュートヘッドロック装置	61
8. ロールベアラ部	61
(1) タイトチェン注油装置の 取扱い	61
(2) タイトチェン注油 絞り弁の取扱い	62
(3) チャンバーストップバルブの 取扱い	62
(4) 手動バルブの取扱い	63
(5) ベーラクラッチの取扱い	64
9. ネット装置部	65
(1) ネット張力調整	65
(2) ネット装置の引き出し方法	65
(3) ネットの取り付け方	66
(4) ネット切断ナイフについて	67
(5) 使用出来るネットについて	67
運転・移動のしかた	68
(1) 新車時の扱い方	68
(2) 乗降のしかた	68
(3) シート位置の調整のしかた	69
(4) マルチハンドルの 前後調節のしかた	70
(5) メンテナンスモードについて	70
①メンテナンスモードへの 切り替えかた	70
②初期設定モードへの 切り替えかた	71
③フィット昇降速度設定	71
(6) 操作機能の変更のしかた	72
(7) エンジンの始動のしかた	74
①エンジン始動前の 確認・準備	74
②エンジン始動操作のしかた	75
(8) 暖気運転のしかた	76
(9) エンジン停止のしかた	76
(10) 発進のしかた	77
①発進前の準備	77
②発進操作のしかた	78
(11) 変速のしかた	78
(12) 旋回のしかた	79
マルチハンドルの操作量と 旋回角度について	79
(13) 停車のしかた	80
(14) 駐車のしかた	80
(15) 移動走行のしかた	81
①本機の走行姿勢について	81
②移動走行操作のしかた	82
(16) トラックでの運搬のしかた	83
①アユミ板について	84
②トラックの準備	84
③本機の積み込みかた	84
④トラックに積み込んだら	85
⑤本機の降ろしかた	87
⑥積み・降ろし中の機体の 停止・発進のしかた	88

目 次

収穫作業前の準備のしかた	89
(1) 切断長の調整	89
(2) フィードロールのバネ調整	89
(3) 作物の条件について	89
〈ロークロップ〉	
①刈取りできる作物の条件について	89
②倒伏した作物の刈取り	89
〈リールヘッダ〉	
①刈取りできる作物の条件について	89
②刈取り方向	90
〈ピックアップ〉	
収穫できる作物の条件について	90
(4) 収穫作業のできるほ場の条件について	90
(5) ほ場の条件と収穫方法について	90
〈ロークロップ・リールヘッダ〉	
①ほ場の準備	91
②刈取り方法	91
③広いほ場の刈取り方法	92
④横刈り時の刈取り方法	
〈リールヘッダのみ〉	92
〈ピックアップ〉	
ほ場の準備	92
(6) 収穫機の準備のしかた	92
〈ロークロップ〉	
①ストークガイドの調整	93
②チェンへの注油	93
〈リールヘッダ〉	
①デバイダヘッドの取り付け	93
②サイドデバイダの準備	93
③刈刃・チェンへの注油	93
④デバイダヘッドの高さ調節のしかた	94
〈ハーベスタ・ピックアップ〉	
チェンへの注油	94
〈ロールベアラ〉	
①タイトチェンへの注油	94

②各チェンへの注油	95
(7) ほ場への出入りのしかた	95
(8) モニターについて	96
収穫作業のしかた	97
(1) 作業の流れ	99
(2) ベールカウンターのリセット	99
(3) 収穫作業のしかた	99
〈ロークロップ〉	
①作業の手順	99
②作業中の方向転換	103
③作業速度の選び方	104
〈リールヘッダ〉	
①作業の手順	104
②作業中の方向転換	109
③作業速度の選び方	110
④湿田ほ場の刈取りかた	110
⑤リールヘッダ取扱いのポイント	110
〈ピックアップ〉	
①作業の手順	112
②作業中の方向転換	116
③作業速度の選び方	116
④牧草の拾い上げ方法	116
〔注意〕切断わらと長わらの拾い上げ方法	116
⑤オーガに詰まったときの対処法	117
(4) 自動水平制御 (UFO) 装置	118
(5) 刈取オートリフト・刈取オートセット装置	120
(6) セフティリフト (リールヘッダのみ)	121
(7) 刈取バックアップ装置	122
(8) ハーベスタに詰まったときの対処法	122
(9) 安全装置について	123
〈ハーベスタ部〉	124
〈ロールベアラ部〉	125
〈リールヘッダ部〉	125
〈ピックアップ部〉	125

目 次

各部の着脱・オープンのしかた	1 2 6
(1) 主なカバーについて	1 2 6
(2) カバーL・Rの開閉のしかた	1 2 7
(3) サイドカバー・アンダーカバーの 開けかた、取外しかた	1 2 8
アタッチの着脱のしかた	1 2 9
〈ロークロップ〉	1 2 9
〈リールヘッダ〉	1 3 1
〈ピックアップ〉	1 3 4
作業後の手入れと格納について	1 3 7
(1) 機体の洗浄のしかた	1 3 7
(2) 各部の掃除のしかた	1 3 8
①ハーベスタ右側	1 3 9
②ホッパー内	1 3 9
③電磁バルブ周辺	1 4 1
④バッテリー周辺	1 4 1
⑤リヤチャンバー	1 4 1
⑥逆転ギヤ周辺 (機体左側)	1 4 2
⑦ハーベスタ左側	1 4 3
⑧フィードロール下カバーの 掃除のしかた	1 4 3
⑨マフラーの掃除のしかた	1 4 3
⑩コンデンサ部の掃除のしかた	1 4 3
(3) 各部の注油のしかた	1 4 4
①タイトチェンの注油	1 4 4
②ハーベスタ部への注油のしかた	1 4 5
③ロールベアラ部への注油のしかた	1 4 5
④ロークロップ部への注油のしかた	1 4 6
⑤リールヘッダ部への注油のしかた	1 4 6
⑤ピックアップ部への注油のしかた	1 4 7
(4) 各部へのグリスアップのしかた	1 4 8
①ハーベスタ部へのグリスアップ のしかた	1 4 8
②ロールベアラ部へのグリスアップ のしかた	1 4 8

1. 第一・第二コンベアテンション スライド部へのグリスアップ のしかた	1 5 0
2. タイトチェンテンション スライド部へのグリスアップ のしかた	1 5 0
3. チャンバー開閉支点への グリスアップのしかた	1 5 0
③台車部	1 5 1
1. UFO支点部へのグリスアップ のしかた	1 5 1
2. トランスミッション入力 ドライブシャフト部への グリスアップのしかた	1 5 1
④アタッチ部	1 5 2
〈ロークロップ〉	
1. 入力軸ベアリング (機体右側) への グリスアップのしかた	1 5 2
2. 刈刃軸受へのグリスアップの しかた	1 5 2
3. ギャザリングチェン駆動 ギヤボックス入力軸ベアリング (機体左側) へのグリスアップの しかた	1 5 2
〈リールヘッダ〉	
1. リール変速プーリ (上) への グリスアップのしかた	1 5 2
2. リール変速プーリ (下) への グリスアップのしかた	1 5 2
3. リールセンターシャフト 右部・左部へのグリスアップの しかた	1 5 2
4. リール前後回動支点右部・左部への グリスアップのしかた	1 5 3
〈ピックアップ〉	1 5 3
(7) 格納のしかた	1 5 3
(8) 格納中の整備のしかた	1 5 4
(9) 運転再開のしかた	1 5 4

目 次

各部の点検・整備	1 5 5	(1 6) プレクリーナーの掃除のしかた	1 7 6
(1) 定期点検一覧表	1 5 5	(1 7) 吸気口・ロータリースクリーン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた	1 7 6
(2) 規定量一覧表	1 5 8	①ロータリースクリーンの掃除のしかた	1 7 6
(3) オイル・グリス・不凍液一覧表	1 6 0	②ラジエータスクリーンの掃除のしかた	1 7 7
(4) 給油・給水一覧表	1 6 1	③オイルクーラフィン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた	1 7 8
(5) メンテナンス時間のリセットのしかた	1 6 2	④エアコン用コンデンサフィンの掃除のしかた	1 7 8
(6) 燃料の点検・補給のしかた	1 6 3	⑤フィルタの掃除のしかた	1 7 9
①燃料の残量点検のしかた	1 6 3	⑥インタークーラフィンの掃除のしかた	1 7 9
②燃料キャップの取付け・取外しかた	1 6 3	⑦ダストロータの点検のしかた	1 7 9
③燃料の補給のしかた	1 6 3	(1 8) ウォッシャー液の補充のしかた	1 8 0
(7) オイル点検・補給・交換のしかた	1 6 4	(1 9) バッテリ点検・整備のしかた	1 8 0
①エンジンオイル	1 6 4	①バッテリー液の点検・補充のしかた	1 8 1
②ミッションオイル	1 6 6	②交換時期について	1 8 1
③カウンターケース	1 6 7	③バッテリーの取外し方	1 8 1
④インタークーラファン駆動ケース	1 6 8	④補充電のしかた	1 8 2
⑤油圧パッケージ	1 6 8	⑤ブースター端子を使ったエンジンの始動のしかた	1 8 2
⑥ハーベスタ直交ミッション	1 6 9	⑥バッテリーの手入れのしかた	1 8 3
⑦逆転ミッション	1 6 9	⑦バッテリーの自然放電について	1 8 3
(8) 冷却水の点検・補給・交換のしかた	1 6 9	(2 0) パイプ類の点検のしかた	1 8 3
(9) エンジンオイルエレメントの交換のしかた	1 7 1	(2 1) 電気配線の点検のしかた	1 8 3
(1 0) H S Tフィルタの交換のしかた	1 7 2	(2 2) ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換のしかた	1 8 3
(1 1) ウォータセパレータエレメントの点検・ドレン抜き・掃除・交換のしかた	1 7 3	①本機側ヒューズ	1 8 4
(1 2) 燃料フィルタの交換のしかた	1 7 4	②キャビン内ヒューズ	1 8 5
(1 3) 燃料タンクドレン抜きのしかた	1 7 4	③コントロールボックスのヒューズ	1 8 5
(1 4) 燃料の空気(エア)抜きのしかた	1 7 5		
(1 5) エアクリーナーの掃除・交換のしかた	1 7 5		

目 次

(23) 各部のベルト点検・調節のしかた	(34) アタッチ部の手入れのしかた
..... 186	 202
①インタークーラファンベルト	〈ロークロップ〉
..... 187	①ロークロップギヤザリングチェン
②コンプレッサ駆動ベルト..... 187	の調節のしかた..... 202
③ジェネレータ駆動ベルト..... 188	②刈刃のクリアランス調節のしかた
④ハーベスタ駆動ベルト..... 188	 202
⑤ロールペーラ駆動ベルト..... 189	〈リールヘッダ〉
(24) 各部のチェン調整..... 189	①刈刃の手入れのしかた..... 203
〈ハーベスタ部〉	②プラットホーム底板とスクリュウ
①アタッチ駆動チェン..... 189	コンベアのすき間調節のしかた
②切断長調整チェン..... 190	 203
〈ロールペーラ右側〉..... 190	③リール変速ベルトの交換のしかた
〈ロールペーラ左側〉..... 191	 204
(25) 第一・第二コンベアベルトの調整	④プラットホーム底板とオーガフィンガ
..... 192	のすき間調節のしかた..... 204
(26) ハーベスタ各部のクリアランス	⑤ストリッパとスクリュウコンベアの
..... 193	すき間調節のしかた..... 205
〈ナイフ・シャープバのクリアランス〉	⑥プラットホームオーガリミット
..... 193	クラッチの点検・調節のしかた
〈フロントプレートとナイフの	 205
クリアランス〉..... 194	⑦リール調節のしかた..... 206
〈フィードロール上とフィードロール	⑧刈刃上面のリールタイン先端の
下のクリアランス〉..... 194	すき間調節のしかた..... 206
〈フィードロール上とスクレパ	⑨スクリュウコンベアの外周とリール
のクリアランス〉..... 194	タイン先端のすき間が、適正でない
(27) シリンダナイフの取付け調節	場合の調節..... 207
..... 195	⑩倒伏した作物で引き起こし性能が
(28) ナイフの研磨のしかた..... 195	不足する場合..... 207
(29) 駐車ブレーキの点検・調節のしかた	⑪立毛した作物で、リールの回転により、
..... 197	リールが稈を持ちまわる場合
(30) クローラの点検・調節のしかた	 207
..... 197	⑫リールヘッダの各部のチェン・ベルト
(31) 排気ガスの色について..... 198	について..... 207
(32) クローラガス（冷媒）の点検のしかた	⑬リールカウンタチェンの点検・調節
..... 198	のしかた..... 208
(33) ロールペーラ電装部の確認... 200	⑭プラットホームオーガチェンの
①電装の確認..... 200	点検・調節のしかた..... 208
②感知センサの調節方法..... 201	⑮刈刃駆動ベルト..... 209
③ホッパー満了センサの掃除... 201	〈ピックアップ〉
	①入力チェンの調節のしかた..... 209
	②逆転ギヤ入力チェンの
	調節のしかた..... 210

目 次

不調診断のしかた	2 1 1
(1) センターディスプレイの注意画面に ついて	2 1 1
①エンジン始動時に表示された画面	2 1 1
②エラー表示	2 1 2
③その他の注意	2 1 2
(2) センターディスプレイの異常表示と 処置のしかた	2 1 3
(3) センターディスプレイに表示されない 不調について	2 1 6
(4) 油圧が作動しない場合	2 2 1
(5) コントロールボックスの表示について	2 2 2
1. 準備完了表示	2 2 2
2. 通常動作表示	2 2 2
3. ネット切れ表示	2 2 3
4. 動作不良表示	2 2 3
(6) チェッカ機能について	2 2 5
①チェッカ機能の使いかた	2 2 5
主要諸元	2 2 8
主要消耗品	2 3 0
交換時期の目安	2 3 3
付表	2 3 5
(1) 電気配線図 (ロールペーラ)	2 3 5
(2) 電気配線図 (後保安)	2 3 6
(3) 油圧回路図 (ロールペーラ)	2 3 7

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

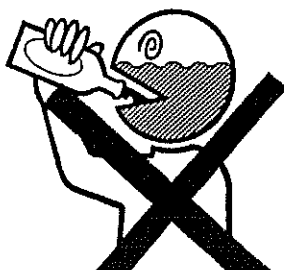
(1) 安全指示順守

- 本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは、注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。



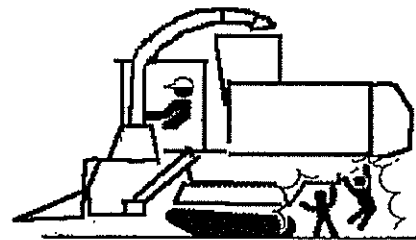
(2) 適格者運転

- 運転操作には的確な判断が必要です。
- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中のご婦人、18才未満の方、過労、病気の方は使用しないでください。
- 初めて運転する人は操作に慣れるまで低速で運転してください。



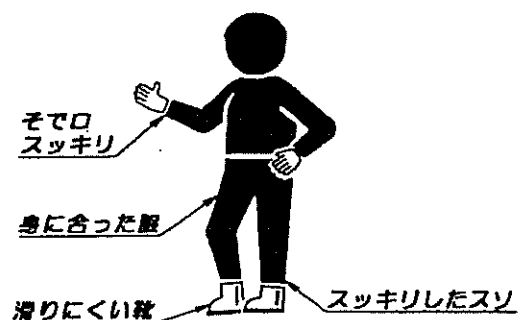
(3) 子供が近づくのは危険

- 点検・整備中及び収穫作業中、機械に子供を近づけないでください。見えない所で機体にさわったり、かくれたりして危険です。



(4) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



⚠ 安全に作業するために

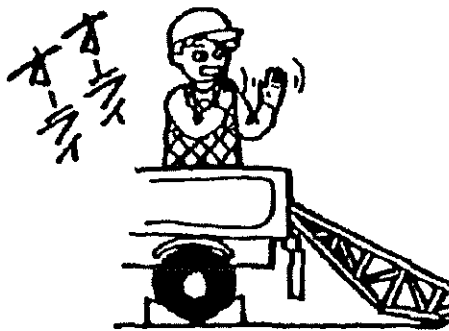
2. 走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックなどで運送してください。

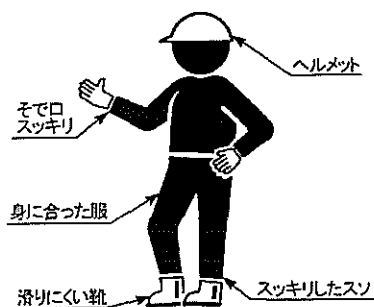
(2) トラックなどへの積み込み・積降しは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で行なってください。積込んだ機械は車止めをし、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。



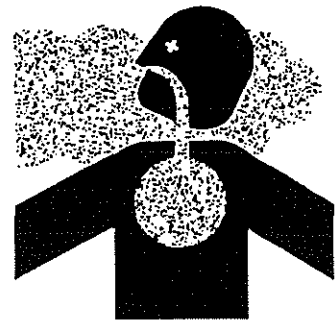
(3) 安全な服装

- 運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。
- レバーや作動部に誤って引っ掛かり、ケガをすることがありますのでだぶついた服は、着用しないでください。また、そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き、首巻き、腰タオルの着用は禁止です。
- サンドル、スリッパなどの履物の着用は禁止です。



(4) 排気ガスに注意

- エンジンの排気ガスは有毒です。
- 屋内で運転するときは、適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け、外気が充分入るようにしてください。



(5) 燃料の取扱いは安全に一火気厳禁

- 燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いには充分注意してください。
- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいにふき取ってください。



⚠ 安全に作業するために

3. 点検・整備をしてください

(1) 定期点検整備

- 1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。
- フューエルパイプ、ラジエータホース、オイルドレングムホースは2年ごとに交換してください。（“定期交換”の項参照）
- 電気配線は毎年点検してください。（“定期点検と調整”の項参照）
- 高圧噴油が皮膚に浸入すると危険です。
- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接、手や体を触れないようにしてください。もし、高圧噴油に触れた場合、直ちに医者診断を受けてください。油が皮膚に浸入した場合、数時間以内に取除かないと壊疽（えそ）にかかる恐れがあります。



(2) 作業前点検（日常点検）の実施

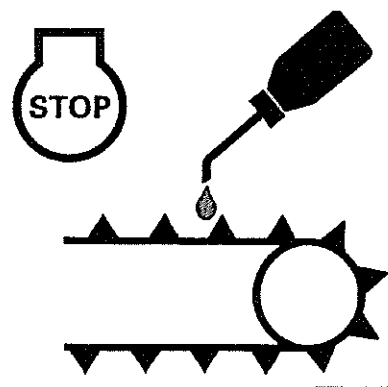
- 運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。



- 点検・整備・調整・掃除・給油・グリスアップするときはエンジンを必ず止めて

ください。

- ベールクラッチは“切”にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリー周辺に、作物くずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリスは指定のものを使ってください。
- 取外した安全カバー、保護カバーは必ず取付けて作業してください。



(3) ナイフに注意してください

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。

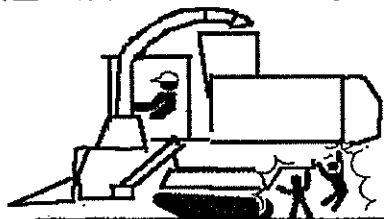


⚠ 安全に作業するために

4. 作業・移動するときには

(1) 機械を動かす場合は安全に注意

- 機械を動かす場合は周囲の安全に気を付けてください。
- エンジンを始動するときは、運転座席に必ず座って、変速レバーを“中立”にし各クラッチを“切”にし、ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときやクラッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなどの合図をして、機械に人を近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは、必ず周囲の安全を確認してください。



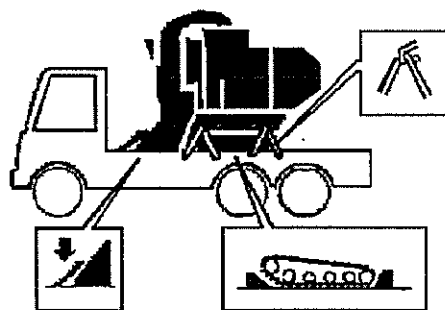
(2) 安全なトラック輸送

- 積み込み・積み降しはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
- トラックへの積み込み積み降しは、平地を選んで、最低速で行なってください。
- アユミ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また、アユミ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、強度が充分ある基準にあったものを使ってください。
- アユミ板は平行において、安定していることを確認してください。
- チャンパー内は空にしておいてください。
- 積み込みは前進で、積み降しは後進で行なってください。
- トラックへの積み・降りし作業は、補助者を付けて、周囲の安全を十分確認しながら行ってください。また、補助者は、機械の直前・直後には立たないでください。

- あゆみ板の途中でハンドル・副変速レバー・駐車ブレーキを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し、再度上り下りし直してください。



- トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかり床に固定します。
- 防じんカバーが開いていると風圧で破損・脱落の恐れがありますので、必ず閉じてください。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから、絶対しないでください。



アユミ板の基準

長 さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	60cm以上
数 量	2 枚
強 度	1 枚が2800kg以上の重量に耐えうる

- カバー類、折りたたみ部品などは、風圧で破損・脱落の恐れがありますので、確実に固定するか、外して荷台に置いてください。

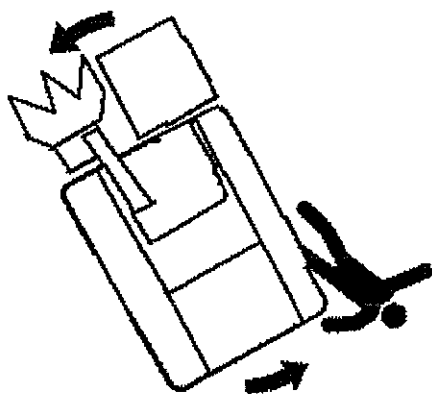
⚠ 安全に作業するために

(3) 安全な移動走行

- ステップ、サイドデバイダは収納して機体幅を狭くしてください。
- デバイダヘッドは取外してください。
- 各作業クラッチを切り、運転者以外乗らないでください。
- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。
- ロールは排出してから移動してください。
- リヤケースは必ず閉めた状態で移動してください。

(4) 高速走行の場合の注意

- 高速走行するときに、急激なハンドルの操作をすると急旋回し危険です。
- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。

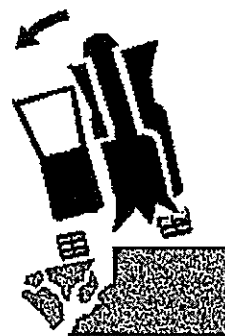


- 刈取り作業のとき以外は、エコモード切替スイッチを「切」にしてください。

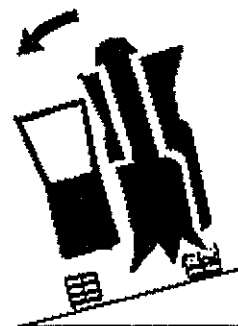


(5) 転倒・転落注意

- 転倒・転落は重大事故になります。
- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがありますので、走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると、転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。



- 刈取り作業時以外（特にあぜ越え時、移動走行時、運搬時、格納時）はロールを排出して、クラッチを“切”にしてください。
- 坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意してください。
- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としペダル・変速レバー・ハンドルを操作しないでください。
- 斜め走行は危険です。機械を傾斜の方向に合わせた作業（走行）をしてください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。



⚠ 安全に作業するために

- 10 cm以上の段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さで滑り止めがある基準にあったあゆみ板を使ってください。
- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でペダル・変速レバー・ハンドルの操作はしないでください。



(13) 安全な駐車のかた

- 駐車するとき（運転席を離れるとき）は駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当るまで降し、キーを抜いてください。
- 傾斜地に駐車するときは車止めをしてください。



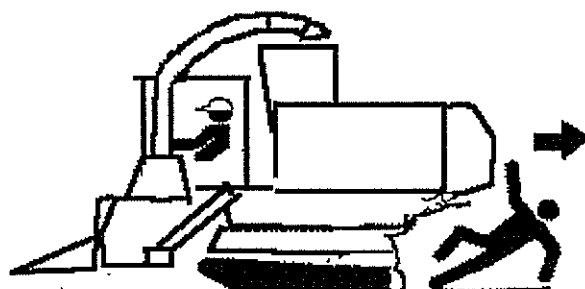
(6) 運転者以外の搭乗禁止

- 運転者以外の人を乗せて運転しないでください。
- ふり落とされたり、障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いている機体にとび乗ったり、飛び降りたりしないでください。



(7) 共同作業の安全確保

- 補助者は運転席からみえにくい位置にすることがあります。補助者の安全にも配慮してください。
- エンジン始動時、クラッチを入れるときは合図し、補助者のOKをもらってください。
- 補助者が機体に近づくときは、運転者に知らせることを徹底させてください。



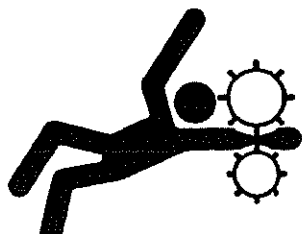
(8) 安全な収穫作業

- 異常に気付いたらすぐエンジンを止めてください。
- 危険ですので運転中に作物の巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタが詰まったときは、すぐクラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- カッタに詰まった作物を取除くときは、厚手の手袋をして、少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
- ベルトカバー・チェンカバーなどの内部には回転物があります。危険ですのでカバーの下に手を入れたり、カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口、点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを止めてください。
- 作業中の衝撃などにより、不意にドアが閉まって手や身体が挟まれるおそれがある

⚠ 安全に作業するために

りますので、キャビンのドアを開放したまま、作業しないでください。

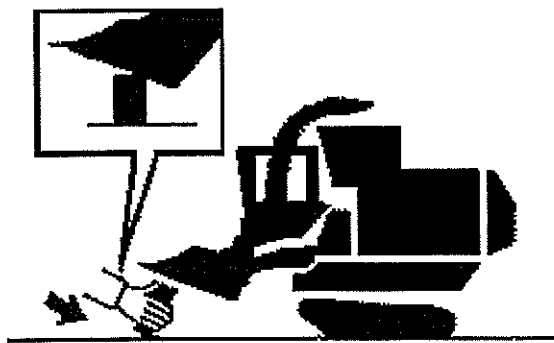
- (9) 回転しているフィードロール・オーガや搬送ベルトに手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ、死傷する恐れがあります。



5. 点検・整備するときには

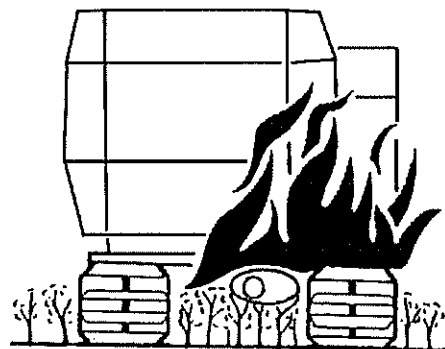
(1) 安全な点検・整備

- 点検・整備は水平で平坦な場所で行なってください。
- エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて駐車ブレーキを掛けてください。
- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき、昇降部をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。
- 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしないでください。
- 刈取部の刈刃・カッタ部のカッタ刃を交換するときは手袋を着用し、刃先に手が触れないようにしてください。



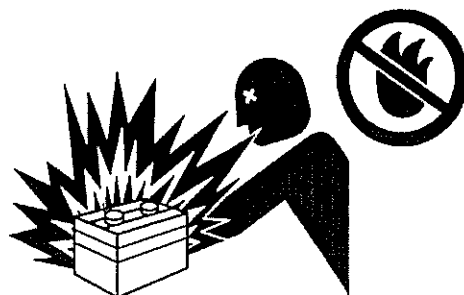
(2) 火災防止

- 作物くずは燃えやすく注意が必要です。
- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリー周辺に作物くずがたまっていると危険です。作業前、作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後作物くずの上や枯れた雑草の上に停車すると、火災の恐れがありますので避けてください。
- 機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災の恐れがあります。
- 電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生する恐れがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



(3) バッテリーの取扱い注意

- バッテリーのガスは爆発の恐れがあります。
- バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。
- バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。



⚠ 安全に作業するために

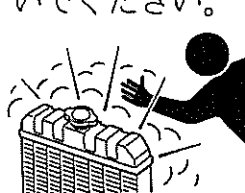
- バッテリーの充電時、交換時は、バッテリーの注意ラベルをよく読んでください。
- バッテリーを取外すときは、最初にマイナス（－）側のケーブルを取外してください。バッテリーを取付けるときは、最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付けてください。
- 充電は、機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂する恐れがあり危険です。
- 指定外のバッテリーは使わないでください。
- バッテリー液（希硫酸）に触れると危険です。
- 目、皮膚、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入った時は水でよく洗った後、医師の治療を受けてください。



(4) ヤケド防止

- 過熱された冷却水あるいは蒸気が皮膚に触れるとヤケドします。
- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は、過熱、加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け、ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。
- 高温の油が皮膚にふれると火傷をします。
- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガの恐れがあるため十分に温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。

- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



(5) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けしないでください。

また、改造はしないでください。

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。

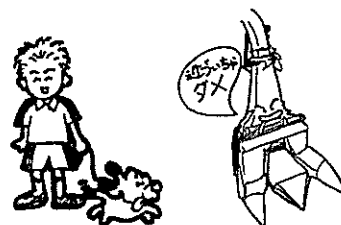


(7) 長期格納するときは

機械をきれいにし、回転部およびチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。コントロールボックスは取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。

(8) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。



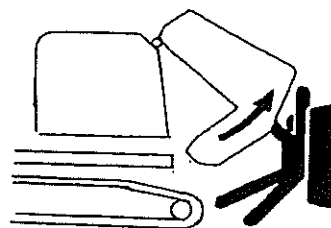
⚠ 安全に作業するために

- (9) 回転中のタイトバーには触れない
回転しているタイトバーに巻き込まれると重傷を負うことがあります。手や足で絶対に触れないようにしてください。
- (10) シェアボルトの交換や巻き付いた作物などを取り除くときはクラッチを切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。

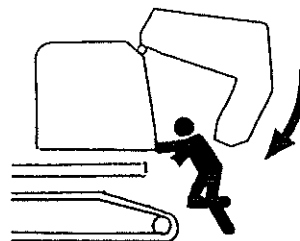


- (11) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止
スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。
また、起伏の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは、極力落として作業を行ってください。

- (12) ベールを放出するときは
ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



- (13) チャンバーを開けて作業するときは必ずストップバルブを閉じてください。
守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

5. 砥石についての注意事項

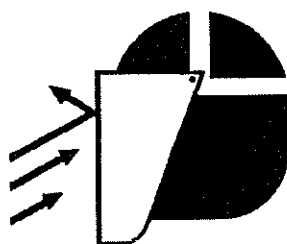
砥石種類：特注品（自動機械用砥石）

砥石用途：コーンハーベスタ ナイフ
研磨用砥石

⚠ 警告

誤った使い方をした場合、砥石が破損して死亡または重大事故をまねく恐れがあります。
下記の注意事項を必ず遵守してください。

- ①砥石の原則“落とすな・ぶつけるな”を守ってください。
- ②保管は冷暗所で行い、火気厳禁、乾燥した場所が原則です。
特に水分が残ったまま保管した場合、冬季に砥石が凍結し、組織破壊によるひび割れが発生するため必ず乾燥させて保管してください。
- ③機械取付け前に、または砥石使用前に砥石のひび、かけ、われ等の外観検査を行い、特に研磨前はカッター保護部が確実か、コーン排出部に人がいないかを確認してください。
- ④砥石の取扱いや使用に際しては、労働安全衛生法の法令に定める保護メガネ・防じんマスクを必ず着用してください。



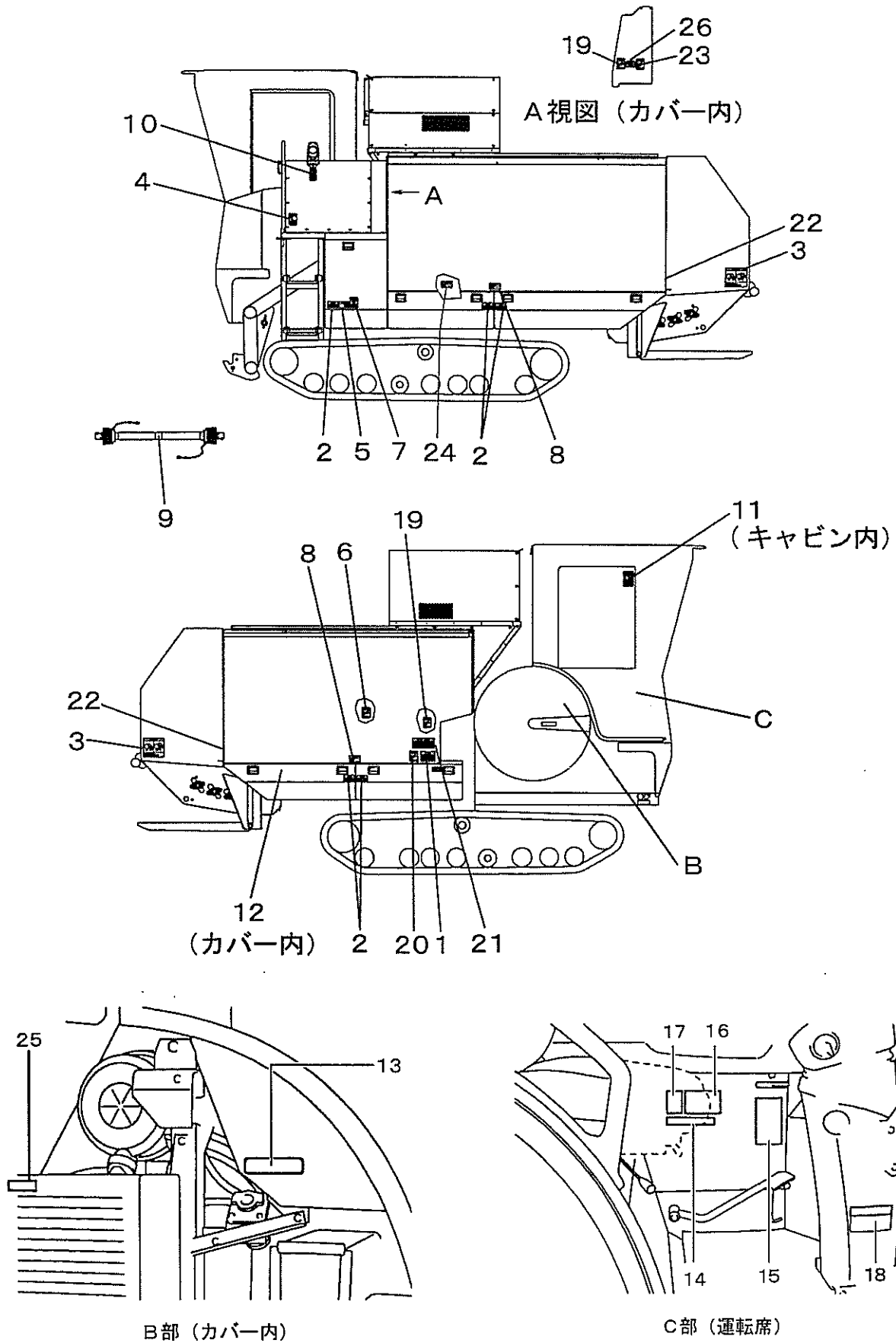
- ⑤呼吸器疾患を防止するために、粉じんの発散防止と十分な換気してください。
- ⑥使用済の砥石は、各都道府県の定める消防法および産業廃棄物処理法に従って処理してください。

以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも
本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

警告ラベルの貼付位置

(本体)



⚠ 安全に作業するために

①部品コード 00120-4500-042


注意

001204500042

1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。 2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン始動前に機体の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. 運転席を離れるときは、必ず	エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。 6. 斜面での駐車時は歯止めをしてください。 7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。 8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 9. 公道走行はできません。トラック等で運送してください。
---	--

②部品コード 00120-6000-800


注意

001206000800



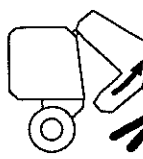
・カバーを取り外す時は必ずエンジンを止めてからにしてください。

・はずしたまま運転するとケガをするおそれがあります。

③部品コード 00120-6001-350


危険

001206001350




・ダンパーに接近する。

・人や動物が足元にいないことを確認して周囲を。

・開いたダンパーの下で作業する前にシリンダーロックを確実に。

・点検、調整時はエンジンを止めてください。

・注意をおくと重大な傷害発生のおそれがあります。

④部品コード 00120-6001-020


警告

001206001020



運転中はステップに乗らないで下さい。

乗ると落下し機体に着き込まれ重傷を負うおそれがあります。

⑤部品コード 00120-6000-610


警告

001206000610



巻き込まれてケガをする恐れがあるので回転中は近づかないでください。

カバーは、常に装着してください。

⑥部品コード 00120-6000-561


注意

001206000561



・鋭利な刃物のため、点検・取換え時は十分注意してください。

・注意を怠ると傷害発生の可能性があります。

⑦部品コード 00130-6000-080


警告

001306000080



●ベルト・チェーンが回転中は、手や足を近づけないでください。

●接触するとケガをするおそれがあります。

⑧部品コード 00120-6000-690


注意

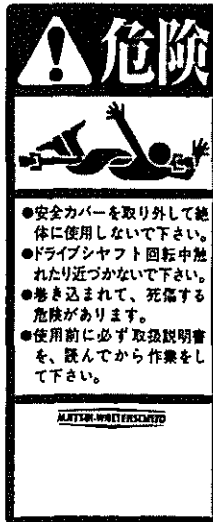
001206000690



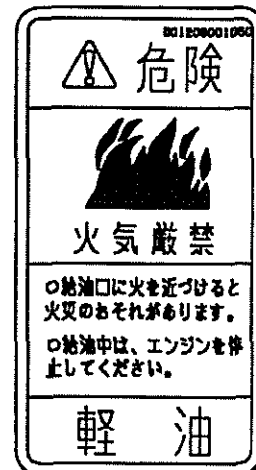
手をはさむ恐れがありますのでカバーのエッジ部を持ってカバーを閉めないでください

安全に作業するために

⑨部品コード 00130-6951-010



⑩部品コード 00120-6001-050



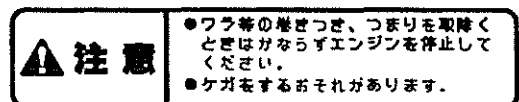
⑪部品コード 00120-6001-370



⑫部品コード 1C6780-95950



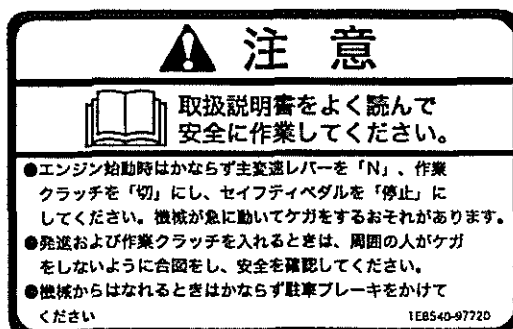
⑬部品コード 1E8450-97450



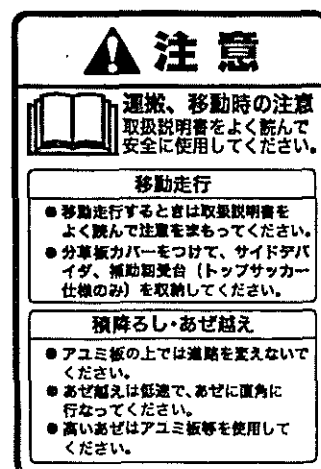
⑭部品コード 1E8230-97800



⑯部品コード 1E8540-97720

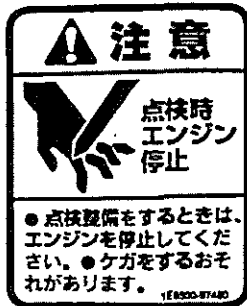


⑰部品コード 1E9000-97421

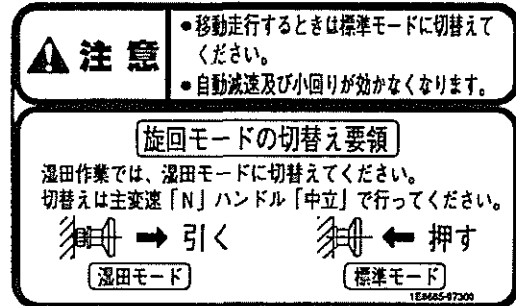


安全に作業するために

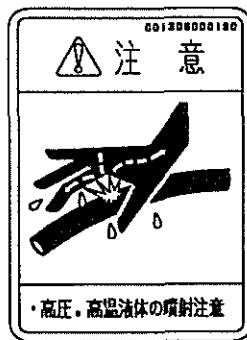
⑰部品コード 1E8500-97460



⑱部品コード 1E8665-97300



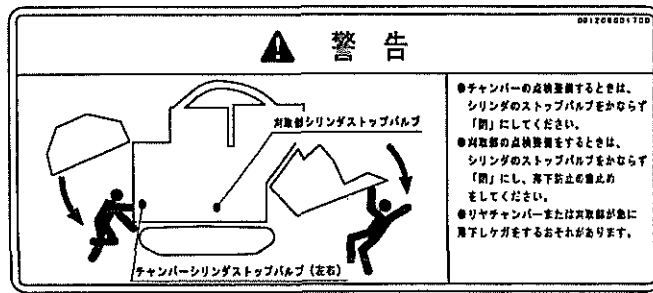
⑲部品コード 00130-6000-190



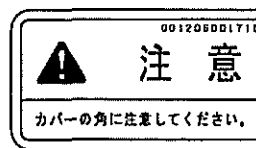
⑳部品コード 00130-6000-210



㉑部品コード 00120-6001-700



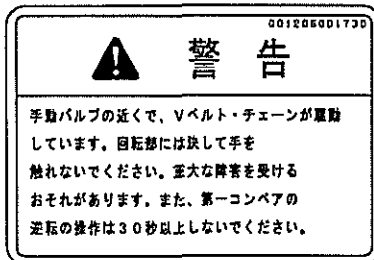
㉒部品コード 00120-6001-710



㉓部品コード 00120-6001-740



㉔部品コード 00120-6001-710



㉕部品コード 00120-6001-080

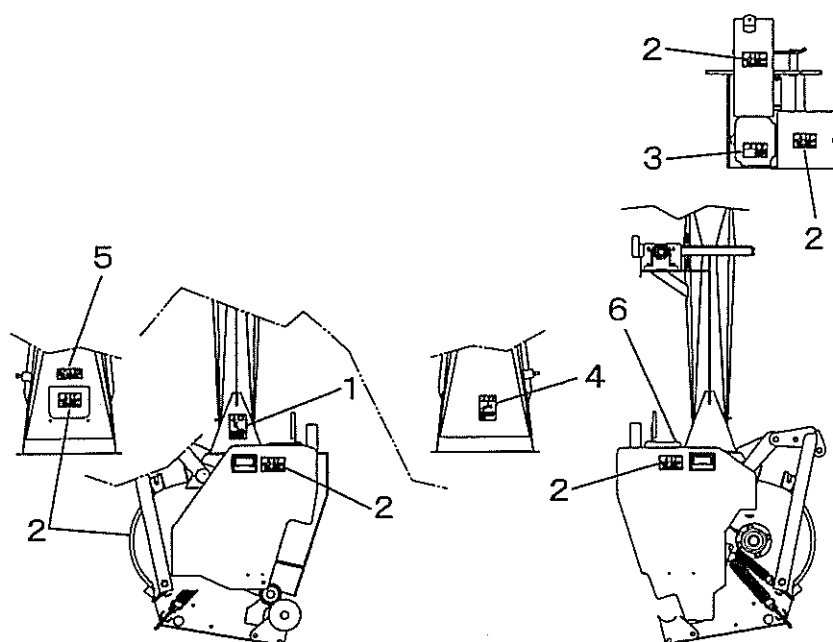


㉖部品コード 00120-6001-750



⚠ 安全に作業するために

(ハーベスタ)

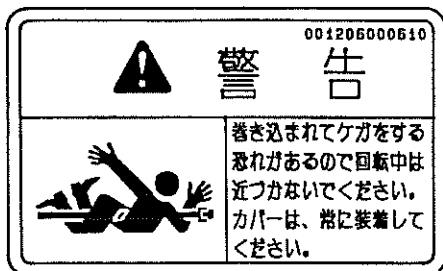


①部品コード 00120-6000-730

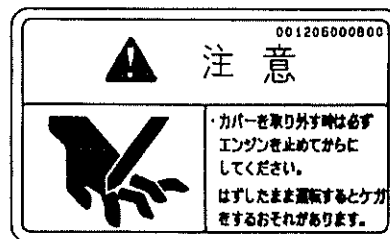
②部品コード 00120-6000-800



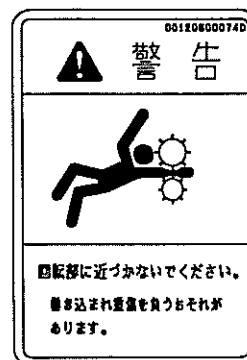
③部品コード 00120-6000-610



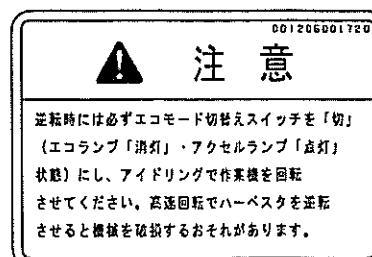
⑤部品コード 00120-6000-800



④部品コード 00120-6000-740

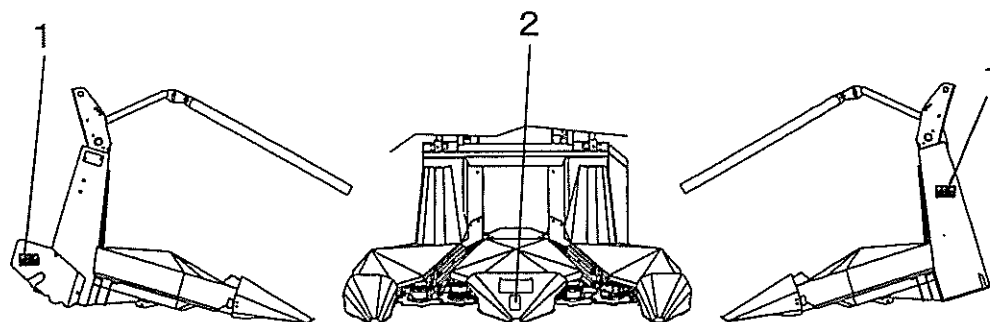


⑥部品コード 00120-6001-720



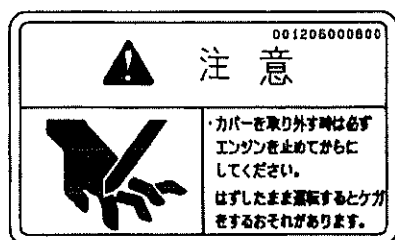
⚠ 安全に作業するために

アタッチ (ロークロップ)



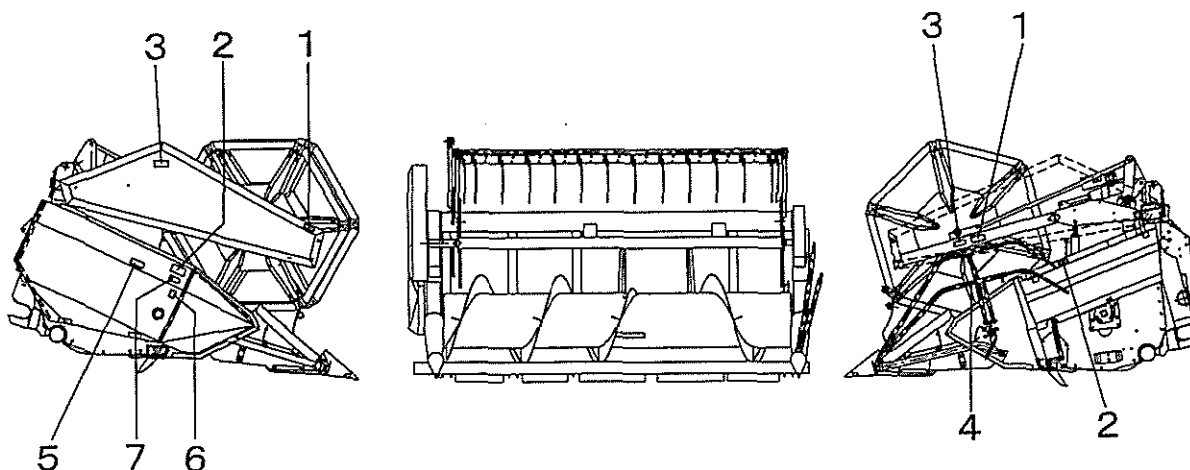
①部品コード 00120-6000-800

②部品コード 00120-6000-720

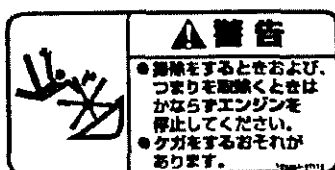


⚠ 安全に作業するために

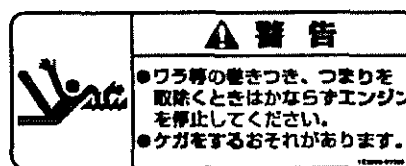
(リールヘッダ)



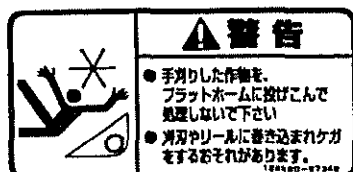
①部品コード 1E6684-97110



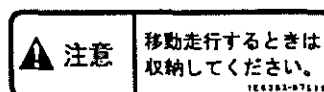
②部品コード 1E8500-97320



③部品コード 1E8980-97340



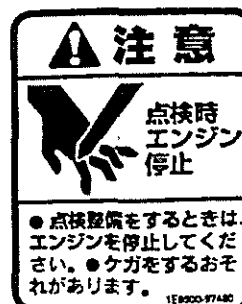
④部品コード 1E6363-97510



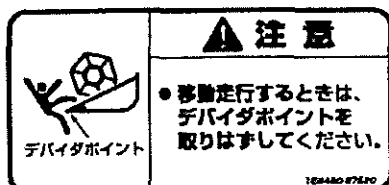
⑤部品コード 1E8500-97470



⑥部品コード 1E8500-97460

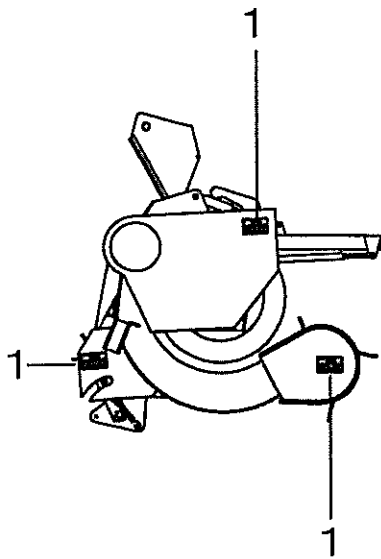


⑦部品コード 1E8500-97460

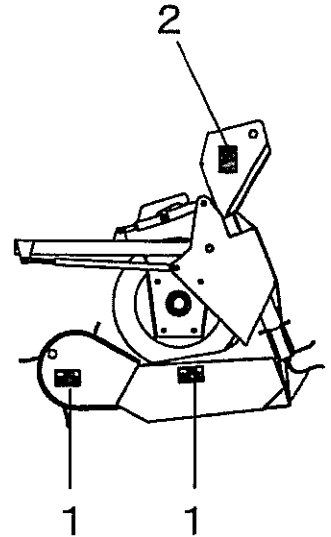
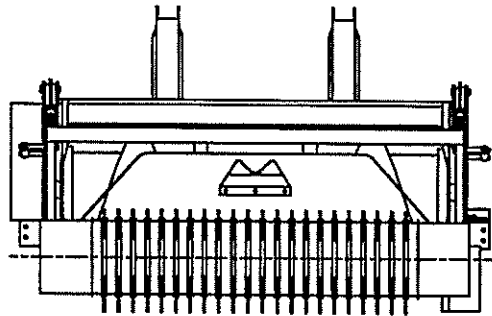


▲ 安全に作業するために

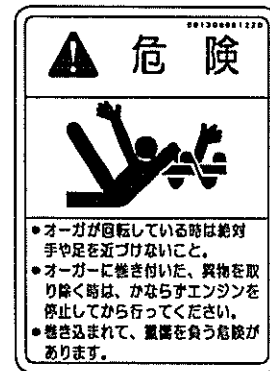
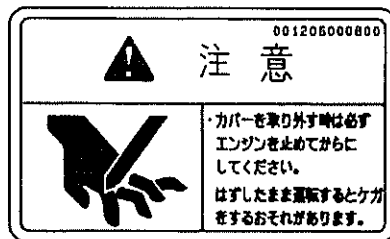
(ピックアップ)



①部品コード 00120-6000-800



②部品コード 00130-6001-220



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにし傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながらかいてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、飼料イネ、飼料麦、長大作物（コーン、ソルゴー等）を刈取り、ロール成形、予乾牧草を収集し、ロール成形する作業にご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

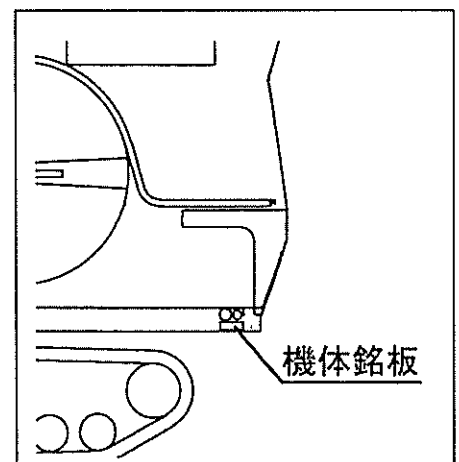
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No)、アタッチ No.
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。



※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

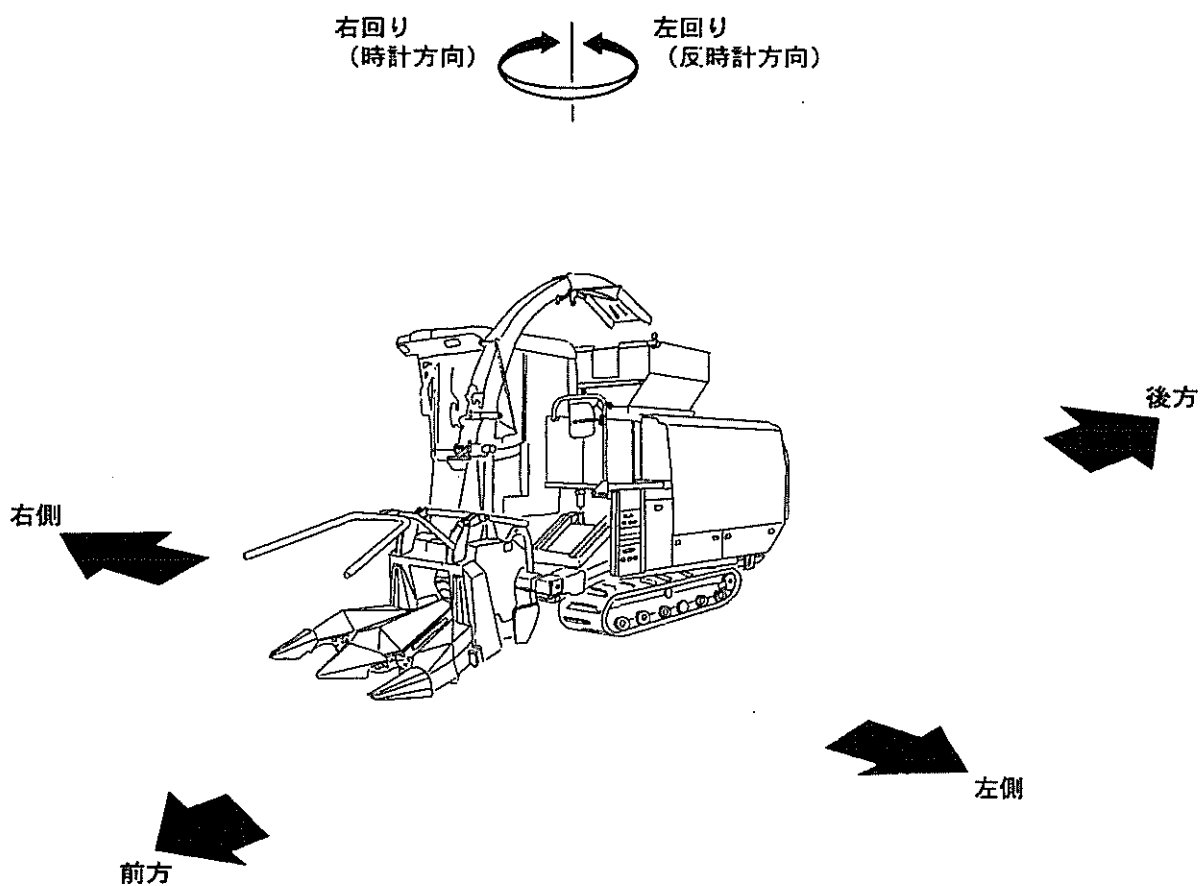
【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品名	汎用型飼料収穫機			
型式	SMR1000			
機体 No. (SER-No.)	本体	ロークロップ アタッチ	リールヘッダ アタッチ	ピックアップ アタッチ
購入年月日	年 月 日			
販売店名	TEL : ()			

機械方向説明

■機体方向説明

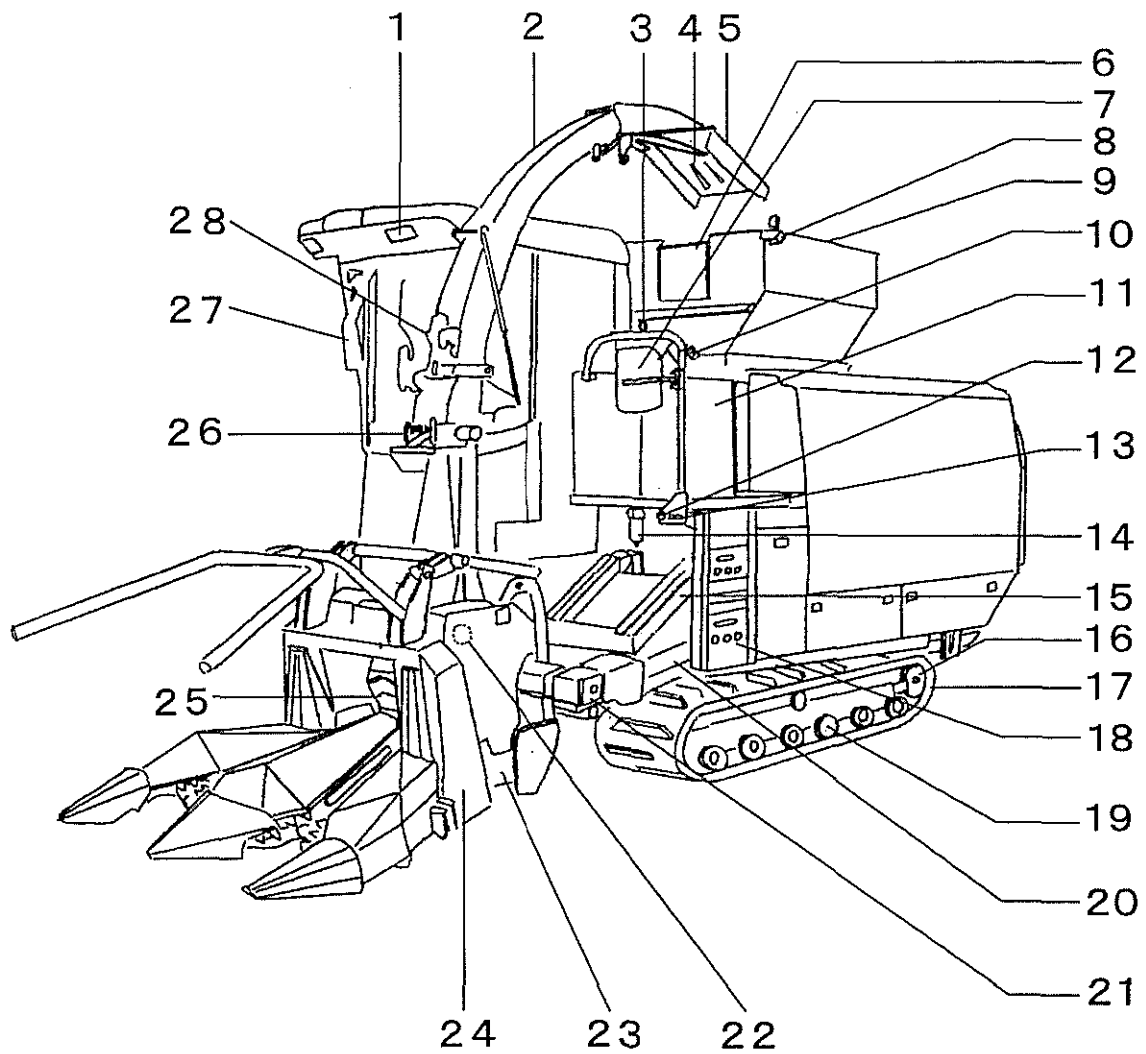
この取扱説明書で使用している“前後・左右・左回り・右回り”などの方向は、図示の通りに決めています。



(図は、ロークロップ仕様)

各部の名称とはたらき

1. 外観



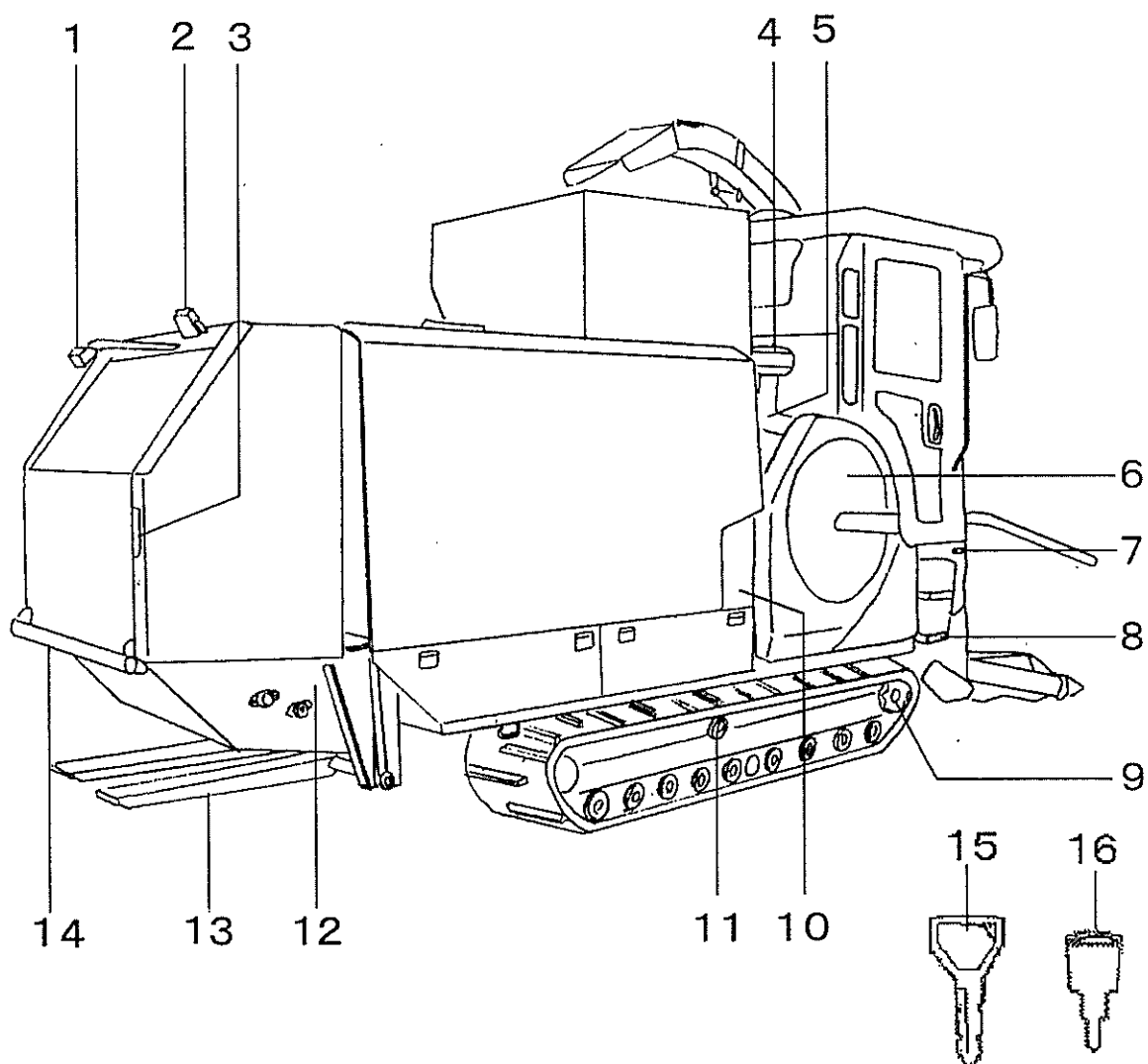
(図はロークロップ仕様)

番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	作業灯	作業灯のスイッチを入れると前面を照らします	50
2	シュートヘッド	吹き上げられた作物の流れを横方向にかえます	
3	エアブリーザ	燃料タンク内の空気を抜きます	
4	フィン	作物のホッパーへの吹き込み方向を規制します	
5	デフレクタ	作物を飛ばす上下方向を制御します	
6	ホッパーフタ	シュートヘッドを格納するとき開けます	86
7	バックミラー (左)	左側面の視界を映します	
8	サイドカメラ		95
9	ホッパー	刈取った作物を貯めます	
10	燃料給油口	燃料タンクに燃料 (軽油) を入れます	163
11	燃料タンク	燃料 (軽油) を100ℓ入れることができます	
12	緊急停止スイッチ	ボタンを押すとエンジンが停止します	49
13	方向指示器 (左)	スイッチを入れると点滅します	38

各部の名称とはたらき

1 4	ウォータ セパレータ	燃料（軽油）内の水を分離します	1 7 2
1 5	昇降アーム	ハーベスタ部を昇降します	
1 6	アイドラ	クローラを張ります	1 9 6
1 7	クローラ	ゴム製の走行履帯です	
1 8	ステップ	燃料タンクベースに上がる時に使います	5 8
1 9	可動転輪	路面の凹凸に追従して動きます	
2 0	ジョイント	直交ミッションに動力を伝えます	
2 1	直交ミッション	ハーベスタに動力を伝えます	
2 2	切断長切替 スプロケット	スプロケットを交換することで、作物の切断長 を変更できます	5 9
2 3	ハーベスタ	作物を切断します	
2 4	アタッチ	作物を刈取る部分です (図はロックロップアタッチです)	
2 5	フィードロール	刈取った作物をシリンダカッタに送ります	
2 6	DCモータ	シュートヘッドを回転させます	
2 7	バックミラー（右）	右側面の視界を映します	
2 8	デフレクタモータ	デフレクタの角度を調整します	

各部の名称とはたらき



(図はロックロップ仕様)

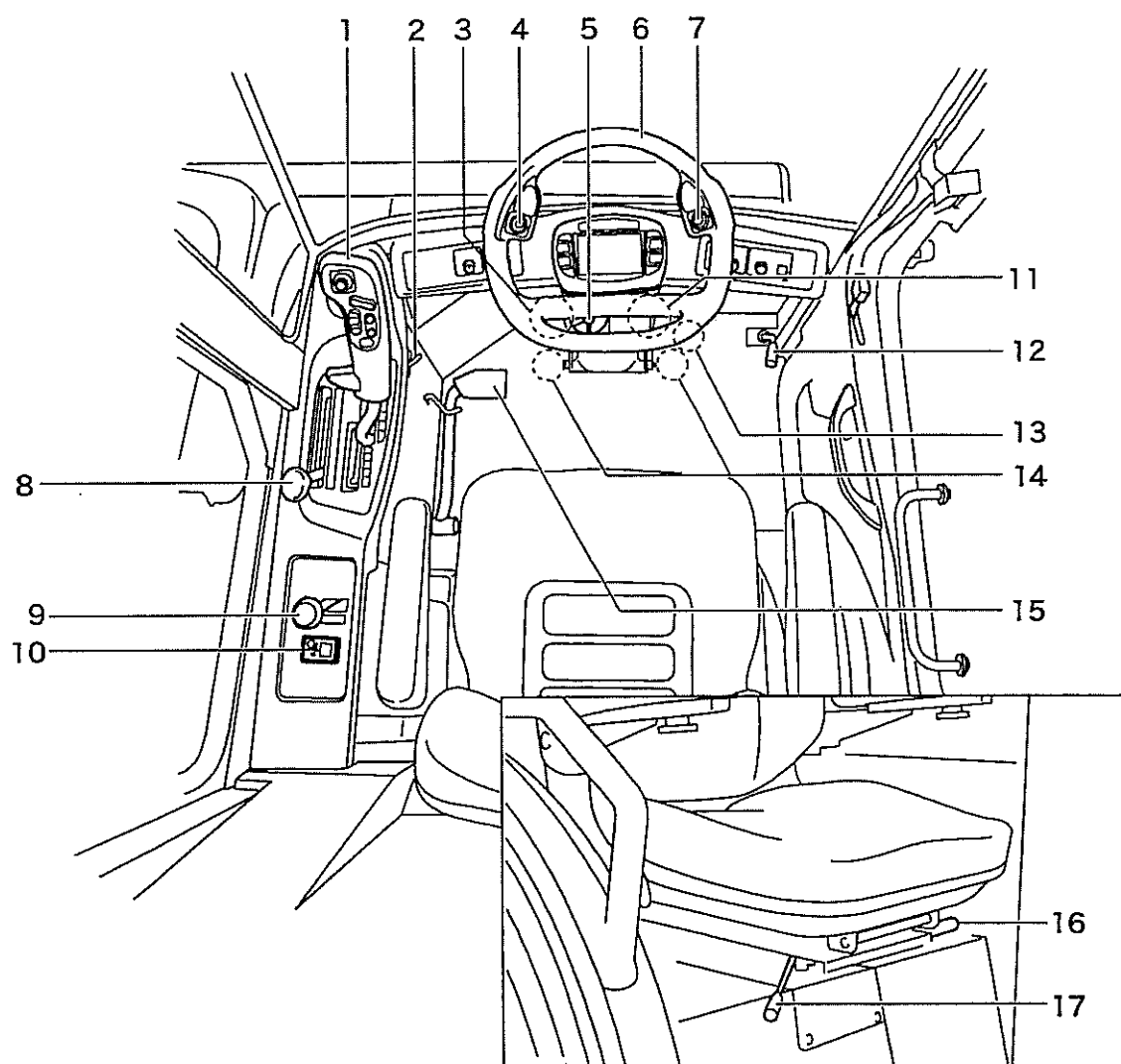
番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	バックカメラ	後方の視界を映します	97
2	作業灯 (後)	作業灯のスイッチを入れると後方を照らします	50
3	リヤコンビネーションランプ	ブレーキランプ・方向指示器が一体になっています	
4	プレクリーナー	エアクリーナーにゴミが入らないようにします	175
5	エアクリーナー	エンジンにゴミが入らないようにします	174
6	エンジン防塵装置 (ロータリー スクリーン)	エンジンルームにゴミが入らないようにします	176
7	方向指示器 (右)	スイッチを入れると点滅します	38
8	乗降ステップ	運転席に乗るときに使います	51
9	スプロケット	クローラを駆動させます	
10	消化器		59
11	キャリアローラ	クローラを保持します	

各部の名称とはたらき

1 2	成形室	ホッパーより供給された作物をロール状に成形します	
1 3	キッカー	ロールの放出を補助します	
1 4	バンパー	放出したロールがカバーにぶつかるのを防ぎます	
1 5	エンジン始動用 キー		3 8
1 6	キャビンドア開閉 キー		5 2

各部の名称とはたらき

2. 運転操作部

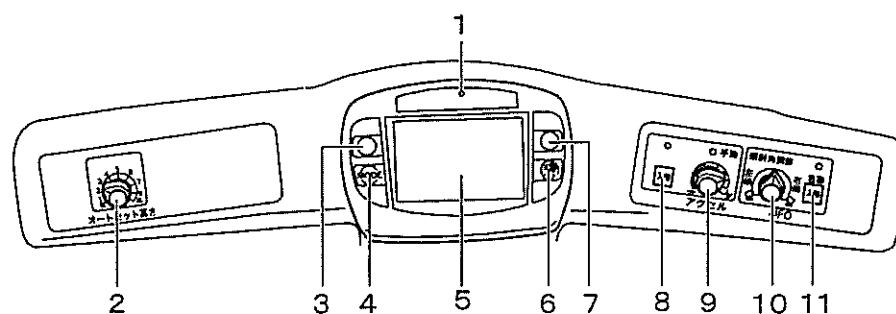


番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	オールマイティシフトレバー	前・後進、刈取部の上下、リールの制御等に使用します	4 5
2	駐車ブレーキロックレバー	駐車ブレーキをかけた状態で保持するときに使用します	4 8
3	チルトレバー	マルチハンドルの角度を調整します	3 8
4	ホーンボタン	押すとホーンが鳴ります	3 9
5	コンビネーションスイッチ	ウインカスイッチ、ライトスイッチ、ホーンボタンが一体になっています	3 8
6	マルチハンドル	機体の方向転換、リールの制御、エンジンの状態等を表示するセンターディスプレイが一体になっています	3 9
7	リール制御スイッチ	リールの上下、回転速度の制御に使用します	3 9

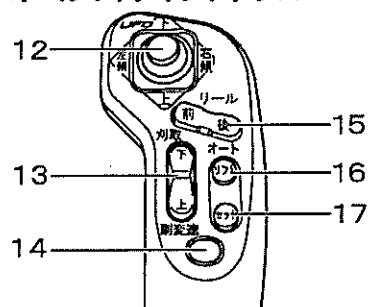
各部の名称とはたらき

8	副変速レバー	走行速度を切り換えます	47
9	ペールクラッチ レバー	「入」にすると、ハーベスタ、ロールベアラに 動力が伝わります	48
10	作業灯スイッチ	作業灯の点灯に使用します	50
11	キースイッチ	エンジンを始動します	38
12	乗降ステップ操作 レバー	乗降ステップの出し入れを行います	51
13	旋回モード切替 ノブ	旋回モードを切り換えます	49
14	フットレスト	足置きです	51
15	セフティペダル	エンジンの始動時、駐車ブレーキをかけるとき に使用します	48
16	前後調整レバー	シートの前後調整に使用します	50
17	上下調整レバー	シート上下調整に使用します	50

各部の名称とはたらき



オールマイティシフトレバー



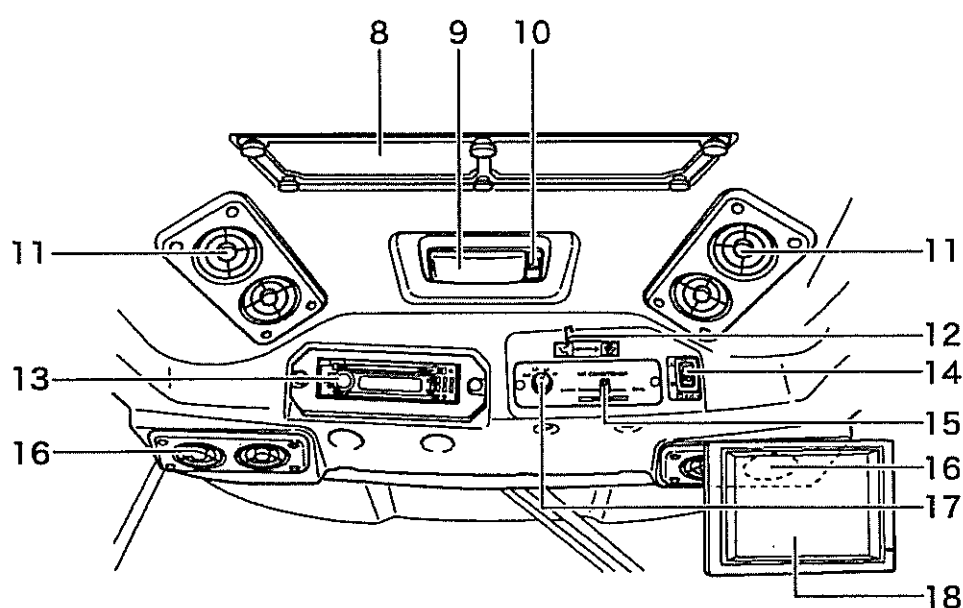
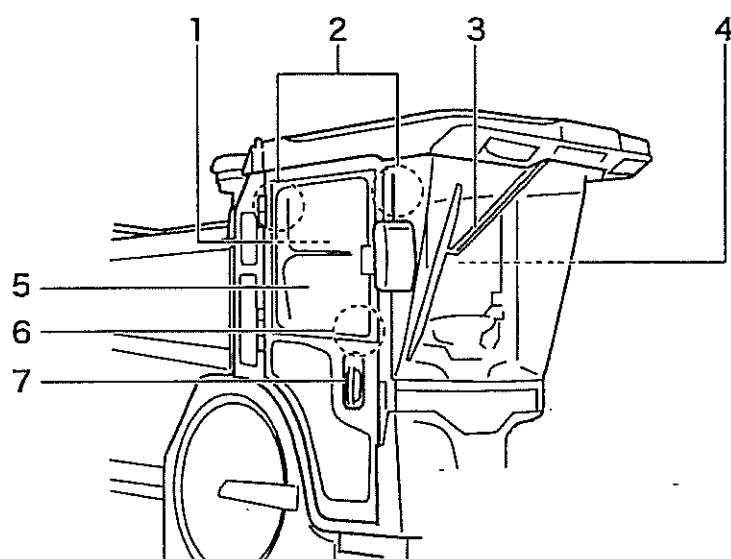
番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	警告表示ランプ	各部の状態や、各部の状態に異常があったときに点灯し、ブザーが鳴ります	4 0
2	オートセット高さダイヤル	オートセットボタンの刈取部の高さ制御に使用します	4 5
3	設定スイッチ 1	設定を変更するときに使用します	4 0
4	表示切替スイッチ	センターディスプレイの表示を切り換えます	4 0
5	センターディスプレイ	運転中の機械の情報を文字とグラフィックで表示します	4 0
6	ブザー停止スイッチ	警報ブザーを停止するときに使用します	4 0
7	設定スイッチ 2	設定を変更するときに使用します	4 0
8	エコモード切替スイッチ	エンジン回転を自動制御したいときに使用します	4 3
9	アクセルダイヤル	エコモード「切」の時にエンジン回転数を制御できます	4 4
1 0	傾斜角調整ダイヤル	車体の角度を一定に保ちたいときに使用します	4 4
1 1	UFO自動スイッチ	車体の水平を自動制御するときに使用します	4 5
1 2	UFO手動スイッチ	手動で車高を調節するときに使用します	4 5
1 3	刈取昇降スイッチ	刈取部の上昇・下降をするときに使用します	4 6

各部の名称とはたらき

1 4	ノークラッチ 副変速ボタン	副変速の切替に使用します	4 7
1 5	リール前後ボタン	リールを前後させるときに使用します	4 6
1 6	刈取オートリフト ボタン	刈取部を設定した高さに上げるときに使用しま す	4 6
1 7	刈取オートセット ボタン	刈取部を設定した高さに下げるときに使用しま す	4 6

各部の名称とはたらき

3. キャビン部



番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	リヤウインドウ		5 8
2	スピーカー		
3	ワイパー		
4	サイドウインドウ		5 7
5	ドアウインドウ		5 3
6	ドア開閉レバー	運転席からのドアを開けるときに使用します	5 2
7	ドアハンドル	外からドアを開けるときに使用します	5 2
8	フィルタ	キャビン内の空気を清浄します	1 7 8
9	ルームライト		

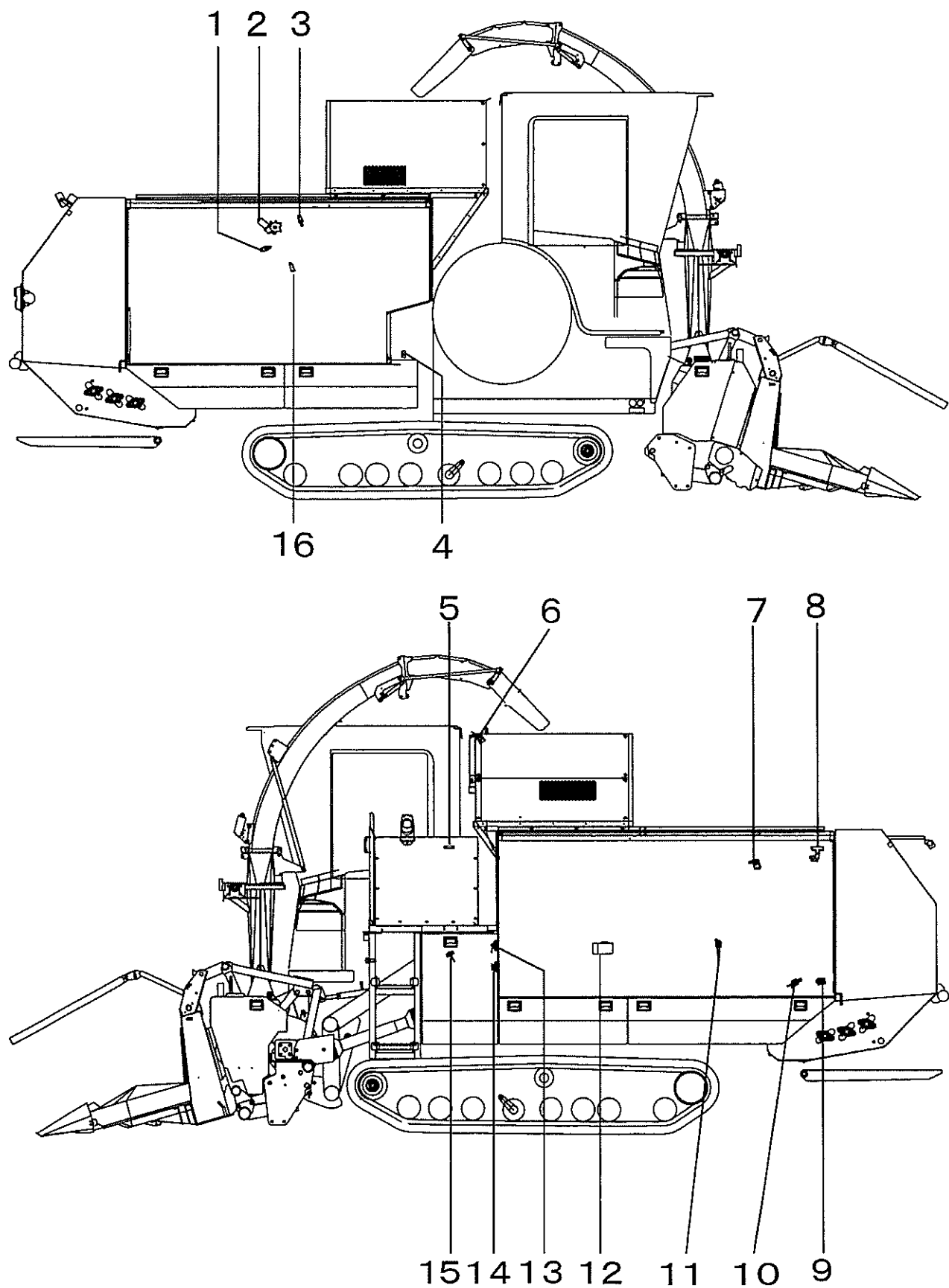
各部の名称とはたらき

10	ルームランプ スイッチ	キャビン内を照らします	54
11	風向きグリル (後方吹出口)	風量・風向を変更するときに使用します	57
12	吹出口切替レバー	温風・冷風の吹出口を切り換えるときに使用します	56
13	FM・AM付 CDラジオ		54
14	ワイパー&ウォッ シャースイッチ	ワイパーの作動と、ウォッシャー液を噴出する ときに使用します	53
15	温度コントロール レバー	エアコンの風の温度を調節するときに使用しま す	56
16	風向グリル (前方吹出口)	風量・風向を変更するときに使用します	57
17	ファンスイッチ・ エアコンスイッチ	エアコンファンのON・OFFに使用します	56
18	モニター	バックカメラとサイドカメラの映像を映します	58

各部の名称とはたらき

4. 電装部

(本体)



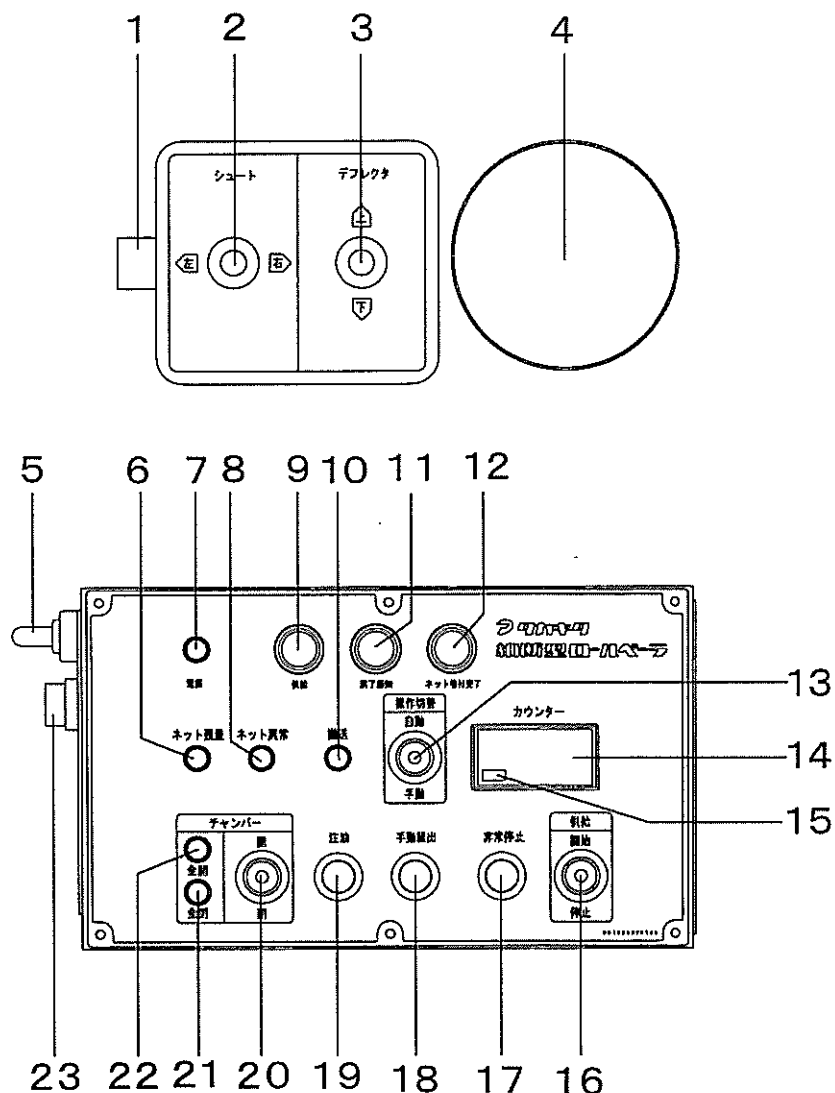
(絵はロークropp仕様)

各部の名称とはたらき

番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	ネットカム センサ	ネット繰出しのカムが一周したことを感知しま す	
2	ネット繰出し モータ	感知時にネットブレーキを一時解除し、ネット を成形室に送り込みます	
3	ネット残量 センサ	ネットの残量が少なくなったことを感知します	
4	バックブザー	オールマイティシフトレバーを「後進」に入れ ると断続音になります	
5	燃料センサ	燃料タンク内の燃料をキースイッチが「ON」 の時に計測します	
6	ホッパー満了 センサ	ホッパーが満了になったことを検出します	
7	感知センサ	成形室が満了になったことを検出します	
8	チャンバー開 センサ	チャンバーが全開になったことを検出します	
9	キッカーセンサ	ロールが放出されたことを検出します	
10	チャンバー閉 センサ	チャンバーが全閉になり、ロック金具が掛かっ たことを検出します	
11	ホサキセンサ	ロールへのネットの巻きつけが正常におこなわ れていることを検出します	
12	注油ポンプ	供給が開始されたときに、毎回タイトチェンに 給油します	
13	ホーン	運転席のホーンボタンを押すと鳴ります	
14	ブザー	感知センサが感知したときや、ロールへのネッ ト巻きつけ異常のときに鳴ります	
15	オートリフト センサ	オートリフト・オートセット時の刈取部の高さ を検出します	

各部の名称とはたらき

(コントロールボックス)



番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	ヒューズ	20Aの管ヒューズを使用します	
2	シュートスイッチ	シュートヘッドを旋回します	
3	デフレクタ スイッチ	デフレクタを上下します	
4	パトライト (黄)	ネットを巻いている間、点灯回転します	
5	電源スイッチ	コントロールボックスの電源の「入」・「切」を行います	
6	ネット残量ランプ	ネット残量が少なくなると点灯します	
7	電源ランプ	電源を入れると点灯します	
8	ネット異常ランプ	ロールにネットが正常に巻かれなかった場合に点灯します	
9	供給ランプ (緑)	作物がホッパーから成形室に供給されているときに点灯します	

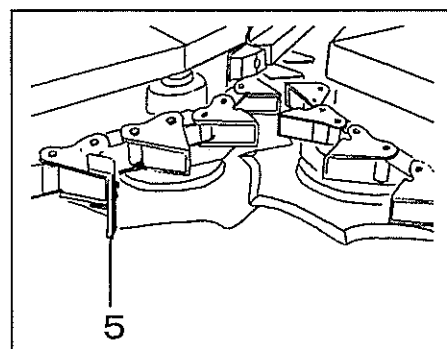
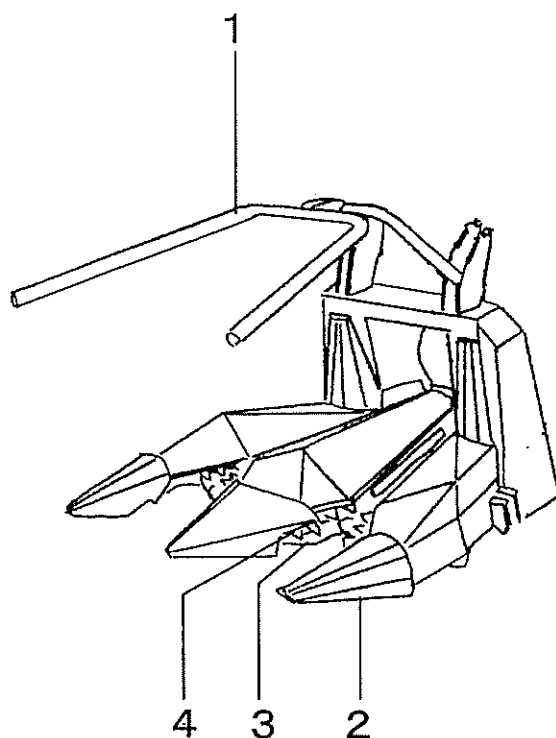
各部の名称とはたらき

10	搬送ランプ	作物がホッパーから成形室に大量に搬送され、ホサキスイッチが作物により押された場合に点灯します	
11	満了感知ランプ (橙)	成形室の満了を感知すると点灯し、ネット巻き後にロールが放出されると消灯します	
12	ネット巻き完了 ランプ (赤)	ネット巻きが正常に終了すると点灯し、ロールが放出されると消灯します	
13	操作切替スイッチ	ネット巻きつけ後のロール放出の「自動」・「手動」を切替えます	
14	カウンター	成形したロール数をカウントします	
15	リセットスイッチ	カウンターをリセットします	
16	供給スイッチ	(開始) ホッパーの作物を成形室に供給します (停止) ホッパーから成形室への作物の供給を停止します	
17	非常停止スイッチ	押している間コントロールボックスの電源が切断されます また、全ての動作がリセットされます	
18	手動繰出スイッチ	一度押すとネットを手動で繰出すことができます	
19	注油スイッチ	一度押すと10秒間タイトチェンに注油されます	
20	チャンバー開閉 スイッチ	ベールクラッチが「入」の時手動でチャンバーの開閉ができます	
21	全閉ランプ	チャンバーが全閉となり、ロックが掛かっているときに点灯します	
22	全開ランプ	チャンバーが全開の時に点灯します	
23	ヒューズ	15Aの管ヒューズを使用します	

各部の名称とはたらき

5. アタッチ部

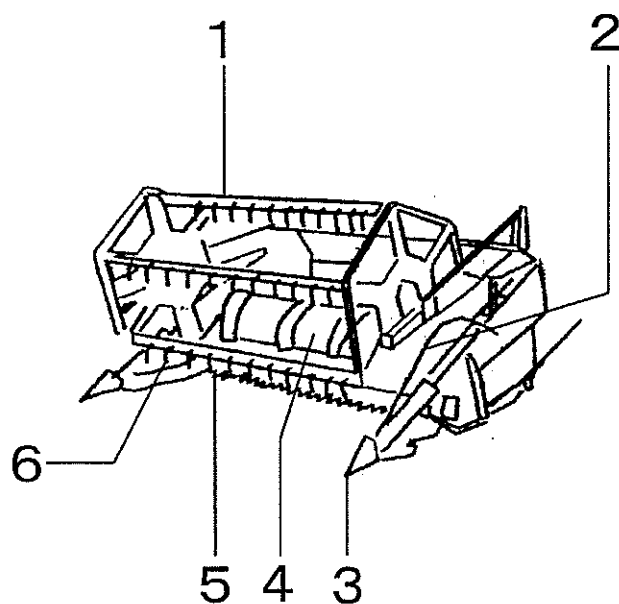
(ロークropp)



番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	ストークガイド	刈取るコーンを囲い込みます	93
2	デバイダ	刈取るコーンの根元を案内します	
3	刈刃	コーンを刈取ります	200
4	ギャザリング チェン	刈取ったコーンをハーベスタ部に搬送します	
5	スクレパ	搬送経路を掃除します (両側の内側チェンに各2ヶ付いています)	

各部の名称とはたらき

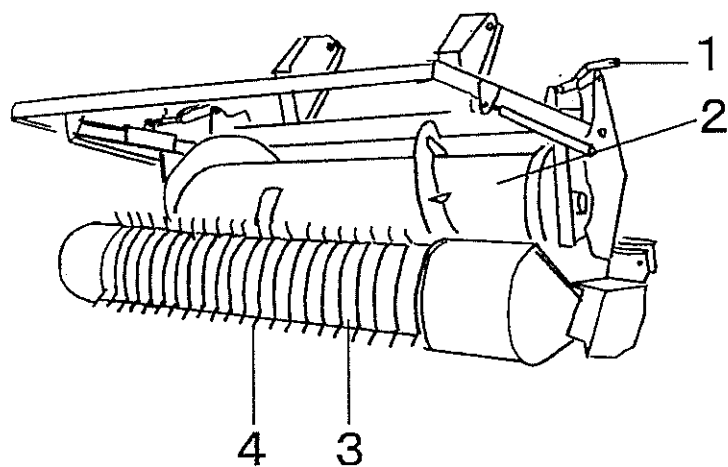
(リールヘッダ)



番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	リール	作物を引き起こし、刈刃で刈取った作物を取り込みます。	
2	サイドデバイダ		
3	デバイダ		
4	プラットホーム オーガ	刈取った作物を、フィードロールに搬送します	
5	刈刃	作物を刈取ります	200
6	タイン		

各部の名称とはたらき

(ピックアップ)



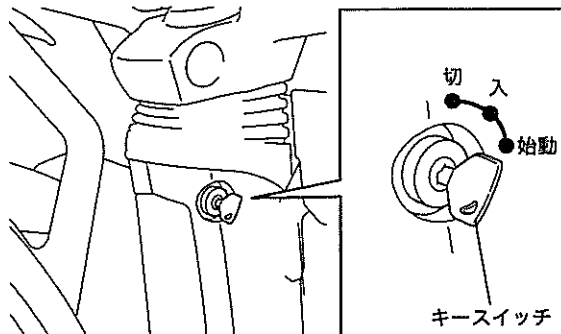
番号	名 称	は た ら き	参照ページ
1	オーガフレーム レバー	オーガを持ち上げるときに使用します	
2	オーガ	作物を、フィードロールに搬送します	
3	ピックアップ ドラム		
4	タイン	作物を拾い上げます	

運転に必要な装置の取扱い

1. フロントコラム中央

(1) キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



- 「切」位置……エンジン停止時に使用する（電流は流れず、キーを抜き取れる）
- 「入」位置……各電装スイッチに電流が流れる
- 「始動」位置…セルモータが回転し、エンジンが始動する
エンジン始動したら、キーから手を離す。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入る。

[参考]

寒冷時には、キースイッチを「入」位置にしてから、数秒間はエアヒータが作動し、エンジンの始動を容易にします。
エアヒータ作動時には、センターディスプレイに「ヒータ」と表示されます。
ベールクラッチレバーが「入」位置の場合には、安全のためにセルモータは回転しません。

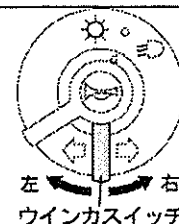
(2) コンビネーションスイッチ

<ウインカスイッチ>

方向指示器を点滅させるときに使用します。

キースイッチを「入」位置にして、旋回する側の矢印方向にスイッチを回すと、方向指示器が点滅します。同時にセンターディ

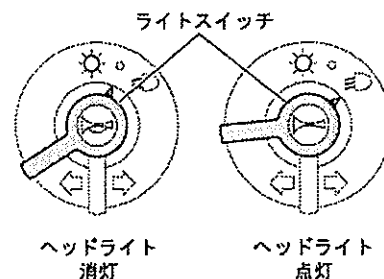
スプレイのウインカパイロットランプも点滅します。



- 左へ倒す……左側が点滅する
- 右へ倒す……右側が点滅する

<ライトスイッチ>

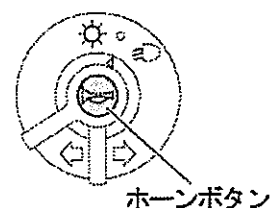
ヘッドライトを照射させるときに使用します。（同時に車幅灯も点灯します。）



キースイッチを「入」位置にして、ライトスイッチを希望の位置に回してください。

<ホーンボタン>

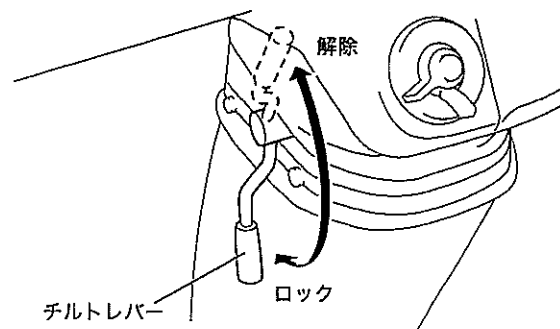
ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

(3) チルトレバー

マルチハンドル、前後の角度を調節するときに使用します。



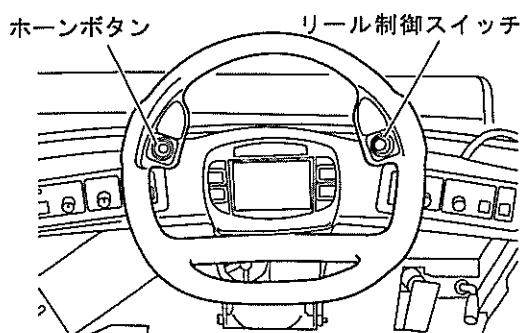
運転に必要な装置の取扱い

- 「解除」方向……マルチハンドルの固定が解除される
- 「ロック」方向…マルチハンドルが固定される好みの角度調節し、調節後は確実に固定する
(70 ページ参照)

2. ハンドル部

(1) マルチハンドル

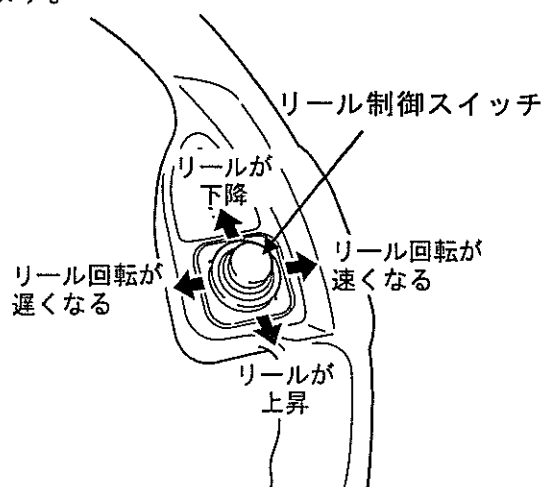
機体を旋回するときに使用します。



マルチハンドルを右へ回すと機体が右へ旋回し、左へ回すと左へ旋回します。
さらにマルチハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラが逆転し、旋回半径が小さくなります。

(2) リール制御スイッチ

ハンドルを握ったままで、刈取部のリール昇降・リール速度を調節するときに使用します。



リール昇降機能

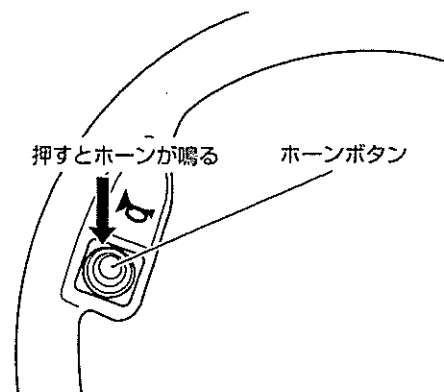
- 「下」側……リールがゆっくり下降する
- 「上」側……リールがゆっくり上昇する

リール回転速度機能

- 「高速」側……リール回転が速くなる
- 「低速」側……リール回転が遅くなる

(3) ホーンボタン

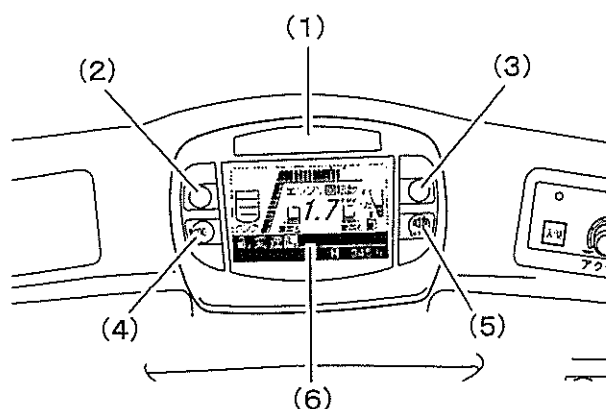
ホーン (警笛) を鳴らすときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

運転に必要な装置の取扱い

3. センターディスプレイ部



(1) 警報表示ランプ

各部の状態や、各部の状態に異常があったときに点灯し、ブザーが鳴ります。
また、異常内容はセンターディスプレイに表示されます。

(2) 設定スイッチ1

設定を変更するときに使用します。

(3) 設定スイッチ2

設定を変更するときに使用します。

(4) 表示切替スイッチ

警報画面などで、表示内容を切り替えるとき、および「設定メニュー」の画面に切り替えるときに使用します。

(5) ブザー停止スイッチ

警報ブザーを停止するときに使用します。

次の警報の場合は、ブザー停止スイッチを押すとブザーが鳴り止みます。

- エンジン系統（チャージ・油圧・水温）
- タンクシグナル（継続音時）
- 燃料残量
- もみ満量警報

次の警報の場合は、ブザー停止スイッチを押してもブザーは鳴り止みません。

- オーバーロードモニター

[参考]

- 警報装置については、212ページを参照してください。

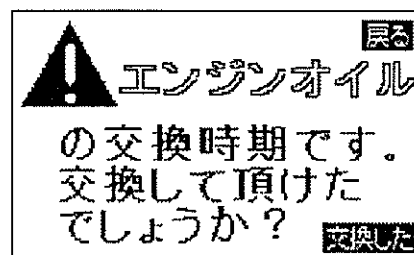
(6) センターディスプレイ

運転中の機械の情報を文字とグラフィックで表示します。主な表示内容について以下に紹介します。

詳細については、41ページをお読みください。

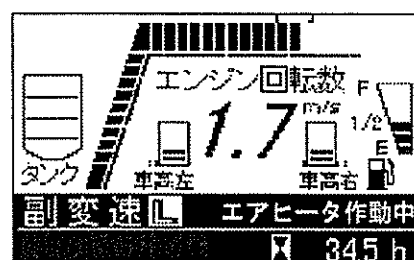
＜メンテナンス情報の画面＞

エンジンオイル交換など、メンテナンスが必要になったときに文字で表示します。



＜動作表示の画面＞

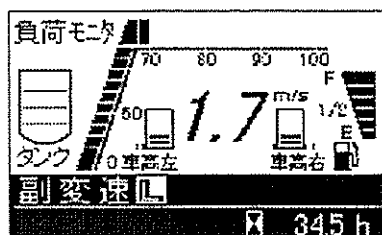
エンジンスタート時に、エアヒータの動作を表示します。



運転に必要な装置の取扱い

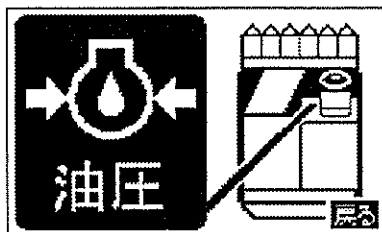
<通常作業時の画面>

エンジン始動後、ベールクラッチレバーを「入」位置にしたときに表示します。



<異常箇所表示する画面>

各部の状態や、異常があった場合の警報装置で、異常箇所をセンターディスプレイとブザーで知らせます。また、画面上部の警報表示ランプが点灯します。

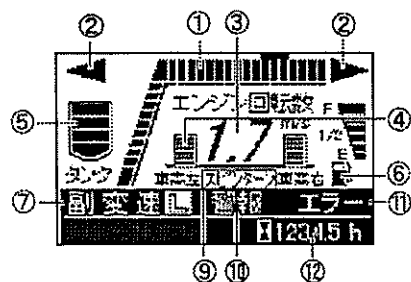


- キースイッチを「切」位置にすると、表示をリセットできます。

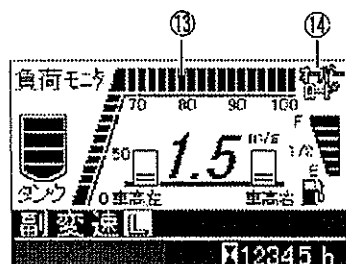
センターディスプレイについて

センターディスプレイでは、作業時に必要な情報を表示するモニター画面と、機能変更や微調整を行うメンテナンスモード（70ページ参照）の機能を持っています。モニター画面について説明します。

<通常走行時の画面>



<通常作業時の画面>



①回転計

エンジン回転数を表示します。

②ウインカパイロットランプ

ウインカスイッチを操作したときに点滅します。

③走行速度

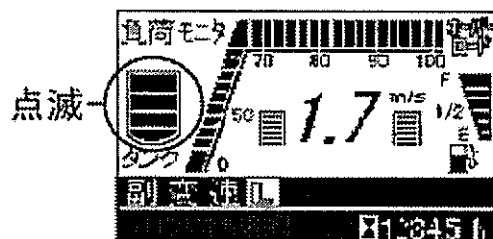
車速を表示します。

④車高状態

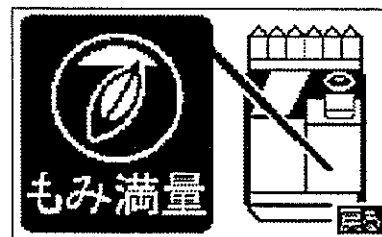
左右の車高を表示します。

⑤ホッパーモニター

ホッパー内がほぼ満量になると、ブザーが断続的に鳴り、ホッパーモニターが「4/4」の状態点滅するとともに、通常画面ともみ満量の画面を交互に表示します。



<もみ満量画>



ブザー停止スイッチを押すと、ブザーは鳴り止みますが、タンクシグナルは点滅したままです。

運転に必要な装置の取扱い

⑥燃料残量表示

燃料の残量を表示します。また、燃料の残量が少なくなったときに、**F**マークが点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。

ブザー停止スイッチを押すと、ブザーが鳴り止みます。**F**マークは点滅したままです。

また、キースイッチ「入」位置で燃料給油時に満量になると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが鳴り続けます。ブザー停止スイッチを押すと鳴り止みます。



⑦副変速状態

副変速の状態をグラフィックで表示します。副変速が作業状態のときは「L」、走行状態のときは「H」を表示します。

⑨スピントーン表示

ハンドルの位置がスピントーン位置のときに表示されます。

⑩警報表示

警報が発生したときに、警報が解除されるまでは「警報」の文字が表示されます。

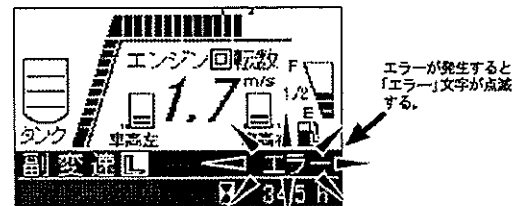
⑪センサーエラー表示

各種センサーエラーが発生したときに、警報ブザーが1秒間鳴り、画面隅に「エラー」の文字が点滅します。

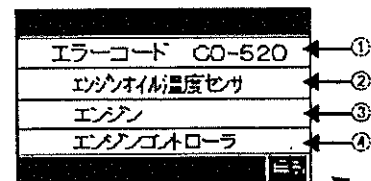
＜エラーコードの表示方法＞

ブザー停止スイッチを5秒間以上押し続けると画面表示が切り替わり、エラーの発生したセンサの名称とセンサの状態、そのセンサが入力されているコントローラの名称が表示されます。

もう一度ブザー停止スイッチを押すと元の画面表示に戻ります。



↓
ブザー停止スイッチを5秒間押し続けると切り替わります。



①エラーコード
②エラー発生部品
③エラー発生部品のある場所
④信号を入力処理しているコントローラ

ブザー停止スイッチをもう一度押すと元の画面表示に戻ります。

運転に必要な装置の取扱い

⑫アワメータ（作業時間表示）

エンジンの使用時間の表示と、作業時間の表示をします。エンジンの使用時間を表示しているときは「砂時計マーク」を表示し、作業時間を表示しているときは「作業時間」の表示をします。

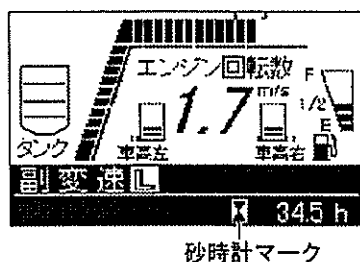
エンジンの使用時間はエンジンを始動すると、カウントを始めます。作業時間はエンジンが回転中で作業クラッチを

「刈取・入」位置にすると、カウントを始めます。

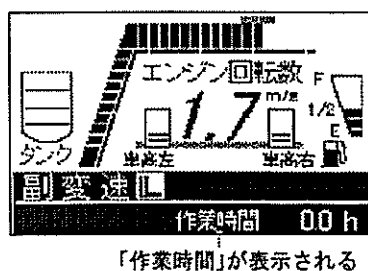
エンジン使用時間、作業時間の切り替え、および作業時間のリセットは、表示切替スイッチで「設定メニュー」の画面に切り替えて行うことができます。

（72ページ参照）

＜エンジン使用時間の画面＞



＜作業時間の画面＞



⑬ロードモニター

エンジン負荷を表します。

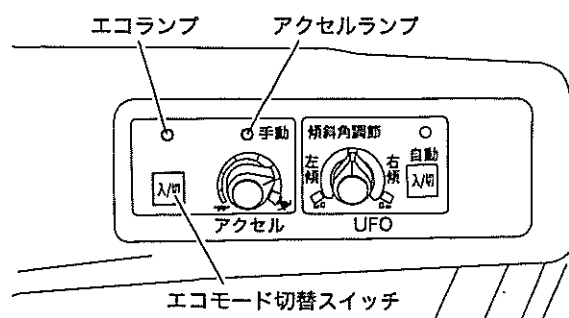
⑭オーバーロードモニター

エンジン負荷が過負荷になったときに、「オーバーロード」の文字が点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。ブザー停止スイッチではブザーを停止することができません。

4. フロントコラム右パネル部

(1) エコモード切替スイッチ

エンジン回転を、自動制御したいときに使用します。



●「切」状態

（エコランプ消灯・アクセルランプ点灯）

…アクセルダイヤルでエンジン回転を調節できる

●「入」状態

（エコランプ点灯・アクセルランプ消灯）

…エンジン回転を自動的に制御する

＜自動定回転制御機能＞

作業負荷が変動（負荷率が100%未満）しても、エンジン回転数を定格回転数（回転計の目盛りが示す「グリーンゾーン」位置）に保ちます。

【注意】

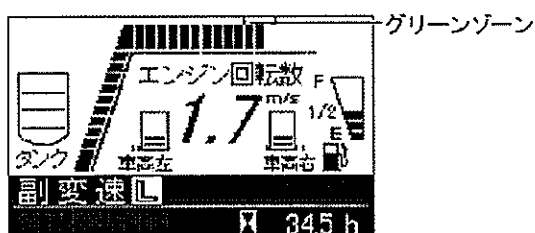
ベールクラッチを入れるときは、必ずエコモードを「切」状態（エコランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてください。守らないと機械の寿命を縮めます。

運転に必要な装置の取扱い

＜オートデセル機能＞

エコモード切替スイッチが「入」（エコランプ点灯・アクセルランプ消灯）状態で、下記の条件のときに、自動的にエンジン回転がセンターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置になり、下記の条件以外はアイドリング（1300rpm）回転数になります。

- オールマイティシフトレバーを前方・後方に倒す。（移動走行時）
- ベールクラッチレバーを「入」位置にする。



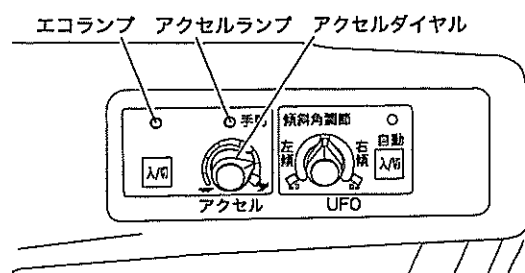
【参考】

- 走行状態でベールクラッチレバーを「切」位置にし、走行を停止してもすぐには、エンジン回転はローアイドリング（低回転）にはなりません。約5秒間エンジン回転は、「グリーンゾーン」位置（定格回転）に保たれます。
- 走行が停止している状態で、ベールクラッチレバーを「切」位置にすると、すぐにローアイドリング（低回転）になります。

エコモード状態	エンジン回転数
切	アクセル位置
入	2600/1300 (rpm)

(2) アクセルダイヤル

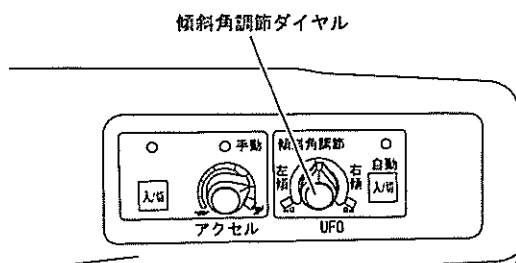
エンジン回転の調整に使用します。（エコモード切替スイッチが「切」（エコランプ消灯）のときアクセルランプが点灯し、アクセル調整ができます。）



- 右へ回す……エンジン回転が上がる
- 左へ回す……エンジン回転が下がる

(3) 傾斜角調節ダイヤル

車体の角度を一定に保ちたいときに使用します。

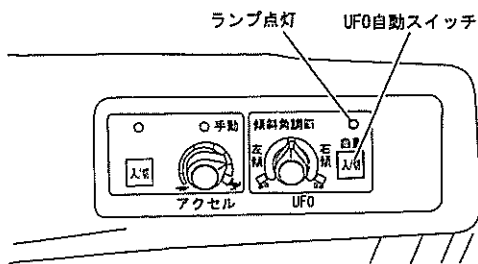


- 中央位置……車体が水平になる
- 右方向に回す…車体が右に傾く
- 左方向に回す…車体が左に傾く

運転に必要な装置の取扱い

(4) UFO自動スイッチ

車体の水平を自動制御するときに使用します。



車高水平制御装置は、ベールクラッチレバーが「入」位置のときに作動します。

- 「入」(ランプ点灯) …車高水平制御が働く
- 「切」(ランプ消灯) …車高水平制御が切れる (120ページ参照)

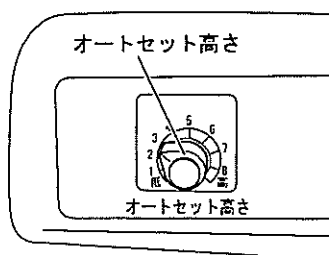
⚠ 注意

路上や傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、必ずUFO自動スイッチを「切」(ランプ消灯) にしてください。機械が急に傾き、転倒事故やケガをするおそれがあります。

5. フロントコラム左パネル部

オートセット高さ調節ダイヤル

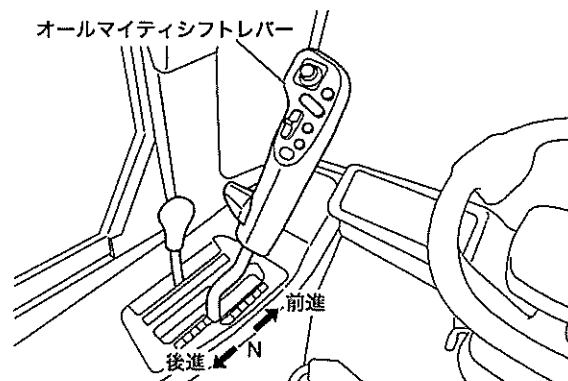
刈取オートセットボタンを押すと、刈取部が下がる高さ(オートセット)を調節するダイヤルです。分草板先端で約5cm～20cmまでの高さを無段階に調節できます。



6. オールマイティシフトレバー部

(1) オールマイティシフトレバー

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。



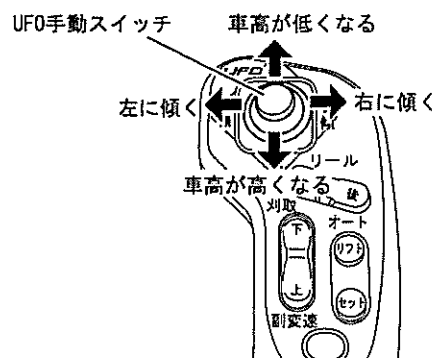
- 「前進」側 ……機体が前進する
- 「後進」側 ……機体が後進する
- 「N」(中立) 位置…機体が停止する
走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

[重要]

セフティペダルを踏み込んでいるときは、オールマイティシフトレバーは「N」(中立) 位置に戻り、オールマイティシフトレバーの操作はできません。

(2) UFO手動(車高調節)スイッチ

手で車高を調節するときに使用します。

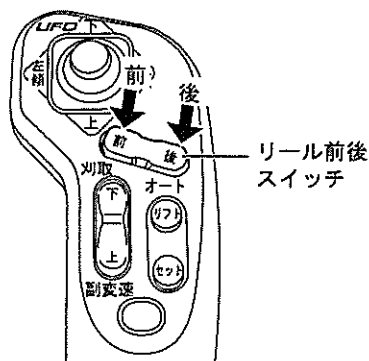


- 前方に押す…車高が低くなる
- 後方に押す…車高が高くなる
- 左に押す…車高が左に傾く
- 右に押す…車高が右に傾く

運転に必要な装置の取扱い

(3) リール前後スイッチ

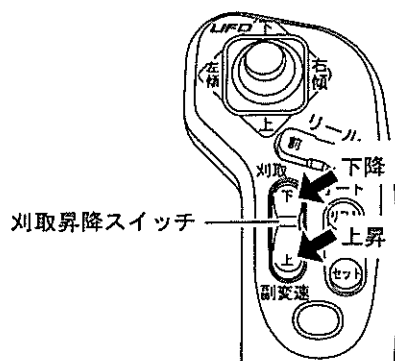
リールの前後調節するときに使用します。



- 「後」側……リールが後方に移動する
- 「前」側……リールが前方に移動する

(4) 刈取昇降スイッチ

刈取部の上昇・下降をするときに使用します。

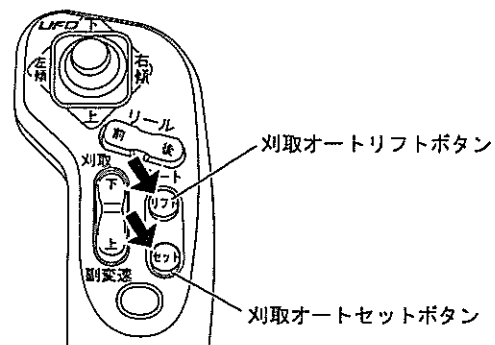


- 「下」側……軽く押すと刈取部がゆっくり、深く押すと速く下降する
- 「上」側……軽く押すと刈取部がゆっくり、深く押すと速く上昇する

(5) 刈取オートリフトボタン・

刈取オートセットボタン

刈取部を、設定している高さに上昇または下降するときに使用します。



刈取オートリフトボタン

ベールクラッチレバーが「入」位置のときに、刈取オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定位置まで上昇します。

(120ページ参照)

[参考]

刈取オートリフトボタンでの設定高さは、約30cmから最上げ位置までの範囲で調節できます。

刈取オートセットボタン

ベールクラッチレバーが「入」位置のときに、刈取オートセットボタンを押すと、オートセット高さ調節ダイヤルの設定位置まで下降します。(121ページ参照)

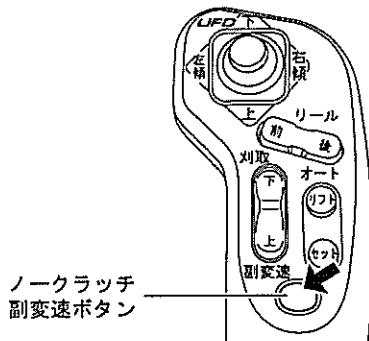
[参考]

刈取オートリフトボタンと刈取オートセットボタンは、同時に押さないでください。センターディスプレイに「エラー」の文字が表示されます。

運転に必要な装置の取扱い

(6) ノークラッチ副変速ボタン

副変速を変速するときに使用します。ボタンを押すだけで移動時の「走行 (H)」、作業時の「作業 (L)」の切り替えができます。走行中でもノークラッチで変速ができます。



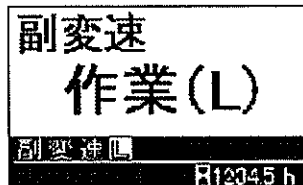
- ボタンを押す……………副変速が走行 (H) になる

(ディスプレイ表示: H)



- ボタンをもう一度押す…副変速が作業 (L) になる

(ディスプレイ表示: L)

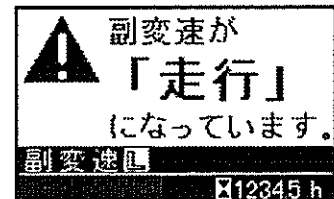


[参考]

- 移動時は「走行」(ディスプレイ表示: H) で、刈取作業時は、「作業」(ディスプレイ表示: L) で行ってください。
- 副変速レバーが「畦越」位置のときは、副変速は「作業 (L)」状態に保持され、「走行 (H)」には変速できません。「走行 (H)」状態で副変速レバーを「畦越」位置に変速したときも、副変速は自動的に「作業 (L)」に切り替ります。

[重要]

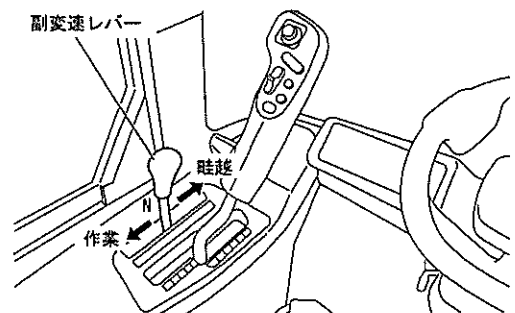
ノークラッチ副変速ボタンが「走行」(ディスプレイ表示: H) のときは、ベークラッチレバーを「入」にするとブザーが鳴り、下記のような画面表示になり、副変速が「走行」になっていることをお知らせします。



7. サイドコラム部

(1) 副変速レバー

使用目的や条件により、「畦越」「作業」の2段階の走行速度が選べます。



- 「畦越」位置……………あぜ越えや、トラックへの積み・降ろし
- 「作業」位置……………刈取作業や移動走行
- 「N」(中立) 位置…走行しない

[参考]

「作業」位置を選択しているときは、ノークラッチ副変速により、「L (作業)」 「H (走行)」が選択できます。(78ページ参照)

[重要]

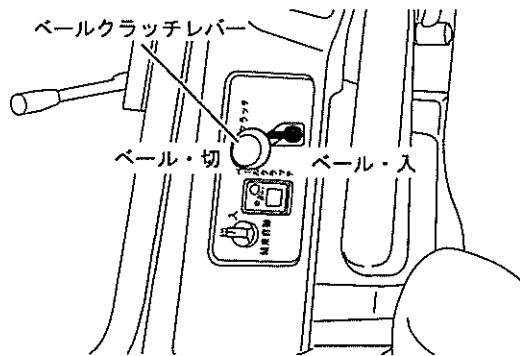
- オールマイティシフトレバーを、必ず「N」(中立) 位置にして、機体を完全に停止してから変速してください。

運転に必要な装置の取扱い

- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 坂道では変速しないでください。
- 副変速レバーを「畦越」位置にして、刈取作業をしないでください。搬送姿勢が乱れて、詰まりが発生する可能性があります。

(2) ベールクラッチレバー

刈取部を動かしたり、止めるときに使用します。



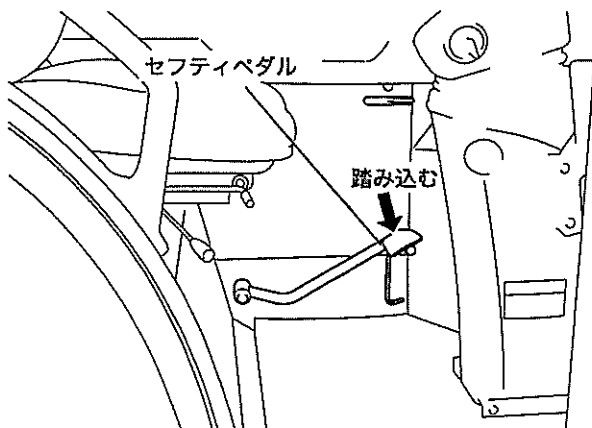
ベールクラッチレバー

- 「切」…刈取部・ベアラ部も停止する
- 「入」…刈取部・ベアラ部も作動する

8. その他の操作関係

(1) セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。



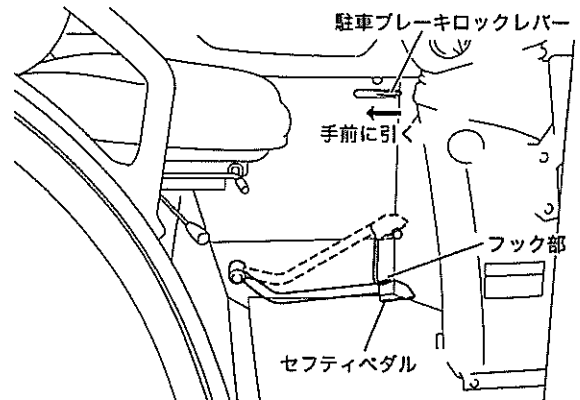
セフティペダルを踏み込むと、オールマイティシフトレバーが「N」(中立)位置に戻り、本機が停止し、ブレーキが効きます。

[参考]

通常の走行停止は、オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にして行ってください。

(2) 駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。



セフティペダルをいっぱい踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。解除するときは、セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れ解除できます。

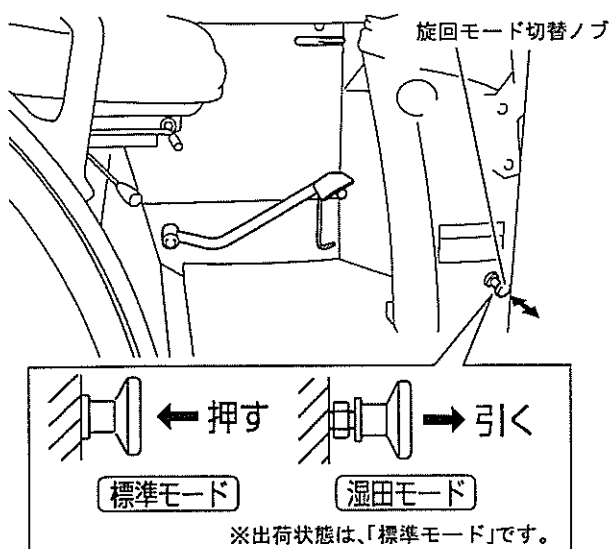
[参考]

セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、オールマイティシフトレバーは「N」(中立)位置に戻ります。

運転に必要な装置の取扱い

(3) 旋回モード切替ノブ

旋回モードを切り替えるときに使用します。



旋回モード切替ノブは、オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置、マルチハンドルを「中立」にして操作してください。

- ノブを押し込む…標準モード
(スピントーンする)
- ノブを引き出す…湿田モード
(スピントーンしない)

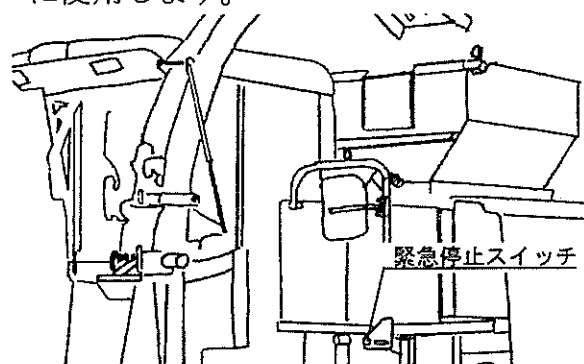
[参考]

- 「標準モード」では、旋回時に自動減速が働いて小回りができますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。移動走行するときは、「標準モード」にしてください。
- 乾田作業・移動走行では、「標準モード」を使用してください。湿田作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
ノークラッチ副変速ボタン「作業」での旋回	スピントーンする (小回り)	スピントーンしない (大回り)
乾田での旋回	◎ ○	○
湿田での旋回	注意：ハンドルを切り過ぎない	◎ (旋回力大)
移動走行性能	◎	× (使用不可)
車庫入れ性能	◎	× (使用不可)

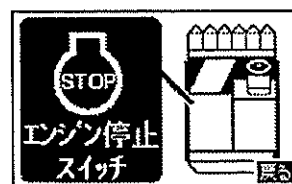
(4) 緊急停止スイッチ

緊急事態が発生した場合のエンジン停止に使用します。



ステップ前方にある緊急停止スイッチを押すと、エンジンが停止し、エンジン緊急停止スイッチ警報画面を表示します。また、画面上部の警報表示ランプが点灯します。キースイッチを「切」位置にすると、表示をリセットできます。

〈エンジン緊急停止スイッチ警報画面〉



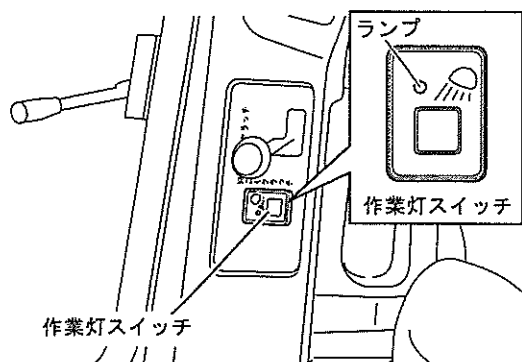
[重要]

- エンジン緊急停止スイッチでエンジンを停止したときは、キースイッチを「切」位置にしてください。キースイッチをいったん「切」位置にしないと、キースイッチを「始動」位置にしても、エンジンは始動しません。

運転に必要な装置の取扱い

(5) 作業灯スイッチ

作業灯を点灯するときに使用します。



作業灯スイッチを押して「入」（ランプ点灯）にすると、作業灯が点灯します。

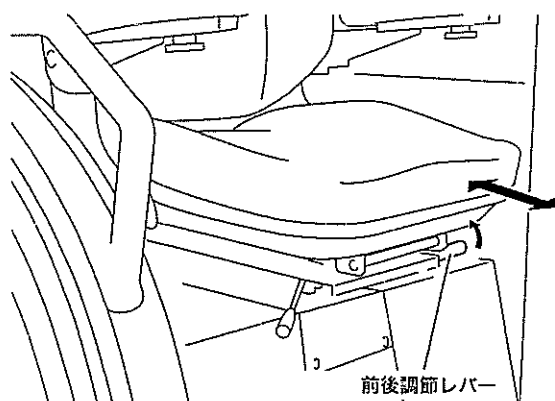
9. その他

(1) ドライバーシート

運転者の体格に合せて、ドライバーシートとアームレストの位置を調節することができます。

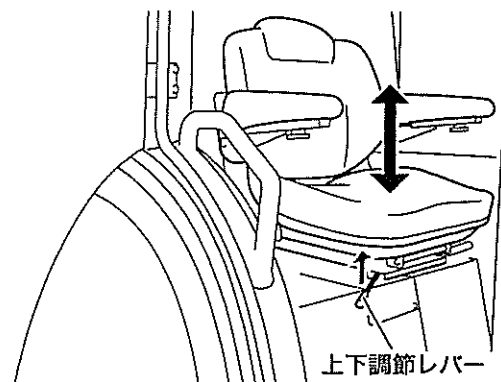
●シートの前後調節

前後調節レバーを矢印方向に引き上げ、ドライバーシートを前後にスライドさせて操作しやすい位置に調節してください。



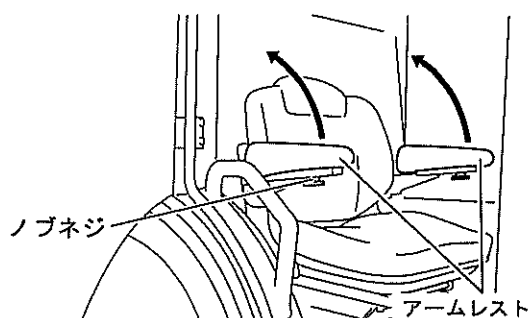
●シートの上下調節

上下調節レバーを矢印方向に引き上げ、シートの高さを調節してください。



●アームレストの調節

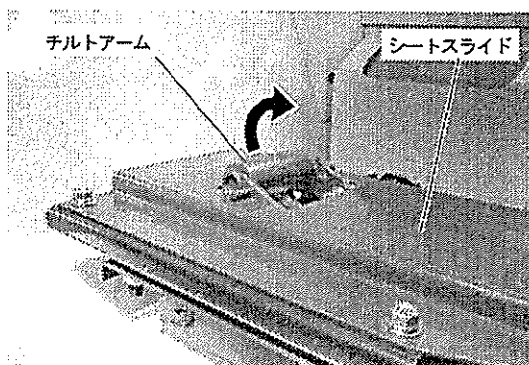
アームレストは、背もたれの位置まで上げることができます。また、ノブネジをゆるめて、前後に調節してください。



●シートのチルト調節

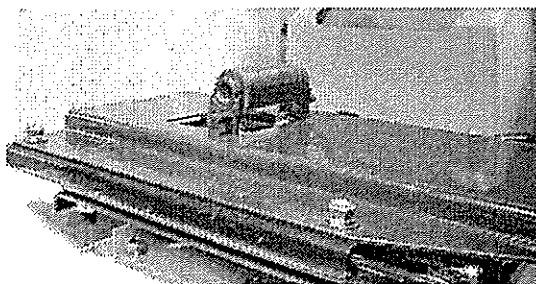
ドライバーシートを前方に倒して、シートスライドにある、チルトアームでシート角度を調節してください。シート角度は、チルトアームで水平状態・前傾状態の2段階に調節することができます。

シート水平状態（出荷状態）



運転に必要な装置の取扱い

シート前傾状態

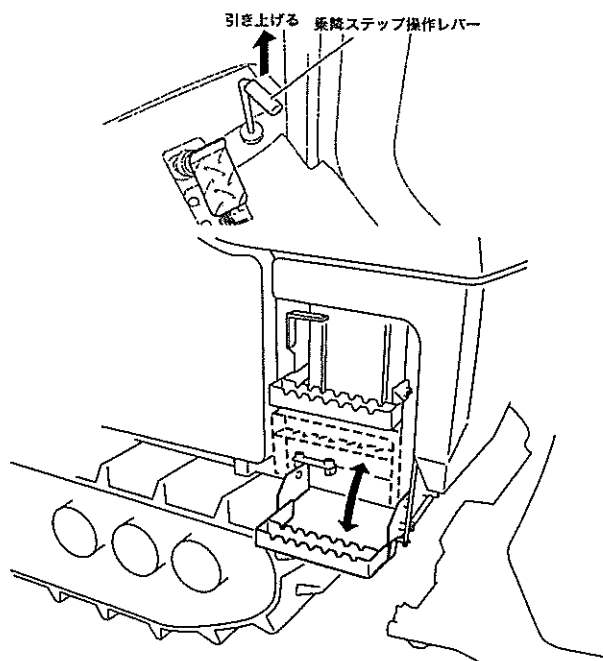


⚠ 注意

チルトアームは、いっぱいまで起こしてください。途中の位置でも止まりますが、シートが突然水平状態に戻り、ケガをすることがあります。

(2) 乗降ステップ操作レバー

乗降ステップ操作レバーを押し込むと、乗降ステップが出ます。乗降ステップ操作レバーを引き上げると、乗降ステップが収納されます。



[重要]

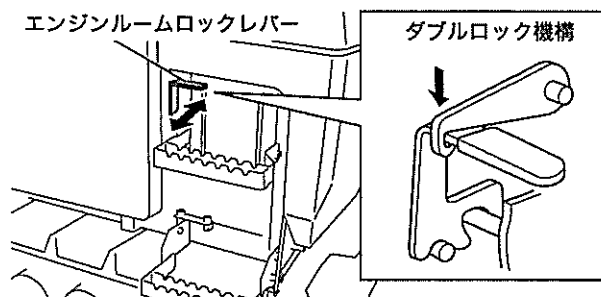
- 移動走行するときは、乗降ステップを収納してください。
- 乗降ステップレバーは、手で操作してください。足で押し込むと、破損することがあります。

[参考]

- 機体から降りたときに、乗降ステップの出し入れをするときは、乗降ステップ自体を手で持ってください。
- 乗降ステップは、下段のみ出し入れできます。上段は固定されています。

(3) エンジンルームロックレバー

エンジンルームの開閉に使用します。



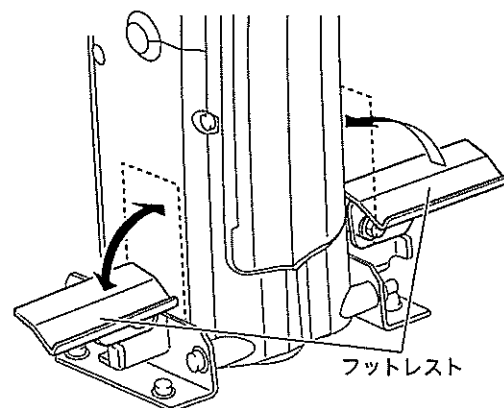
エンジンルームを開けるときは、エンジンルームロックレバーを「開」(解除)方向に引いてください。

[参考]

- エンジンルームを閉めたときは、ロックが確実にできているか確認してください。(128ページ参照)
- トラックに積み込んで移動する時は、ダブルロックを確実に掛けてください。(128ページ参照)

(4) フットレスト

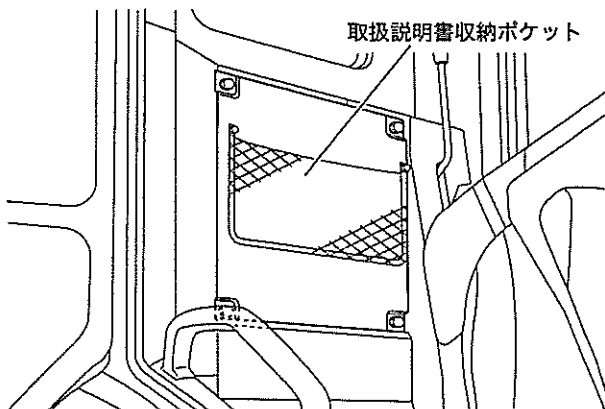
フットレストは折りたたみ式です。ドライバーシートを上げて、前傾姿勢をとったときなど、必要に応じて使用してください。



運転に必要な装置の取扱い

(5) 取扱説明書収納ポケット

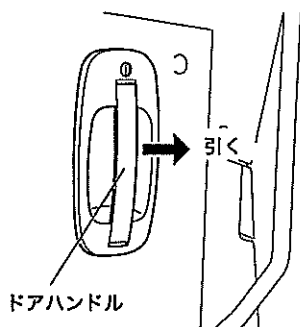
取扱説明書を収納するポケットがドライバーシート裏側にあります。



12. キャビン関係

(1) ドアハンドル(外側・内側)

車外からドアを開閉するときに使用します。



〈開けかた〉

ドアハンドルを引くとロックが解除し、ドアが開きます。

〈閉めかた〉

ドアハンドルを持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

〔参考〕

ドアを閉めたときは、確実にドアがロックされているか必ず確認してください。

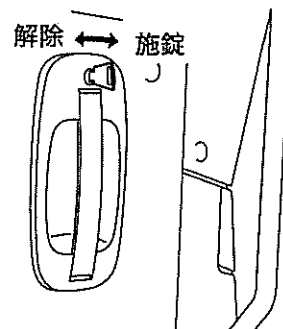
〈施錠のしかた〉

キーを差し込み、右側に90度回してください。ドアが施錠されます。
キーを抜いてください。

〈解錠のしかた〉

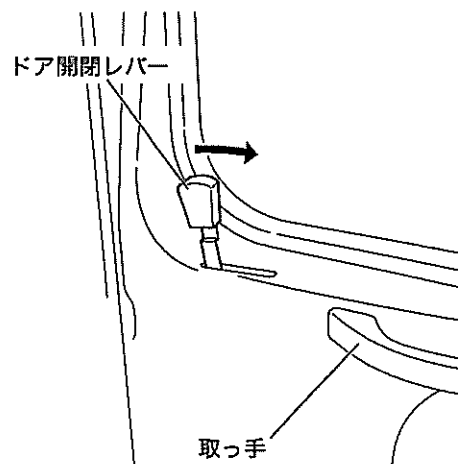
キーを差し込み、左側に90度回してください。ドアが解錠されます。

キーを抜いてください。



(2) ドア開閉レバー(車内)

車外からドアを開けるときに使用します。



〈開けかた〉

ドア開閉レバーを後方に引いてください。ドアが開きます。

〈閉めかた〉

取っ手を持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

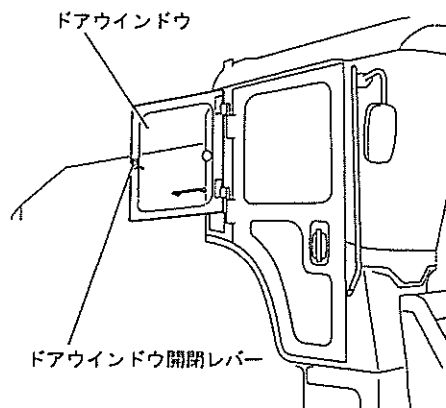
〔参考〕

ドアを閉めた時は、確実にドアがロックされているか必ず確認してください。

運転に必要な装置の取扱い

(3) ドアウインドウ開閉レバー

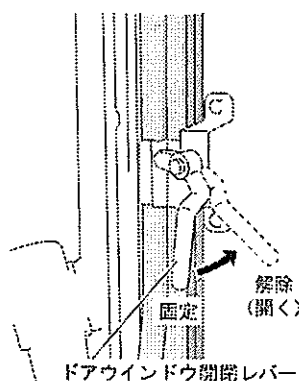
ドアウインドウを開閉するときに使用します。



図は、開いている状態です。

〈開けかた〉

ドアウインドウ開閉レバーを矢印方向に回してロックを解除し、外側に押して開いてください。

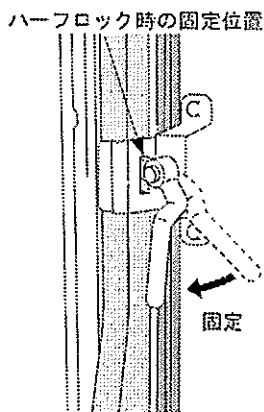


〈閉めかた〉

ドアウインドウをいっぱいまで閉めて、ドアウインドウ開閉レバーで固定してください。

〈ハーフロックのしかた〉

ドアウインドウを閉めている状態から、約2 cm開けた状態で固定することができます。



[参考]

ドアウインドウは、全開した状態で固定することができます。固定はマグネットで行われます。

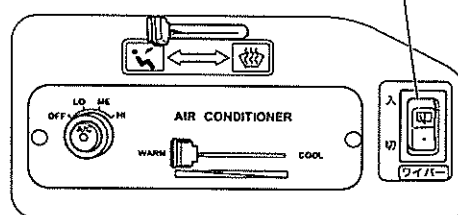
⚠ 注意

ドアウインドウを全開した状態で、急発進・急旋回を行うと、ドアウインドウのマグネットによる固定が外れ、ドアウインドウで手をはさむ可能性があります。ドアウインドウを全開した状態で急発進・急旋回・あぜ越えは行わないでください。

(4) ワイパー&ウォッシャースイッチ

ワイパーの作動と、ウォッシャー液を噴出するときに使用します。

ワイパー&ウォッシャースイッチ



キースイッチが「入」位置のとき

●スイッチの上側を1段押す…

ワイパーが作動する

●スイッチの上側を最後まで押す…

押している間は、ワイパーが作動しながらウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出する

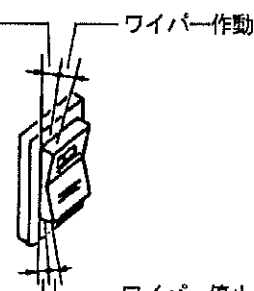
●スイッチの下側を1段押す…

ワイパーが停止する

●スイッチの下側を最後まで押す…

押している間は、ウォッシャー液が洗が液噴出口から噴出する

ウォッシャー液噴出+ワイパー
スイッチを押している間、
ワイパーが作動しながら
ウォッシャー液が噴出します。



ウォッシャー液噴出
スイッチを押している間、
ウォッシャー液が噴出します。

ワイパー停止

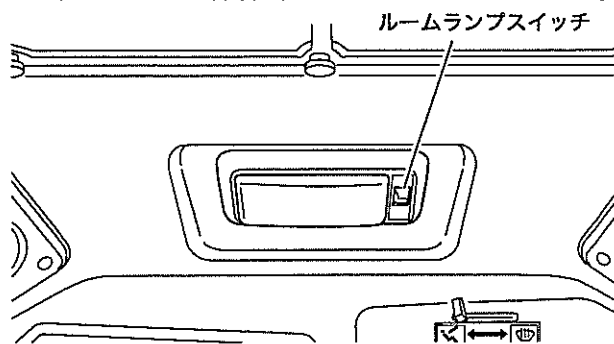
運転に必要な装置の取扱い

〔重要〕

- ウィンドウガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーが傷つくおそれがあります。必ず、ウォッシャー液で濡らしてからワイパーを作動させてください。
- ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。ウォッシャー液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障の原因になります。
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。張りついたまま作動させると、ワイパーが破損するおそれがありますので、吹出口切替レバーを「フロントガラス側」位置にして、温風でフロントガラスを暖めてください。
- エンジン停止状態でワイパーを長時間使用しますと、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

（５）ルームランプスイッチ

キャビン内で作業するときに使用します。



キースイッチが「入」位置のとき

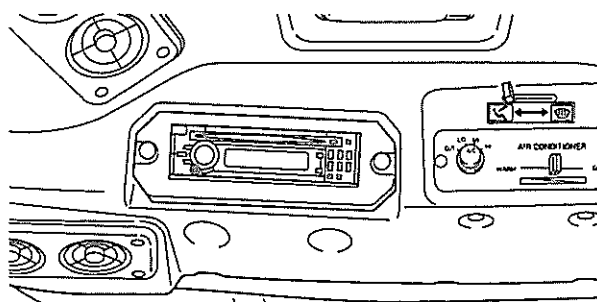
- 「ON」位置……ルームライトが点灯する
- 「OFF」位置……ルームライトが消灯する

〔参考〕

「ON」と「OFF」の中間位置ではルームライトは点灯しません。

（６）FM・AM付CDラジオ

取扱いについては、付属の取扱説明書をお読みください。



〈バックアップ電源について〉

バックアップ電源は、キャビン内のヒューズボックスにあるヒューズの抜き差しで切り替えます。

〔参考〕

通常は、FM・AM付CDラジオ用の「常時電源ラジカセ」の10Aヒューズは抜けている状態です。この状態では、キースイッチを「切」位置にすると、本体から電源が切れて、プリセットメモリーおよび時計表示が消えますので、再セットが必要です。これは、バッテリー放電防止のためにバックアップ電源をキースイッチ「切」位置で切ってしまうためで、故障ではありません。

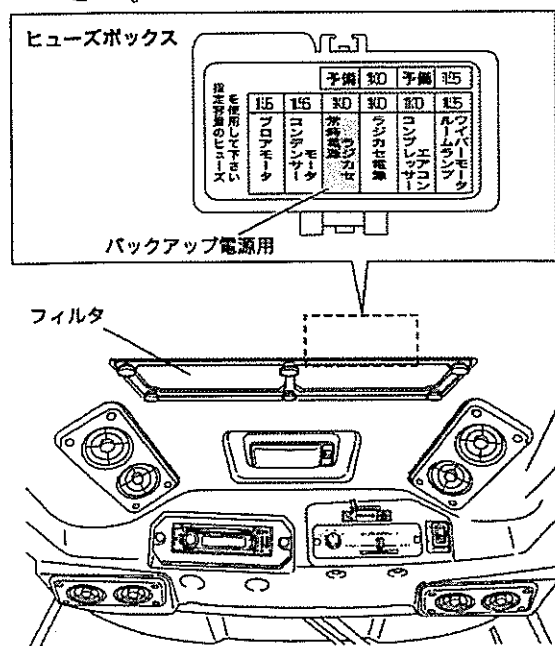
〈バックアップ電源の切り替えかた〉

⚠ 注意

「常時電源ラジカセ」のヒューズに限り、抜き差しをするときには、必ずキースイッチを「入」位置にして行ってください。守らないと、「常時電源ラジカセ」のヒューズを抜き差ししたときに、火花が飛び、他の機器を破損させるおそれがあります。

運転に必要な装置の取扱い

1. キースイッチを「入」位置にしてください。
2. ヒューズボックスの「常時電源ラジカセ」の箇所に予備の10Aヒューズを差し込んでください。
3. キースイッチを「切」位置にしてください。



[参考]

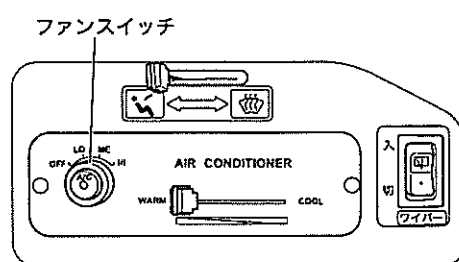
この状態では、プリセットメモリおよび時計表示は、キースwitchの「入」「切」位置に関係なく作動します。

[重要]

「常時電源ラジカセ」の箇所には10Aヒューズが差し込まれた状態では、長時間（1ヶ月以上）使用しないと、バッテリーが放電して使用できなくなることがあります。必ず10Aヒューズを抜いて通常の状態に戻してください。

(7) ファンスイッチ

風量を調節するときに使用します。



風量を3段階に調節できます。

- 「OFF」位置…ファン回転停止
エアコンスイッチの
青ランプが点灯して
いるとき
- 「LO」位置……弱風
- 「ME」位置……弱風と強風の間
- 「HI」位置……強風

[参考]

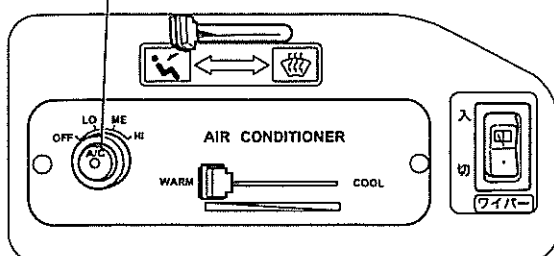
エアコンスイッチを入れる前に、ファンスイッチを希望の風量位置にセットしておきます。

運転に必要な装置の取扱い

(8) エアコンスイッチ

エアコン電源を「ON」「OFF」するときに使用します。

エアコンスイッチ



キースイッチが「入」位置のとき

- 1回押す……………エアコン「ON」
(ランプ点灯)
- ランプ点灯時に押す…エアコン「OFF」
(ランプ消灯)

[重要]

- エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」(ランプ点灯)にしてください。
- エアコンスイッチ「ON」(ランプ点灯)の状態、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯)にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた販売店または、J Aで点検を受けてください。

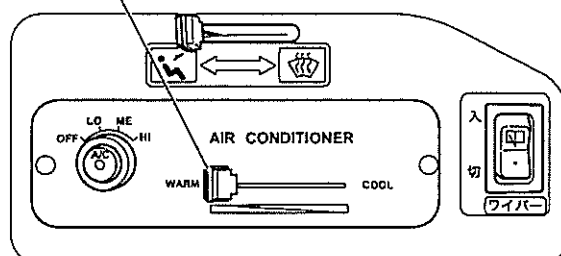
[参考]

ファンスイッチが「OFF」位置のときは、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯)にしてもエアコンは作動しません。

(9) 温度コントロールレバー

エアコンの風の温度を調節するときに使用します。

温度コントロールレバー

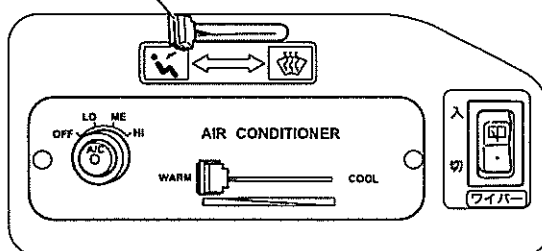


- 「WARM」側…近づけるほど風の温度は高くなる
- 「COOL」側…近づけるほど風の温度は低くなる

(10) 吹出口切替レバー

温風・冷風の吹出口を切り替えるときに使用します。

吹出口切替レバー

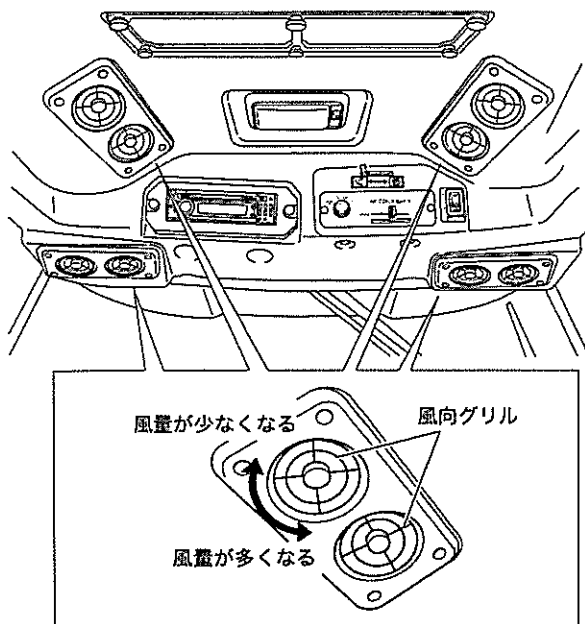


- (オペレータ側) …… オペレータ側(後方吹出口)から温風・冷風が吹き出す
- (フロントガラス側) …… フロントガラス側(前方吹出口)から温風・冷風が吹き出す

運転に必要な装置の取扱い

(11) 風向グリル

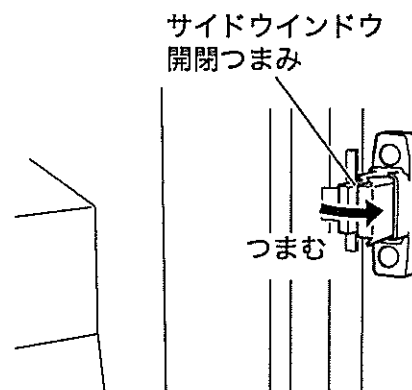
風量を変更するときに使用します。
風向グリルは、キャビン内の前方と後方にあります。



吹出口の風向グリルを矢印方向（右回転）に回転すると風量が少なくなり、反回転（左回転）にすると風量が多くなります。

(12) サイドウインドウ開閉つまみ

サイドウインドウを開閉するときに使用します。



〈開けかた〉

サイドウインドウのサイドウインドウ開閉つまみを、つまんで横に引いてください。

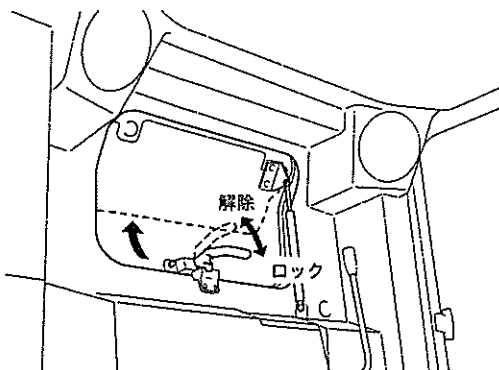
〈閉めかた〉

サイドウインドウをいっぱいまで閉めると、自動的にロックされます。

運転に必要な装置の取扱い

(13) リアウインドウ開閉レバー

リアウインドウを開閉するとき 사용합니다。



〈開けかた〉

リアウインドウ開閉レバーを回してロックを外し、そのまま外側に押してください。リアウインドウがホッパーにあたるまで自動的に開きます。

〈閉めかた〉

リアウインドウ開閉レバーを持って手前に引き寄せ、ハンドルを回してロックしてください。

〔注意〕

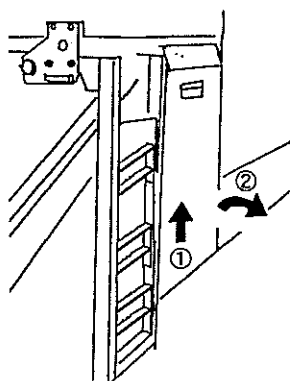
リアウインドウは開けたままで使用できません。掃除する時以外は、常時閉めた状態で使用するようにしてください。

(14) ステップ（燃料タンクベース）

燃料タンクベースに上がる時に使います。

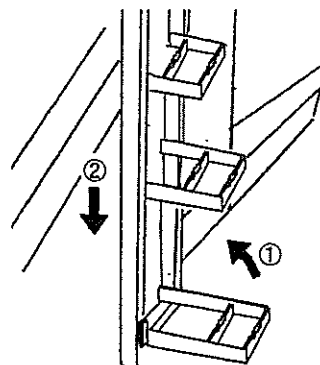
〈使用のしかた〉

①上に引き上げて、②手前に倒してください。



〈収納のしかた〉

①持ち上げて、②押し下げてください。



〔注意〕

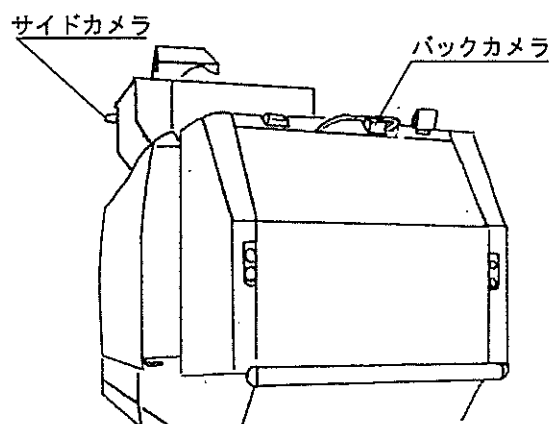
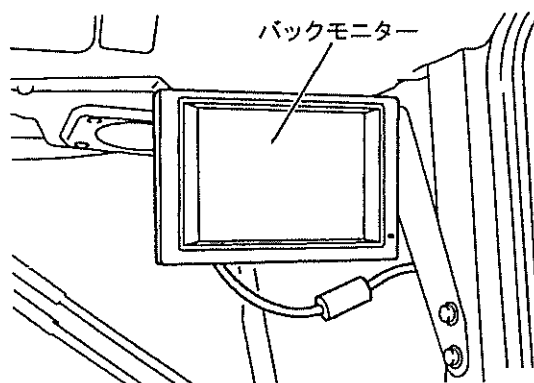
移動時は必ず収納してください。

(15) バックモニター・

バックモニターカメラ・

サイドモニターカメラ

取扱いについては、付属の取扱説明書をお読みください。

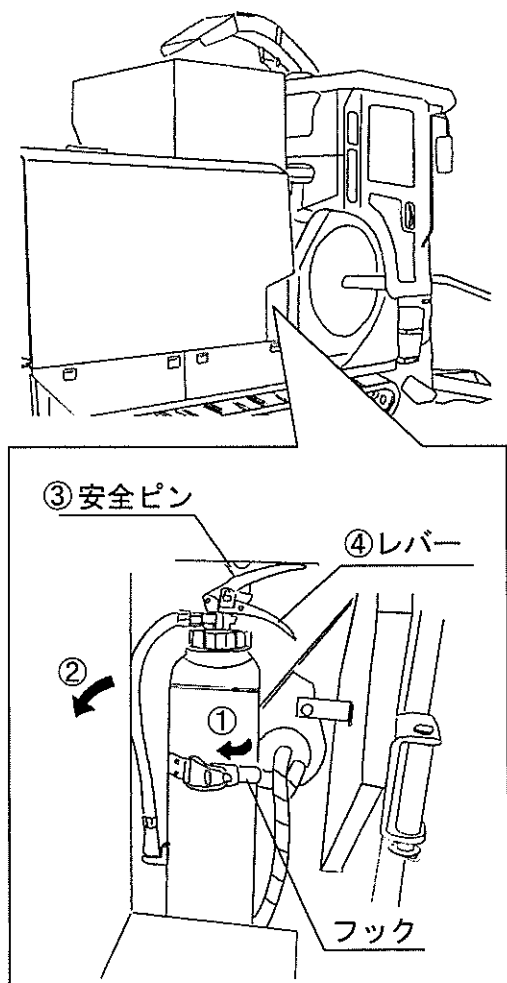


運転に必要な装置の取扱い

(16) 消化器

万一本機より出火した場合は以下の方法で消化器を取り出し、初期消火を行ってください。

- ①フックを外してください。
- ②消化器本体を手前に引き抜いて本機から取り外してください。
- ③安全ピンを外してください。
- ④ホース先端の火元にむけ、レバーを握って消化剤を噴射してください。



警告

初期消火に失敗したら、無理をせず本機から遠くに避難してください。

7. ハーベスタ部

(1) 切断長の調整

切断長の調整はスプロケットを交換して行います。

スプロケット歯数	理論切断長
12 T	11 mm
15 T	15 mm
19 T	19 mm
30 T	29 mm

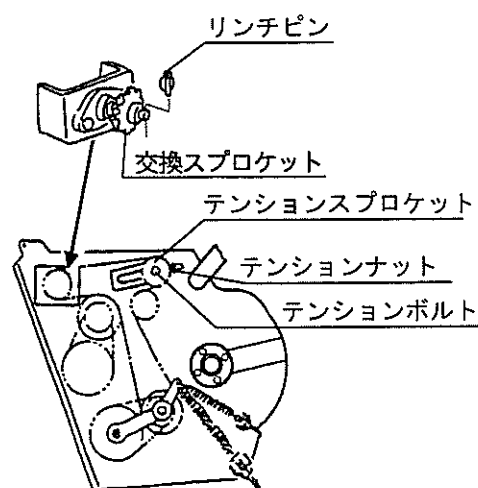
工場出荷時には、11 T (切断長 11 mm) のスプロケットが付いていますので、切断長を変更または長くする場合は、付属のスプロケットと交換してください。

[注意]

刈取る作物の状態により、実際の切断長は、理論切断長より 1.5 倍程度に長くなることもあります。

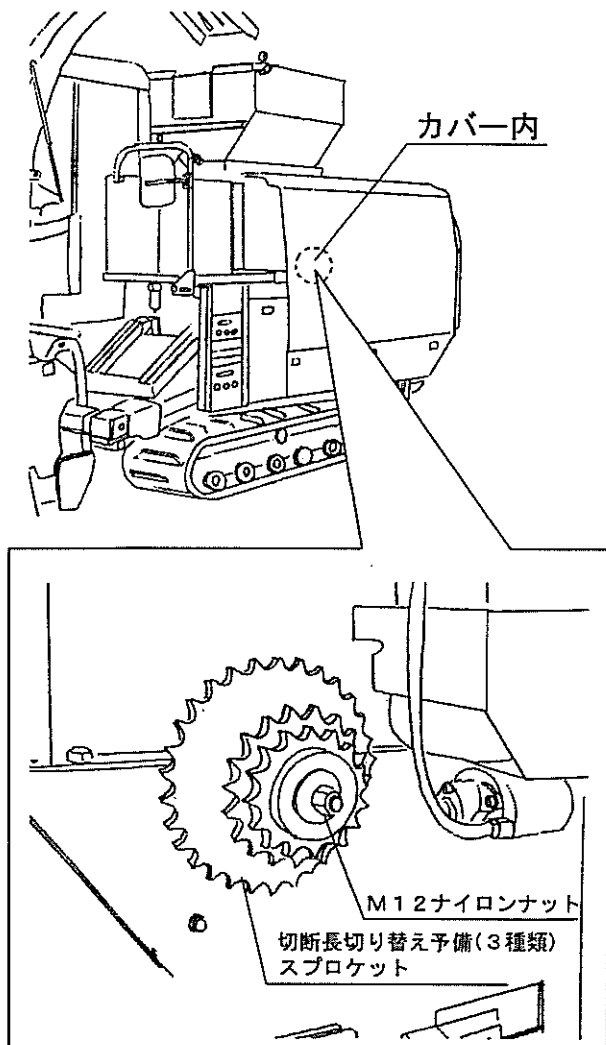
<交換方法>

テンションのボルトとナットを緩め、スプロケットのリンチピンを外し、スプロケットを交換してください。
交換後は、テンションでチェーンを張ってください。(191 ページ参照)



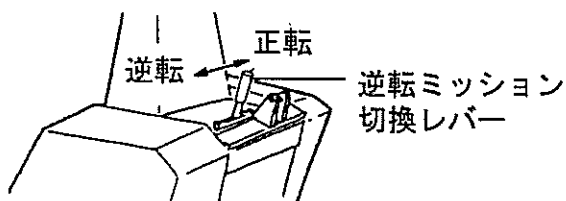
切断長の調整用の予備のスプロケットは本機左側にカバー内に取り付けてあります。

運転に必要な装置の取扱い



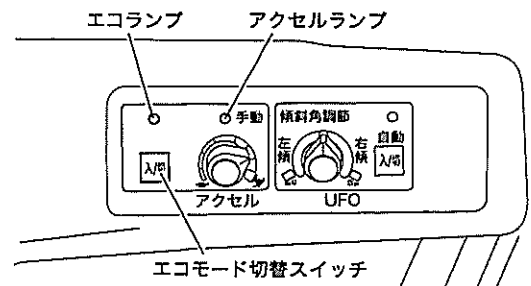
(2) 逆転ミッション切換レバー

刈取り作業中に万一、コーンなどがフィードロール部などに詰まった時は、下図の逆転ミッション切換レバーを操作することにより、フィードロール及びアタッチ部の回転を逆回転し、詰まった作物を吐き出すことができます。



【注意】

- 逆転ミッション切換レバーを操作する時は、必ずハーベスタの回転が停止してから行ってください。
- 逆転時には必ずエコモード切替えスイッチを「切」(エコランプ「消灯」・アクセルランプ「点灯」状態)にし、アイドルリングで作業機を回転させてください。高速回転でハーベスタを逆転させると機械を破損するおそれがあります。



⚠ 警告

逆転ミッション切換レバーを操作する時、二人作業の場合は必ずお互いに合図をしてから作業を行ってください。

⚠ 警告

逆転ミッション切換レバーを操作する時、ロックアップ等のアタッチ前方に絶対立たないようにしてください。フィードロール及びアタッチ部から前方に吐き出した収穫物が当たり、傷害を受ける恐れがあります。

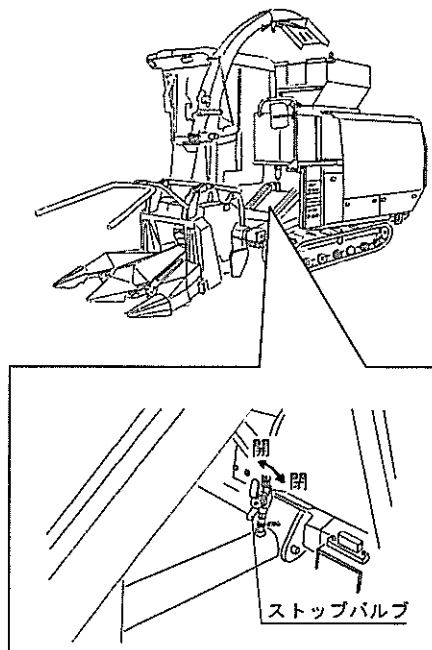
運転に必要な装置の取扱い

(3) ハーベスタ昇降シリンダ用

ストップバルブの取扱い

ハーベスタ昇降油圧シリンダをロックし、下降防止をします。

点検・整備・清掃などでハーベスタをあげたままで点検・整備・清掃するときは、ハーベスタ昇降アームシリンダのストップバルブのレバーを「閉」の方向に回してシリンダをロックしてください。



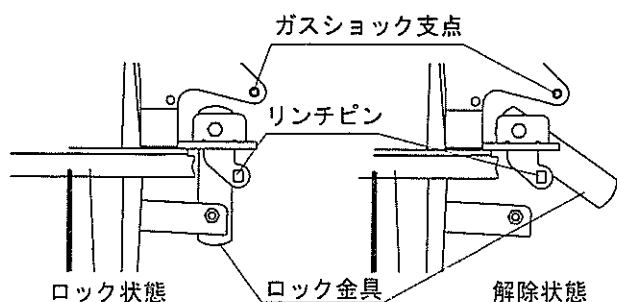
[注意]

再びハーベスタの昇降をする時は、必ずバルブを「開」の方向にしてください。

(4) シュートヘッドロック装置

作業時にはシュートヘッドが動かないように、ロック金具でロックしてください。

シュートヘッドを旋回させる場合は、ロック金具を解除してください。



8. ロールベアラ部

(1) タイトチェン注油装置の取扱い

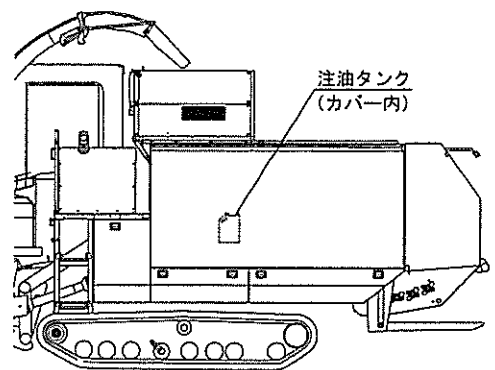
作業前に必ず注油してください。

タイトチェンに十分注油してください。

●油の残量に注意

作業中は供給開始ごとに5秒間自動的に注油されます。

注油タンク内の油残量には、特に注意して、少なくなれば補給してください。



[注意]

●注油タンクの油不足によりタイトチェンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

●作業前にはノズルの清掃を行ってください。注油ノズル部にはゴミが付着することがあり、そのまま使用されますと、チェーンへの注油がされていないことがありますので、定期的に左右のノズル先端部に付着したゴミを清掃してください。

⚠ 警告

点検・清掃は必ずエンジンを止めてから行ってください。

これを怠ると重大な傷害発生の恐れがあります。

運転に必要な装置の取扱い

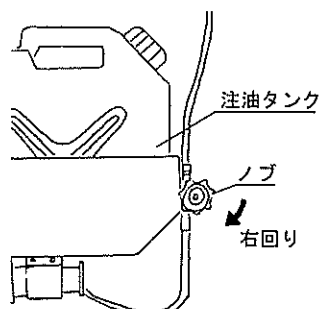
(2) タイトチェン注油

絞り弁の取扱い

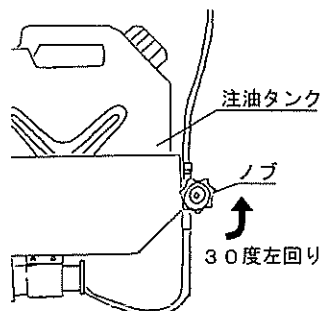
工場出荷時に調節してあり、基本的に調節する必要はありません。

誤って、ダイヤルを回してしまったときは以下の要領で調節してください。

- ①ノブを右回り（時計回り）に回らなくなるまでまわしてください。



- ②1／12回転（30度）左回り（反時計回り）にまわしてください。



〔注油ボタンを1回押したとき、
20cc程度、油が出ます。〕

〔注意〕

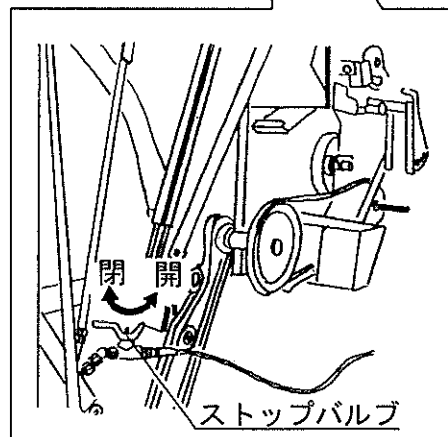
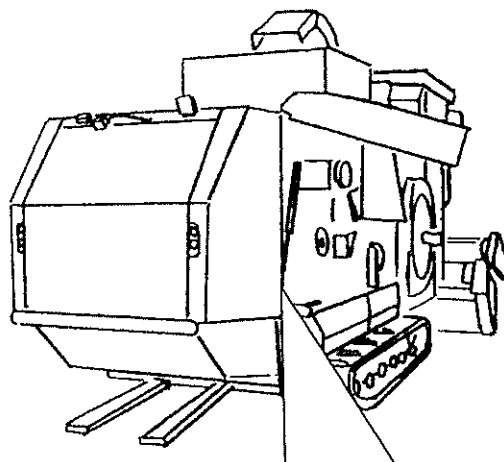
- 注油タンクの容量は5Lです。空になる前に補給してください。
- 注油量は減らさないでください。タイトチェンの寿命を縮めます。

(3) チャンバーストップバルブの

取扱い

チャンバー油圧シリンダをロックし、下降防止をします。

点検・整備・清掃などでチャンバーを開けたままで作業するときは、必ず左右のシリンダにあるストップバルブのレバーを「閉」の方向に回してシリンダをロックしてください。



（図は右側。左側にもあります）
（上図は右側を示しますが、左側も同様です。）

〔注意〕

再びチャンバーの開閉をする時は、必ずバルブを開の方向にしてください。

⚠ 警告

チャンバーを開けた時は必ずストップバルブを閉め、シリンダをロックしてください。これを怠ると重大な傷害発生の恐れがあります。

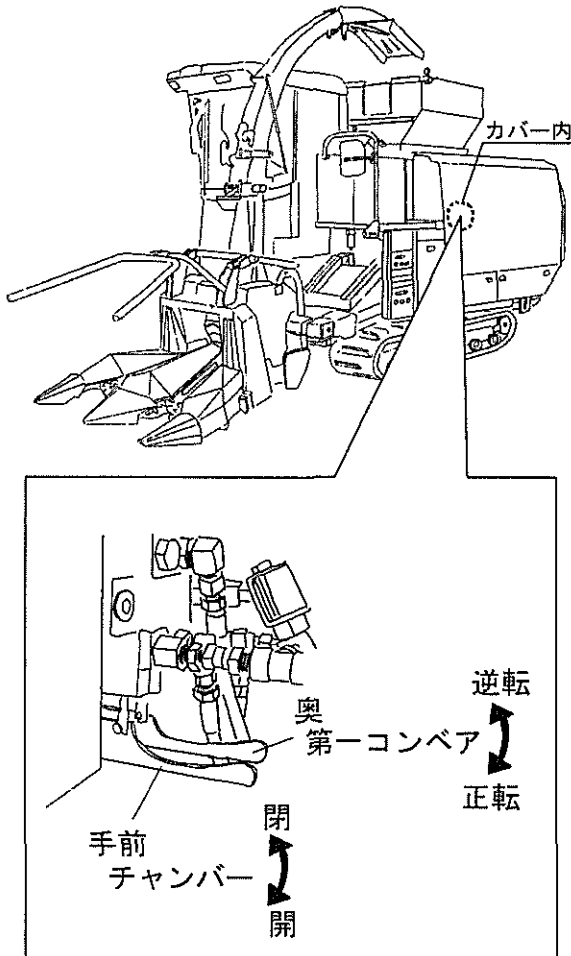
運転に必要な装置の取扱い

(4) 手動バルブの取扱い

[注意]

緊急時にのみ操作してください。
周辺に回転部があり非常に危険です。

チャンバーの開閉及び第一コンベアの正逆転を手動で操作する場合に使用します。



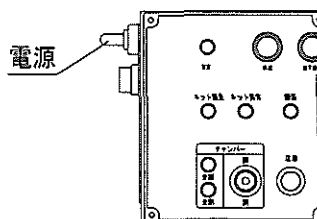
(1) チャンバー開閉のしかた

●チャンバー「開」

①エンジンを始動してください。

(75ページ参照)

②コントロールボックスの電源を切ってください。



- ③エコモード切替スイッチが「切」になっていることを確認し、ペーラクラッチを「入」にしてください。
- ④左側のカバーを開けてください。

警告

手動バルブの近くで、Vベルト・チェンが駆動しています。回転部には決して手を触れないでください。

重大な障害を受けるおそれがあります。

- ⑤Vベルト・チェンの回転部に注意し、周りの安全を確認後、手前のレバーを下に押します。
- ⑥チャンバーが開きます。

[注意]

チャンバーを開けたままにする時は必ず、チャンバーストップバルブを「閉」にしてください。(62ページ参照)

●チャンバー「閉」

- ①エンジンが停止していることを確認してください。
- ②左側のカバーを開けてください。
- ③周りの安全を確認し、手前のレバーを上を持ち上げます。
- ④チャンバーが閉まります。

(2) 第一コンベアの正逆転のしかた

①エンジンを始動してください。

(75ページ参照)

- ②エコモード切替スイッチが「切」になっていることを確認し、ペーラクラッチを「入」にしてください。
- ③左側のカバーを開けてください。

運転に必要な装置の取扱い

⚠ 警告

手動バルブの近くで、Vベルト・チェンが駆動しています。回転部には決して手を触れないでください。

重大な障害を受けるおそれがあります。

- ④ Vベルト・チェンの回転部に注意し、周りの安全を確認後、奥のレバーを下に押すと第一コンベアが「正転」し、上に持ち上げると第一コンベアが「逆転」します。

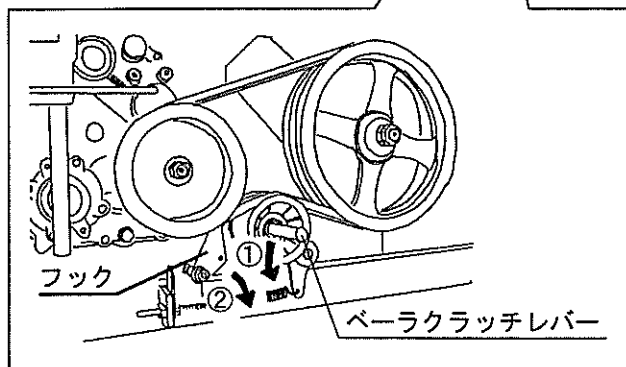
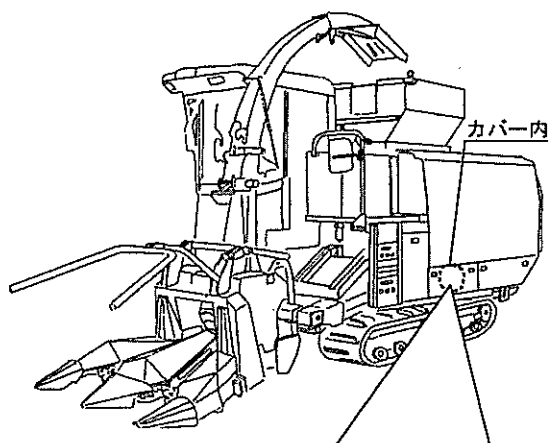
【注意】

第一コンベアの逆転の操作は30秒以上しないでください。

機械の破損の原因となります。

(5) ベーラクラッチの取扱い

- ロールベアラ部の駆動のみを切断することで、本機を作物の刈取り及び切断の、自走ハーベスタとして利用できます。

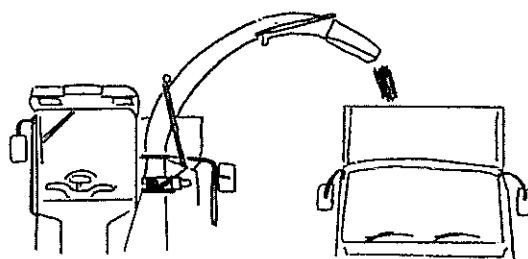


- ① エンジンが停止していることを確認してください。
- ② 左側のカバーを開け、前側のアンダーカバーを取り外してください。
- ③ ベーラクラッチレバーを押し下げ、フックを引っ掛けて、ベーラクラッチレバーを押し下げた状態で固定してください。
- ④ ベーラへの駆動が切断されますので、運転席のベーラクラッチレバーを「入」にしても、ロールベアラ部は動きません。

⚠ 注意

ベーラクラッチレバー及びフックで手を挟まないように注意してください。

- 伴走作業時は下図のように、シュートを進行方向左側に向け、作業してください。

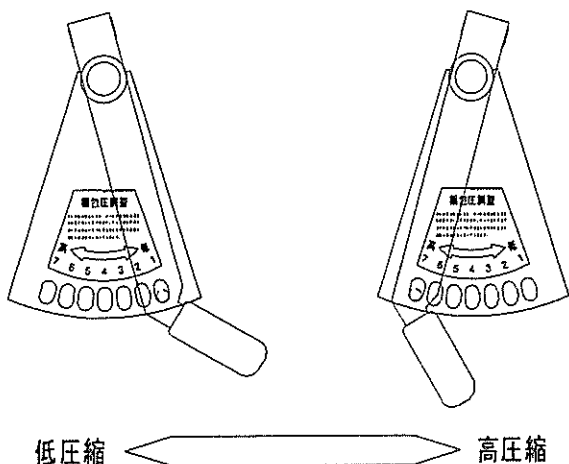


運転に必要な装置の取扱い

9. ネット装置部

(1) ネット張力調整

ネット装置のバネ調整によりロールの梱包圧を適正に調整することができます。ネット張力が強すぎて破れる場合は“低”の位置に掛け替えて作業をおこなってください。



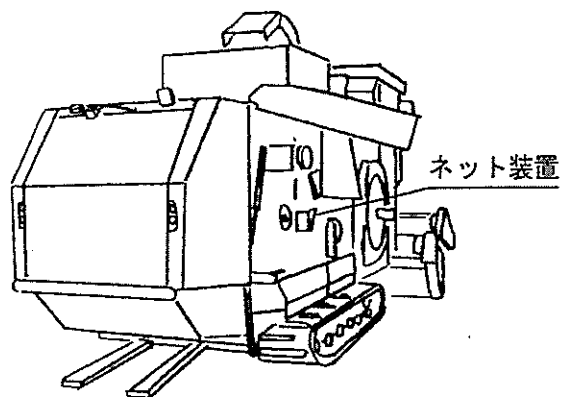
(2) ネット装置の引き出し方法

ネットの装着やメンテナンスの際にはネット装置をスライドさせます。

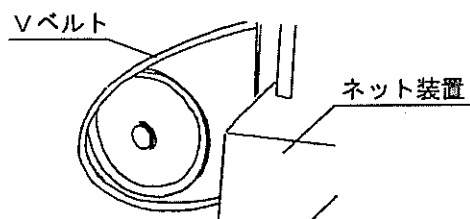
⚠ 注意

- ネット装置をスライドする場合は、スライド部分に手などをはさまないように特に注意してください。
- 切断用のナイフがありますので手を切らないように特に注意してください。
- 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

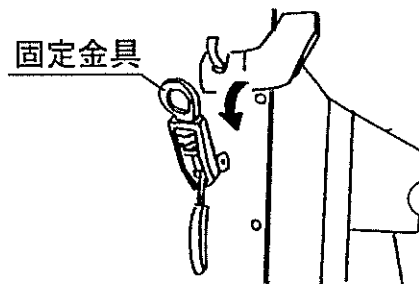
1. カバーを開きます。



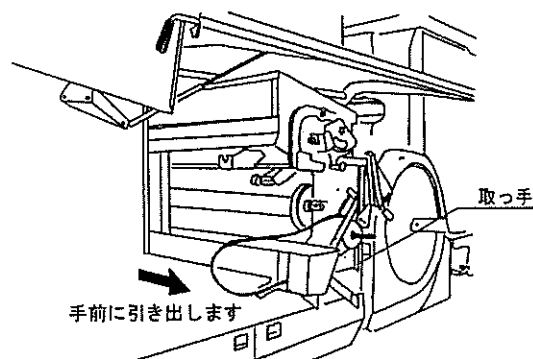
2. 駆動ベルトを外します。



3. 固定金具を外します。



4. 取手を握り、ネット装置を手前に引き出します。



ネット装置を戻す場合は、逆の手順で行ってください。

運転に必要な装置の取扱い

警告

ネット装置をスライドするときは必ず
ベールクラッチを切り、エンジンを停止
させてください。
これを怠ると重大な傷害事故を引き起
こす恐れがあります。

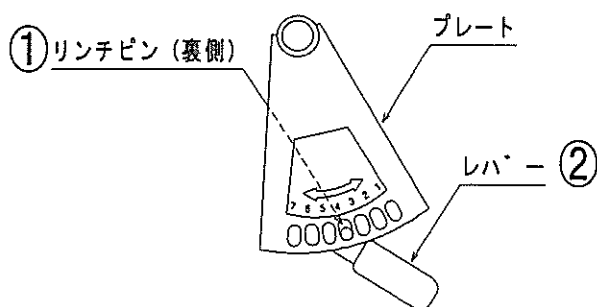
(3) ネットの取り付け方

注意

- ネットを通す場合は、切断用のナイフ
が繰出しローラーの後にありますので、
手を切らないよう特に注意してく
ださい。
- ネットの種類によりトラブルが出るこ
とがありますので必ずタカキタ指定の
ネットを使用してください。

使用できるネットは1.0 m又は1.2 m
幅ネットです。

1. 梱包圧調整部の①リンチピンを外し、
②レバーをプレートから外します。



2. フックを③方向に持ち上げ、アームを
④方向に引き出し、ドラムを⑤方向に
抜き出します。

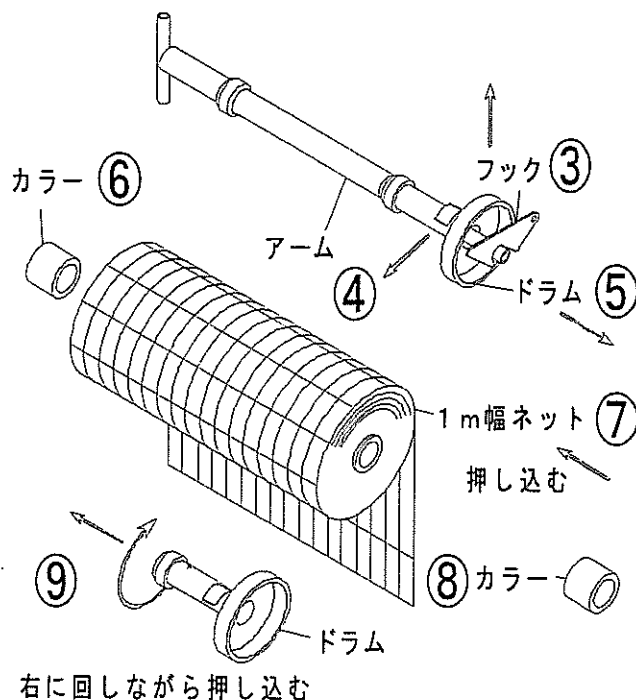


図 1 (1mネットセット図)

3. アームにカラー⑥を入れます。
(1. 2m幅ネット装着時は不要です。)
4. ネット⑦を図1の巻き方向で差し込み
ます。
5. アームにカラー⑧を入れます。
(1. 2m幅ネット装着時は不要です。)
6. アームにドラムを右に回しながら⑨
押し込みます。

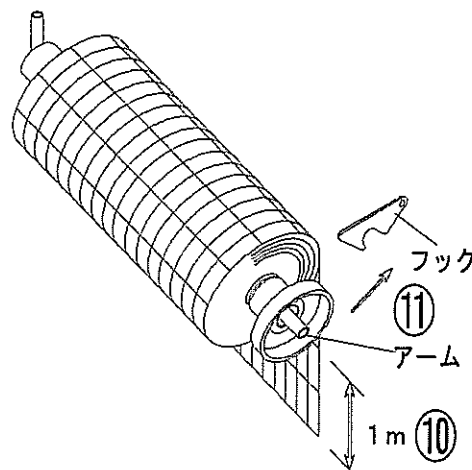


図 2 (1mネットセット図)

7. ネットを図2のように1m程度引き出
します⑩。
8. アームを戻し⑪、フックで固定します。

運転に必要な装置の取扱い

9. ネットを束にして図3のように通します。

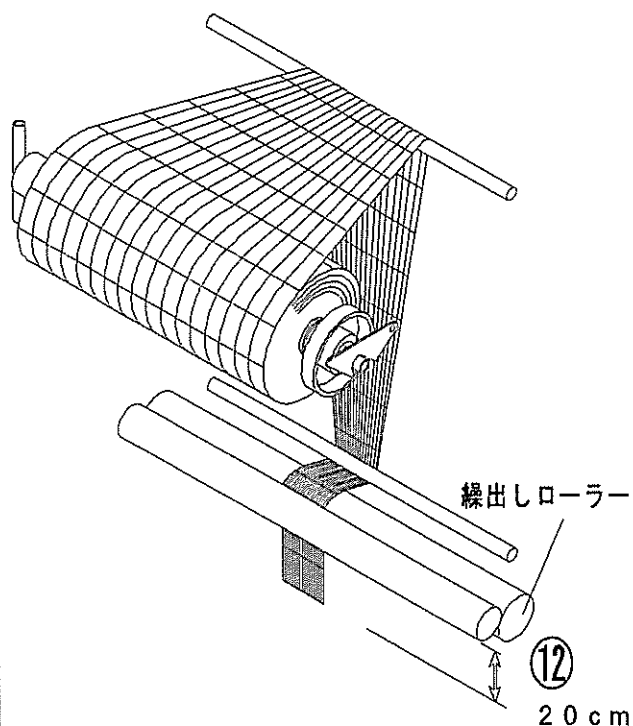
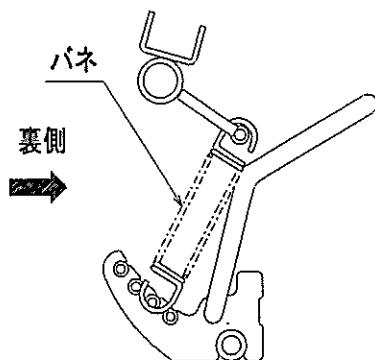


図3 (1mネットセット図)

10. 繰出ローラーを回してネットをきっちり張ると下より20cm程度ネットが出る状態⑫になります。



11. 梱包圧調整部のレバーをプレートの元の位置に戻してください。ブレーキ解除時、プレート裏側のバネが外れる場合がありますので、ブレーキ復帰時、必ずバネの確認をしてください。なお、外れた状態で使用すると、ネットブレーキがかかりません。

- (4) ネット切断ナイフについて

ネット切断ナイフに刃こぼれがある場合は、交換してください。

ネットは紙筒を使用している為、水濡れ厳禁です。また、屋外保管の場所は、ネットを取り外し屋内で保管してください。

- (5) 使用できるネットについて

- タカキタ指定のネットを使用してください。ネットの種類によりトラブルがでることがあります。

- ネットの幅寸法

ネットの幅寸法を確認してください。下記のネットが使用できます。

1. 0m幅ネット(タカキタ指定のみ)

(部品コード

33101-9912-002)

1. 2m幅ネット(タカキタ指定のみ)

(部品コード

33101-9911-002)

タカキタ指定ネットは、ネットの芯がネットブレーキ装置に適した硬い紙筒を使用しています。

運転・移動のしかた

(1) 新車時の扱い

新車時の上手な運転操作やメンテナンスは機体の寿命に影響を及ぼします。新車の機体は厳重な検査のもとに出荷されていますが機体の各部の部品は、ならし運転されていません。

ならし運転期間中は機体各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、過負荷となる刈取り作業は避けましょう。

機体の性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。

新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■初期50時間のならし運転

- 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- 寒い日や冬期、エンジンは十分暖機運転をしてください。
- エンジンは規定刈取り作業回転速度以上にセットしないでください。
- 高速での刈取り作業は避けてください。
- 整地されていない凹凸道路では適切な低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

■油脂・フィルタ類の交換とチェン・

ベルトの張り調整

- 新車時は機体の回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって、油脂・フィルタ類は初期50時間で交換してください。

- チェンやベルト類はならし運転中に初期伸びが発生します、初期20時間で張り調整をしてください。さらに、50時間で再調整してください。

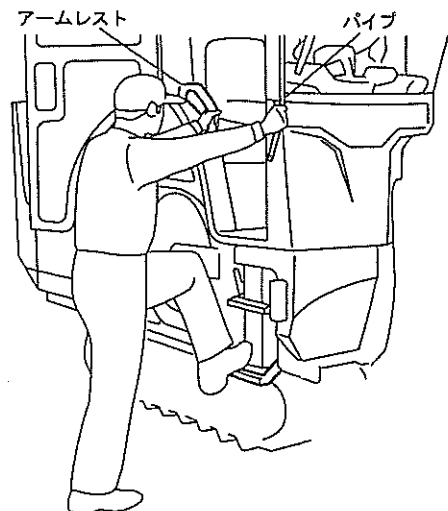
(2) 乗降のしかた

⚠ 注意

運転席への飛び乗り、飛び降りは、あぶないので行わないでください。

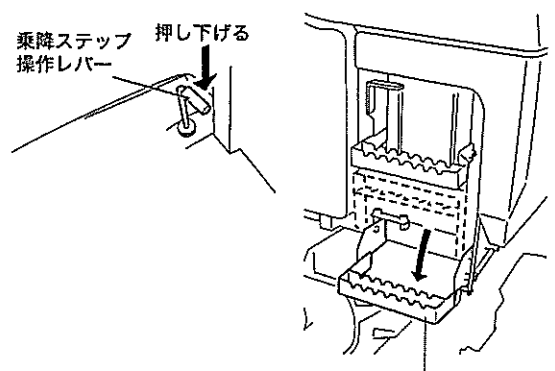
運転席右側より乗降してください。

運転席に乗降するときは、図のようにアームレストとパイプを持って行ってください。マルチハンドルを持って乗降しないでください。



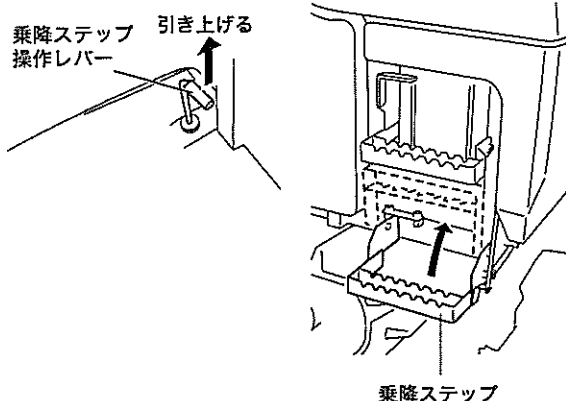
乗り降りのときには、必ず乗降ステップを下図のようにセットしてください。

〈乗降するとき〉



運転・移動のしかた

〈収納するとき〉



〔重要〕

移動走行するときやコンクリート畦畔などの横で作業するときは、ステップを収納してください。

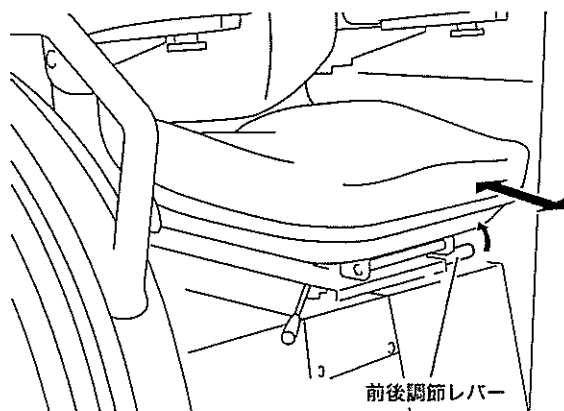
ステップの破損・変形を防ぐことができます。

（３）シート位置の調整のしかた

ドライバーシートの上・前後位置および前傾状態を、運転者の体格または作業状態に合わせて調節してください。

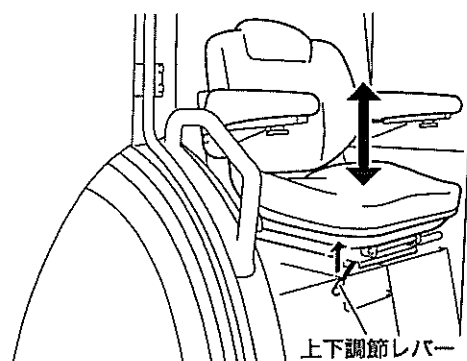
〈前後調節のしかた〉

1. 前後調節レバーを矢印方向に引き上げてください。
2. ドライバーシートを、作業しやすい位置に前後移動してください。
3. 前後調節レバーから手を離してください。ドライバーシートが固定されます。



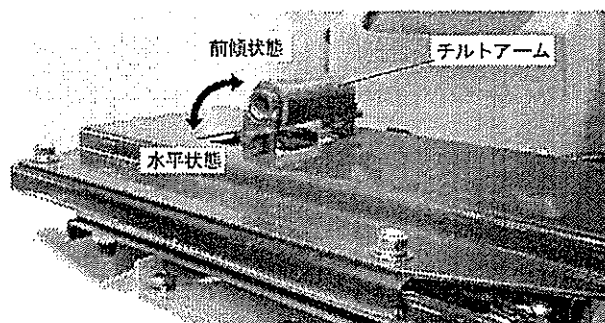
〈上下調整のしかた〉

1. 上下調整レバーを矢印方向に引き上げてください。体をシートから浮かすとシートが上昇します。
2. ドライバーシートを、作業しやすい位置に上下移動してください。
3. 上下調節レバーから手を離してください。ドライバーシートが固定されます。



〈チルト調節のしかた〉

1. ドライバーシートを前方に倒してください。
2. チルトアームを出し入れして、ドライバーシートを水平状態・前傾状態と、作業しやすい角度に調節してください。



！ 注意

前傾状態にするときは、チルトアームをいっぱいまで起こしてください。途中の位置でも止まりますが、シートが突然水平状態に戻り、ケガをするおそれがあります。

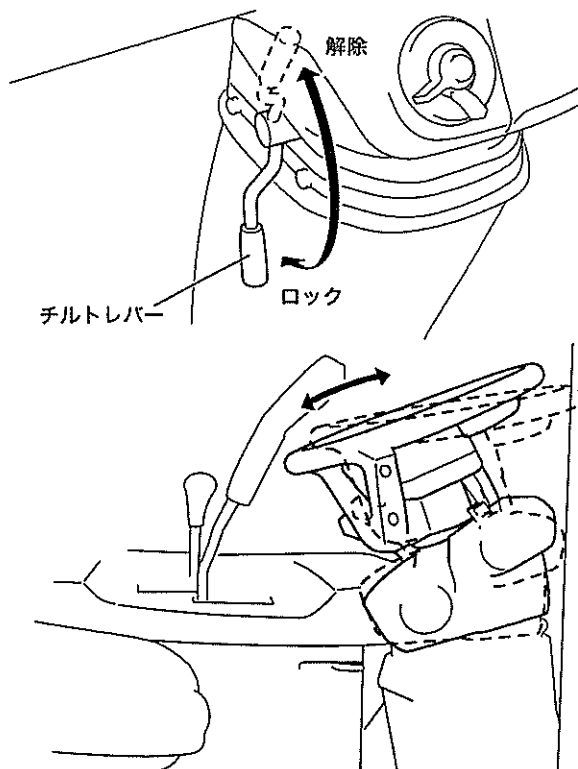
運転・移動のしかた

(4) マルチハンドルの前後調節のしかた

マルチハンドルの前後角度を、運転者の体格に合わせて調節してください。

〈調節のしかた〉

1. チルトレバーを「解除」位置にしてみてください。マルチハンドルの固定がゆるみます。
2. マルチハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節してください。
3. チルトレバーを「ロック」位置にしてみてください。マルチハンドルが固定されます。



[重要]

マルチハンドルを調節したときは、チルトレバーで確実にハンドルを固定してください。

(5) メンテナンスモードについて

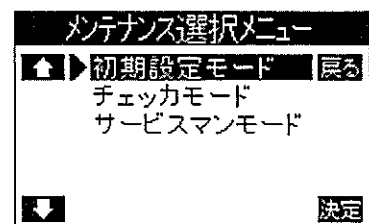
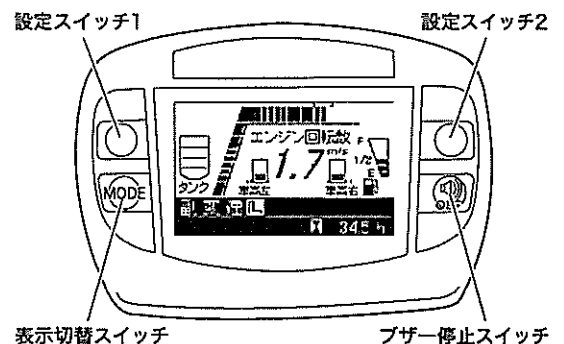
この汎用型飼料収穫機には、「メンテナンスモード」があります。

「メンテナンスモード」には、機能変更や微調整が行える「初期設定モード」、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁などのチェックが行える「チェッカモード」、およびサービスマンが機械の点検を行うための「サービスマンモード」があります。（「サービスマンモード」には、お客様が入ることはできません。）

① メンテナンスモードへの切り替えかた

表示切替スイッチとブザー停止スイッチを、一緒に5秒以上押し続けてください。

始めにブザーが断続で鳴ってから連続に変わり、「メンテナンス選択メニュー」の画面に切り替わります。



[参考]

メンテナンスモードには3種類のモードがあります。

運転・移動のしかた

〈初期設定モード〉

このモードは機能変更や、微調整が行えるモードです。

〈チェッカモード〉

このモードはスイッチ・センサ・モータ・電磁弁などのチェックが行えるモードです。「不調診断のしかた」(213ページ参照)のところで詳しく説明します。

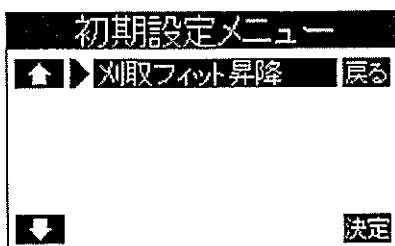
〈サービスマンモード〉

サービスマンが機械の点検を行うためのモードです。お客様がこのモードに入ることはできません。

②初期設定モードへの切り替えかた

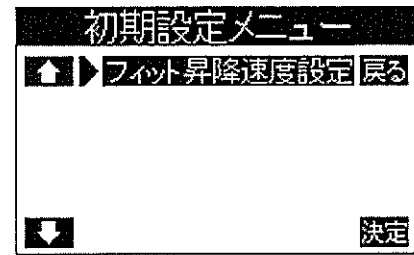
設定スイッチ1(↑)または表示切替スイッチ(↓)を押して、▶印を「初期設定モード」の項目に移動して、文字を反転させ、ブザー停止スイッチ(決定)を押します。

初期設定モードでは、「初期設定メニュー」の画面に表示された設定が行えます。

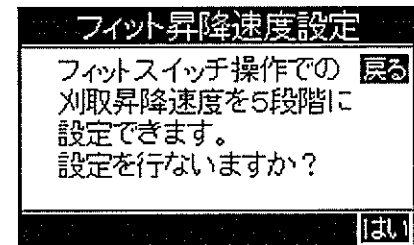


③フィット昇降速度設定

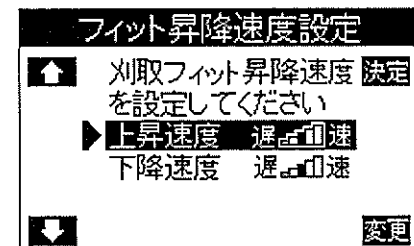
1. 設定スイッチ1(↑)または表示切替スイッチ(↓)を押して、▶印を「フィット昇降速度設定」の項目に移動し、文字を反転させ、ブザー停止スイッチ(決定)を押します。



2. 確認画面が表示されますので、ブザー停止スイッチ(はい)を押します。設定スイッチ2(戻る)を押すと、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。



3. 設定スイッチ1(↑)または表示切替スイッチ(↓)を押して、▶印を設定する項目に移動し、設定したい速度の項目の文字を反転させます。「上昇速度」と「下降速度」は別々に設定することができます。



4. ブザー停止スイッチ(変更)を押して、設定したいフィット昇降の速度を選択します。ブザー停止スイッチ(変更)を押すごとに、フィット昇降の速度が1段ずつ下図のように変わります。

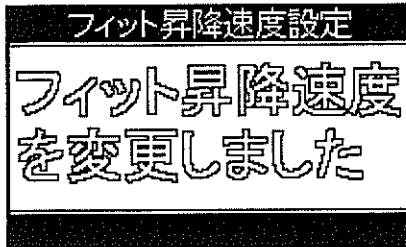


[参考]

出荷時は、中央値「遅速速」に設定されています。

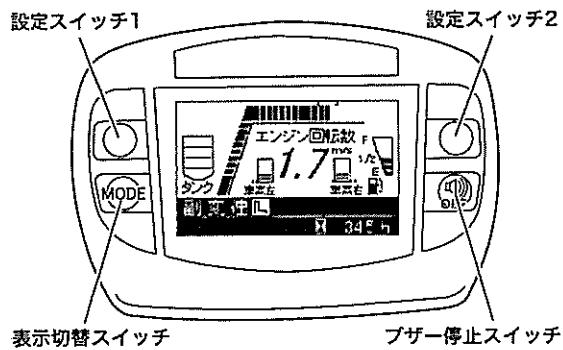
運転・移動のしかた

5. 設定スイッチ2 (決定)を押して、フィット昇降の速度を確定します。確定後、確認画面が2秒間表示され、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。



(6) 操作機能の変更のしかた

センターディスプレイで操作機能の一部を変更することができます。以下に変更できる機能と、設定方法について説明します。

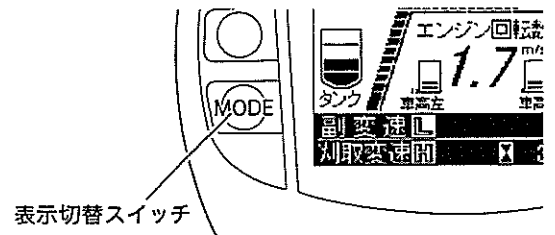


変更項目一覧

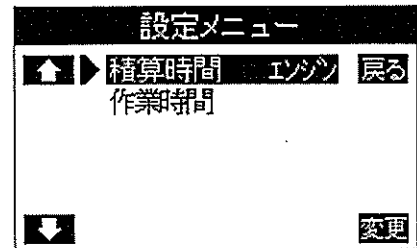
番号	項目	内容
1	積算時間	センターディスプレイに表示させる積算時間を、「エンジン」または「作業時間」に設定できます。 (72ページ参照) エンジン…エンジンが回転している時間を積算する 作業時間…ペールクラッチレバーが「入」状態になっている時間を積算する
2	作業時間	上記の「作業時間」の積算を「0」に戻すことができます。(73ページ参照)「エンジン」の積算時間を、0にすることはできません。

〈アワメータの表示を変更するには〉

1. 表示切替スイッチを長押ししてください。



2. 設定メニュー」の画面が表示されます。



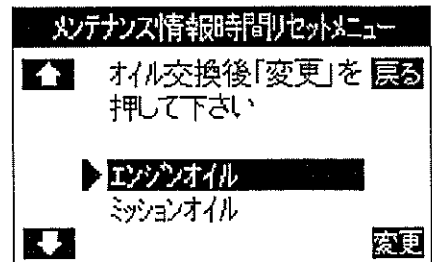
【参考】

工場出荷時は、「エンジン」に設定されています。

3. 設定スイッチ1 (↑) または表示切替スイッチ (↓) を押して、「積算時間」の行が反転文字になるように▶印を移動してください。

【参考】

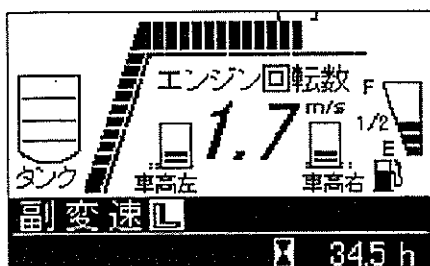
設定スイッチ1 (↑) または表示切替スイッチ (↓) を押しているとき、メンテナンス情報時間リセットメニューが表示されますが、操作機能の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、164ページを参照してください。



運転・移動のしかた

4. ブザー停止スイッチ（変更）を押すごとに、「エンジン」「作業」を選択できます。
5. 「エンジン」を選択すると、通常の画面でアワメータが「砂時計マーク」を表示し、エンジンの使用時間を表示します。
6. 設定スイッチ2（戻る）を押して、積算時間の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

通常の画面

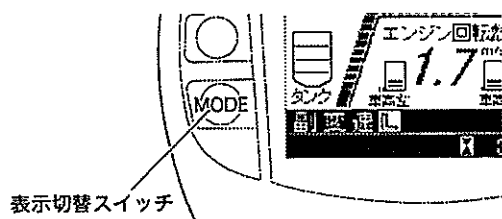


【参考】

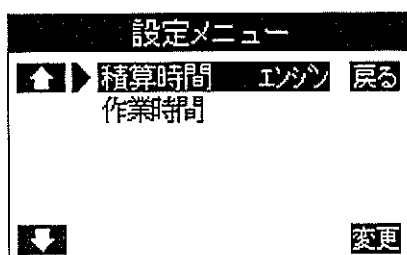
積算時間を「作業時間」に変更した場合は、キースイッチをいったん「切」位置にすると、設定内容が記憶されず、再度キースイッチを「入」位置にしたときには、工場出荷時の「エンジン」設定に戻ります。

〈作業時間をリセットするには〉

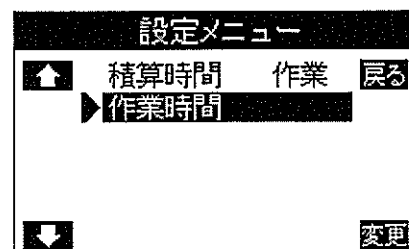
1. 表示切替スイッチを長押ししてください。



2. 「設定メニュー」の画面が表示されます。

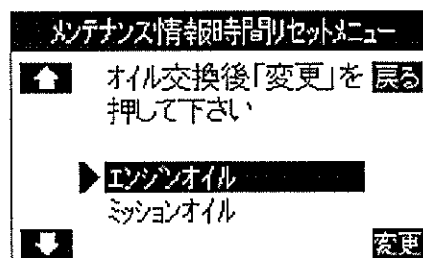


3. 設定スイッチ1（↑）または表示切替スイッチ（↓）を押して、「作業時間」の行が反転文字になるように▶印を移動してください。

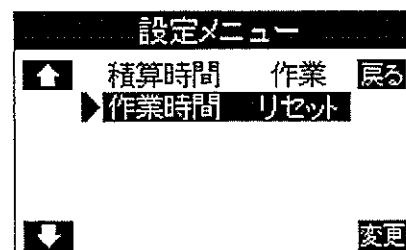


【参考】

設定スイッチ1（↑）または表示切替スイッチ（↓）を押しているとき、メンテナンス情報時間リセットメニューが表示されますが、操作機能の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、164ページを参照してください。



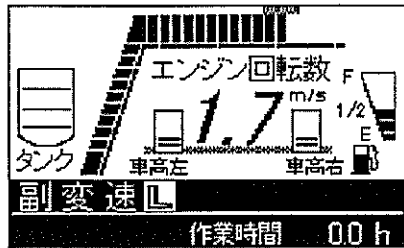
4. ブザー停止スイッチ（変更）を押すと、「リセット」と表示され、作業時間の積算時間のリセットが確定されます。「リセット」の文字は数秒すると消えます。



運転・移動のしかた

5. 設定スイッチ2 (戻る) を押すと、通常の画面に戻ります。

通常の画面



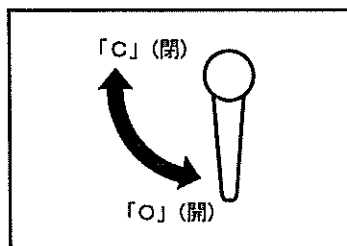
(7) エンジンの始動のしかた

警告

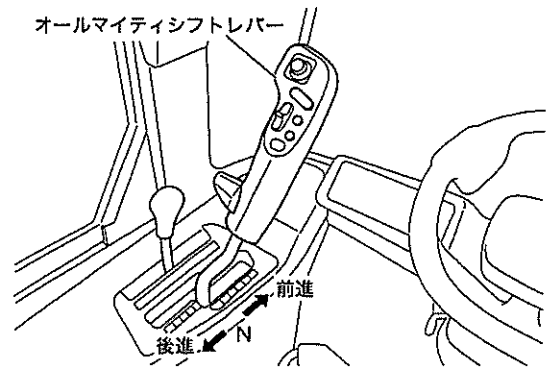
- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。排気ガスによる中毒で、死亡事故につながるおそれがあります。
- エンジン始動時は、必ず運転座席に座って、スイッチとレバーの位置、および周囲の安全を確認してください。急に機械が動き出して、傷害事件を起こすおそれがあります。

① エンジン始動前の確認・準備

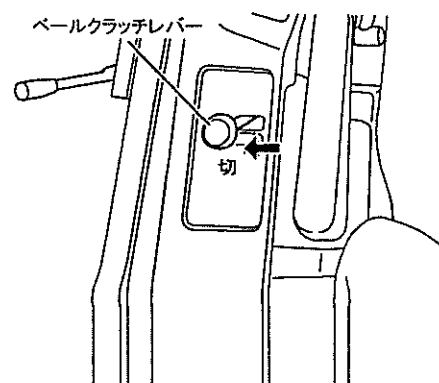
1. ステップ下のウォータセパレータのコックを「開」位置にしてください。



2. ドライバーシートに座ってください。
3. オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にしてください。



4. ベールクラッチレバーを「切」位置にしてください。



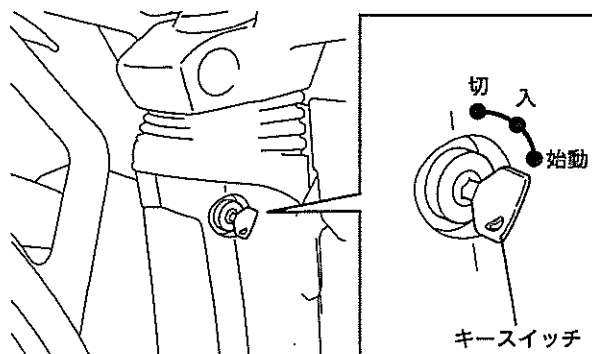
[参考]

エコモード切替スイッチが「入」(エコランプ点灯・アクセルランプ消灯)でもエンジンの始動はできますが、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができなくなりますので、エコモード切替スイッチは「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にしておいてください。

運転・移動のしかた

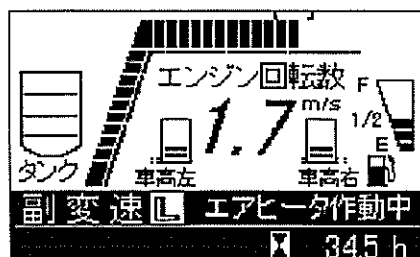
②エンジン始動操作のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。(80ページ参照)
2. キースイッチにキーを差し込んで、「入」位置にしてください。



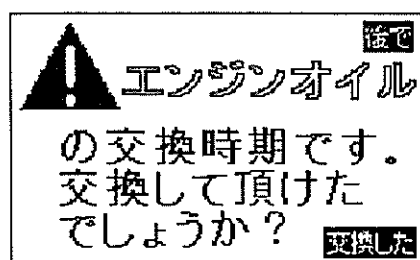
[重要]

キースイッチを「入」位置にすると、センターディスプレイに「エアヒータ作動中」の文字が表示されます。エンジンが冷えているときは、「エアヒータ作動中」の文字が消えたことを確認してから、次の操作を行ってください。



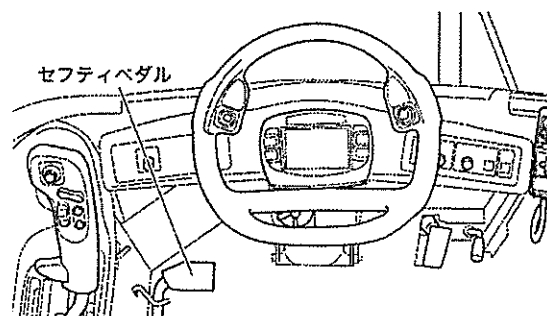
[参考]

メンテナンスが必要な時期になったときは、メンテナンス情報が文字で表示されます。(164ページ参照)



このとき、バックモニターに機体後方または、機体左側面の映像が映し出されます。

3. エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にしてください。
4. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。



[重要]

- ベールクラッチレバーを「切」位置にして、セフティペダルをいっぱいまで踏み込まないと、セルモータが回りません。
- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「切」位置にして、1分以上経ってから、再び始動してください。

5. エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離してください。キースイッチは、自動的に「入」位置に戻ります。

[重要]

エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。

運転・移動のしかた

(8) 暖機運転のしかた

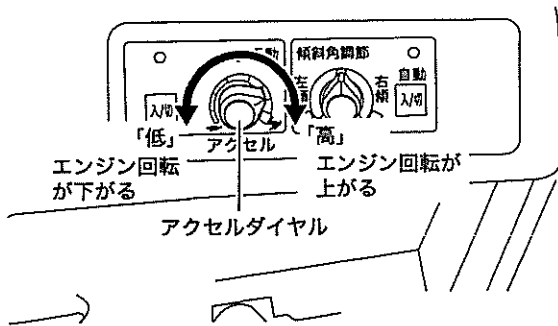
警告

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。

エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。

守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

1. エンジン始動後、駐車ブレーキをかけてください。(50ページ参照)
2. エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にして、アクセルダイヤルを「低」位置にしてください。エンジン回転が下がります。



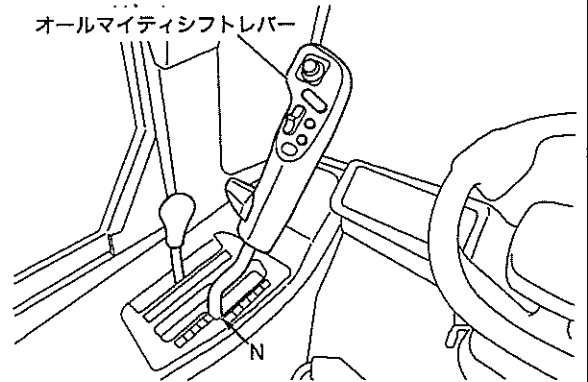
3. 約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにしておいてください。

[参考]

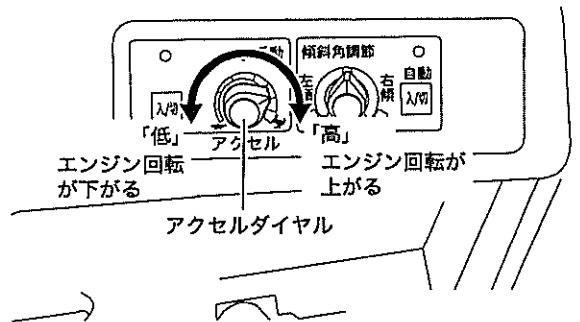
- 寒冷時は、暖機運転を15分以上行ってください。
- 寒冷時には、エンジンアイドリング回転数が少し上がります。

(9) エンジンの停止のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にしてください。



2. エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にして、アクセルダイヤルを「低」位置にしてください。エンジン回転が下がります。



3. キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。
4. キーを抜いてください。

[重要]

- オールマイティシフトレバーが「N」(中立)位置でないときは、キースイッチを「切」位置にしないでください。エンジンの再始動が行いにくくなる場合があります。

運転・移動のしかた

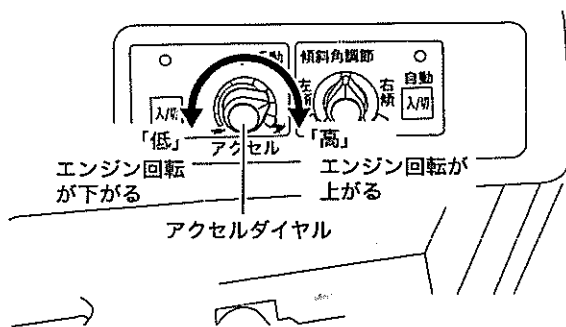
(10) 発進のしかた

警告

- できるだけ低速で走行し、急発進・急旋回・急停止はさけてください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い道路では、高速運転しないでください。

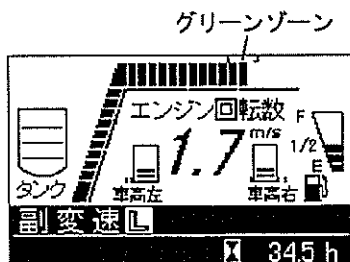
①発進前の準備

1. セフティペダルをいっぱいまで踏み込んでください。駐車ブレーキが解除されます。(48ページ参照)
2. エンジンを始動してください。
3. エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にして、アクセルダイヤルを「高」位置にしてください。
エンジン回転が上がります。

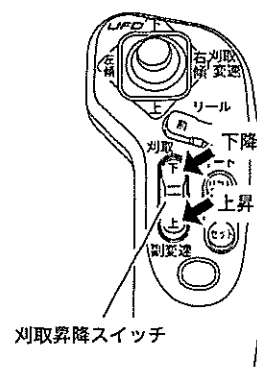


[参考]

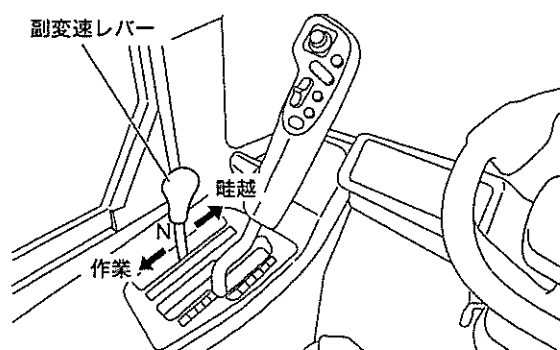
エンジン回転数は、必ずセンターディスプレイの回転計の示す「グリーンゾーン」の回転数にしてください。



4. 刈取昇降スイッチを「上」側にしてください。刈取部が上昇します。



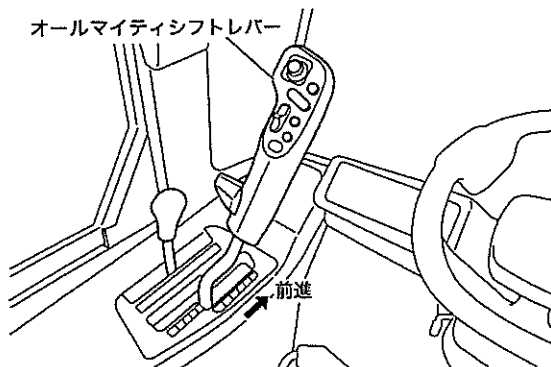
5. 副変速レバーを希望の位置にしてください。



運転・移動のしかた

②発進操作のしかた

1. 駐車ブレーキを解除してください。
(48ページ参照)
2. マルチハンドルを右手でもってください。
3. 左手でオールマイティシフトレバーをゆっくり前方へ倒してください。機体が発進します。
 - 1) 周囲の安全を十分に確認する。
 - 2) オールマイティシフトレバーをゆっくり前方に倒して発進する。
 - 3) 発進後、必要に応じてオールマイティシフトレバーをさらに前方へ倒してスピードを上げる。

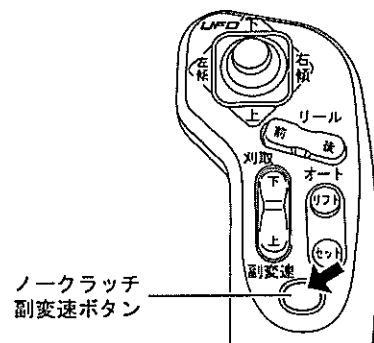
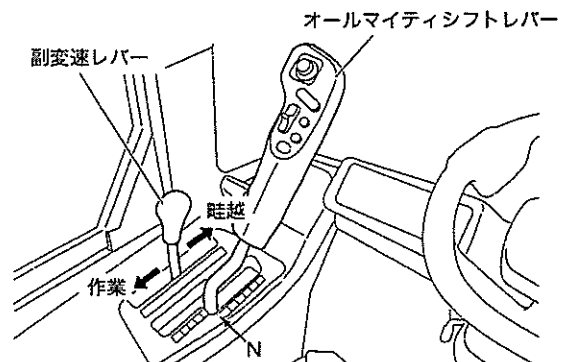


[重要]

- 本機はHSTミッションのため、走行時はエンジン回転数を、センターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」にしてください。
- オールマイティシフトレバーは、セフティペダルを踏まずに操作してください。セフティペダルを踏むと、オールマイティシフトレバーが「N」(中立)位置で固定されます。
- オールマイティシフトレバーを「前進」から「後進」、または「後進」から「前進」に操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。機械が破損することがあります。

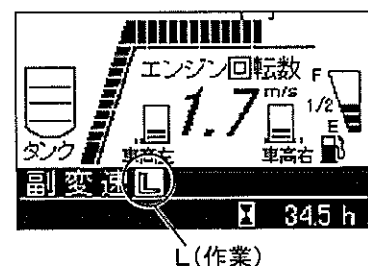
(11) 変速のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にしてください。機体が停止したことを確認してください。
2. 副変速レバーを希望の位置にしてください。また、必要に応じてノークラッチ副変速ボタンで「L(作業)」 「H(走行)」を切り替えてください。



[参考]

ノークラッチ副変速ボタンの状態は、センターディスプレイに「L(作業)」または「H(走行)」が表示されます。



[重要]

- 副変速レバーを操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機

運転・移動のしかた

械が破損することがあります。

- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 坂道では変速しないでください。

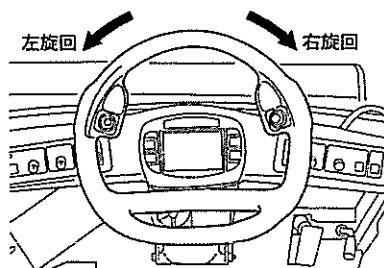
(12) 旋回のしかた



警告

副変速レバーを「作業」位置での高速移動時は、急旋回しないでください。必ず速度を落として行ってください。守らないと、接触・転倒事故のおそれがあります。

1. オールマイティシフトレバーで走行スピードを下げてください。
2. 旋回したい方向へマルチハンドルを回すと、その方向へ機体が旋回します。



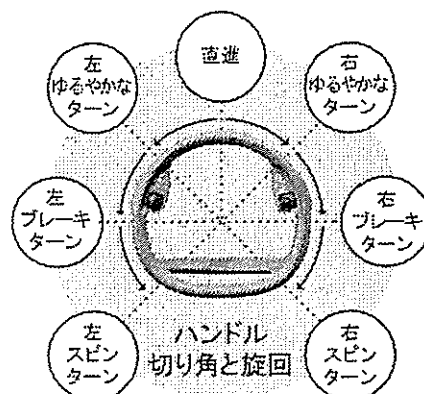
マルチハンドルの操作量と

旋回角度について

ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速され、約1/4回転で、クローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。

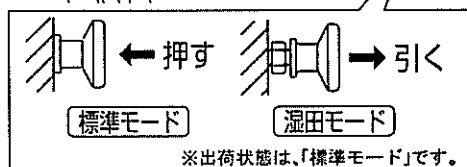
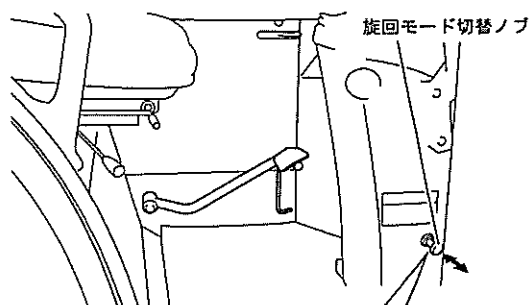
さらにハンドルを回すと、徐々にクローラが逆転し始め、約135°でスピニングの状態になります。

〈ハンドル切角と旋回状態〉



〈旋回モードの切り替えについて〉

旋回モード切替ノブで、旋回モードを切り替えることができます。



※出荷状態は、「標準モード」です。

- 「標準モード」位置…乾田作業・移動走行時
- 「湿田モード」位置…湿田作業時

【参考】

- 「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

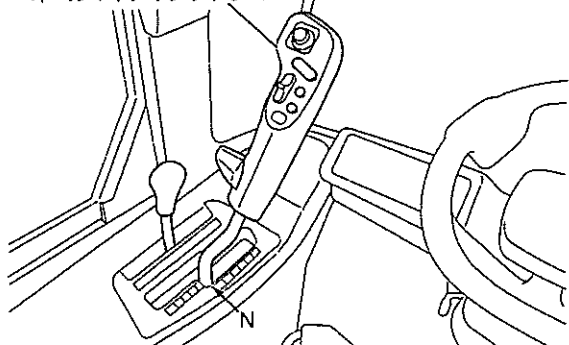
	標準モード	湿田モード
旋回時の车速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピニングする(小回り)	スピニングしない(大回り)
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ ※ハンドルを切りすぎない	◎ (旋回力大)
移動走行性能	◎	×(使用不可)
車庫入れ性能	◎	×(使用不可)

運転・移動のしかた

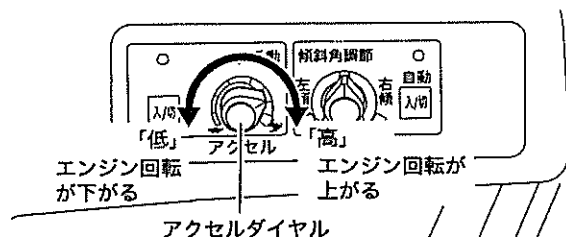
(13) 停車のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にしてください。機体が停止したことを確認してください。

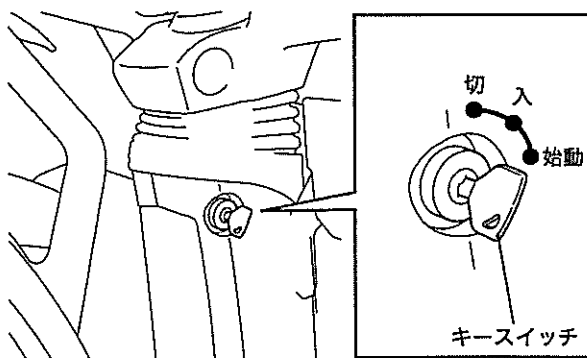
オールマイティシフトレバー



2. 駐車ブレーキをかけてください。
3. アクセルダイヤルを「低」位置にしてください。
エンジン回転が下がります。



4. キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。

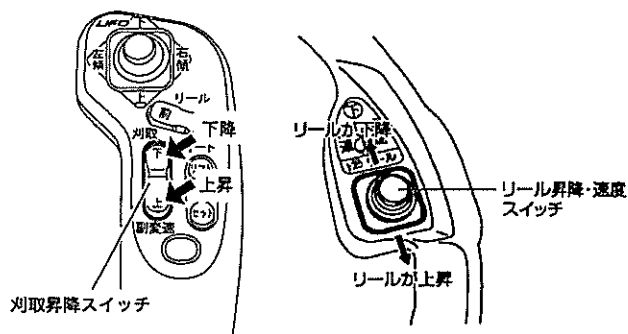


(14) 駐車のしかた

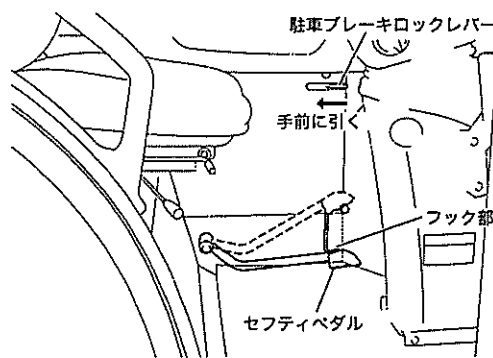
警告

坂道の途中では駐車しないでください。

1. 平坦で安全な場所に機体を移動してください。
2. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチを「下」側にしてください。
刈取部を地面に接地させます。



3. エンジンを停止してください。
(76 ページ参照)
4. セフティペダルをいっぱい踏み込んでください。
5. 駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。



6. 運転席から離れる場合は、安全のためにキーを抜いておいてください。

[参考]

駐車ブレーキをかけると、オールマイティシフトレバーは「N」(中立)位置に戻ります。

運転・移動のしかた

(15) 移動走行のしかた

本機は路上（公道）を走行できません。

警告

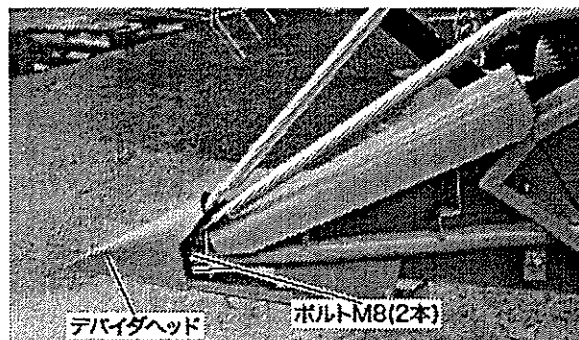
- ホッパーおよびベアラ内に作物が入っていると、本機の重心が高くなり、転倒のおそれがあり大変危険です。必ずホッパーおよびベアラ内は空にしてください。
- 発進するときは、周囲の安全を確認めて発進してください。
- 機体が前後・左右とも10度を越える傾斜地は走行しないでください。転倒し、ケガをするおそれがあります。

[重要]

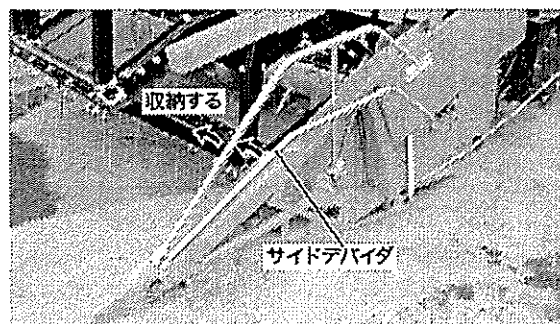
移動走行するときは、乗降ステップおよびステップ（燃料タンクベース）を収納してください。乗降ステップの破損・変形を防ぐことができます。

①本機の走行姿勢について

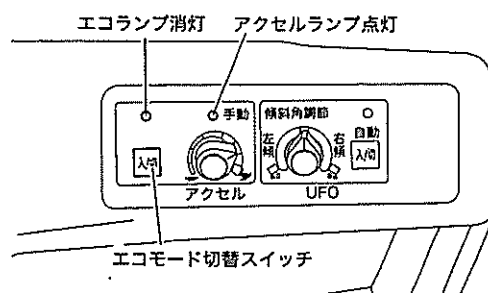
1. デバイダヘッドを、ボルトM8（2本）を外して取り外してください。



2. サイドデバイダを収納してください。



3. エコモード切替スイッチを「切」（エコランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてください。

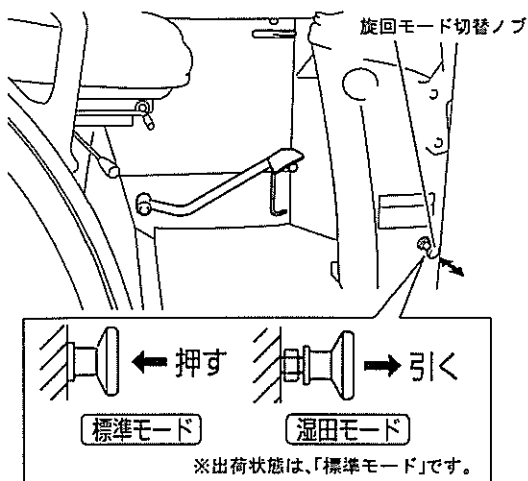


[参考]

エコモード切替スイッチが「入」（エコランプ点灯・アクセルランプ消灯）のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、エコモードが働き、瞬時にエンジン回転が定格回転（グリーンゾーン）になります。そのとき、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調節はできなくなります。

運転・移動のしかた

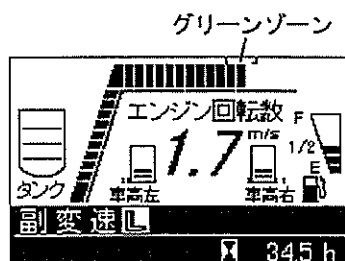
4. 旋回モード切替ノブを「標準モード」にしてください。



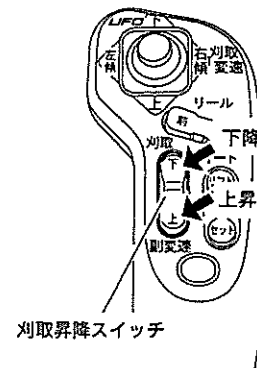
②移動走行操作のしかた

1. 乗降ステップを収納してください。
(51 ページ参照)
2. エンジンを始動してください。
(75 ページ参照)
3. 駐車ブレーキを解除してください。
(48 ページ参照)
4. アクセルダイヤルを「高」位置にしてください。エンジン回転が上がります。
(エンジン回転は、センターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置に調節してください。)

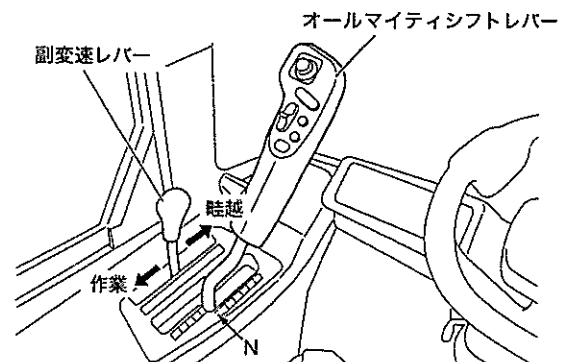
センターディスプレイ



5. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチを「上」側にして、刈取部を地面から20 cm程度上げてください。



6. オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にして、副変速レバーを希望の位置にしてください。



[参考]

- 副変速レバーを操作するときは、セフティペダルを踏み込まないほうが、スムーズに操作できます。
- 高速で移動するときは、ノークラッチ副変速ボタンを押して、「H(走行)」にしてください。

7. オールマイティシフトレバーを少しずつ前進方向に倒して、ゆっくりと発進し、徐々にスピードを上げてください。

運転・移動のしかた

[重要]

- 走行スピードは、オールマイティシフトレバーで調節してください。
- エコモードを切って走行する場合は、エンジン回転をセンターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置を保ってください。
- 進路変更するときは、ウインカスイッチで方向指示器を点滅させ、旋回方向を周囲に知らせてください。

(16)トラックでの運搬のしかた

警告

- 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定下、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 積み込むトラックは、歯止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- 積み・降ろしの機体方向は、94ページの表に従って行ってください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- 本機の直前・直後には機械が不意に動いたときにあぶないので、絶対に立たないでください。
- 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特にスピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積み込んだ機体は、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。機体は丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

運転・移動のしかた

⚠ 注意

移動走行時およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ずベールクラッチレバーを「切」位置にし、エコモード切替スイッチを「切」（エコランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてください。車速が勝手に変化することがあり危険です。

①アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

- 長さ…トラックの荷台高さの4倍以上。
- 幅……60cm以上。
- 強度…1枚が機械の重量に十分耐えられるもの。
(本機質量約5,190kg(リールヘッダ仕様の場合))
- 表面…すべらないよう処理してあるもの。
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの。

②トラックの準備

1. トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
2. トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。
3. タイヤに歯止めをしてください。
4. トラックの荷台にアユミ板のフックを段差ができないように、確実に掛けてください。

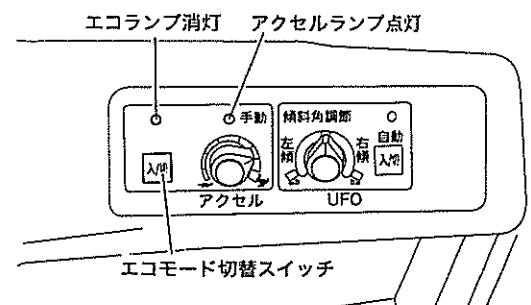
③本機の積み込みかた

1. 本機は、走行姿勢と同じ状態にしてください。(81ページ参照)

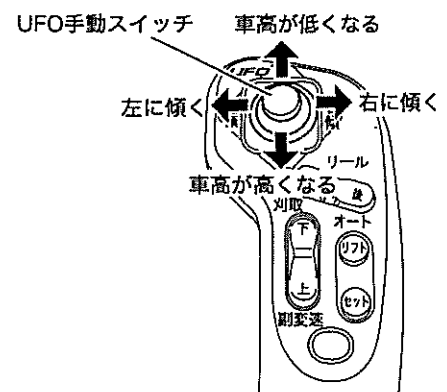
【重要】

●乗降ステップは、必ず収納してください。セットしたまま行くと、ステップの破損・変形の原因になります。

2. エコモード切替スイッチを「切」（エコランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてください。



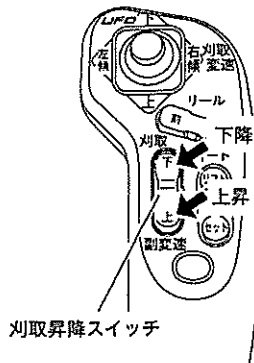
3. UFO手動スイッチを後方に倒して、車高を最高位置にしてください。



4. 本機は、アユミ板の上で進路変更をしないように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。

運転・移動のしかた

5. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチを「上」側にして、刈取部がアユミ板に接触しないようにできるだけ上げてください。

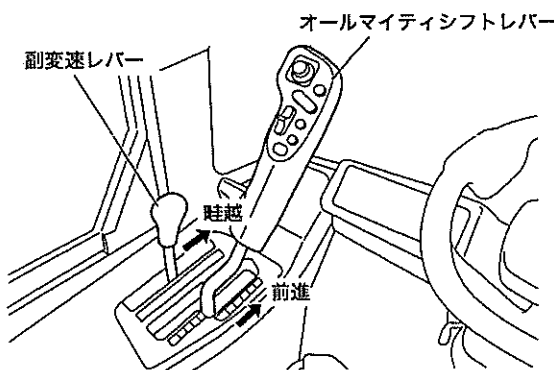


刈取昇降スイッチ

6. 本機の積み込み方向は、下記の表を参照してください。

作業	進行方向
積み込み	前進
降ろし	後進

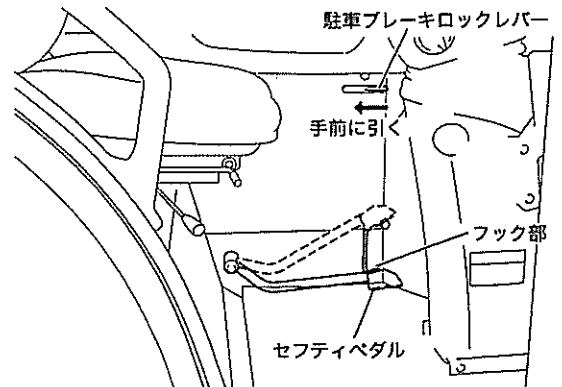
7. 副変速レバーを「畦越」位置、オールマイティシフトレバーをゆっくり「前進」側に倒してください。機体はゆっくり動き始めます。



警告

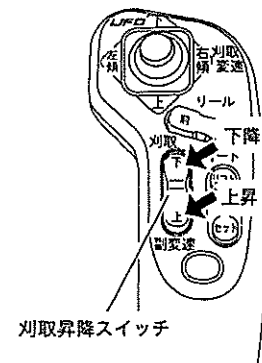
アユミ板の上では、ハンドルを持たずに、アームレストを持ってください。ハンドルを持っていると、機体の重心が変わったときに思わずハンドルを切ってしまい、思わぬ方向に旋回するおそれがあります。

8. 本機をトラックに積み込んだら、オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にして、機体を停止します。
9. UFO手動スイッチを前方に倒して、車高を最下位置にしてください。
10. セフティペダルをいっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけ、駐車ブレーキをかけます。



④トラックに積み込んだら

1. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチを「下」側にしてください。刈取部をトラックの荷台に接地させます。

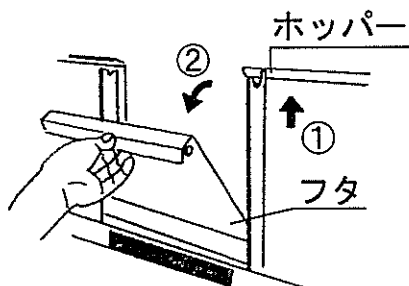


刈取昇降スイッチ

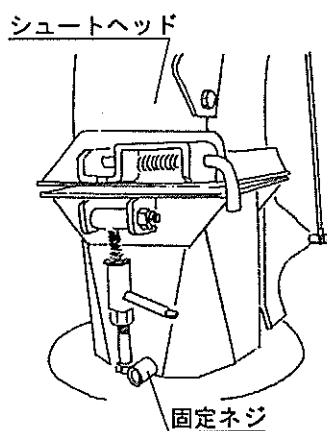
2. エンジンを停止してください。
(76ページ参照)
3. 以下の要領で、ホッパーの前フタを開け、シュートを折りたたんで固定してください。

運転・移動のしかた

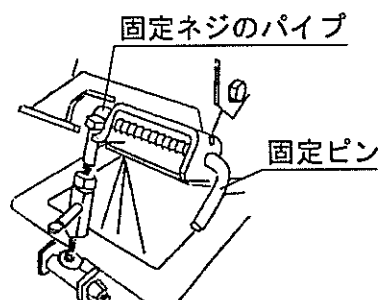
- ①フタを上げます。
- ②手前に引いてフタを倒します。



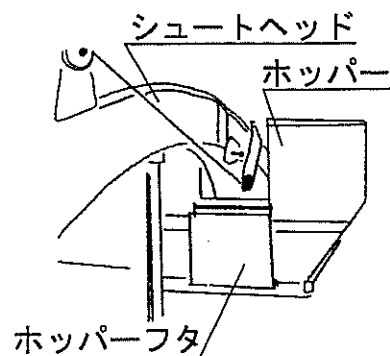
- ③シュートヘッドの固定ネジをはずし、シートヘッドを倒します。(シュート固定ネジは緩めすぎると外れますので、緩めすぎないように注意してください。)



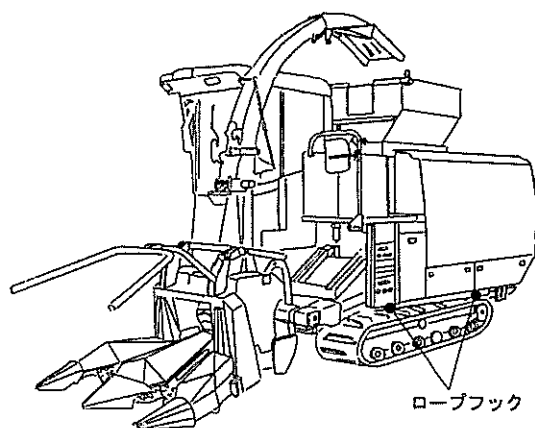
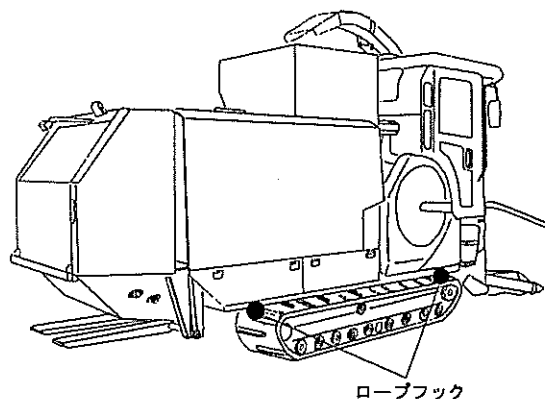
- ④固定ネジのパイプ部に、固定ピンを挿入し、確実に固定してください。



(収納後の図)



4. 機体左右のロープフック(4か所)に、十分強度のあるロープをかけて、機体を確実に固定してください。



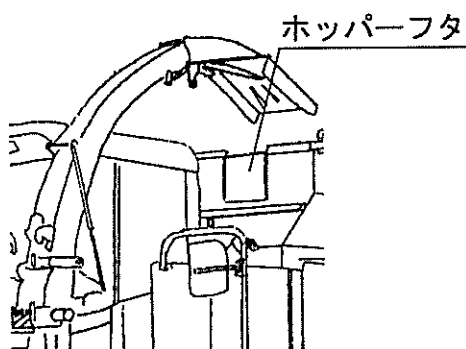
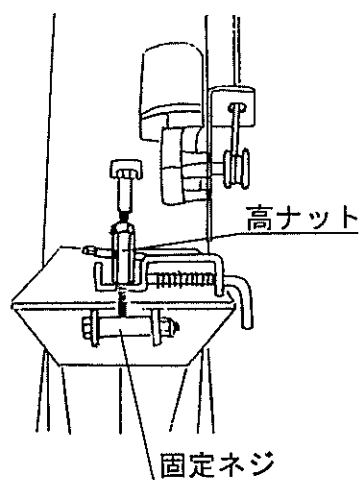
[重要]

- ロープフック以外には、ロープを掛けないでください。破損するおそれがあります。
- ロープを強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。

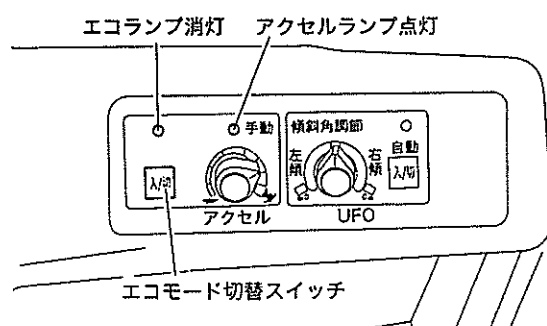
運転・移動のしかた

⑤本機の降ろしかた

1. 機体を固定しているロープを外してください。
2. シュートヘッドを固定ネジ・高ナットで固定し、ホッパー前のフタを閉めてください。



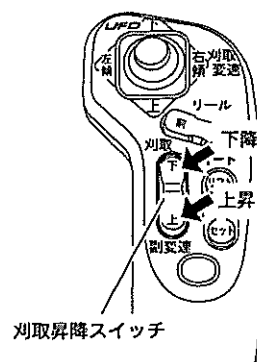
3. エンジンを始動してください。
(75ページ参照)
4. エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にしてください。



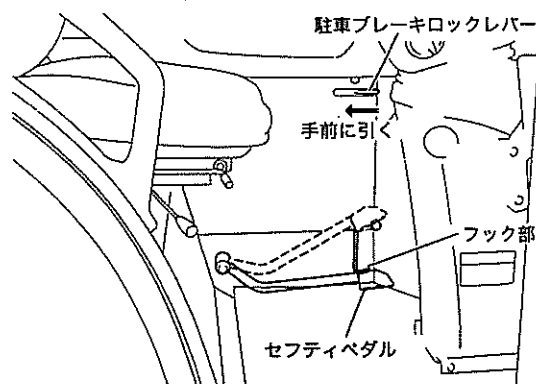
【参考】

エコモード切替スイッチが「入」(エコランプ点灯・アクセルランプ消灯)のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、エコモードが働き、瞬時にエンジン回転が定格回転(グリーンゾーン)になります。そのとき、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調節はできなくなります。

5. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチを「上」側にしてください。刈取部が上昇します。



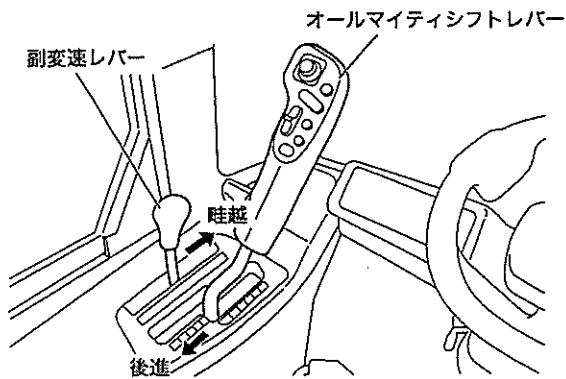
6. セフティペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを解除してください。



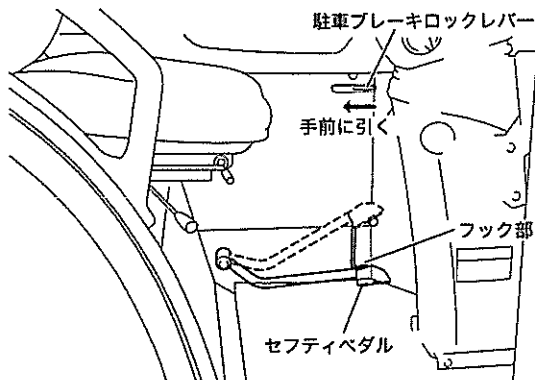
7. UFO手動スイッチを後方に倒して、車高を最高位置にしてください。
8. 本機はアユミ板の上で進路変更をしないように、アユミ板に対してまっすぐな方向を定めてください。

運転・移動のしかた

9. 副変速レバーを「畦越」位置にして、オールマイティシフトレバーをゆっくり「後進」側に倒してください。機体がゆっくりと動き始めます。



10. 機体を完全にトラックから降ろせたら、UFO手動スイッチを前方に倒して、車高を最下位置にしてください。オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にして、機体を停止し、駐車ブレーキをかけてください。

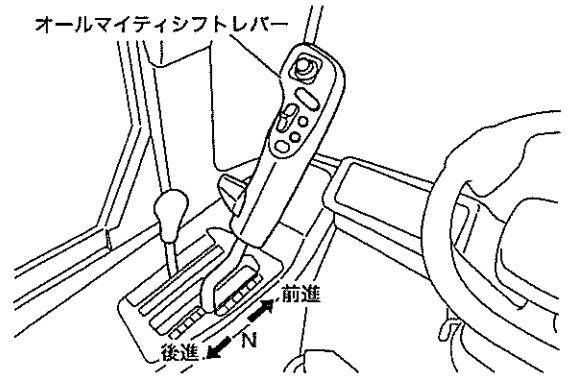


11. エンジンを停止してください。
(76ページ参照)

⑥積み・降ろし中の機体の

停止・発進のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にして、機体を停止します。
2. 再度動かすときは、オールマイティシフトレバーを操作して、機体をゆっくりと動かしてください。



収穫作業前の準備のしかた

作物の状態やほ場の広さなどの条件により、刈取方法が異なります。作業に入る前に作物の状態やほ場の広さを確認して、能率よく作業を行ってください。

(1) 切断長の調整

切断長の調整はスプロケットを交換して行います。(59ページ参照)

スプロケット歯数	理論切断長
12T	11mm
15T	15mm
19T	19mm
30T	29mm

工場出荷時には、12T(切断長11mm)のスプロケットが付いています。

[注意]

刈取る作物の状態により、実際の切断長は、理論切断長より約1.5倍長くなります。

(2) フィードロールのバネ調整

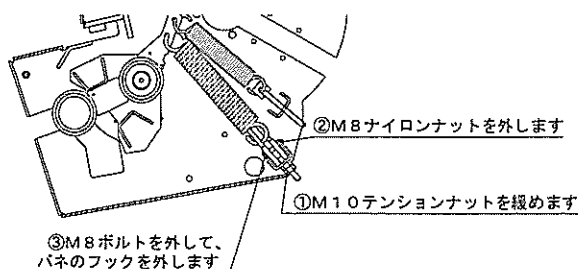
コーンの収穫時に、フィードロールで作物かはじかれる・コーンのこぼれが多いときは、フィードロール下のテンションのM10ナットを緩め、バネフックのM8ボルトを抜き、バネが効かない状態にしてください。

外したM8ボルト、ナット、テンションのM10ナットは再度取付けて、なくさないようにしてください。

[注意]

リールヘッダ・ピックアップ作業時には左右各2本のバネが効いているようにしてください。

バネ力が弱い状態で使用するとハーベスタ部での詰りの原因になります。

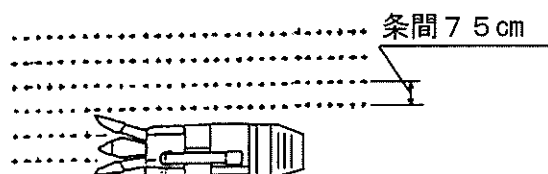


(3) 作物の条件について

〈ロークロップ〉

①刈取りできる作物の条件について

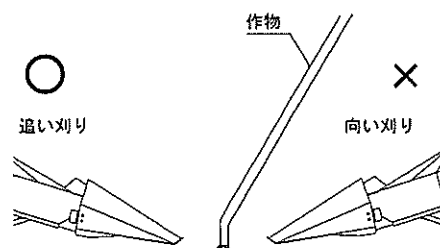
倒伏していない長大作物(コーン、ソルゴー等)で、適応条間は75cmです。



②倒伏した作物の刈取り

完全倒伏したコーンの刈取はできません。

やむを得ず、倒伏したコーンを刈取場合は必ず追い刈りでこなしてください。



[注意]

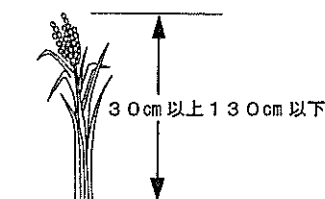
向い刈りをするると、作物を刈取刃で刈る前に、ギャザリングチェーンで作物をつかんでしまい、根ごと作物を引き抜いてしまい、本機の破損の原因となります。

〈リールヘッダ〉

①刈取りできる作物の条件について

リールヘッダの刈取りに適する長さは、30cm以上130cm以下です。

130cm以上の作物を刈取の場合はリールのオーガへの巻きつき等が発生し易くなり、作業速度を遅くする、刈取り条数を少なくする必要があります。

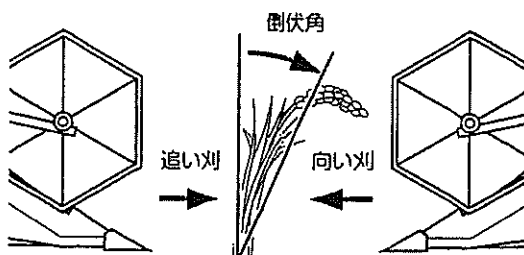


収穫作業前の準備のしかた

②刈取り方向

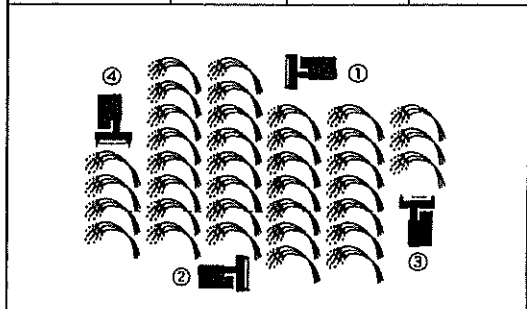
作物の倒伏状態によっては、刈取り方向が限定されます。

- 向い刈り……倒伏角70度まで
- 追い刈り……倒伏角85度まで



(副変速「低速」)

倒れぐあい	完全倒伏の場合	中倒伏の場合	やや倒伏の場合
刈る方向は			
①追い刈り	△	○	◎
②向い刈り	×	△	○
③左倒伏刈り	△	△	○
④右倒伏刈り	×	△	○



◎…刈取り○K

○…注意しながら刈取る

△…注意しながらゆっくりと

×…刈取困難

※速度の選定は、作物の状態によって決めてください。

〈ピックアップ〉

収穫できる作物の条件について

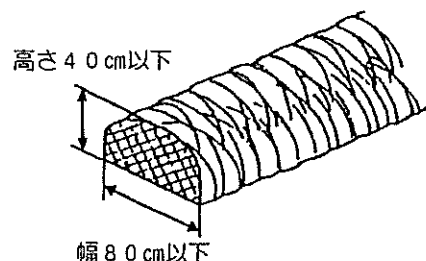
予乾牧草は含水率に大きく左右されます。含水率が60%以上は草詰まり等で作業できません。

作業可能なウインドローは以下に示す条件で、できるだけ均一ウインドローを作成してください

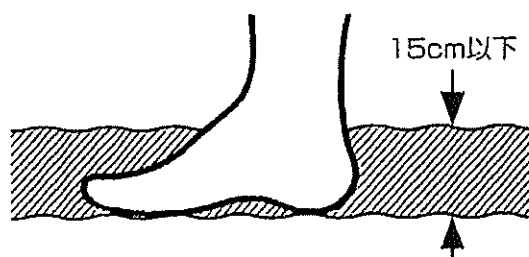
○集草列量…5kg/m²

○集草列…幅 80cm

×高さ 40cm以内



(4) 収穫作業のできるほ場の条件について
足の沈み(15cm)までのぬかるみであれば作業できますが、1度通ったクローラ跡は、できるだけ通らないようにしてください。



(5) ほ場の条件と収穫方法について

⚠ 危険

収穫作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触事故などで大変危険です。

⚠ 警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてから点検してください。
- わらくず等を取り除く場合や、作物が詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係

収穫作業前の準備のしかた

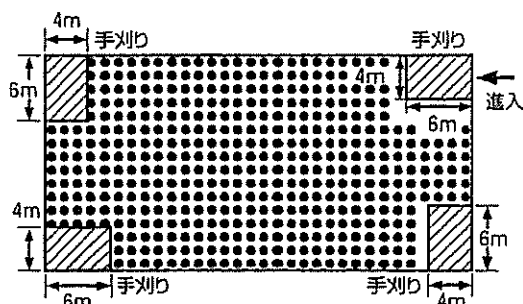
レバー・スイッチを全て「切」位置にしてください。

- 二人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図しあってから行ってください。
思わぬ障害事故の原因になります。
- 本機をわらくずのたまった上等に止めないでください。火災の原因になります。

〈ロックropp・リールヘッダ〉

①ほ場の準備

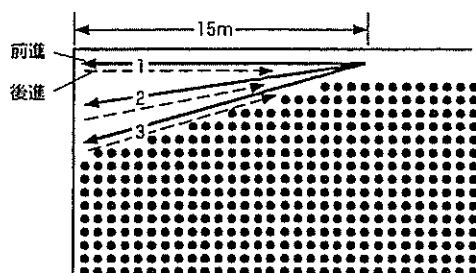
効率よく作業を進めるためには、図のように四隅（旋回できる範囲）を手刈りしてください。



（手刈りを少なくするには）

収穫作業に慣れてきたら、隅を3～4回ほど斜め刈りしてください。手刈りをほとんどしなくてすみ、能率的な作業ができます。

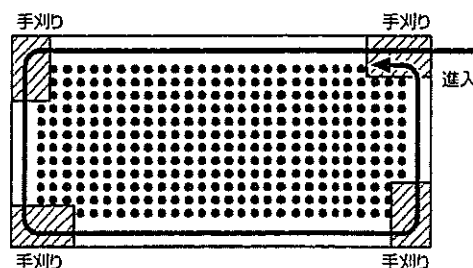
また、進入路の傾斜地が緩い場合は、微速で刈取りなら進入できます。



②刈取り方法

植付け条に沿って刈取るのが原則です。従って2方向刈りを基本とし、次の要領で刈取ってください。

1. あぜぎわから、左回りで刈取ってください。



【参考】

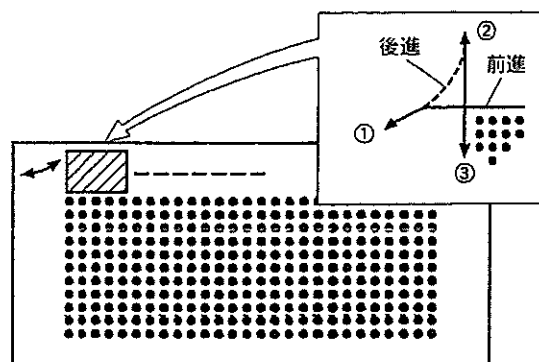
手刈りした作物は、ロックroppの場合は刈取り前の作物に立ってかけ刈取ってください。リールヘッダの場合は未刈稈の上に均等にバラまき、刈取ってください。

⚠ 警告

手刈りした作物を、ロックroppやリールヘッダに直接投げ込んで処理しないでください。

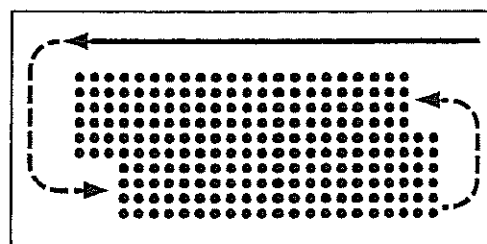
回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

2. 切り返しを行い、左回りで刈り続けてください。



3. ほ場の両端で回行できるようになったら、2方向刈りを行ってください。

2方向刈り



収穫作業前の準備のしかた

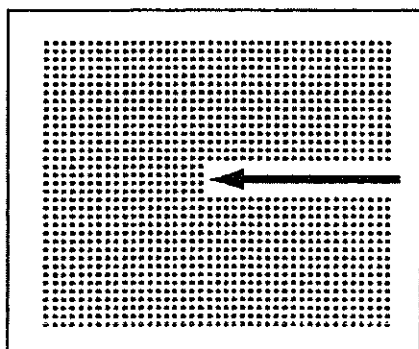
【重要】

- あぜぎわ刈りのときは、ロークroppのデバイダや、リールヘッダのデバイダヘッド、サイドデバイダをあぜに突っ込んだり、あぜにぶつけないように注意してください。
- 回行中もエンジン回転を下げないでください。ハーベスタ部に詰まる場合があります。

③広いほ場の刈取り方法

能率よく刈取作業をするために、広いほ場などは、中割り作業をしてください。
(自走ラップマシーンと同時作業の場合には、自走ラップマシンの走行距離を減らすことができ、作業能率があがります。)

中割り

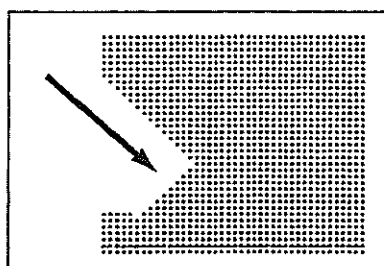


④横刈り時の刈取り方法

〈リールヘッダのみ〉

横刈り時は、高速で作業すると刈刃に高負荷がかかるので、下記の要領で作業してください。

1. 横刈り時は速度を落としてください。
2. 高速作業をする場合は、横刈りではなく、斜め刈りをしてください。
3. 高刈りをしてください。



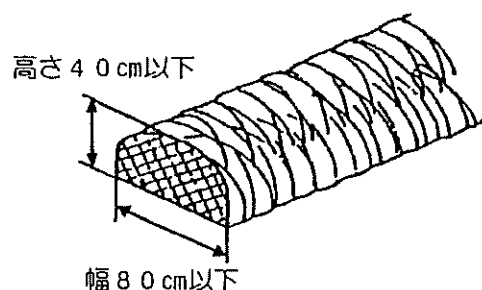
〈ピックアップ〉

ほ場の準備

効率よく作業するために、必ず水分が60%以下になるように予乾し、ウインドローを作ってください。

◆ウインドローの大きさ

ウインドローの大きさは、下図に示す大きさで、できるだけ均一なウインドローにしてください。



[注意]

- ウインドローが大きすぎると詰まりの原因となり能率的な収穫作業ができません。上図の寸法を守ったウインドローを作ってから作業をしてください。
- ウインドロー内に石などを混入させないように注意して集草してください。石などが混入していると、ハーベスタ破損の原因になります。

(6) 収穫機の準備のしかた

⚠ 警告

各部の準備・調整を行うときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因となります。

⚠ 注意

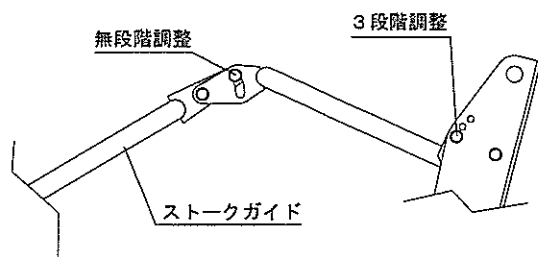
取り外したカバー類は、調整後、必ず元通りに取り付けてください。

収穫作業前の準備のしかた

〈ロークロップ〉

①ストックガイドの調整

ストックガイドは、コーンを押さえ過ぎないように、軽く当たる程度の位置に調整してください。



②チェンへの注油



注意

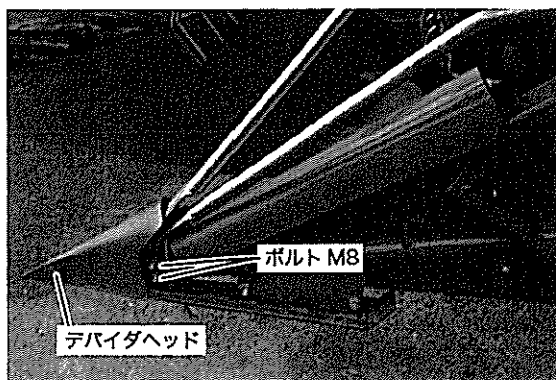
回転部などに注油するときには、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、ケガをするおそれがあります。

作業前は、各チェンに「各部の注油のしかた」（146ページ参照）に従って注油してください。

〈リールヘッド〉

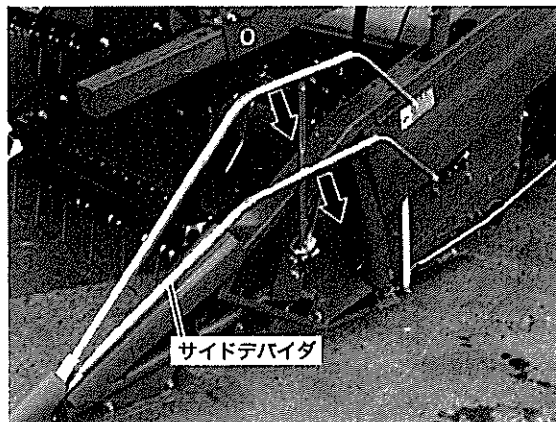
①デバイダヘッドの取り付け

デバイダヘッドを取り付けてください。



②サイドデバイダの準備

サイドデバイダを作業位置まで倒してください。



③刈刃・チェンへの注油



注意

回転部などに注油するときには、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、ケガをするおそれがあります。

作業前は、刈刃や各チェンに「各部の注油のしかた」（146ページ参照）に従って注油してください。

【参考】

刈刃には食品機械用潤滑スプレーを使用してください。

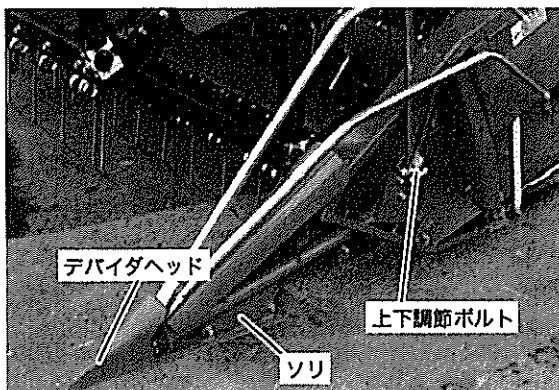
品 名	オプション部品
食品機械用潤滑スプレー	部品コード YOIL1-9030-000

●低温時（5℃以下）には、オイルの一部が固まり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

収穫作業前の準備のしかた

④デバイダヘッドの高さ調節のしかた

作物の倒伏状態と、ほ場の状態によって、左右とも同じ高さに調節してください。調節は上下調節ボルトで行います。



〈立毛時〉

雑草が引っかからない程度に、刈株よりやや高めに調節してください。

〈倒伏時〉

デバイダヘッドが軽く接地する程度に、ソリは前上がりで設置させ、デバイダヘッドの底が少し前上がりになるように調節してください。

〈ハーベスタ・ピックアップ〉

チェーンへの注油

⚠ 注意

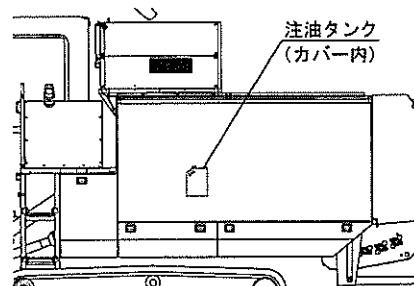
回転部などに注油するときには、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、ケガをするおそれがあります。

作業前は、各チェーンに「各部の注油のしかた」(145・147ページ参照)に従って注油してください。

〈ロールベアラ〉

①タイトチェーンの注油

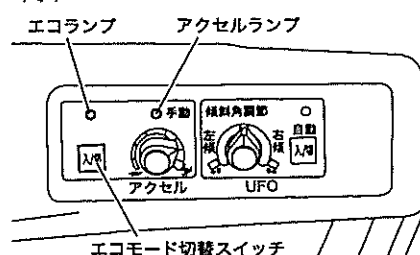
1. 注油タンクにオイルを入れてください。オイルはエンジンオイルSAE 5W-30又は、10W-30を使用してください。(5L)



【注意】

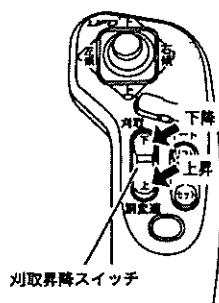
- 無給油で運転するとタイトチェーンの寿命を縮めますので、必ず給油してください。
- チェーンの注油ポンプは自給式を採用していますので、タンク内が空になった際もオイルを供給すれば、エア抜きなしでタイトチェーンに注油できます。
- コントロールボックスの注油スイッチを設けていますので、スイッチを押してオイルの吸い込みを確認してください。
- 粘度の高いオイルはモータの故障の原因になりますので、使用しないでください。
- 給油前に、給油ノズル先端のゴミを取り除いてください。

2. エンジンをかけてください。
3. エコモード切替スイッチが「切」になっていることを確認してください。(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)

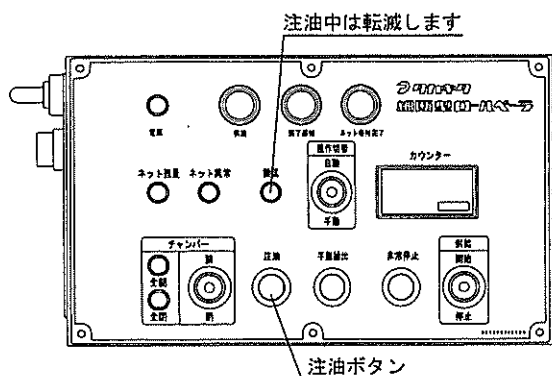


収穫作業前の準備のしかた

4. アタッチ（ロークロップ等）が地面に接していないことを確認してください。接している場合は、オールマイティシフトレバーの刈取り昇降スイッチで、少し上げてください。



5. ベールクラッチを「入」にし、アイドルリングで回転させてください。
6. 注油ボタンを1度押して、タイトチェンに注油してください。（注油ボタンは1度押すと10秒間注油され、注油中は搬送ランプが点滅します。）



7. タイトチェンは1周するのに約20秒かかります。搬送ランプの点滅が終わりましたら、もう1度注油ボタンを押してください。
8. 注油ができましたら、ベールクラッチを「切」にし、エンジンを止めてください。

②各チェンへの注油

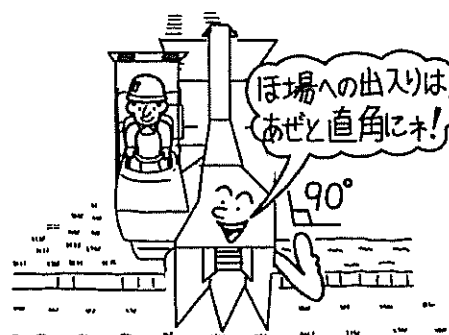
⚠ 注意

回転部などに注油するときには、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、ケガをするおそれがあります。

作業前は、各チェンに「各部の注油のしかた」（145・147ページ参照）に従って注油してください。

（7）ほ場への出入りのしかた

- 副変速レバーを「畦越」位置、オールマイティシフトレバーは最低速にしてください。
- あぜに対して直角に出入りしてください。
- 10cm以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用してください。



〈急な坂道の場合〉

●進行方向

	進行方向
登り	前進
降り	後進

●移動速度

副変速レバーを「畦越」位置、オールマイティシフトレバーは最低速でゆっくり登り降りしてください。

収穫作業前の準備のしかた

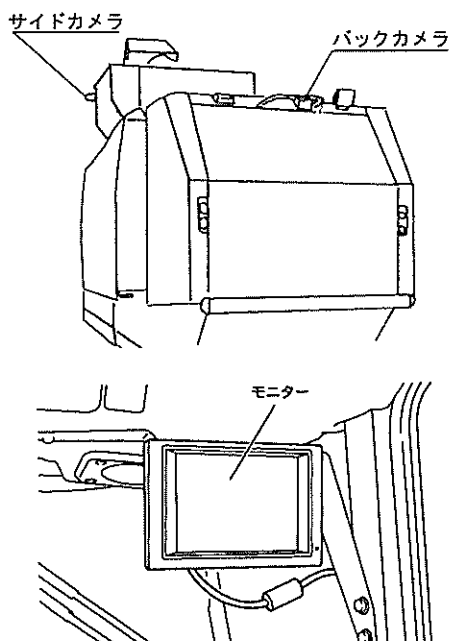
⚠ 警告

急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると、転倒してケガをする恐れがあります。必ず上記の方法に従ってください。

(8) モニターについて

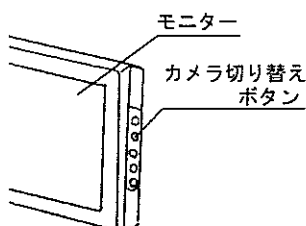
1. モニターは、キースイッチを「入」位置にすると、機体左側方又は後方を常時映し出します。

エンジン始動時や狭い納屋での格納時、ほ場の四隅や枕地での切り返しなどに、機体左側方又は後方の状況の確認ができます。



2. 画面の切替はモニター横の上から2番目のスイッチを押すことで切り替わります。

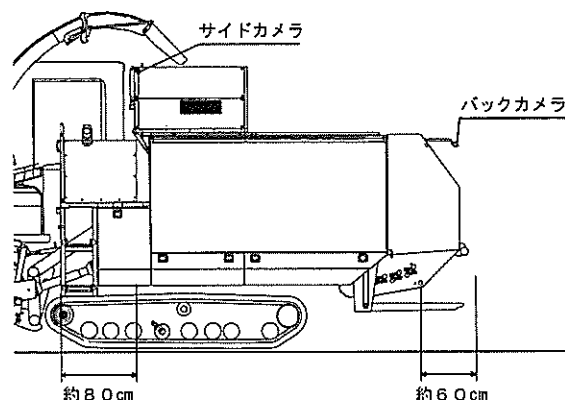
(画面に映し出される映像は、キーを切る前のカメラとなります)



(詳しくはモニターの取扱説明書を御覧ください)

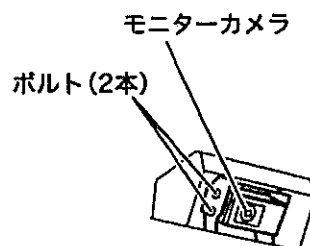
【重要】

- カメラのフードの汚れを確認し、汚れているときはきれいにしてください。
- モニターの映像は、機体左側面および機体後方の全てが見えるわけではありません。下図のように見えない範囲があります。



〈カメラの位置がずれたとき〉

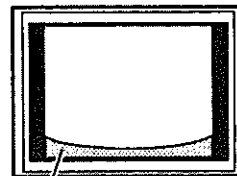
- ①カメラの左右のボルトを緩め、カメラ位置を上下に調節してください。



【重要】

サイドカメラの場合はモニターの右端、バックカメラの場合はモニターの下部に、機体の一部が写る位置を目安に調整してください。

バックカメラの場合



機体の一部が写っています

- ②調節後は、ボルトを締め付けて固定してください。

収穫作業のしかた

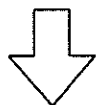
(1) 作業の流れ

作業前に

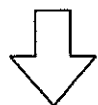
- ネットを取り付ける
- 各部の給油・グリスアップを行う
- 燃料を補給する

各部の調整と操作

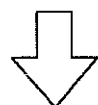
.... [ベールカウンターのリセット
コントロールボックス：自動]



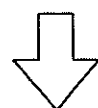
キースイッチを「入」にしエコランプが消灯していることを確認し、セフティペダルを踏み込んで、エンジンをかけます。



ベールクラッチを「入」にし、ハーベスタ部が回転し始めたら、エコモード切替スイッチを押し、エコランプを点灯させます。



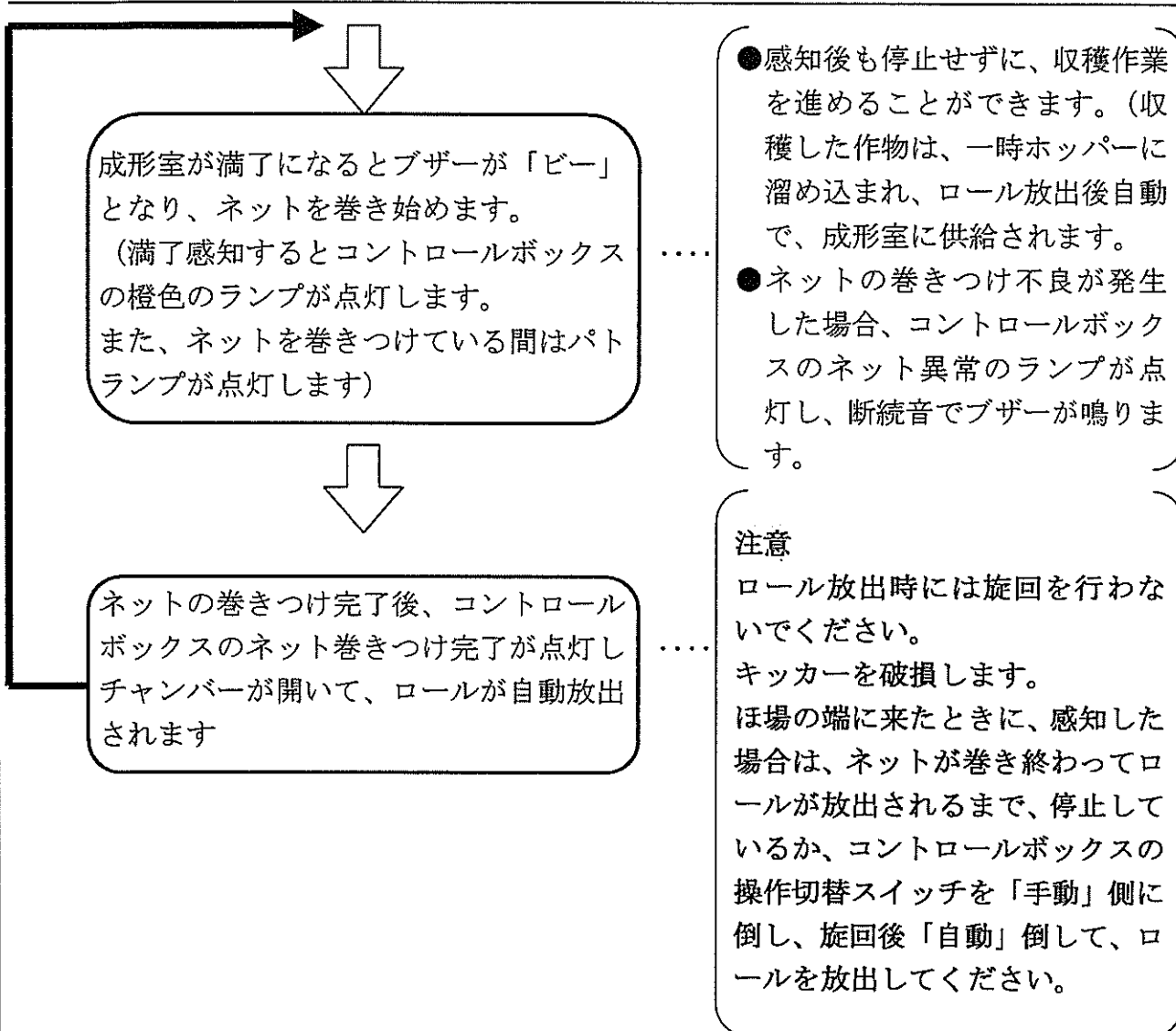
ハーベスタ部の回転数が安定したら収穫をはじめます。



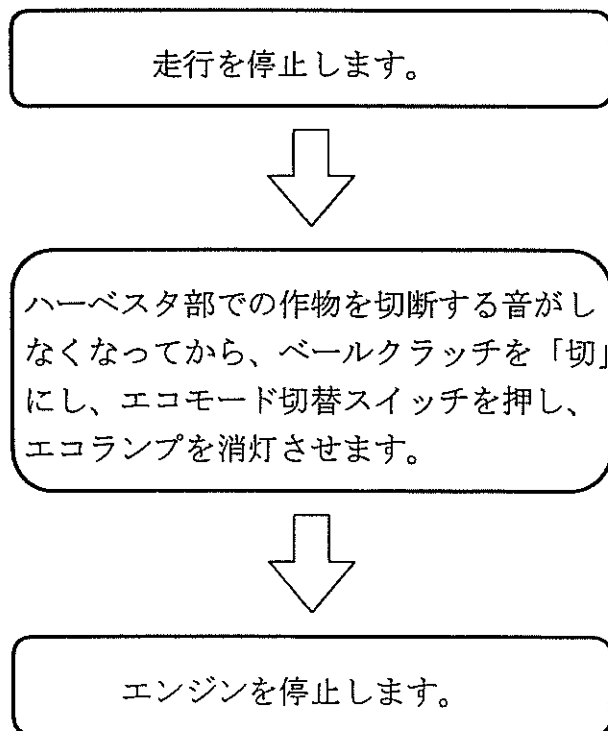
ホッパーに作物を溜め込み、ホッパー満了のブザーがなりましたら、一旦停止し、コントロールボックスの供給開始スイッチを開始側に倒してください。
(コントロールボックスの緑色のランプが点灯します)

.... [コントロールボックスの供給スイッチは、収穫前に開始側に倒してもかまいませんが、1つめのロールは、ホッパー満了（ホッパー満了センサーが反応）してから供給したほうが、きれいなロールになります。
(1ロール目のみ、2ロール目以降は不要)

収穫作業のしかた



作業を中断する場合は、以下の手順で行ってください。

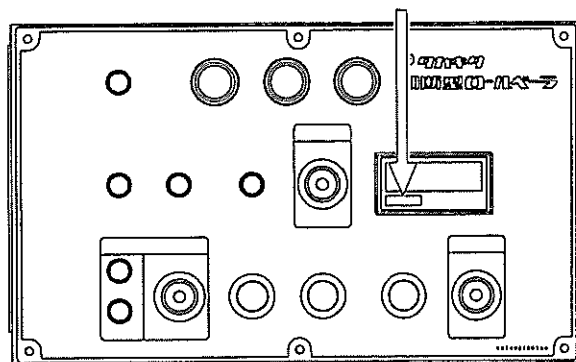


急な作業停止は、ホッパー及びチャンバー内に材料が残るので、ネットを巻き終わりロールを放出した後に、作業を停止してください。

収穫作業のしかた

(2) ベールカウンターのリセット

作業前に記憶している残カウントをリセットして「0」にします。



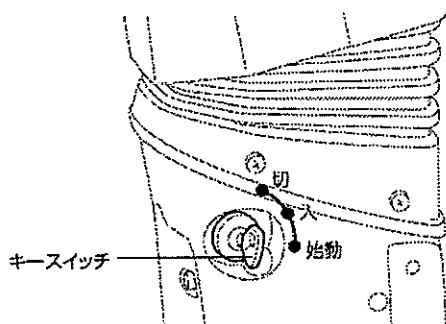
(3) 収穫作業のしかた 〈ロークロップ〉

ほ場にあわせて中割、又は枕地の収穫作業から始めます。

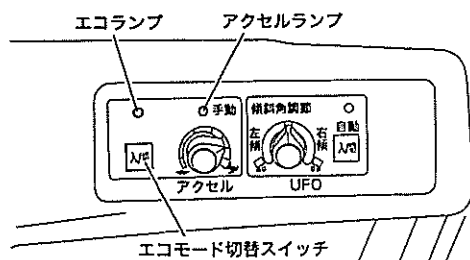
収穫できる条間は75cmです。

①作業の手順

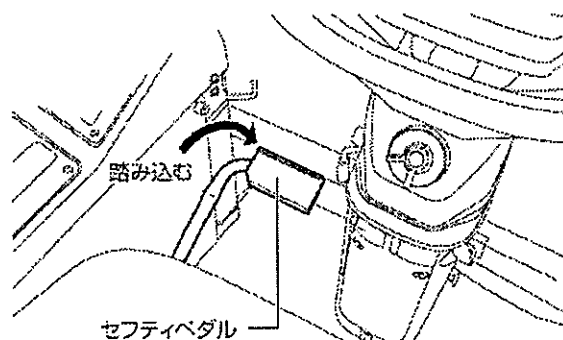
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。(48ページ参照)
2. キースイッチにキーを差し込んで、「入」位置にしてください。



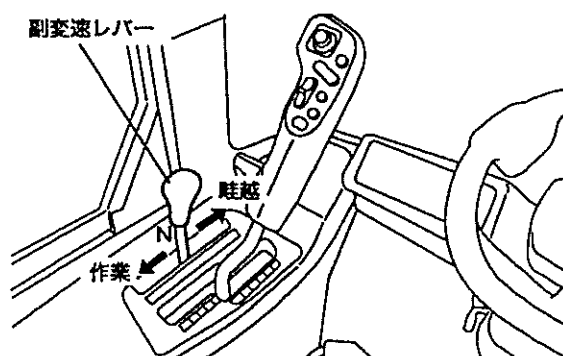
3. エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にしてください。



4. セフティペダルをいっぱい踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。

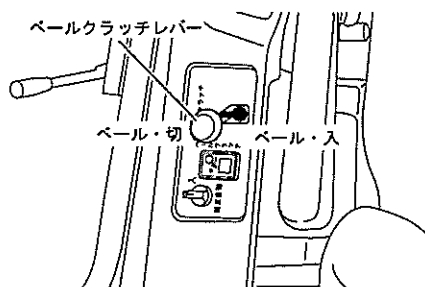


5. 副変速レバーを「作業」位置にしてください。



収穫作業のしかた

6. エコランプが消灯（アクセルランプ「点灯」）していることを確認し、ベールクラッチレバーを「入」位置にしてください。

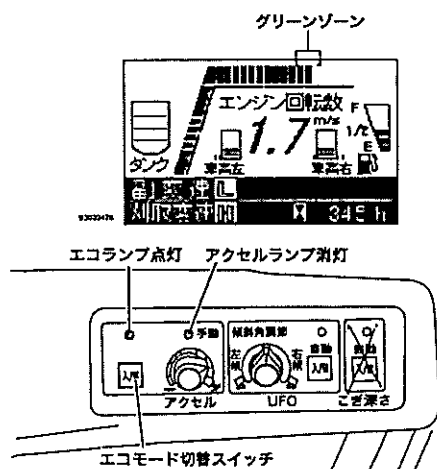


【注意】

ベールクラッチを「入」にする場合は必ず、エコモード切替スイッチ「切」（エコランプ消灯・アクセルランプ点灯）で、手動アクセルは最低回転にしてください。

高回転でベールクラッチを入れますと、各部に急に駆動がつながり、機械の寿命を縮める原因となります。

7. ハーベスタ・ロールベアラ部が動きはじめたら、アクセルダイヤルで、エンジン回転を調節して作業を行う場合は、センターディスプレイのエンジン回転数が「グリーンゾーン」位置を示すように調節してください。または、エコモード切替スイッチを「入」（エコランプ点灯・アクセルランプ消灯）にしてください。

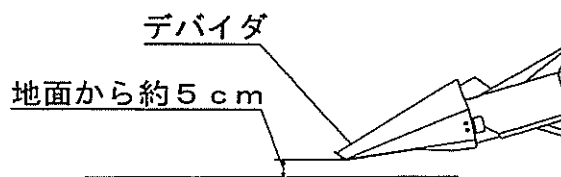
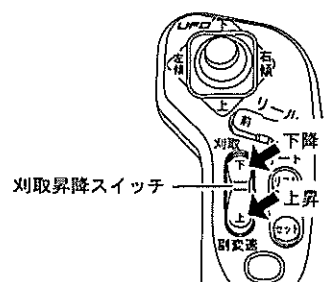


【重要】

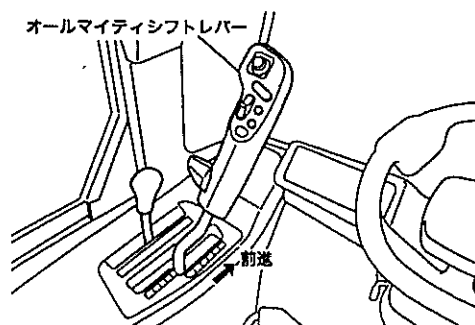
センターディスプレイの回転計の目盛りが「グリーンゾーン」の位置より低い、または高いと下記の現象が現れます。

- 「グリーンゾーン」位置より低いとき
 - ・ 能率が上がらない。
 - ・ ハーベスタで詰まる。
- 「グリーンゾーン」位置より高いとき
 - ・ 機体の振動がはげしい。

8. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチの「下降」側を押し、デバイダの先端が地面から 5 cm ほどの高さになるように、セットします。



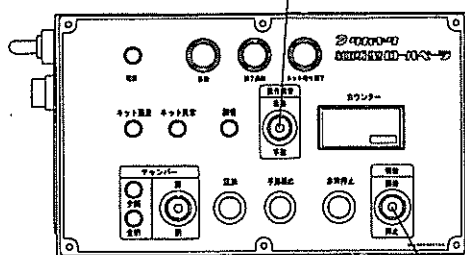
9. オールマイティシフトレバーをゆっくり「前進」側に倒して、刈り始めてください。



収穫作業のしかた

10. 作業状況に合わせて、オールマイティシフトレバーで速度調節してください。
11. ホッパー満了ブザーが鳴りましたら、一旦停止し、コントロールボックスの操作切替スイッチが「自動」側に倒れていることを確認後、供給スイッチを「開始」側に1度倒してください。

操作切替スイッチは「自動」

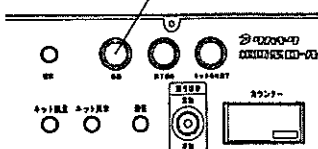


供給スイッチを1度「開始」側に倒します

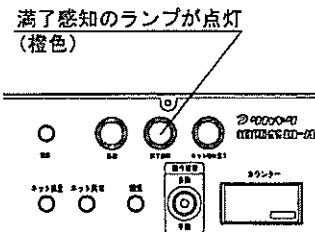
- コントロールボックスの供給スイッチを「開始」に1度倒してから、刈取りを開始してもかまいませんが、1つ目のロールは、ホッパーに溜めてから供給したほうが、きれいなロールができあがります。
- 2つ目以降のロールは都度供給スイッチを倒す必要はありません。

12. コントロールボックスの供給ランプ（緑色）が点灯し、ホッパー満了ブザーが鳴り止んだら、刈取り作業を再開してください。

供給ランプが点灯
(緑色)



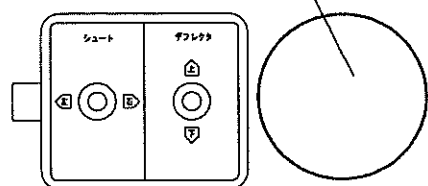
13. 成形室が満了になり、感知されるとブザーが鳴り、コントロールボックスの満了感知のランプ（橙色）が点灯します。



14. ネットが自動で繰出され、ロールに巻きつけられます。

ネット巻きつけ中はパトランプが点灯し、正常にネットが巻かれていることを知らせます。

パトランプが点灯



【注意】

ネットが正常に巻きつけられなかった場合、コントロールボックスのネット異常のランプが点灯し、ブザーが断続音で鳴ります。

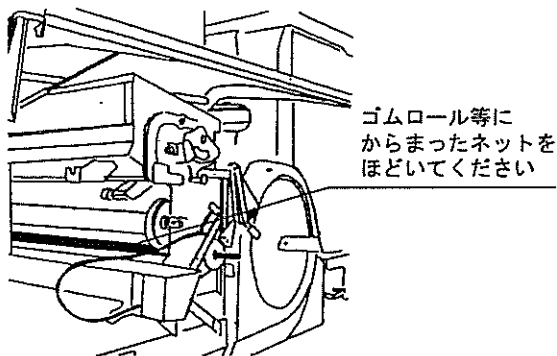
上記の場合、以下の処置をしてください。

- ① オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置に戻し、機体を停止させて駐車ブレーキをかけてください。
- ② ハーベスタ部に未切断の作物がないことを確認後、（シュートヘッドから切断された作物が吹出していない）ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

収穫作業のしかた

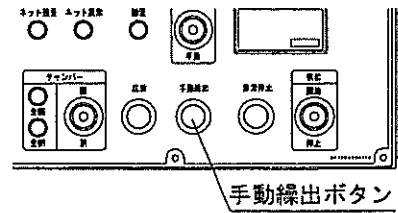
③機体右側のカバーを開け、ネットの異常（ゴムロールへの巻きつき等）がないか確認し、異常がある場合は、以下の手順に従って処置してください。

- 1) 65ページのネット装置を引き出し方法に従い、ネット装置をひきだしてください。
- 2) ゴムロール等にかからまっているネットをほどき、66ページのネットの通し方に従い、ネットを通してください。



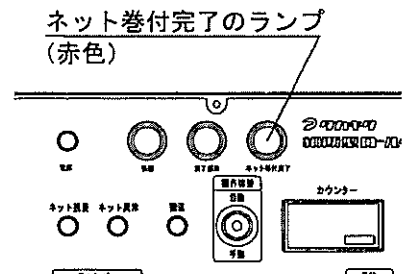
(図は、機体右後方から見ています。)

- ④ネットの異常処置が終わったら、キーを「入」位置まで回し、エコモード切替スイッチを「切」（エコランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてから、エンジンを始動してください。
- ⑤ハーベスタ・ロールベアラ部が動きはじめたら、アクセルダイヤルで、エンジン回転を調節して作業を行う場合は、センターディスプレイのエンジン回転数が「グリーンゾーン」位置を示すように調節してください。または、エコモード切替スイッチを「入」（エコランプ点灯・アクセルランプ消灯）にしてください。
- ⑥コントロールボックスの手動繰出しボタンを1度押し、ネットを繰出してください。



⑦パトランプが点灯すれば、ネットが正常に巻かれていますので、収穫作業を再開してください。

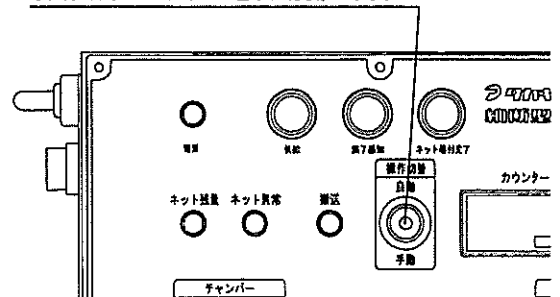
15. ネットの巻付が完了すると、コントロールボックスのネット巻付完了ランプ（赤色）が点灯しロールが自動で放出され（コントロールボックスの操作切替スイッチが自動側に倒れている場合）、ブザー「ビッ」と鳴ります。



【注意】

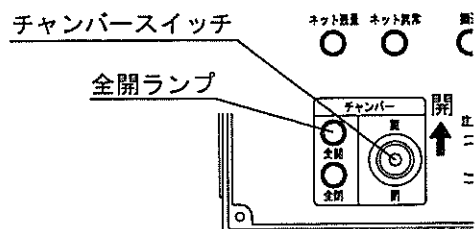
1. コントロールボックスの操作切替スイッチが手動側に倒れていると、ロールは自動放出されません。以下の手順でロールを放出してください。
 - a. コントロールボックスの操作切替スイッチを自動側に倒してください。
⇒自動でロールが放出されます。

操作切替スイッチを自動側に倒す

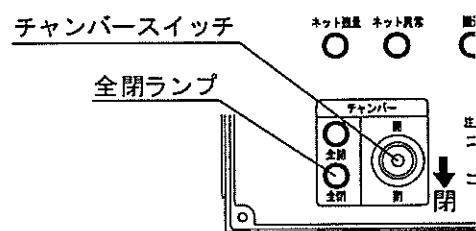


収穫作業のしかた

- b. ①コントロールボックスのチャンバースイッチを「開」側に全開のランプが点灯するまで、倒し続けてください。



- ②ロールの放出が確認できたら、コントロールボックスのチャンバースイッチを「閉」側に全開ランプが点灯するまで、倒し続けてください。



⚠ 注意

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。

2. ネットの巻付が完了したロールを長時間成形室で回し続けると、ネット破れの原因となり、放出時にロールの型崩れの原因となりますので、ネット巻付終了後は速やかに放出してください。
- やむを得ず成形室にロールを留めておく場合は、ベールクラッチを「切」にしてください。

【重要】

ロール放出時はかならず直進状態で行ってください。

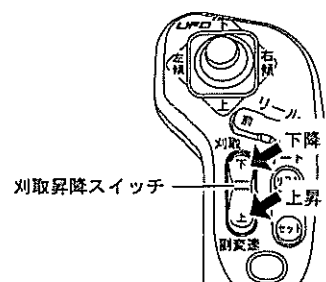
旋回しながらロール放出を行うと、キッカーを破損するおそれがあります。

16. 刈り終わったら、以下の操作をしてください。

- ①オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にしてください。
- ②駐車ブレーキをかけてください。
- ③ハーベスタ部に未切断の作物がないことを確認後、(シュートヘッドから切断された作物が吹出していない) ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

②作業中の方向転換

刈取っている条が終わり、機体を方向転換する場合は、オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチで、デバイダが刈株に引掛けない程度(10cm~15cm)に上げてください。



【重要】

- 刈取りが終了しても旋回中は、ベールクラッチを「切」にしたり、エンジン回転を下げないでください。ハーベスタ部では、作物の処理が続いています。
- 刈取オートリフトを使用すると、設定している刈高さに、刈取部が自動的に上昇します。

(120ページ参照)

収穫作業のしかた

③作業速度の選び方

センターディスプレイの負荷モニターが80%以下となるように、作物の状態や、使用条件に合わせて、副変速レバーとオールマイティシフトレバーを調節し、最適な状態で使用してください。

【重要】

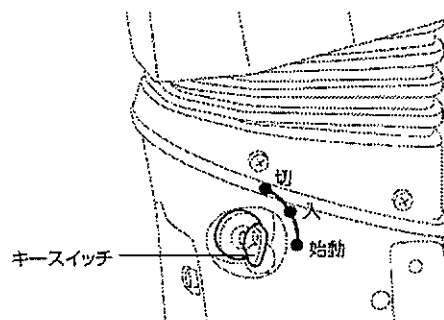
負荷が80%を越える作業速度で作業すると、ハーベスタ部での詰まりの原因になります。

＜リールヘッダ＞

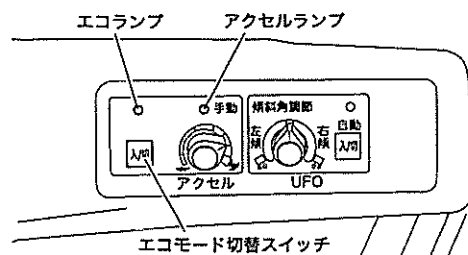
ほ場にあわせて中割、又は枕地の収穫作業から始めます。

①作業の手順

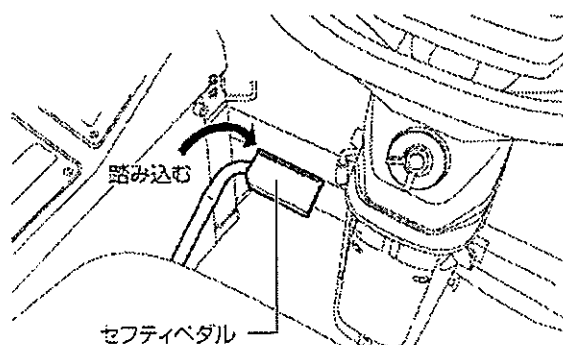
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。(48ページ参照)
2. キースイッチにキーを差し込んで、「入」位置にしてください。



3. エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にしてください。

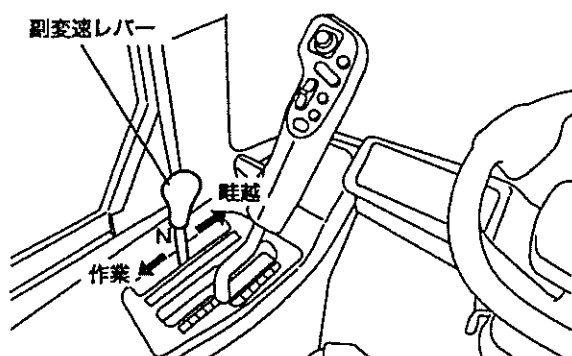


4. セフティペダルをいっぱい踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。

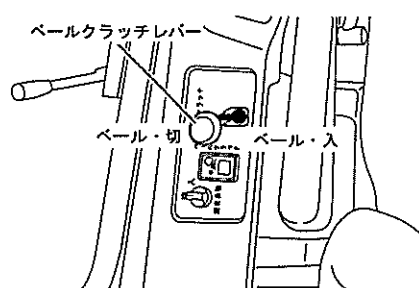


収穫作業のしかた

5. 副変速レバーを「作業」位置にいらしてください。



6. エコランプが消灯（アクセルランプ「点灯」）していることを確認し、ベールクラッチレバーを「入」位置にしてください。

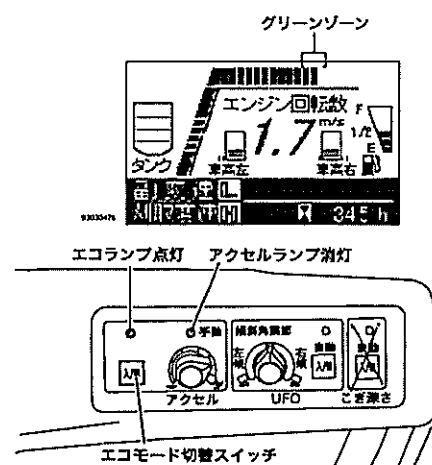


【注意】

ベールクラッチを「入」にする場合は必ず、エコモード切替スイッチ「切」（エコランプ消灯・アクセルランプ点灯）で、手動アクセルは最低回転にしてください。

高回転でベールクラッチを入れますと、各部に急に駆動がつながり、機械の寿命を縮める原因となります。

7. ハーベスタ・ロールベアラ部が動きはじめたら、アクセルダイヤルで、エンジン回転を調節して作業を行う場合は、センターディスプレイのエンジン回転数が「グリーンゾーン」位置を示すように調節してください。または、エコモード切替スイッチを「入」（エコランプ点灯・アクセルランプ消灯）にしてください。



【重要】

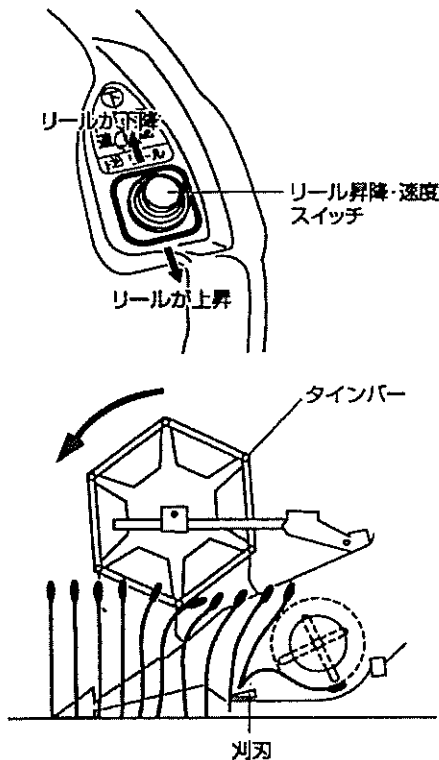
センターディスプレイの回転計の目盛りが「グリーンゾーン」の位置より低い、または高いと下記の現象が現れます。

- 「グリーンゾーン」位置より低いとき
 - ・能率が上がらない。
 - ・ハーベスタで詰まる。
- 「グリーンゾーン」位置より高いとき
 - ・機体の振動がはげしい。

8. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチの「下降」側を押し、刈取部を下げてください。

収穫作業のしかた

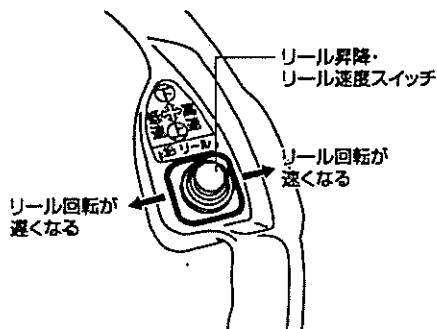
9. リール昇降・リール速度スイッチで、
 稈が刈刃で切断されるときに、タイン
 バーが穂の下茎稈に当たり、作物を
 捕らえられる位置へ、リールをセット
 してください。



【重要】

向い刈り時は、リールが穂先を押しつけないようにしてください。押しつけすぎると、刃先で穂先を切ることがあります。

10. マルチハンドルでリール速度を調節
 してください。

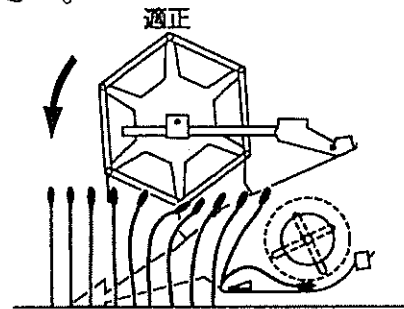


【参考】

- 稲作業のリール速度は、走行速度より
 もわずかに速くなるように調節して
 ください。

(走行速度の1.2～1.5倍)

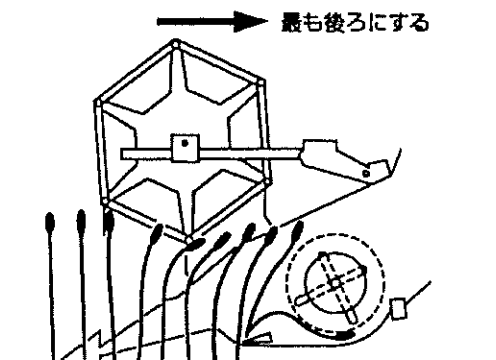
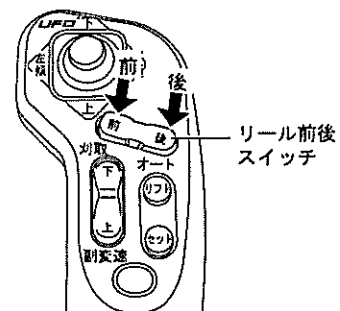
- 麦で、取り込み稈長が80cm以上の
 場合は、リール速度を走行速度よりわ
 ずかに遅くなるように調節してくだ
 さい。



【重要】

リール速度が速すぎると、リールの衝撃
 で、こく粒損失が発生します。

11. オールマイティシフトレバーのリ
 ール前後スイッチで、リールの位置を最
 も後ろにしてください。

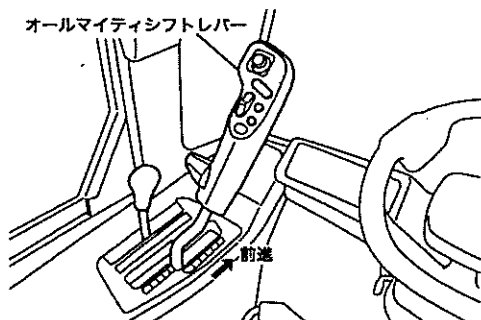


収穫作業のしかた

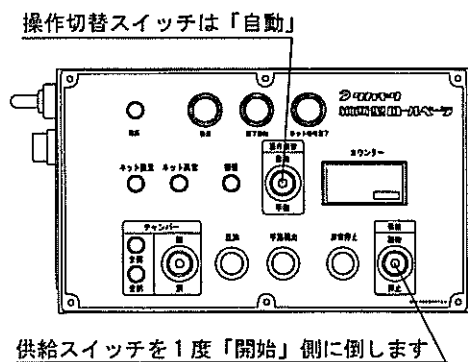
【重要】

リールの位置が前すぎると、こく粒損失が増加します。また、取り込み不良が発生し、プラットホームオーガによるシリンドリカクタ部への送り込みが断続的になり、過負荷の原因になります。

- 1 2. オールマイティシフトレバーをゆっくり「前進」側に倒して、刈り始めてください。



- 1 3. 作業状況に合わせて、オールマイティシフトレバーで速度調節してください。
- 1 4. ホッパー満了ブザーが鳴りましたら、一旦停止し、コントロールボックスの操作切替スイッチが「自動」側に倒れていることを確認後、供給スイッチを「開始」側に1度倒してください。

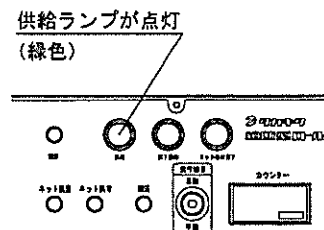


- コントロールボックスの供給スイッチを「開始」に1度倒してから、刈取りを開始してもかまいませんが、1つ目のロールは、ホッパーに溜めてから供給したほうが、きれいなロールがで

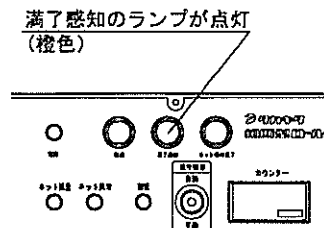
きあがります。

- 2つ目以降のロールは都度供給スイッチを倒す必要はありません。

- 1 1. コントロールボックスの供給ランプ（緑色）が点灯し、ホッパー満了ブザーが鳴り止んだら、刈取り作業を再開してください。

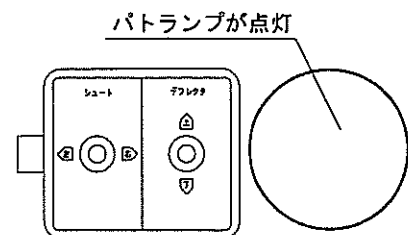


- 1 2. 成形室が満了になり、感知されるとブザーが鳴り、コントロールボックスの満了感知のランプ（橙色）が点灯します。



- 1 3. ネットが自動で繰出され、ロールに巻きつけられます。

ネット巻きつけ中はパトランプが点灯し、正常にネットが巻かれていることを知らせます。



【注意】

ネットが正常に巻きつけられなかった場合、コントロールボックスのネット異常のランプが点灯し、ブザーが断

収穫作業のしかた

続音で鳴ります。

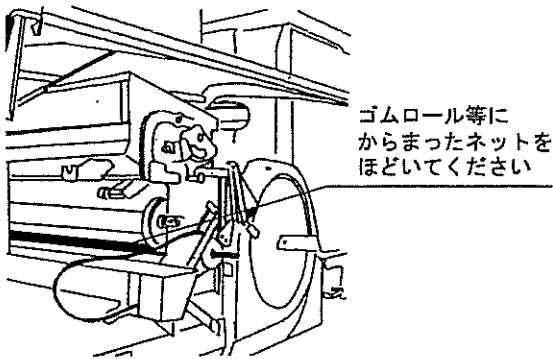
上記の場合以下の処置をしてください。

- ①オールマイティシフトレバーを「中立」位置に戻し、機体を停止させて駐車ブレーキをかけてください。

- ②ハーベスタ部に未切断の作物がないことを確認後、(シュートヘッドから切断された作物が吹出していない) ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

- ③機体右側のカバーを開け、ネットの異常(ゴムロールへの巻きつき等)がないか確認し、異常がある場合は、以下の手順に従って処置してください。

- 1) 65ページのネット装置の引き出し方法に従い、ネット装置を引き出してください。
- 2) ゴムロール等にかからまっているネットをほどき、66ページのネットの通し方に従い、ネットを通してください。

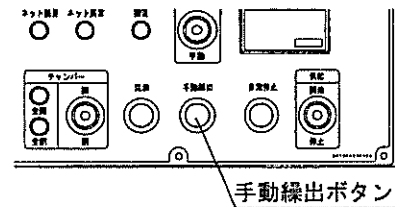


- ④ネットの異常処置がおわりましたら、キーを「入」位置まで回し、エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にしてから、エンジンを始動してください。

- ⑤ハーベスタ・ロールベアラ部が動きはじめたら、アクセルダイヤルで、エン

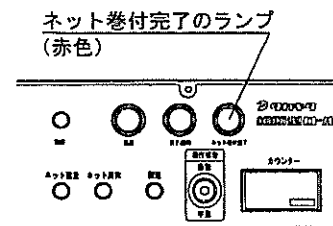
ジン回転を調節して作業を行う場合は、センターディスプレイのエンジン回転数が「グリーンゾーン」位置を示すように調節してください。または、エコモード切替スイッチを「入」(エコランプ点灯・アクセルランプ消灯)にしてください。

- ⑥コントロールボックスの手動繰出しボタンを1度押し、ネットを繰出してください。



- ⑦パトランプが点灯すれば、ネットが正常に巻かれていますので、収穫作業を再開してください。

14. ネットの巻付が完了しますと、コントロールボックスのネット巻付完了ランプ(赤色)が点灯しロールが自動で放出され(コントロールボックスの操作切替スイッチが自動側に倒れている場合)、ブザーが「ビッ」と鳴ります。

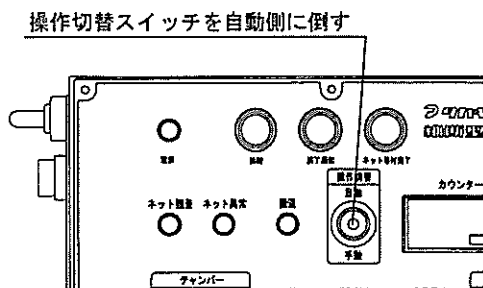


【注意】

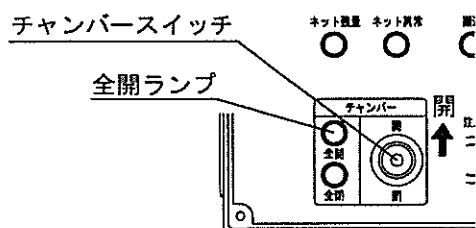
1. コントロールボックスの操作切替スイッチが手動側に倒れていますと、ロールは自動放出されません。以下の手順に従ってロールを放出してください。

収穫作業のしかた

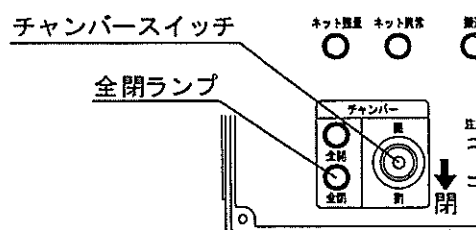
- a. コントロールボックスの操作切替スイッチを自動側に倒してください。
⇒自動でロールが放出されます。



- b. ①コントロールボックスのチャンバースイッチを「開」側に全開のランプが点灯するまで、倒し続けてください。



- ②ロールの放出が確認できましたら、コントロールボックスのチャンバースイッチを「閉」側に全閉ランプが点灯するまで、倒し続けてください。



⚠ 注意

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。

2. ネットの巻付が完了したロールを長時間成形室で回し続けると、ネット破れの原因となり、放出時にロールの型崩れの原因となりますので、ネット巻付終了後は速やかに放出してください。

やむを得ず成形室にロールを溜めておく場合は、ベールクラッチを「切」にしてください。

【重要】

ロール放出時はかならず直進状態で行ってください。

旋回しながらロール放出を行いますと、キッカーを破損するおそれがあります。

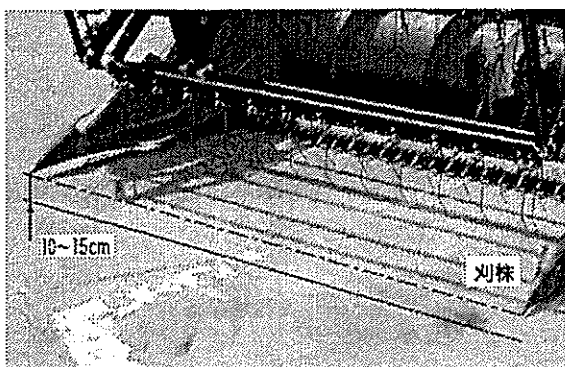
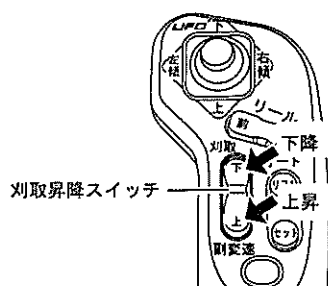
16. 刈り終わったら、以下の操作をしてください。

- 1) オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にしてください。
- 2) 駐車ブレーキをかけてください。
- 3) ハーベスタ部に未切断の作物がないことを確認後、(シュートヘッドから切断された作物が吹出していない) ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

②作業中の方向転換

刈取っている条が終わり、機体を方向転換する場合は、オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチで、デバイダが刈株に引掛けない程度(10cm~15cm)に上げてください。

収穫作業のしかた



【重要】

- 刈取りが終了しても旋回中は、ベールクラッチを「切」にして、エンジン回転を下げないでください。ハーベスタ部では、作物の処理が続いています。
- 刈取オートリフトを使用すると、設定している刈高さに、刈取部が自動的に上昇します。

(120ページ参照)

③作業速度の選び方

センターディスプレイの負荷モニターが80%以下となるように、作物の状態や、使用条件に合わせて、副変速レバーとオールマイティシフトレバーを調節し、最適な状態で使用してください。

【重要】

負荷が80%を越える作業速度で作業していると、ハーベスタ部での詰まりの原因になります。

④湿田ほ場の刈取りかた

機体が後傾する場合は、デバイダヘッドを下げてください。

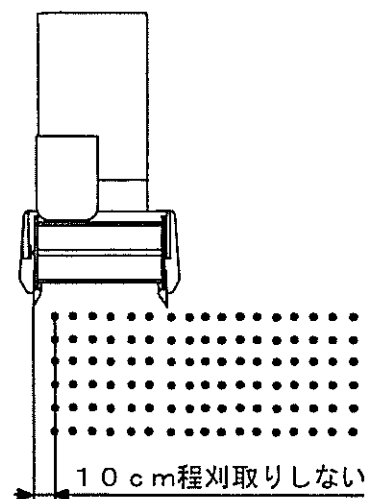
(93ページ参照)

【重要】

- 超湿田作業で旋回しにくいときは、マルチハンドルを切りすぎていることが考えられますので、ハンドルの切る角度を小さくして、旋回半径を大きくとってください。
- スピーンターン状態になると、思うように旋回できません。
- 湿田作業で機体の沈下が著しく、旋回しにくいときには、旋回モード切替ノブを「湿田モード」に切替えてください。旋回半径が大きくなり、旋回しやすくなります。

⑤リールヘッド取扱いのポイント

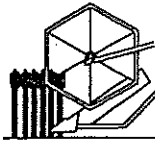
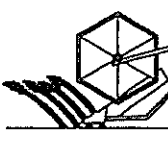
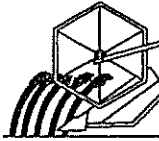
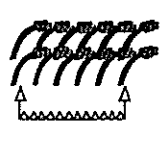
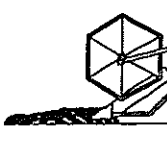
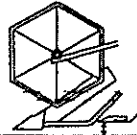
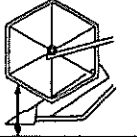
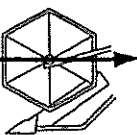
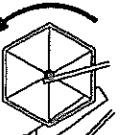
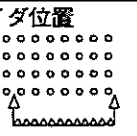
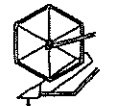
- 本機では通常（立毛時）、地面から10～20cmの位置に刈り高さを合わせると、ロスなく取り込むことができます。
- リールの全幅をかけずに、端を10cm程度刈取らずに作業しますと、刈り残しなく作業できます。



【重要】

- 地面から10cmより低い位置で取り込んだ場合、所要動力が増加して能率が低くなります。

収穫作業のしかた

作物の状態	立毛時	追刈時	向刈時	横刈時	完全倒伏
刈取部					
刈高さ	 希望する高さに合わせて作業を始めてください。 (地面から10～20cmが適当です。)	土に突っ込まない高さに、作業しながら調整してください。	穂を切り落とさない範囲で、できるだけ高く調整してください。		
リール高さ	 タインバーが穂首のやや下を通るように調整してください。	いっぱいまで下げてください。	タインが作物の穂先を櫛のすくうように調整してください。 (ハンドルを左右に細かく動かすと効果的です。)	いっぱいまで下げてください。	
リール前後位置	 リールの中心が刈刃の真上か、やや前あたりに調整してください。	リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。	リールの中心が刈刃の真上か、やや前あたりに調整してください。	リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。	リールが作物を拾い残さず、土に突っ込まない高さになるまで前方に出してください。
※リールを前方に出しすぎると、穂こぼれやオーガ部でムラ搬送の原因になります。					
リール速度	 タインバーが作物に分け入るとき、作物が揺れ動かないように調整してください。 (リール速度は作業速度の2～5割増にしてください。)	走行速度より、かなり速くしてください。 (作業速度を遅くしてください。)	作業速度と同じか、やや速めにしてください。	作業速度よりやや速めにしてください。	
※土に突っ込んでいないときにリールが止まるのは、タイン1本にかかる作物の重量が大きすぎるからです。走行速度を遅くするか、リールを速く回転させてください。					
デバイダ位置	 既刈側の作物を刈り残さないように、右デバイダを合わせてください。	未刈部の作物をデバイダで押し倒さないように株の間を通してください。	既刈側の作物を刈り残さないように、右デバイダを合わせてください。		
デバイダ高さ	 雑草が引っかからない程度(刈株よりやや高め)に調整してください。	先端が土に軽く触れる程度に調整してください。 低すぎると株抜けします。			

収穫作業のしかた

＜ピックアップ＞

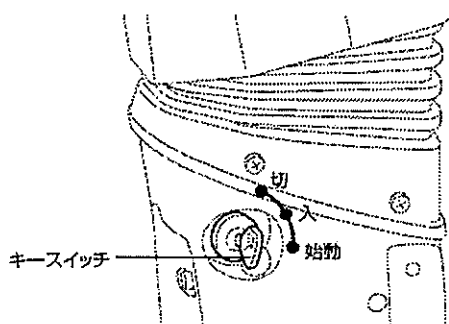
草量・含水率により作業能率が大きく変わります。

含水率60%以下に予乾してから収穫を始めてください。

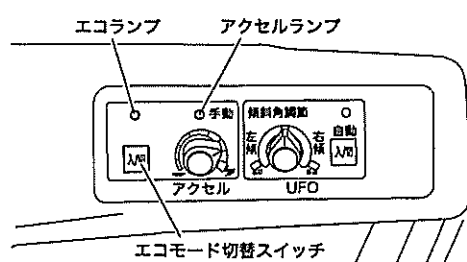
①作業の手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。(48ページ参照)

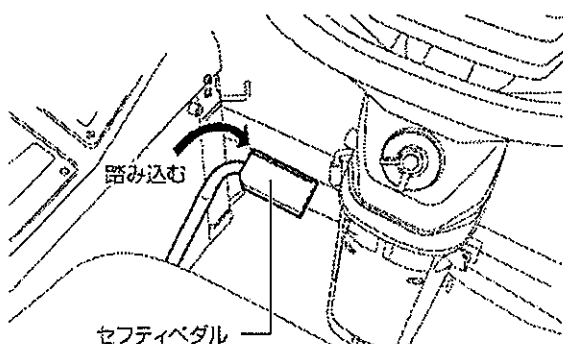
2. キースイッチにキーを差し込んで、「入」位置にしてください。



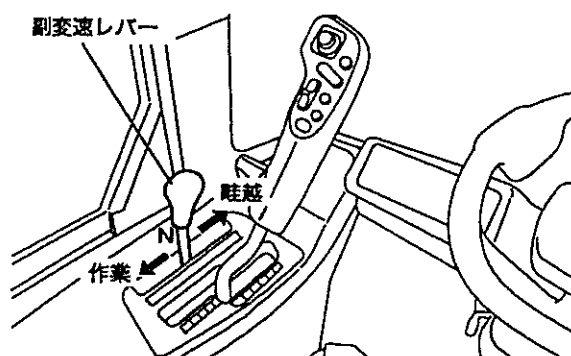
3. エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にしてください。



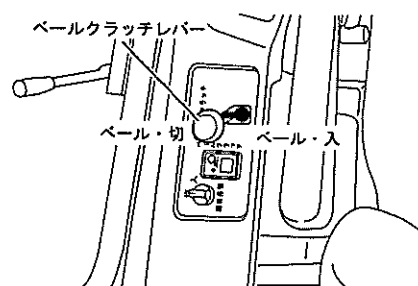
4. セフティペダルをいっぱい踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。



5. 副変速レバーを「作業」位置にしてください。



6. エコランプが消灯(アクセルランプ「点灯」)していることを確認し、ベールクラッチレバーを「入」位置にしてください。



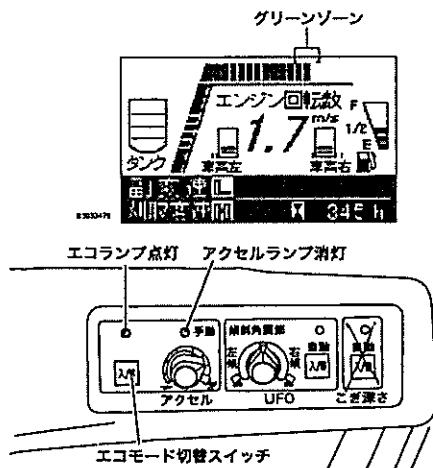
【注意】

ベールクラッチを「入」にする場合は必ず、エコモード切替スイッチ「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)で、手動アクセルは最低回転にしてください。

高回転でベールクラッチを入れますと、各部に急に駆動が付き、機械の寿命を縮める原因となります。

7. ハーベスタ・ロールベアラ部が動きはじめたら、アクセルダイヤルで、エンジン回転を調節して作業を行う場合は、センターディスプレイのエンジン回転数が「グリーンゾーン」位置を示すように調節してください。または、エコモード切替スイッチを「入」(エコランプ点灯・アクセルランプ消灯)にしてください。

収穫作業のしかた

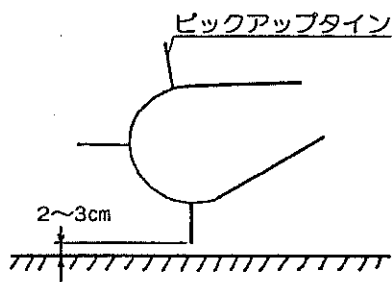
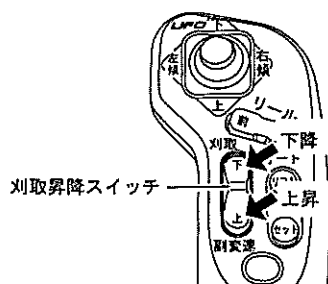


【重要】

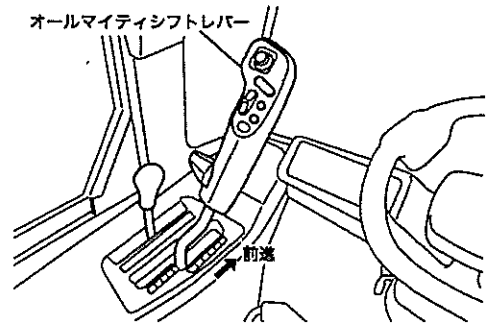
センターディスプレイの回転計の目盛りが「グリーンゾーン」の位置より低い、または高いと下記の現象が現れます。

- 「グリーンゾーン」位置より低いとき
 - ・能率が上がらない。
 - ・ハーベスタで詰まる。
- 「グリーンゾーン」位置より高いとき
 - ・機体の振動がはげしい。

8. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチの「下降」側を押し、ピックアップタインが地面から2～3cmになるようにセットしてください。

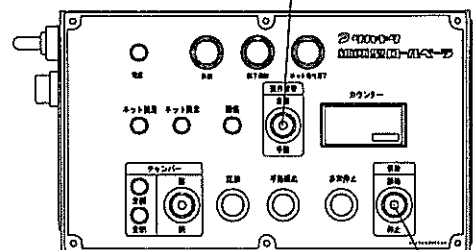


9. オールマイティシフトレバーをゆっくり「前進」側に倒して、集草列に沿って収穫し始めてください。



10. 作業状況に合わせて、オールマイティシフトレバーで速度調節してください。
11. ホッパー満了ブザーが鳴りましたら、一旦停止し、コントロールボックスの操作切替スイッチが「自動」側に倒れていることを確認後、供給スイッチを「開始」側に1度倒してください。

操作切替スイッチは「自動」

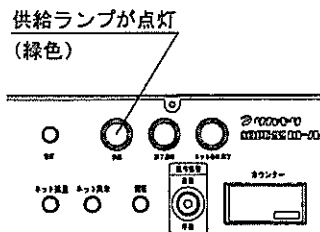


供給スイッチを1度「開始」側に倒します

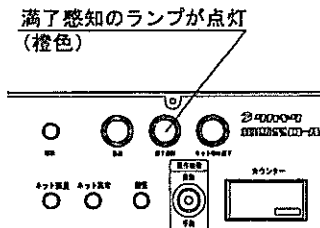
- コントロールボックスの供給スイッチを「開始」に1度倒してから、刈取りを開始してもかまいませんが、1つ目のロールは、ホッパーに溜めてから供給したほうが、きれいなロールができます。
- 2つ目以降のロールは都度供給スイッチを倒す必要はありません。

収穫作業のしかた

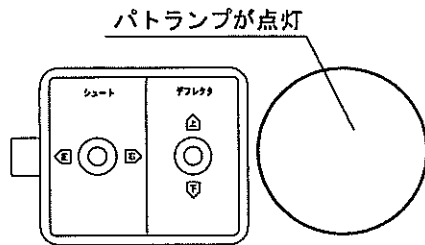
- 1 2. コントロールボックスの供給ランプ（緑色）が点灯し、ホッパー満了ブザーが鳴り止んだら、刈取り作業を再開してください。



- 1 3. 成形室が満了になり、感知されますとブザーが鳴り、コントロールボックスの満了感知のランプ（橙色）が点灯します。



- 1 4. ネットが自動で繰出され、ロールに巻きつけられます。
ネット巻きつけ中はパトランプが点灯し、正常にネットが巻かれていることを知らせてくれます。



【注意】

ネットが正常に巻きつけられなかった場合、コントロールボックスのネット異常のランプが点灯し、ブザーが断続音で鳴ります。

上記の場合以下の処置をしてください。

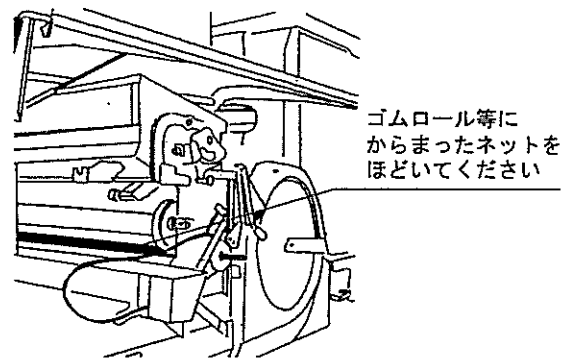
- ①オールマイティシフトレバーを「中立」位置に戻し、機体を停止させて駐

車ブレーキをかけてください。

- ②ハーベスタ部に未切断の作物がないことを確認後、(シュートヘッドから切断された作物が吹出していない) ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

- ③機体右側のカバーを開け、ネットの異常（ゴムロールへの巻きつき等）がないか確認し、異常がある場合は、以下の手順に従って処置してください。

- 1) 65ページのネット装置を引き出し方法に従い、ネット装置をひきだしてください。
- 2) ゴムロール等にかからまっているネットをほどき、66ページのネットの通し方に従い、ネットを通してください。



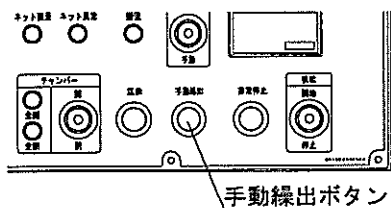
- ④ネットの異常処置がおわりましたら、キーを「入」位置まで回し、エコモード切替スイッチを「切」（エコランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてから、エンジンを始動してください。

- ⑤ハーベスタ・ロールベアラ部が動きはじめたら、アクセルダイヤルで、エンジン回転を調節して作業を行う場合は、センターディスプレイのエンジン回転数が「グリーンゾーン」位置を示すように調節してください。または、

収穫作業のしかた

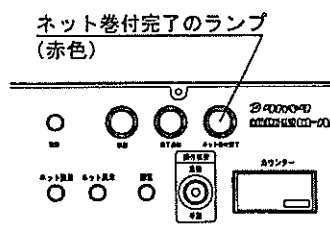
エコモード切替スイッチを「入」(エコランプ点灯・アクセルランプ消灯)にしてください。

- ⑥コントロールボックスの手動繰出しボタンを1度押し、ネットを繰出してください。



- ⑦パトランプが点灯すれば、ネットが正常に巻かれていますので、収穫作業を再開してください。

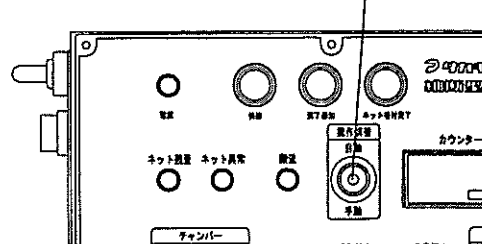
15. ネットの巻付が完了しますと、コントロールボックスのネット巻付完了ランプ(赤色)が点灯しロールが自動で放出され(コントロールボックスの操作切替スイッチが自動側に倒れている場合)、ブザー「ビッ」と鳴ります。



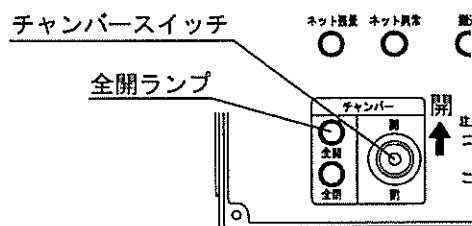
【注意】

- コントロールボックスの操作切替スイッチが手動側に倒れていると、ロールは自動放出されません。以下の手順に従ってロールを放出してください。
 - コントロールボックスの操作切替スイッチを自動側に倒してください。
⇒自動でロールが放出されます。

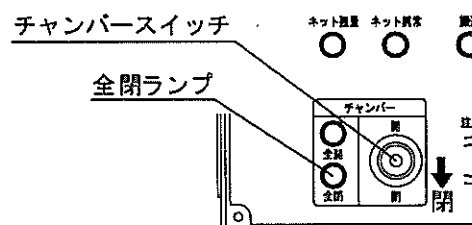
操作切替スイッチを自動側に倒す



- b. ①コントロールボックスのチャンバースイッチを「開」側に全開のランプが点灯するまで、倒し続けてください。



- ②ロールの放出が確認できましたら、コントロールボックスのチャンバースイッチを「閉」側に全閉ランプが点灯するまで、倒し続けてください。



⚠ 注意

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。

- ネットの巻付が完了したロールを長時間成形室で回し続けると、ネット破れの原因となり、放出時にロールの型崩れの原因となりますので、ネ

収穫作業のしかた

ット巻付終了後は速やかに放出してください。

やむを得ず成形室にロールを留めておく場合は、ベールクラッチを「切」にしてください。

【重要】

ロール放出時はかならず直進状態で行ってください。

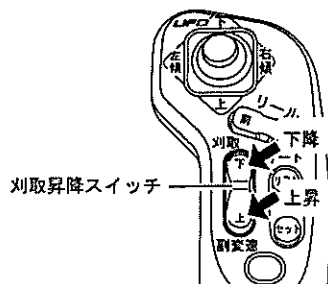
旋回しながらロール放出を行いますと、キッカーを破損するおそれがあります。

16. 刈り終わったら、以下の操作をしてください。

- 1) オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にしてください。
- 2) 駐車ブレーキをかけてください。
- 3) ハーベスタ部に未切断の作物がないことを確認後、(シュートヘッドから切断された作物が吹出していない)ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

②作業中の方向転換

刈取っている条が終わり、機体を方向転換する場合は、オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチで、ピックアップタインが地面に接しない程度(10cm～15cm)に上げてください。



【重要】

●刈取りが終了しても旋回中は、ベールクラッチを「切」にして、エンジン回転を下げないでください。ハーベスタ部では、作物の処理が続いています。

●刈取オートリフトを使用すると、設定している刈高さに、刈取部が自動的に上昇します。

(120ページ参照)

③作業速度の選び方

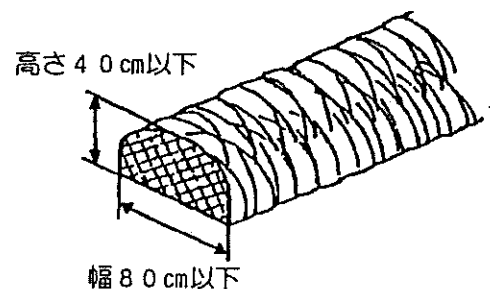
センターディスプレイの負荷モニターが80%以下となるように、作物の状態や、使用条件に合わせて、副変速レバーとオールマイティシフトレバーを調節し、最適な状態で使用してください。

【重要】

負荷が80%を越える作業速度で作業していると、ハーベスタ部での詰まりの原因になります。

④牧草の拾い上げ方法

- 1) 水分が60%以下になるように予乾してください。
- 2) ウインドローを作ってください
牧草の拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。
- 3) ウインドローの大きさ
ウインドローの大きさは、下図に示す大きさと、できるだけ均一なウインドローにしてください。



収穫作業のしかた

【注意】

ウインドローが大きすぎると詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。上図の寸法を守ったウインドローを作ってから作業をしてください。

【注意】 切断わらと長わらの拾い上げ方法

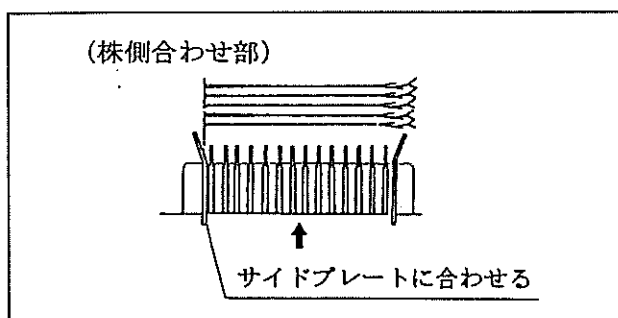
- 切断ワラを拾うときはウインドローを作ってください。

牧草の拾い上げ梱包と同様に、ウインドローを作って作業すると、能率が上がり、拾い残しも少なくなります。

この場合、6～8条分を集めてウインドローを作ってください。

(ウインドローの大きさ及び梱包作業は、前項を参考にしてください。)

- 長ワラ・立ちワラを拾うときは
(3・4条刈コンバインの長ワラたれ流しのときは)
長ワラの株側をサイドプレートに合わせて走行してください。



- 2条刈コンバインの長ワラたれ流しのときは、必ず集草してください。

【注意】

2列を同時に拾い上げると、詰まりの原因となります。

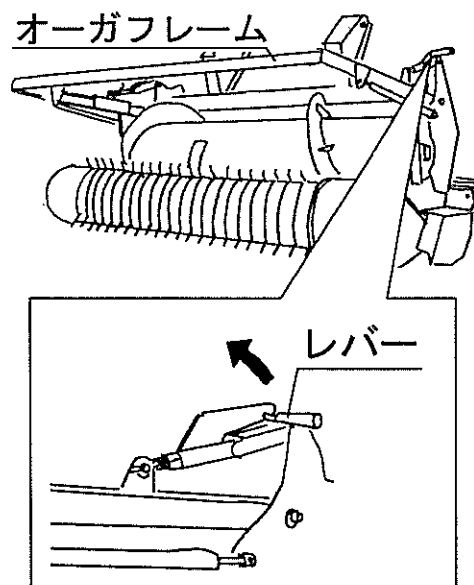
また、ワラの長さが80cm以上のときは2列の重なりが多くなるため、片側のワラを引きずり込みます。これが原因で詰まりが発生しますので、この場合にはウインドローを作ってから拾い上げてください。

⑤オーガに詰まったときの対処法

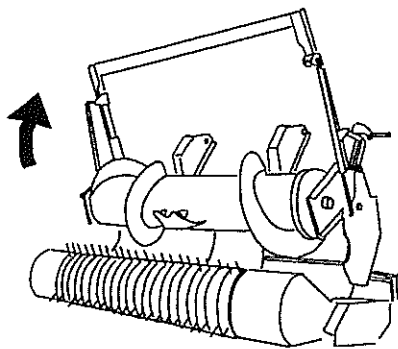
オーガに草が詰まり、オーガの回転が停止した場合は、以下の手順で復帰してください。

- ①ベールクラッチを切りにし、オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置に戻し、機体を停止させて駐車ブレーキをかけた後、エンジンを停止してください。

- ②オーガフレーム左右のレバーを持ち上げてロックを解除し、オーガフレームを持ち上げてください。



収穫作業のしかた



⚠ 注意

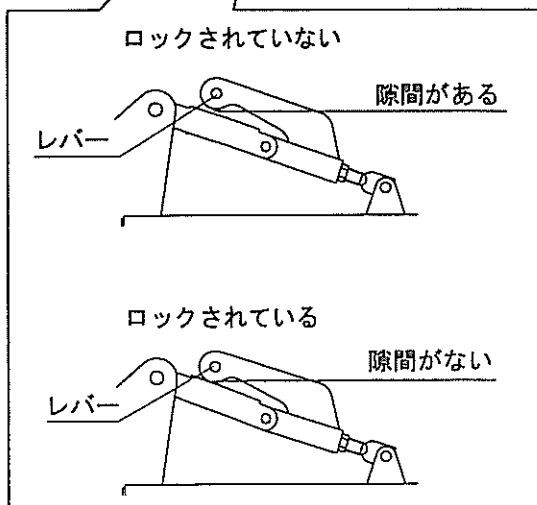
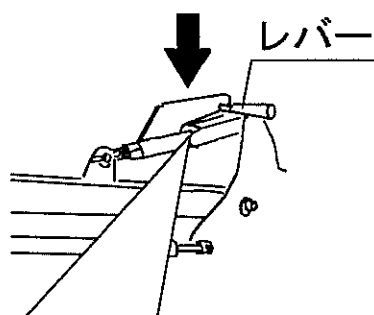
持ち上げたオーガの下に入らないでください。挟まれる危険があります。

【注意】

オーガに詰まった草を取り除き、オーガを降ろした時には、レバーのロックが確実に掛かっていることを確認してください。

ロックが確実にされていないと、オーガでの草詰まりの原因になります。

ロックを確実に
してください



(4) 自動水平制御 (UFO) 装置

⚠ 注意

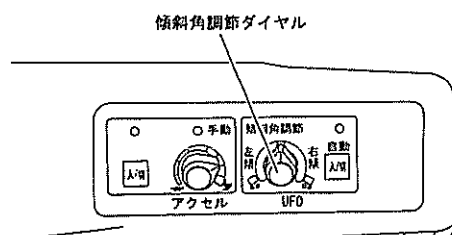
路上や傾斜地での走行、およびトラックへの積み・降ろしをする場合は、必ずベールクラッチレバーを「切」位置にして、UFO自動スイッチを「切」(ランプ消灯)にしてください。機械が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。

車高水平制御装置は、ほ場の条件が変化しても、つねにコンバインを水平に保つ装置のことです。

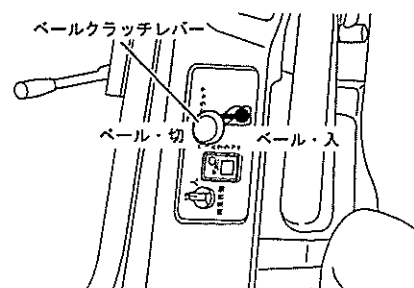
また、傾斜角度調節ダイヤルにより、機体を希望の角度に調節できるので、精度の高い刈取作業が行えます。

〈操作のしかた〉

1. エンジンを始動してください。
2. 傾斜角調節ダイヤルを「水平」にしてください。

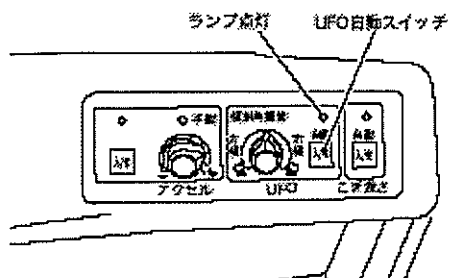


4. エコランプが消灯(アクセルランプ「点灯」)していることを確認し、ベールクラッチレバーを「入」位置にしてください。

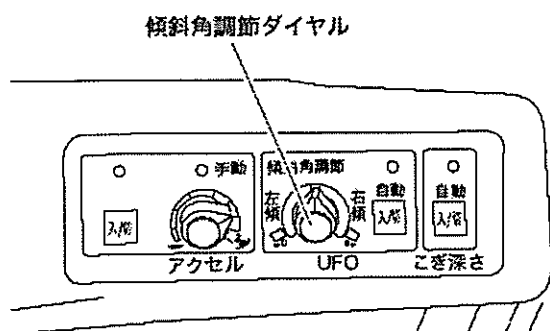


収穫作業のしかた

5. UFO自動スイッチを押して「入」(ランプ点灯)にしてください。機体を自動水平制御します。



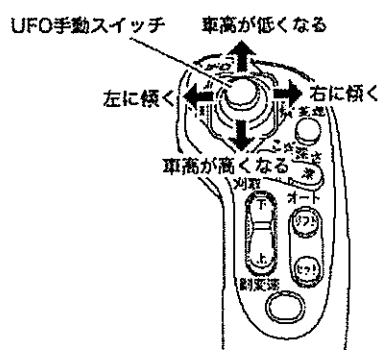
6. 機体を左に傾斜させたいときは、傾斜角調節ダイヤルをゆっくり左側(←)へまわし、右に傾斜させたいときは右側(→)へ回してください。



7. コンバインの車高を調節するときは、UFO手動スイッチを前後に操作してください。
(このとき、水平制御は右側の車高(水平制御の基準高さ)を保持するようにおこなわれます。)

【参考】

車高水平制御装置には、自動制御中でもUFO手動スイッチを操作すると、手動で機体の角度変更や昇降が行えます。



- 車高水平制御装置は、自動・手動ともに左右のクローラ高さを上下することで傾きを制御しています。
- UFO自動レバーの「入」「切」に関係なく、ベールクラッチレバーを「切」位置にすると、左のクローラの車高は、元の高さの10%、右のクローラの車高は、元の高さの20%の位置まで下降します。この後、再びベールクラッチレバーを「入」位置にすると、機体が元の高さ(最後に車高調節スイッチで車高を調節した高さ)に戻ります。
- UFO自動制御は、UFO自動スイッチが「入」(ランプ点灯)、ベールクラッチレバーが「入」位置にあるときに作動します。

⚠ 注意

- ベールクラッチレバーを「脱こく・入」位置にしたとき、機体が昇降することがあります。周りに障害物がないことを十分に確認してから操作を行ってください。
- UFO手動スイッチでコンバインの傾きを変えても、水平制御の基準となる高さは変わりません。
- 自動制御中に手動で機体の角度や車高を変更したときは、自動制御を2秒間禁止し、その後自動に復帰します。

【注意】

本機を水洗いする場合は、スイッチ・パネル・コントローラ付近に水がかからないように注意してください。

収穫作業のしかた

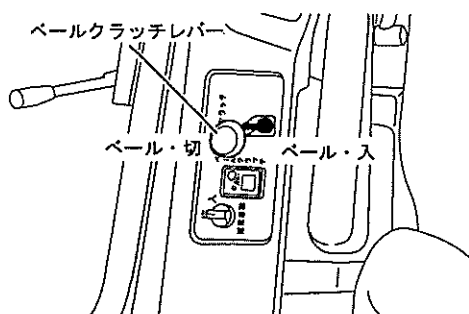
(5) 刈取オートリフト・

刈取オートセット装置

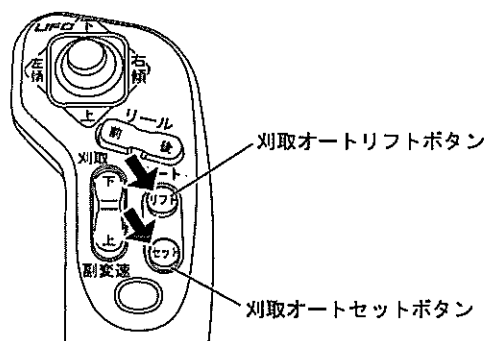
刈取オートリフト・刈取オートセットボタンを押すだけで、設定している高さに刈取部が上昇・下降します。

〈操作のしかた〉

1. エンジンを始動してください。
2. エコランプが消灯（アクセルランプ「点灯」）していることを確認し、ベールクラッチレバーを「入」位置にしてください。



3. 刈取オートリフトボタンを押してください。刈取部が設定位置まで上昇します。

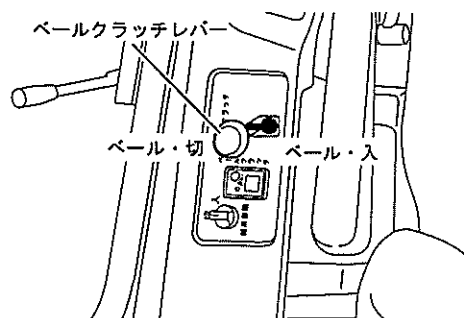


4. 刈取オートセットボタンを押してください。オートセット高さ調節ダイヤルの設定位置まで下降します。

〈刈取オートリフト・刈取オートセット位置の設定のしかた〉

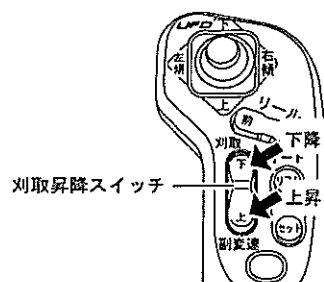
刈取部の刈取オートリフト・刈取オートセット位置を自由に設定することができます。設定した位置は、キースイッチを切っても記憶されます。

1. エンジンを始動してください。
2. ベールクラッチレバーは「切」位置のままにしてください。

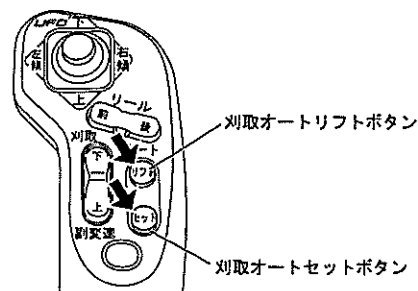


刈取オートリフト高さ設定の場合

3. 刈取昇降スイッチで設定したい高さまで、刈取部を上昇させてください。



4. 刈取オートリフトボタンを5秒以上押し続けると、はじめにブザーが断続的に鳴り、設定が完了すると、約1秒間ブザーが連続で鳴ります。



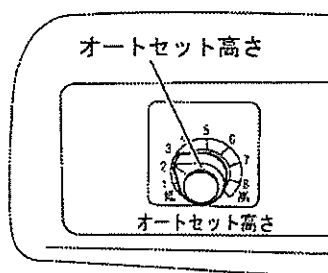
収穫作業のしかた

【参考】

刈取オートリフトボタンでの設定高さは、約20 cmから最上げ位置までの範囲で調節できます。

刈取オートセット高さ設定の場合

3. オートセット高さ調節ダイヤルで、刈取部を設定したい高さに調節します。



【参考】

オートセット高さ調節ダイヤルで設定できる範囲は各アタッチによって異なります。

ロークropp	約0 cm
リールヘッダ	セフティリフトが作動するまで
ピックアップ	約0 cm

(6) セフティリフト（リールヘッダのみ）

ベールクラッチが「入」の状態であ場の凸に、センサーソリが接地すると、刈取部が自動的に一定量上昇し、刈刃が土に突込まないようにします。

【注意】

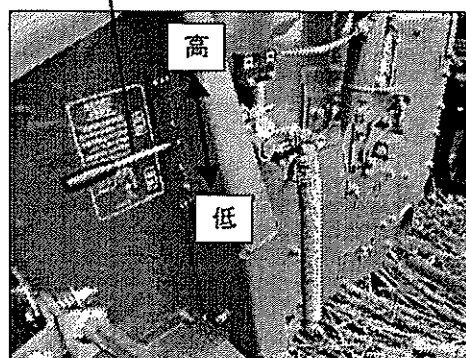
1. セフティリフトは、上昇のみ作動し、下降はしません。下降は手動で行ってください。
2. センサーソリ位置の調節により、刈高さが約50 mm～約150 mmまで変化します。

3. センサーソリの調節は、刈取部左側のレバーで行います。



センサーソリ

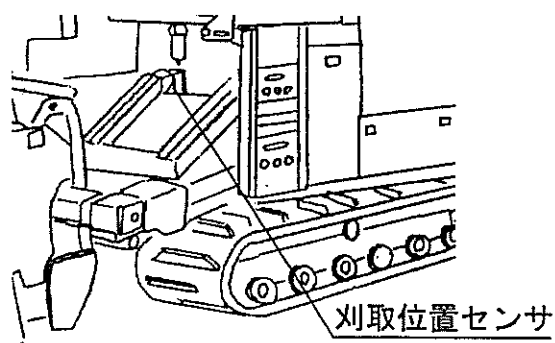
セフティリフト調節レバー



レバー操作は刈取部が地面に接地した状態で行ってください。

【重要】

刈取位置センサにワラや雑草がからんだり、泥が詰まっていると、適正な制御が行われないことがありますので、必ず取り除いてください。



収穫作業のしかた

(7) 刈取バックアップ装置

刈取バックアップ装置とは、機械の損傷を防止するための補助的な装置です。

ベールクラッチレバー「入」位置のときは、機体を後進すると、オートリフト高さまで上昇します。

【重要】

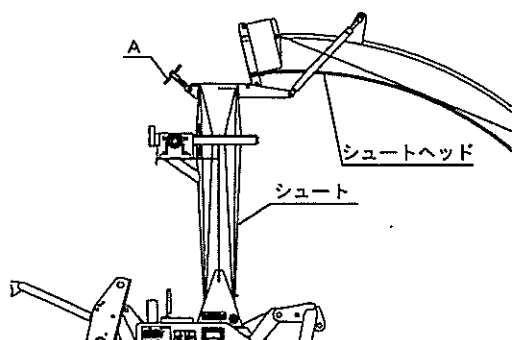
後進するときは、周囲の状況に注意して、刈取部を上昇させてから後進してください。

(8) ハーベスタに詰まったときの

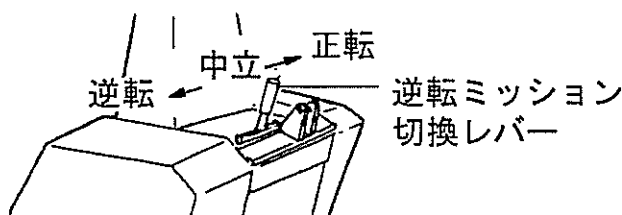
対処方法

ハーベスタ（シュート）にコーン等が詰まった場合以下の方法で詰まりを取り除いてください。

- ①ベールクラッチを「切」にします。
(完全にハーベスタが停止していることを確認してください。)
- ②キーをONの位置にし、シュートヘッドを倒すのに十分な広さがある方向に旋回させ、本機のキーをOFFにします。
- ③下図Aのナットを緩め、シュートヘッドを倒します。



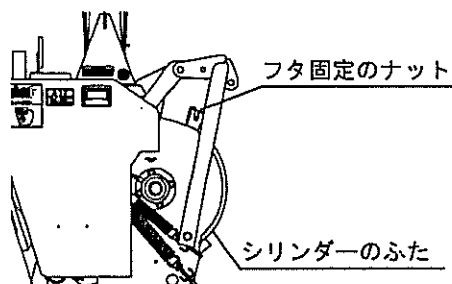
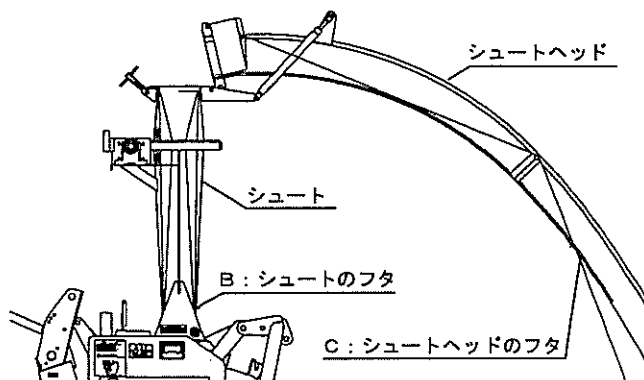
- ④逆転ミッションの切換レバーを「中立」の位置にします。



- ⑤シュート及びシュートヘッドのフタ（B、C）を外し、詰まったコーン等を取り除いてください。

(手でシリンダー内の詰まりを取り除くときに、シリンダーが手で軽く回ることを確認してください。)

(シリンダーのフタを取ると、シリンダー内の詰まりを早く除去できます。)



【注意】

- シュート内の詰まりを取り除く場合には、カッターヘッドのナイフに手が触れることがありますので、ナイフで手を切らないように十分注意してください。
- 本機を動かす場合は必ずシリンダーのふたを取付けてください。
外したまま動かしますと、けがをする恐れがあるばかりでなく、本機の破損の原因となります

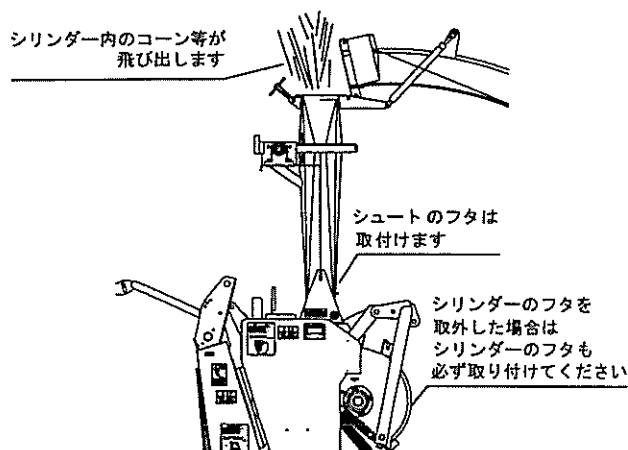
- ⑥シュートヘッドを倒したまま、シュート

収穫作業のしかた

⑥シュートヘッドを倒したまま、シュートとシュートヘッドのフタを取付け、(シリンダーのフタを取外した場合はフタを取付けてください) 逆転ミッションの切換レバーは「中立」のまま、エンジンをかけ、エコモード切替えスイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ「点灯」状態)にし、ベールクラッチを「入」にします。

⑦ハーベスタが回転し始めましたらエコモード切替えスイッチを「入」(エコランプ「点灯」・アクセルランプ「消灯」状態)にし、シリンダー内のコーン等を吹き上げます。

コーン等の吹き上げがなくなったら、ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止します。



⑦逆転ミッションの切換レバーを「逆転」に入れ、エンジンをかけます。

⑧エコモード切替えスイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ「点灯」状態)にし、ベールクラッチを「入」にし、アイドリングでフィードロールに詰まったコーン等を吐き出します。吐き出しが終わったら、ベールクラッチを「切」にし、エンジンを止めてください。

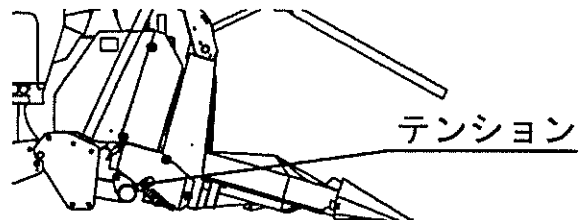
[注意]

●切換レバーが「逆転」の状態では高速回転はしないでください。

機械の破損の原因となります。

●逆転後、ロークロップおよびピックアップアタッチの駆動チェーンテンションが外れている場合があります。

作業前には必ずテンションが正規の位置にあるか確認してください。



⑨逆転ミッションの切換レバーを「正転」に入れ、シュートヘッドを持ち上げて、本機に固定します。

⑩キーを「ON」の位置にし、シュートヘッドを作業位置(機体後方)に旋回させます。

(9) 安全装置について

過負荷から駆動部を保護するために、以下の部分に安全装置があります。

過負荷により、これらの安全装置がはたらいた場合は以下の処置をおこなってください。

⚠ 注意

シェアボルトの交換および詰まりを取り除く時には、必ずエンジンを停止させてください。

[重要]

シェアボルトは規定のサイズ・種類以外のものは使用しないでください。

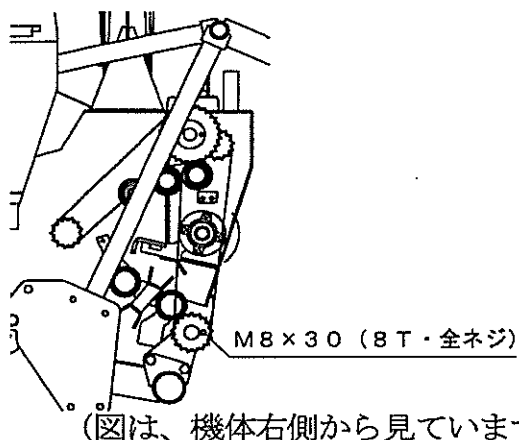
機械に重大な破損を及ぼすおそれがあります。

収穫作業のしかた

2ヶ所のシェアボルトとジョイントクラッチがあります。

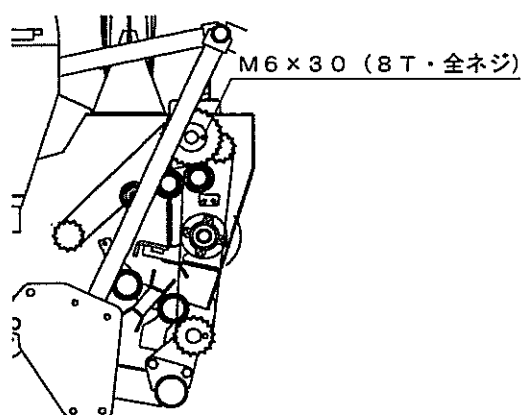
●アタッチのみが動かないとき

⇒右側の補助カバー及びカバーを開けて、アタッチ駆動チェーンのシェアボルト (M8×30 (8T・全ネジ)) を交換してください。



●アタッチとフィードロールの両方が動かないとき

⇒右側の補助カバー及びカバーを開けて、逆転ミッション入力スプロケットのシェアボルト (M6×30 (8T・全ネジ)) を交換してください。



(図は、機体右側から見ています。)

[参考]

ハーベスタ本体のシェアボルトを交換するときは、逆転ミッションを「中立」(60ページ参照) にすると、ス

ムーズに交換できます。

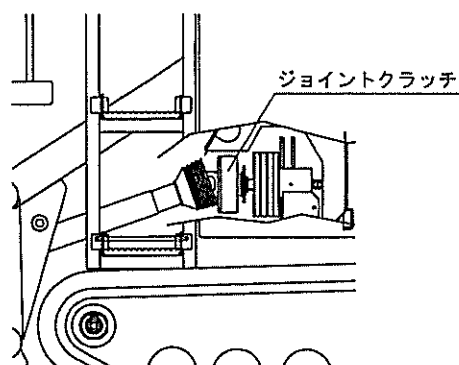
●ハーベスタ部の全てが動かないとき

⇒ハーベスタのシリンダカッタ内の詰まりが原因で、ジョイントクラッチが滑っていますので、シリンダカッタ内の詰まりを取り除き、ジョイントクラッチの温度が常温に戻ってから作業を再開してください。

[重要]

ジョイントクラッチが滑ったままの状態が続きますと、クラッチ部から、煙が発生します。この状態を続ける(何度もくり返す) と、ジョイントクラッチが伝達できるトルクが落ち、ハーベスタ部での詰まり等が発生しやすくなります。

この場合は、ジョイントを交換するか、販売店に、クラッチ部の調整を依頼してください。



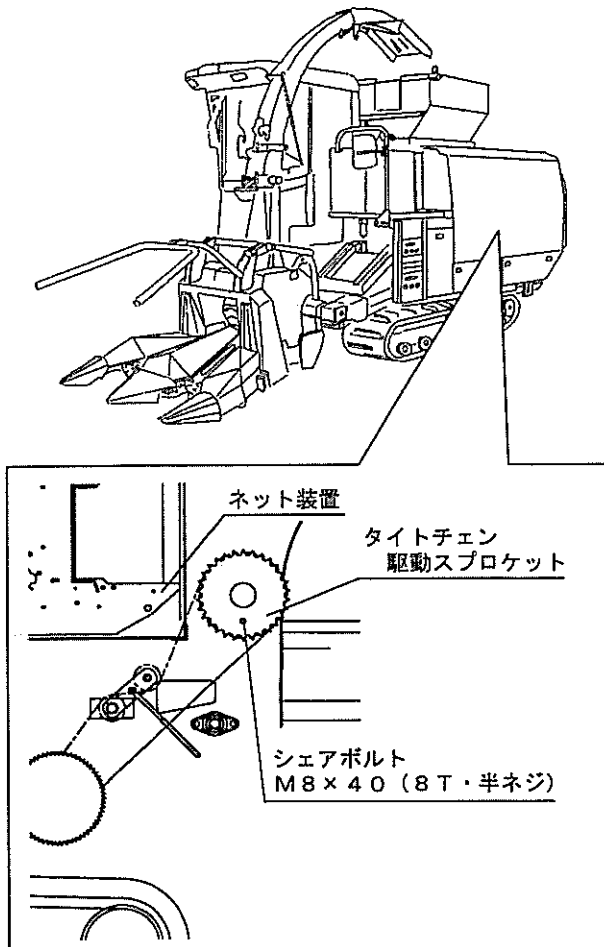
(図は、機体左側から見ています。)

〈ロールベアラ部〉

収穫作業のしかた

ベークラッチ（64ページ参照）を「切」にしていないのに、ベークが動かない

⇒本体左側のカバーを開けて、タイトチェーン駆動スプロケットのシェアボルト（M8×40（8T・半ネジ））を交換してください。



（図は、機体左側から見ています。）

【参考】

ロールベークのシェアボルトを交換するときは、ベークラッチを「切」（64ページ参照）にすると、スムーズに交換できます。

〈リールヘッド部〉

プラットホームオーガが詰まると、リミットクラッチが作動し「バリバリバリ」と音が鳴ります。

このときには、シュートヘッドからの草の吹出しが終了したのを確認してから、エンジンを停止し、プラットホームオーガの詰まりを取り除いてください。

【参考】

ジョイントクラッチが作動したときでも、ハーベスタ内では作物の処理が続いています。直ぐベークラッチを「切」およびエンジンの停止を行いますと、ハーベスタ部での詰まりの原因になります。

シュートヘッドからの吹き出しが終わったのを確認してから、ベークラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

〈ピックアップ部〉

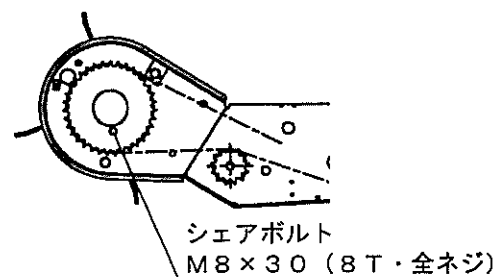
●オーガが回転しないとき

⇒オーガの詰まりにより、トルクリミッターが作動しています。

オーガを上げ（117ページ参照）、詰まりを取り除いてください。

●ピックアップタインが回らないとき

⇒ピックアップ左側のカバーを開けて、シェアボルト（M8×30（8T・全ネジ））を交換してください。



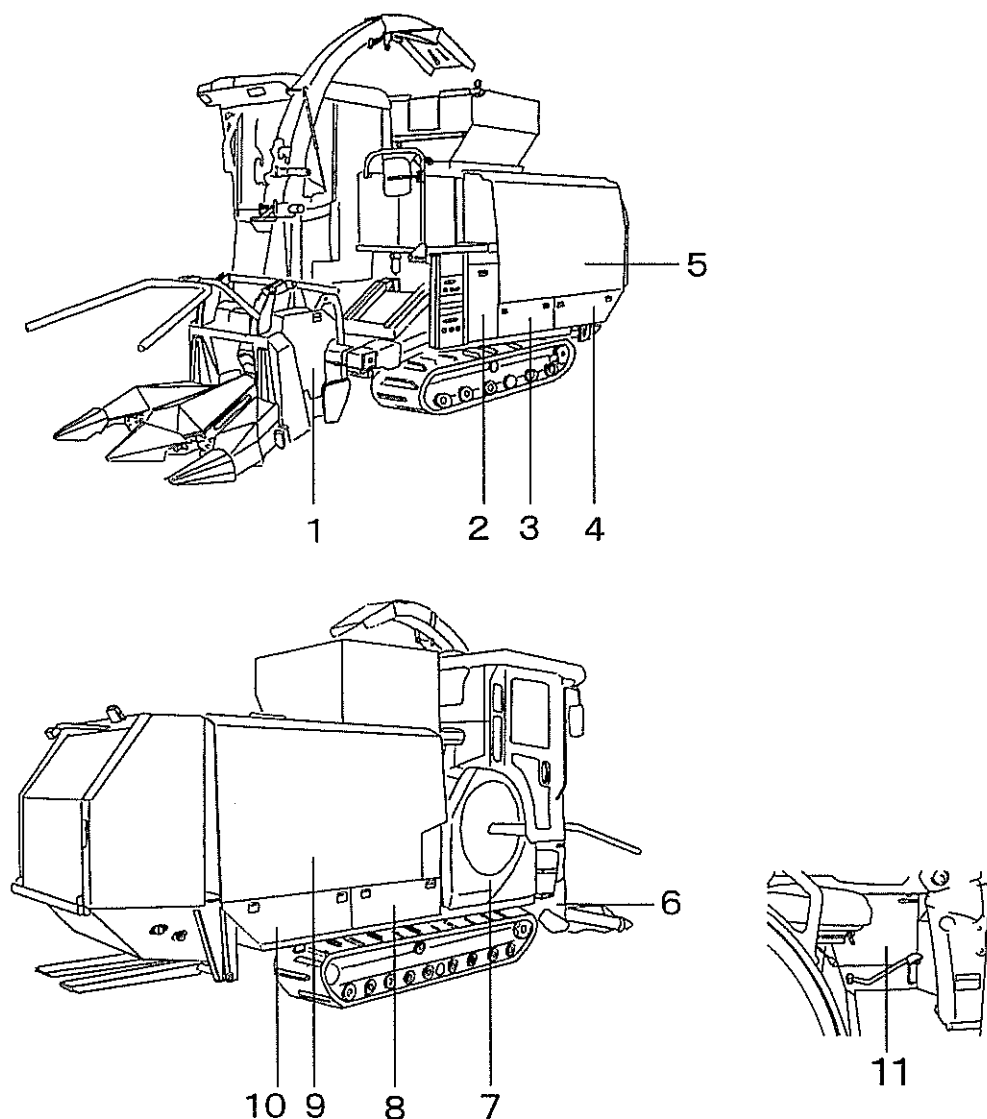
（図は、機体右側から見ています。）

各部の脱着・オープン of のしかた

⚠ 警告

- 各部の脱着・オープンをするときは、平坦で安全な場所で必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。ケガをするおそれがあります。
- 取外したカバー類は、必ず取付けてください。外したままで運転するとケガをするおそれがあります。

(1) 主なカバーについて



(絵はロークropp仕様)

1. ハーベスタカバーL
2. サイドカバーL
3. アンダーカバーL 1
4. アンダーカバーL 2
5. カバーL

6. ハーベスタカバーR
7. エンジンルームカバー
8. アンダーカバーR 1
9. カバーR
10. アンダーカバーR 2
11. サイドコラムカバー

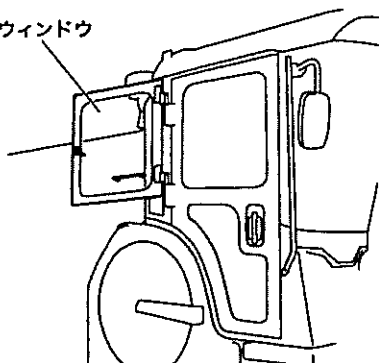
各部の脱着・オープンのしかた

(2) カバーL・Rの開閉のしかた

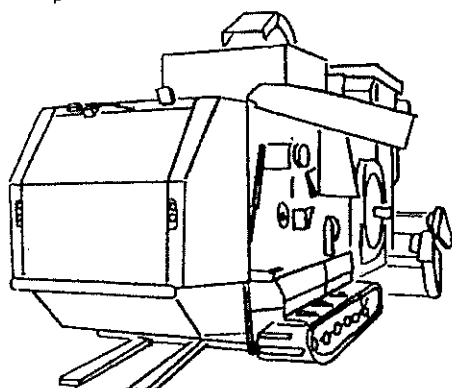
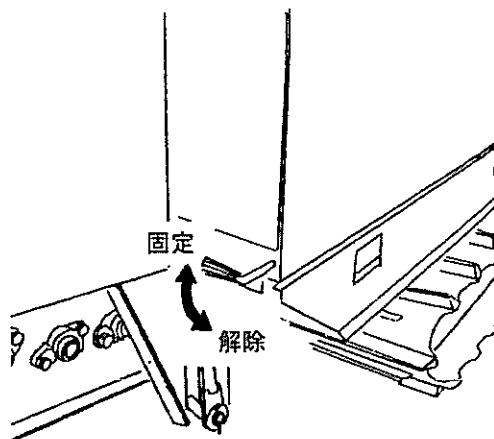
〈開け方〉

1. キャビンのドア・ドアウインドウを確実に閉めてください。
(52ページ参照)

ドアウインドウ

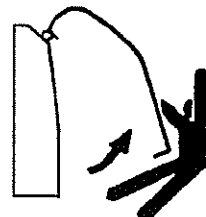


2. カバーのレバーを下方方向に回転させますと、ロックが外れカバーが開きます。



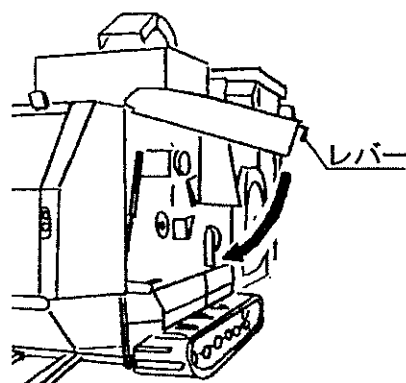
[注意]

カバーL・Rを開くときはカバーの側面に立たないでください。カバーはロックが外れると、ガスシリンダにより自動的に開き、接触するおそれがあります。



〈閉め方〉

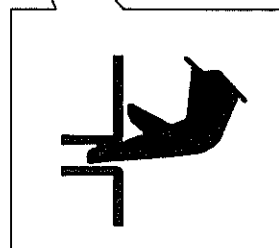
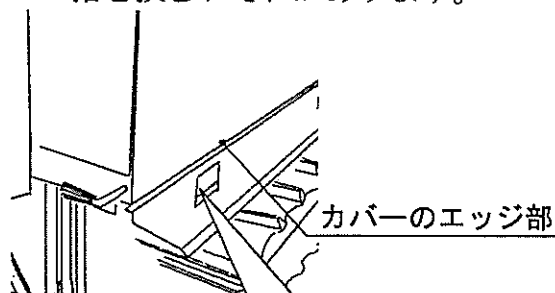
1. カバーのレバーを持ち閉めてください。



2. カバーのレバーでロックが確実に掛かっていることを確認してください。

[注意]

カバーのエッジ部を持ってカバーを閉めないでください。
指を挟むおそれがあります。

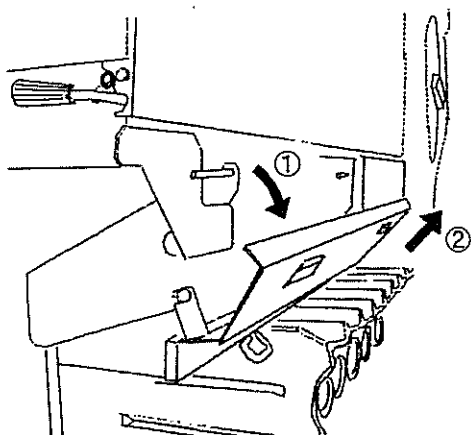


各部の脱着・オープンのしかた

(3) サイドカバー・アンダーカバーの開け かた取外しかた

〈開け方〉

1. カバーを開いてください。
2. 矢印②の方向に引くとカバーを取外せます。



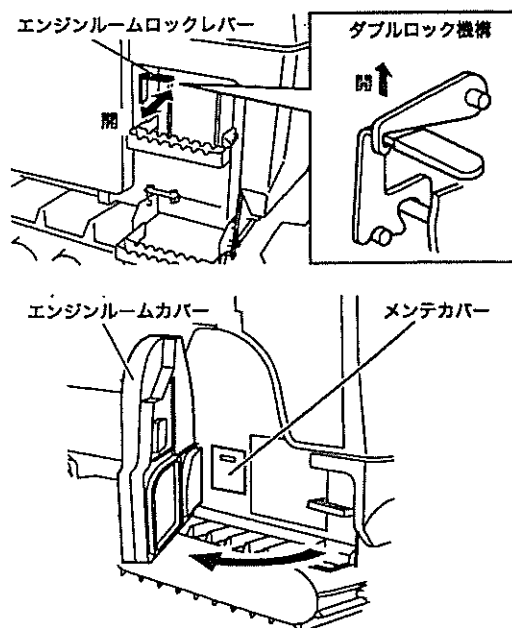
〔重要〕

必ず両手で持ってください。
カバーが落下し破損の原因になります。

(4) エンジンルームのオープンのしかた

〈オープンのしかた〉

1. ドアを確実に閉めてください。(52ページ参照)
2. エンジンルームロックレバーは、ダブルロック機構になっていますので、まずロックレバーを「開」にしてください。
3. エンジンルームロックレバーを手前に引いてください。ロックが外れます。エンジンルームカバーをオープンしてください。



〈収納のしかた〉

1. ドアを確実に閉めてください。
2. エンジンルームカバーを閉じると自動的にロックされます。

〔参考〕

- エンジンルームカバーを閉じたときは、ロックが確実にできているか確認してください。
- トラックに積み込んで移動するときは、ダブルロックを掛けてください。

アタッチの着脱のしかた

アタッチの着脱のしかた

⚠ 注意

アタッチの着脱を行うときは、地面が水平な場所で行ってください。

[注意]

本機のハーベスタ部にカバーが装着されていますと、アタッチの着脱ができません。

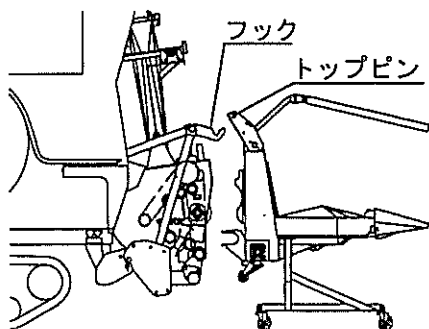
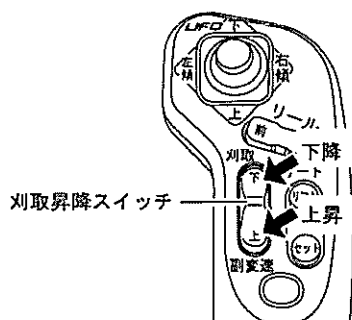
着脱時には、取外して着脱の妨げにならない場所においてください。

<ロックロップ>

着脱のしかた

①エンジンを始動して（75ページ参照）本機をアタッチに対して垂直にしてください。

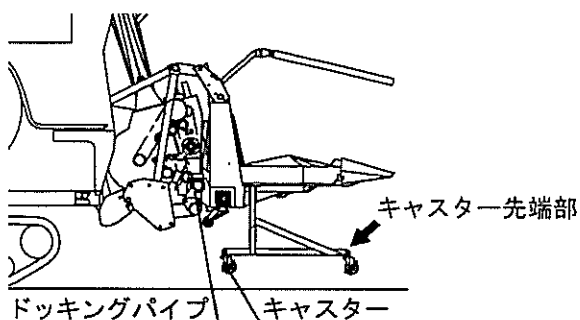
②刈取昇降スイッチで、ハーベスタを上昇または下降させ、ロックロップフレームのトップピンの下にハーベスタフレームのフックが入る位置にしてください。



③刈取昇降スイッチで、ハーベスタを上昇させ、キャスターが浮く位置まで持ち上げてください。

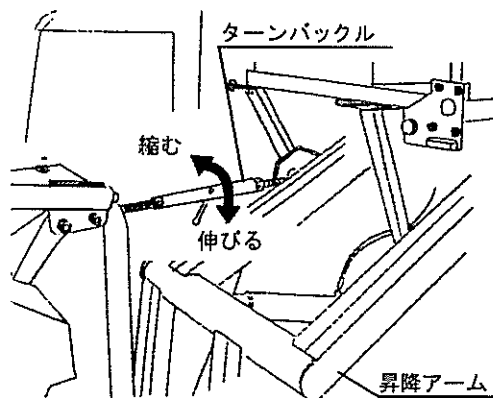
このとき、ドッキングパイプにロックロップのフレームがはまり込んでいる事を確認してください。

はまり込んでいない場合は再度ドッキングを行うか、キャスターの先端を足で踏んでください。



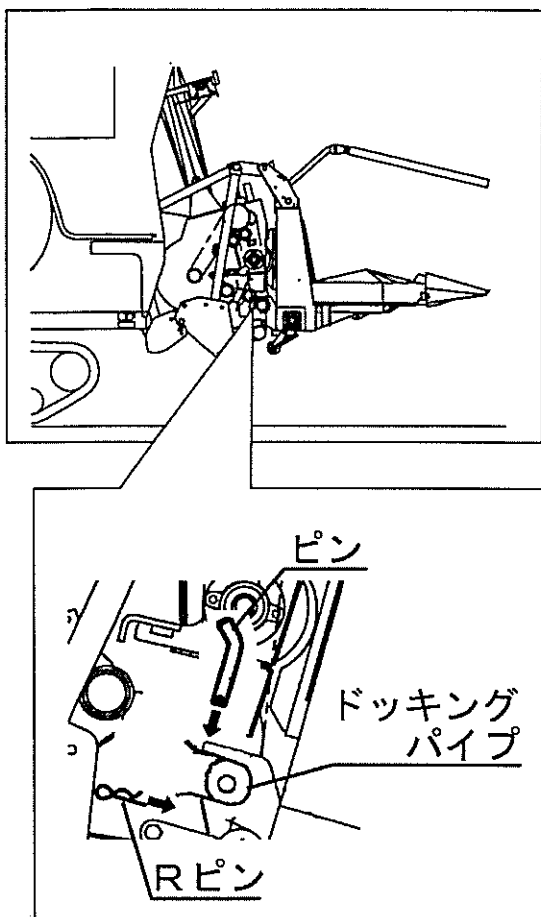
[参考]

ロックロップをフックで引掛ける時に、フックより先にドッキングパイプが接触し、拾い上げられない場合は、昇降フレームのターンバックルを伸ばしてください。

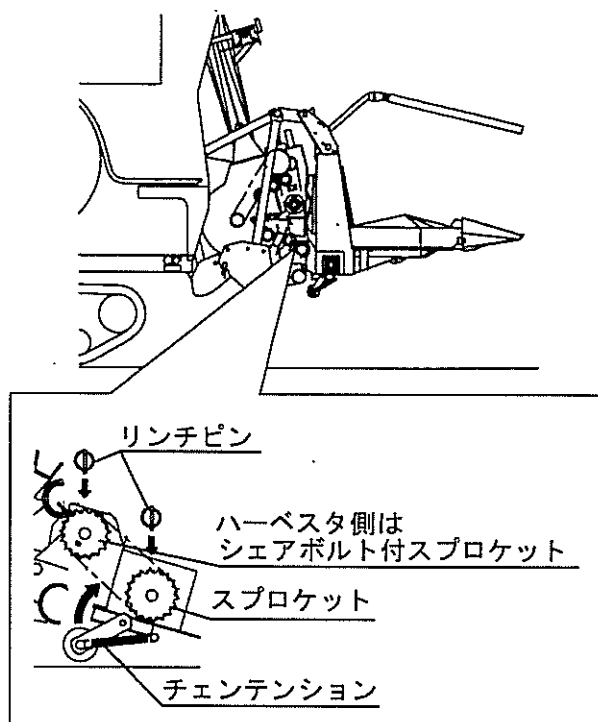


アタッチの着脱のしかた

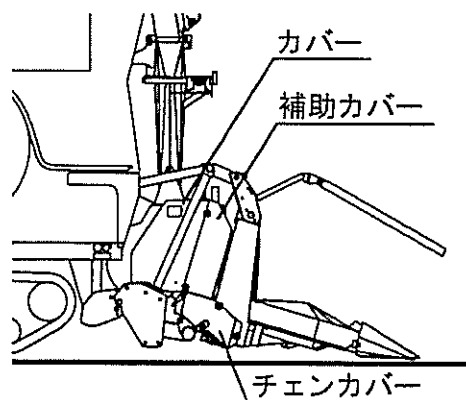
- ④昇降シリンダのストップバルブを「閉」にし（61ページ参照）キャスターを取り外して、ピンを差し込み、Rピンで抜け止めをしてください。



- ⑤ハーベスタ及びロックロップにスプロケットとチェーンを組み込み、リンチピンで抜け止めをし、チェーンテンションを持ち上げてください。

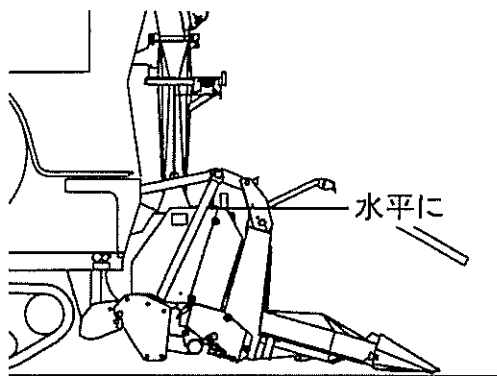


- ⑥左右のハーベスタ部のカバー・右側（キャビン側）の補助カバー及びロックロップ部のチェンカバーを取付けた後、昇降シリンダのストップバルブを「開」にして、ハーベスタを作業位置まで下降させてください。



アタッチの着脱のしかた

- ⑦作業姿勢がとれましたら、ハーベスタ本体が地面に対して水平になるようにターンバックルで調節してください。



【注意】

装着後初めて動かす場合は、一度ベークラッチを「入」にして、すぐに「切」にし、接触等による異音が発生していないか確認してください。

⚠ 警告

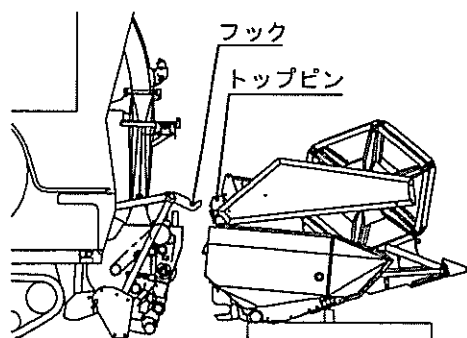
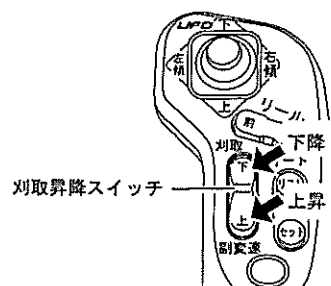
- ハーベスタ部を上昇させた状態で、脱着の作業をする場合は、必ず昇降シリンダをストップバルブでロックしてください。
- 昇降シリンダをロックした後も、ハーベスタ部及びロックロップ部の下には入らないでください。重大な障害を受けるおそれがあります。

ロックロップを取り外す場合は、以上の逆の手順で行ってください。

＜リールヘッダ＞

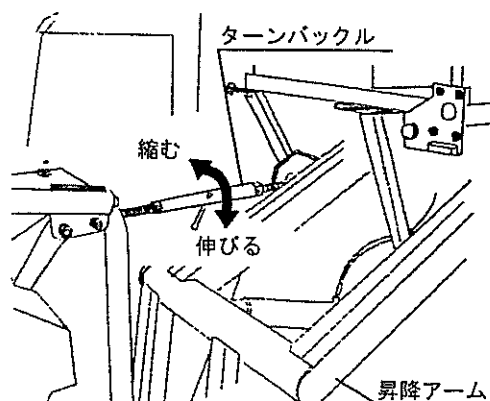
着脱のしかた

- ①エンジンを始動して（75ページ参照）本機をアタッチに対して垂直にしてください。
- ②刈取昇降スイッチで、ハーベスタを上昇または下降させ、リールヘッダフレームのトップピンの下にハーベスタフレームのフックが入る位置にしてください。



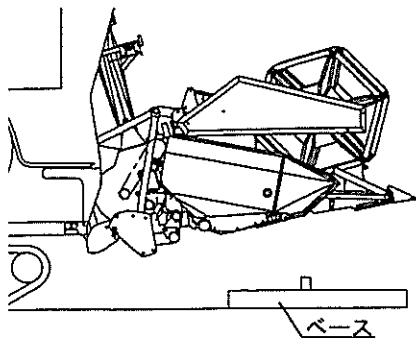
【参考】

ロックロップをフックで引掛ける時に、フックより先にドッキングパイプが接触し、拾い上げられない場合は、昇降フレームのターンバックルを伸ばしてください。

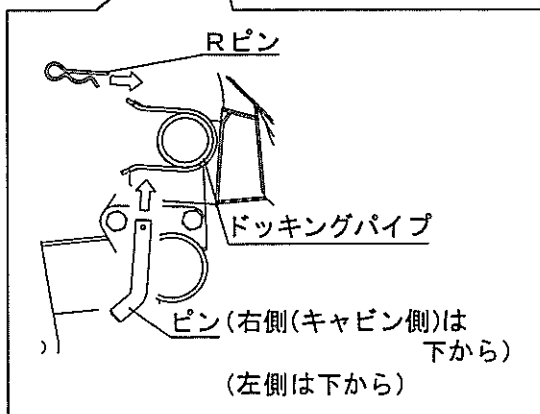
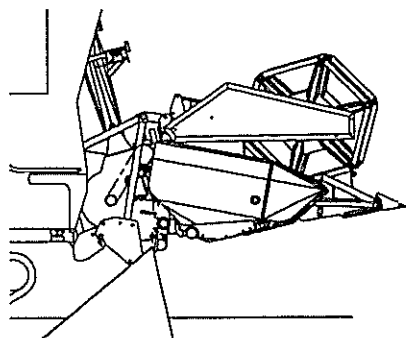


アタッチの着脱のしかた

- ③刈取昇降スイッチで、ハーベスタを上昇させ、リールヘッドがベースから浮く位置まで持ち上げてください。
このとき、ドッキングパイプにリールヘッドのフレームがはまり込んでいる事を確認してください。

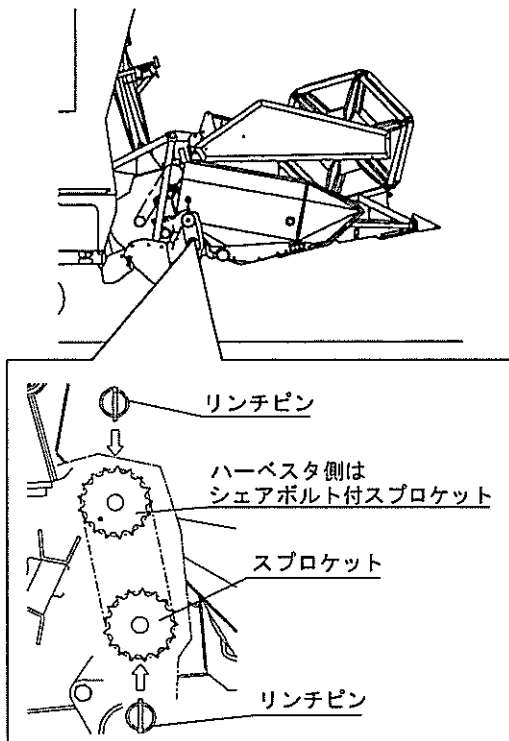


- ④昇降シリンダのストップバルブを「閉」にし(61ページ参照)、右側(キャビン側)は下から、左側は上からピンを差し込み、Rピンで抜け止めをしてください。

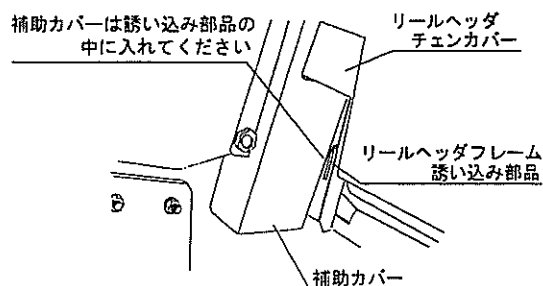
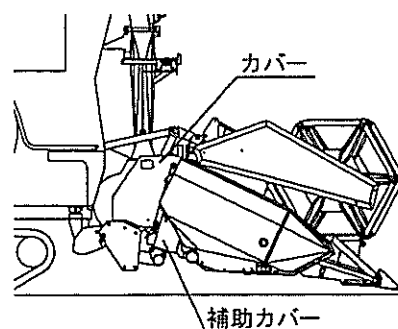


(図は、機体右側(キャビン側)から見ています。)

- ⑤ハーベスタ及びリールヘッドにスプロケットとチェーンを組み込み、リンチピンで抜け止めをしてください。

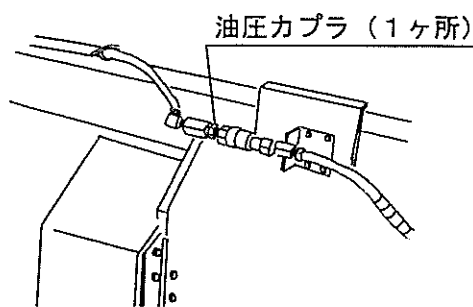
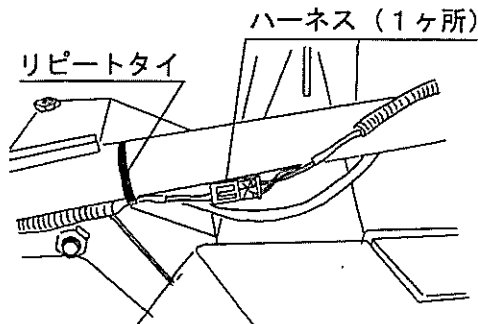


- ⑥左右のハーベスタ部のカバーおよびリールヘッド部のチェンカバーを取付けた後、昇降シリンダのストップバルブを「開」にして、ハーベスタを作業位置まで下降させてください。

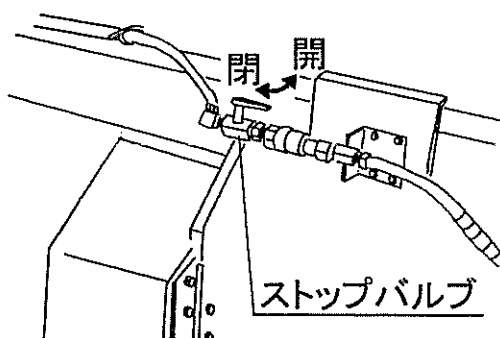


アタッチの着脱のしかた

- ⑦ハーネス（1ヶ所）、油圧カプラ（1ヶ所）をそれぞれ接続し、機材に引っ掛からないようにリピータイで固定してください。



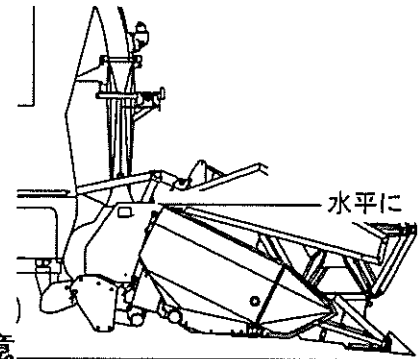
- ⑧油圧カプラのストップバルブを「開」にしてください。



【重要】

リールヘッドを取り外している状態で、リール昇降スイッチを操作すると、カプラ内の圧力が高圧になり、カプラが入りにくくなることがあります。入りにくい場合は、カプラをきれいなウエスで包み、カプラ先端の凸部をハンマーでたたってください。オイルがもれてカプラが入りやすくなります。

- ⑧作業姿勢がとれましたら、ハーベスタ本体が地面に対して水平になるように、ターンバックルで調節してください。



【注意】

装着後初めて動かす場合は、一度ベールクラッチを「入」にして、すぐに「切」にし、接触等による異音が発生していないか確認してください。

⚠ 警告

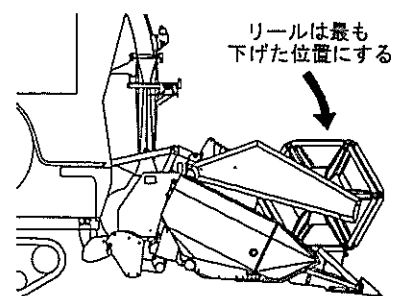
- ハーベスタ部を上昇させた状態で、脱着の作業をする場合は、必ず昇降シリンダをストップバルブでロックしてください。
- 昇降シリンダをロックした後も、ハーベスタ部及びリールヘッド部の下には入らないでください。重大な障害を受けるおそれがあります。

リールヘッドを取り外す場合は、以上の逆の手順で行ってください。

＜取り外し時の注意＞

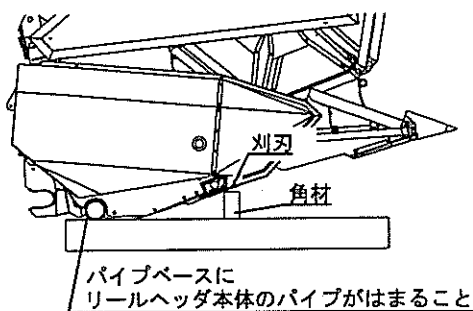
リールヘッドを本機から取り外す場合は以下の点に注意してください。

- ①リールは最も下げた位置にし、リールのストップバルブを「閉」にしてください。



アタッチの着脱のしかた

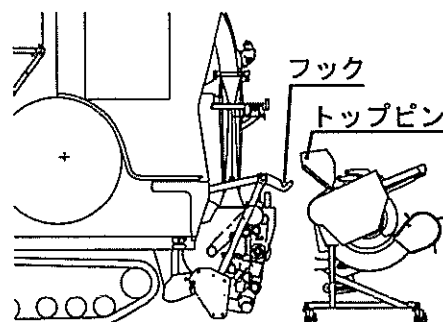
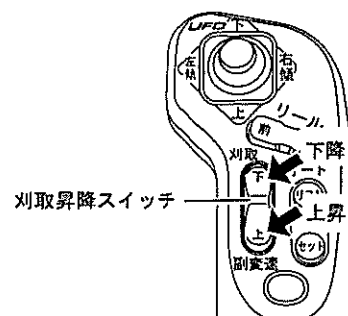
- ②ハーネス、油圧カプラは必ず先に取り外してください。
- ③ベースの上には下図のようにベースの上に確実に置いてください。



<ピックアップ>

着脱のしかた

- ①エンジンを始動して（75ページ参照）本機をアタッチに対して垂直にしてください。
- ②刈取昇降スイッチで、ハーベスタを上昇または下降させ、ピックアップフレームのトップピンの下にハーベスタフレームのフックが入る位置にしてください。

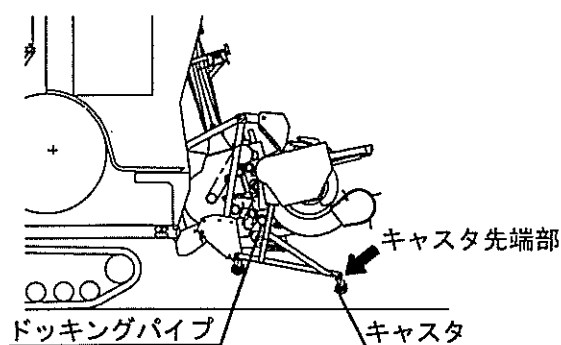


アタッチの着脱のしかた

- ③刈取昇降スイッチで、ハーベスタを上昇させ、キャスターが浮く位置まで持ち上げてください。

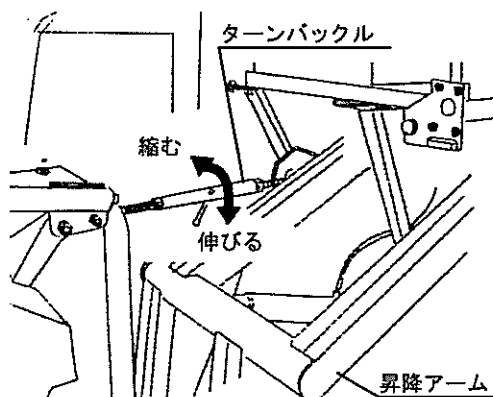
このとき、ドッキングパイプにピックアップのフレームがはまり込んでいる事を確認してください。

はまり込んでいない場合は再度ドッキングを行うか、キャスターの先端を足で踏んでください。

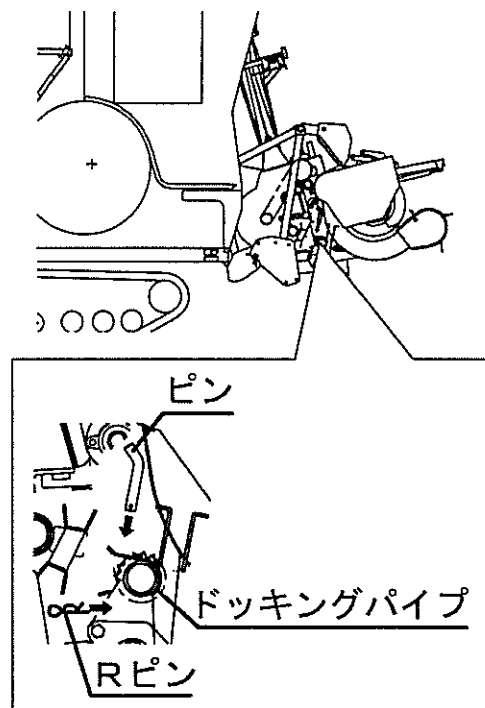


[参考]

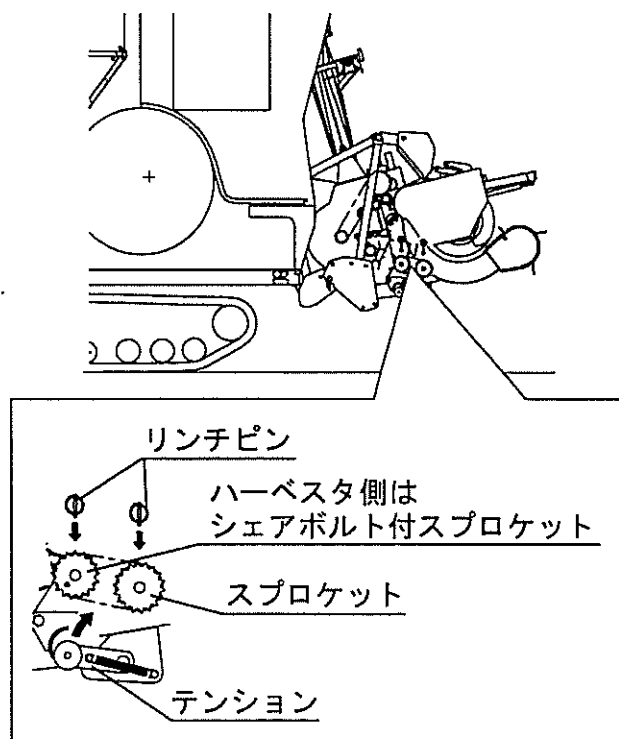
ピックアップをフックで引掛ける時に、フックより先にドッキングパイプが接触し、拾い上げられない場合は、昇降フレームのターンバックルを伸ばしてください。



- ④昇降シリンダのストップバルブを「閉」にし（61ページ参照）キャスターを取り外して、ピンを差し込み、Rピンで抜け止めをしてください。

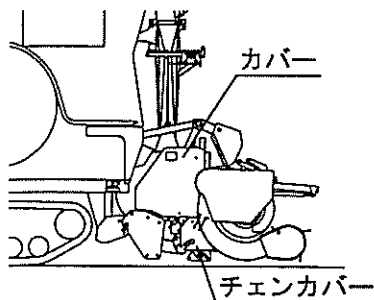


- ⑤ハーベスタ及びロックロップにスプロケットとチェンを組み込み、リンチピンで抜け止めをし、チェーンテンションを持ち上げてください。

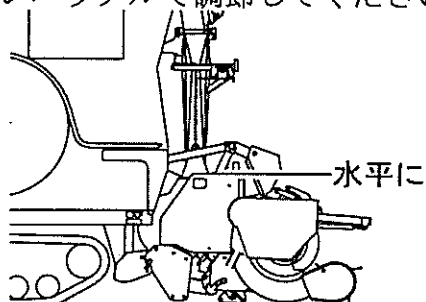


アタッチの着脱のしかた

- ⑥左右のハーベスタ部のカバー及びピックアップ部のチェンカバーを取付けた後、昇降シリンダのストップバルブを「開」にして、ハーベスタを作業位置まで下降させてください。



- ⑦作業姿勢がとれましたら、ハーベスタ本体が地面に対して水平になるようにターンバックルで調節してください。



[注意]

装着後初めて動かす場合は、一度ベールクラッチを「入」にして、すぐに「切」にし、接触等による異音が発生していないか確認してください。

⚠ 警告

- ハーベスタ部を上昇させた状態で、脱着の作業をする場合は、必ず昇降シリンダをストップバルブでロックしてください。
- 昇降シリンダをロックした後も、ハーベスタ部及びピックアップ部の下には入らないでください。重大な障害を受けるおそれがあります。

ピックアップを取り外す場合は、以上の逆の手順で行ってください。

作業後の手入れと格納について

危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。
- エンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。
- 油圧パッケージが熱い間は、オイルを抜いたり給油を絶対にしないでください。オイルなどに引火して、火災やヤケドの原因になります。

警告

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

(1) 機体の洗浄のしかた

作業終了後、本機を水洗いし、水洗い後は下記に従って、掃除を行ってください。

- 回転部に巻き付いているゴミを取り除く。
- 水分をよくふき取る。
- 油をしみこませた布で清掃する。
- 刈刃の先端などサビやすい所にグリスを塗る。
- チェン・ワイヤー類、および回転部や摺動部に注油する。(144ページ参照)
- ベアリング等へのグリスアップ。

[重要]

水洗いをするときは、センサ・スイッチ・パネル・コントローラ付近、およびエンジン部・電装品に水をかけないでください。故障の原因になります。

作業後の手入れと格納について

(2) 各部の掃除のしかた

⚠ 警告

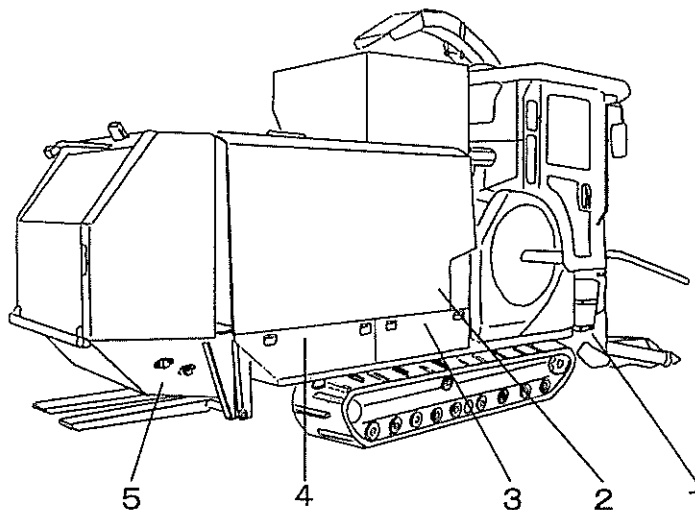
- 掃除をするときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- エンジンをかけたまま手入れをすると、回転刃や刈刃などで手をはさまれ、ケガをするおそれがあります。

[参考]

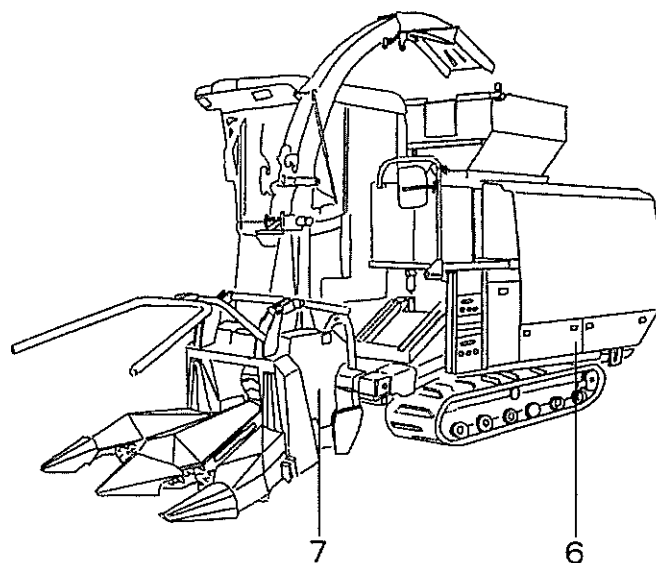
掃除をした後は、取り外したカバーやオープンした箇所を元に戻してください。

材料の品質低下と異品種の混種を防ぐために、ホッパー及びベール内の残留物を取り除き、各部をきれいに掃除してください。

(本機右側)



(本機左側)



(図はロークropp仕様)

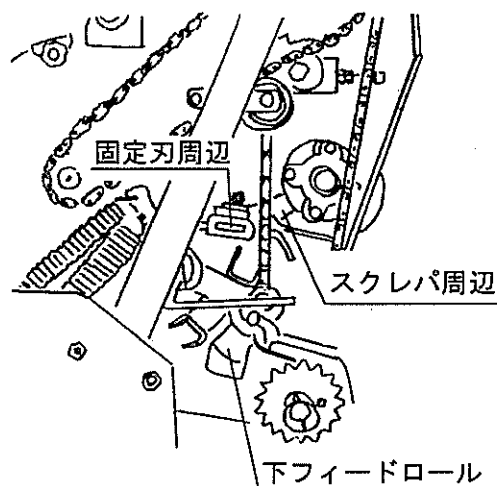
- 1. ハーベスタ右側
- 2. ホッパー内
- 3. 電磁バルブ周辺
- 4. バッテリ周辺

- 5. リヤチャンバー
- 6. ギヤ周辺
- 7. ハーベスタ左側

作業後の手入れと格納について

①ハーベスタ右側

補助カバーとハーベスタカバーを取り外して、固定刃、スクレパ、下フィードロール下部に溜まった作物を取り除いてください。



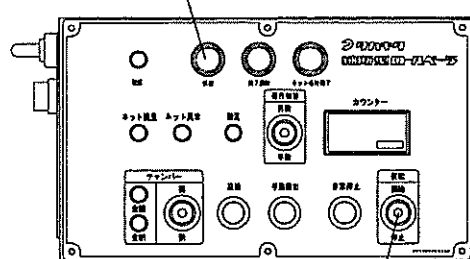
[参考]

固定刃、スクレパに詰まった作物が取り除きにくい場合は、プライヤー等で引き抜いてください。

②ホッパー内

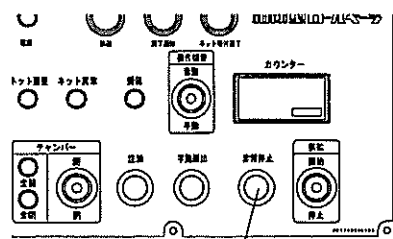
1. エンジンを始動してください。
(75ページ参照)
2. エコモード切替スイッチが「切」になっていることを確認し、ベールクラッチを「入」にしてください。
3. コントロールボックスの供給スイッチを「開始」側に1度倒し、供給ランプ(緑色)が点灯したことを確認してください。

② 緑色のランプが点灯



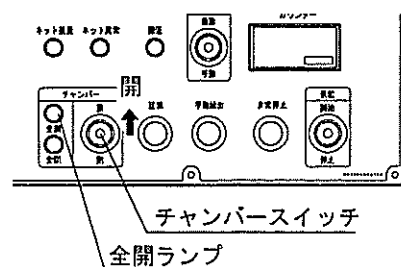
① 供給スイッチを「開始」側に1度倒す

4. エンジン回転はアイドリングのまま、30秒程度動かした後、コントロールボックスの非常停止ボタンを1度押し、供給ランプ(緑色)が消灯したのを確認してください。



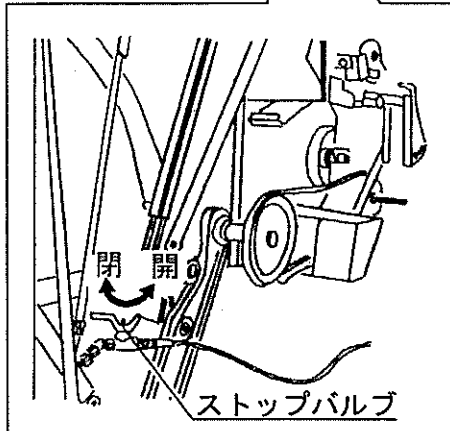
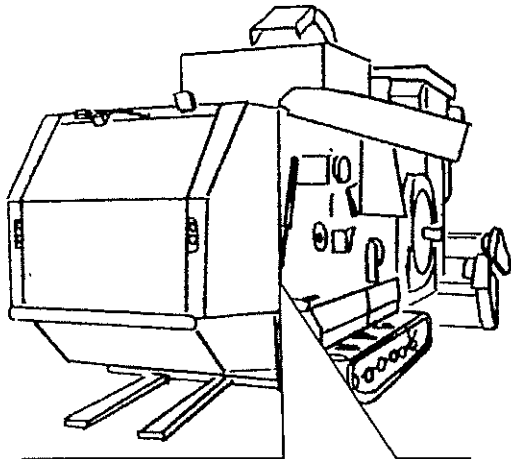
非常停止ボタン

5. コントロールボックスのチャンバースイッチを「開」方向に「全開」ランプが点灯するまで、押し続けてチャンバーを全開にしてください。

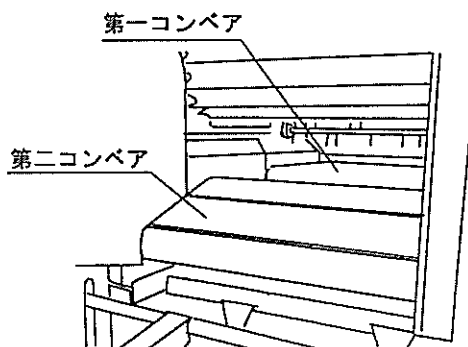


作業後の手入れと格納について

6. ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。
7. 左右のチャンバーストップバルブを「閉」の方向に回し、シリンダロックしてください。



8. 第一・第二コンベアに残った作物をほうき等でかき出してください。

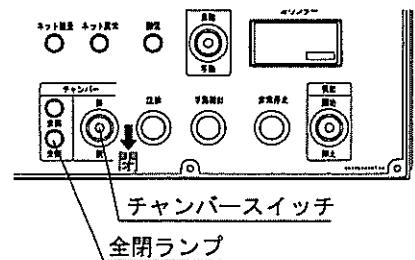


(図は、機体右後ろから見ています。)

【注意】

コンベアを掃除する場合には、先端が鋭利なものは使用しないでください。
コンベアを破損する原因になります。

9. 掃除が終わりましたら、左右のチャンバーストップバルブを「開」の方向に回し、シリンダロックを解除してください。
10. エンジンを始動し、エコモード切替スイッチが切になっているのを確認後、ベールクラッチを「入」にし、コントロールボックスのチャンバースwitchを「閉」方向に「全閉」ランプが点灯するまで、倒し続けてください。



11. ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

作業後の手入れと格納について

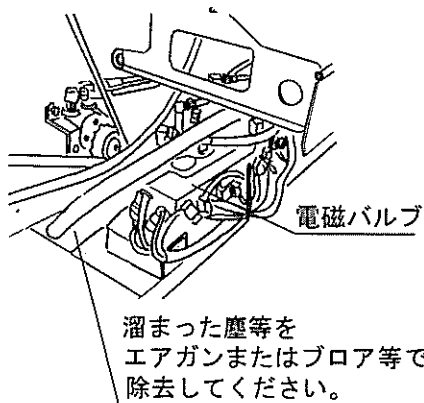
③電磁バルブ周辺

左側のカバーを開け、アンダーカバーを取り外し、電磁バルブ周辺に溜まったほこり等をエアガンまたはブロア等で、除去してください。

放置しておきますと溜まったほこり等がコンベアベルトの中に入りコンベアベルトが破損するおそれがあります。

[注意]

電磁バルブ周辺には水はかけないでください。故障の原因となります。



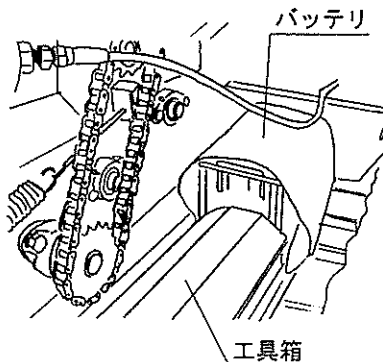
(図は、機体右後ろから見ています。)

④バッテリー周辺

左側のカバーを開け、アンダーカバーを取り外し、バッテリー周辺に溜まった塵等をエアガンまたはブロア等で、除去してください。

[注意]

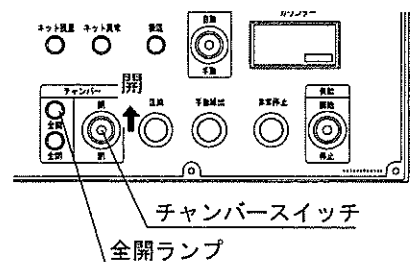
バッテリー周辺には水はかけないでください。故障の原因となります。



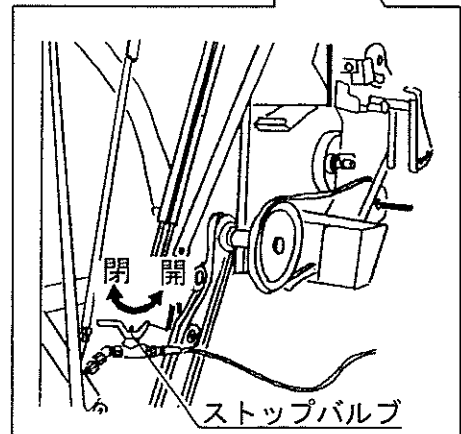
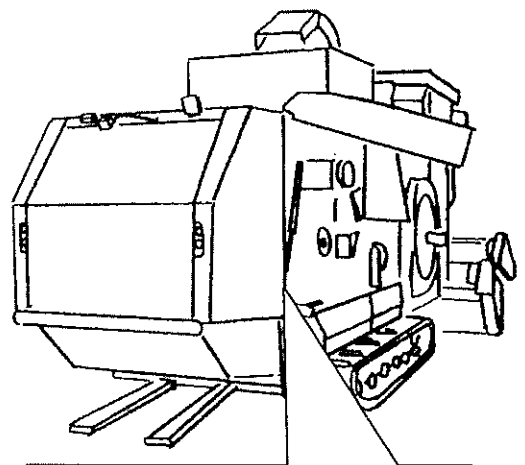
(図は、機体右後ろから見ています。)

⑤リヤチャンバー

1. エンジンを始動してください。
(75ページ参照)
2. エコモード切替スイッチが「切」になっていることを確認し、ベールクラッチを「入」にしてください。
3. コントロールボックスのチャンバースイッチを「開」方向に「全開」ランプが点灯するまで、押し続けてチャンバーを全開にしてください。

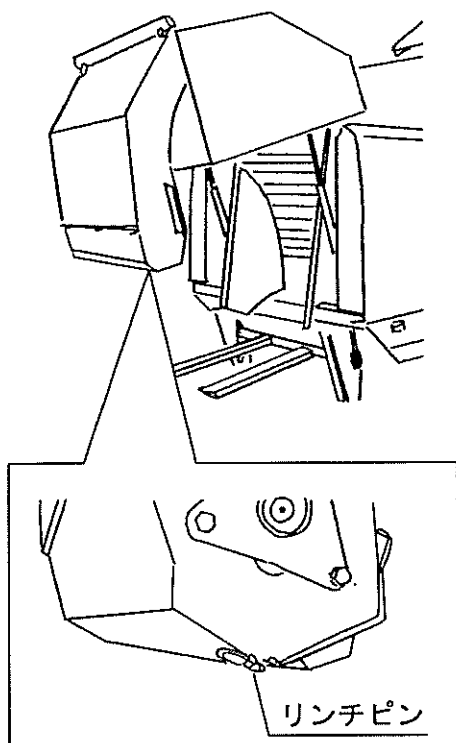


4. ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。
5. 左右のチャンバーストップバルブを「閉」の方向に回し、シリンダロックしてください。

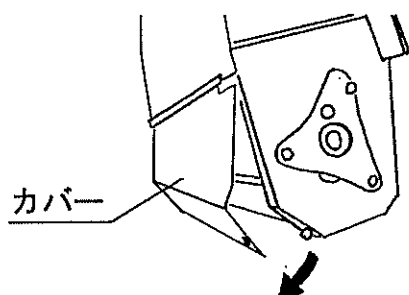


作業後の手入れと格納について

6. リヤチャンバー折り返し部の左右のリンチピンを取り外してください。



7. カバーを開け、中に溜まった堆積物を取り除いてください。

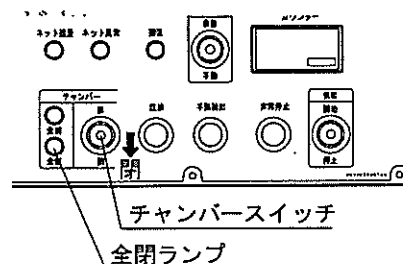


【注意】

掃除しないままにしておきますと、堆積した作物が腐敗し、雑菌がロールに混入してサイレージの品質を劣化させるおそれがあります。

8. 掃除が終わりましたら、リンチピンでカバーを固定してください。
9. 左右のチャンバーストップバルブを「開」の方向に回し、シリンダロックを解除してください。

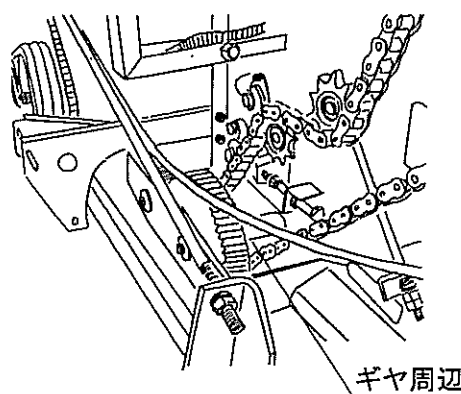
10. エンジンを開始し、エコモード切替スイッチが切になっているのを確認後、ベールクラッチを「入」にし、コントロールボックスのチャンバースwitchを「閉」方向に「全閉」ランプが点灯するまで、倒し続けてく



11. ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

⑥逆転ギヤ周辺（機体左側）

左側のカバーを開け、アンダーカバーを取り外し、逆転ギヤ周辺に溜まった塵等をエアガンまたは、ブロア等で、除去してください。

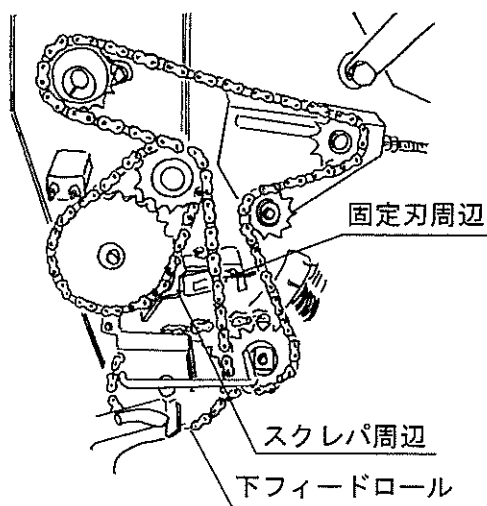


（図は、機体左後ろから見ています。）

作業後の手入れと格納について

⑦ハーベスタ左側

ハーベスタカバーを取り外して、固定刃、スクレパ、下フィードロール下部に溜まった作物を取り除いてください。



[参考]

固定刃、スクレパに詰まった作物が取り除きにくい場合は、プライヤー等で引き抜いてください。

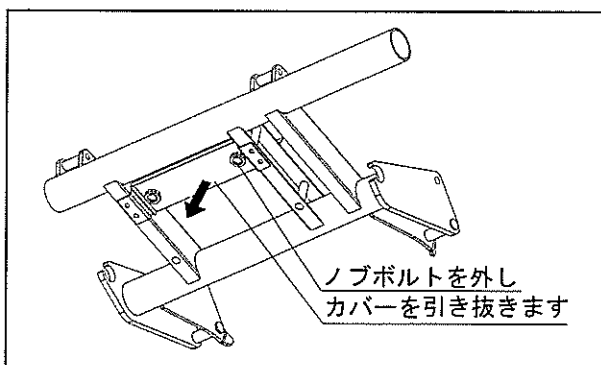
⑧フィードロール下カバーの掃除

毎作業終了後、フィードロール下のカバーを取り外し溜まったごみを取り除いてください。

放置しておくと機械の破損の原因になるばかりでなく、ごみが腐敗し収穫作物の品質低下につながります。

⚠ 注意

ハーベスタの下で作業する場合は7ページを参照に必ず落下防止の歯止めをしてください。

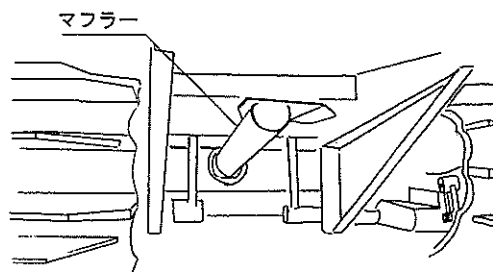


⑨マフラーの掃除のしかた

⚠ 注意

高温部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

マフラーおよび連結パイプ付近の高温部にある推積、または付着したワラクスなどを掃除してください。



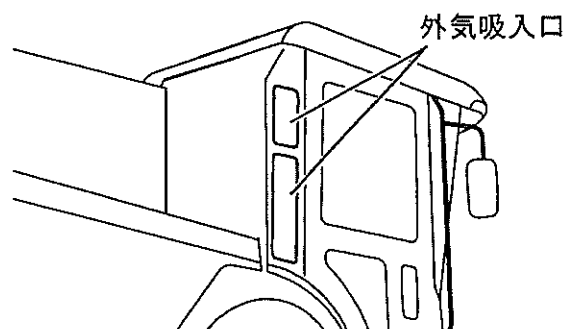
(図は、機体後ろから見ています。)

⚠ 警告

- 高温部にワラクスなどが推積・付着していると、火災を引き起こすおそれがあります。
- テールパイプ出口に泥が詰まると、マフラー・テールパイプなどの排気管が異常に高温となり、火災を引き起こすおそれがあります。

⑩コンデンサ部の掃除のしかた

作業終了後コンデンサ冷却用の外気吸入口（キャビン右後柱面）に付着したチリを掃除してください。



作業後の手入れと格納について

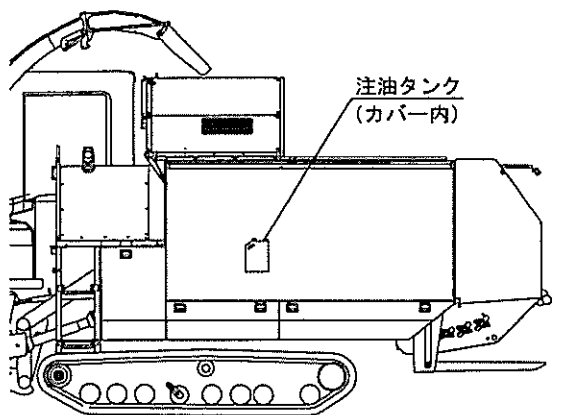
(3) 各部の注油のしかた

(自動注油部)

①タイトチェーンの注油

必ず毎回行ってください。

1. 注油タンクにオイルを入れてください。
オイルはエンジンオイル SAE 5W-30 又は、10W-30 を使用してください。(5 L)

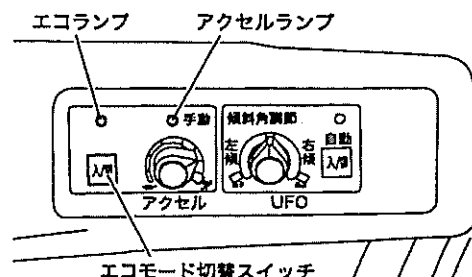


【注意】

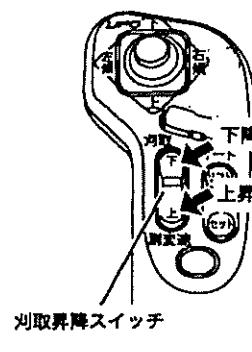
- 無給油で運転するとタイトチェンの寿命を縮めますので、必ず給油してください。
- チェンの注油ポンプは自給式を採用していますので、タンク内が空になった際もオイルを供給すれば、エア抜きなしでタイトチェンに注油できます。
- コントロールボックスの注油スイッチを設けていますので、スイッチを押してオイルの吸い込みを確認してください。
- 粘度の高いオイルはモータの故障の原因になりますので、使用しないでください。
- 給油前に、給油ノズル先端のゴミを取り除いてください。

2. エンジンをかけてください。
3. エコモード切替スイッチが「切」になっていることを確認してください。

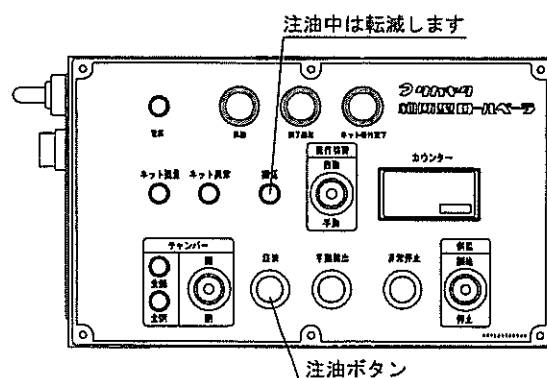
(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)



4. アタッチ（ロークロップ等）が地面に接していないことを確認して、（接している場合は、オールマイティシフトレバーの刈取り昇降スイッチで、少し上げてください。）



5. ベールクラッチを「入」にし、アイドルリングで回転させてください。
6. 注油ボタンを1度押して、タイトチェンに注油してください。(注油ボタンは1度押すと10秒間注油され、注油中は搬送ランプが点滅します。)



7. タイトチェンは1周するのに約20秒かかります。搬送ランプの点滅が終わりましたら、もう1度注油ボタンを押してください。

作業後の手入れと格納について

8. 注油ができましたら、ベールクラッチを「切」にし、エンジンを止めてください。

(自動注油部以外)

必ず毎回行ってください。

⚠ 注意

注油をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
ケガをするおそれがあります。

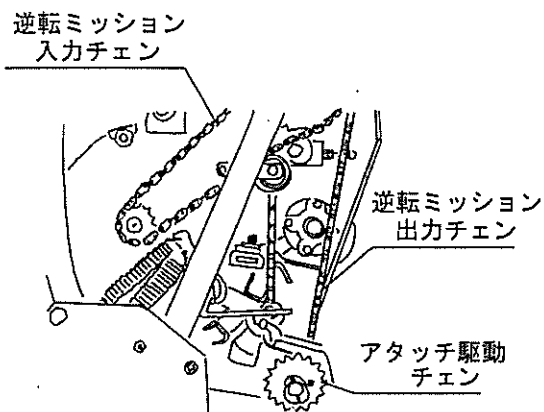
【参考】

低温時（5℃以下）には、オイルの一部が固くなり、分離しているような状態になることがあります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

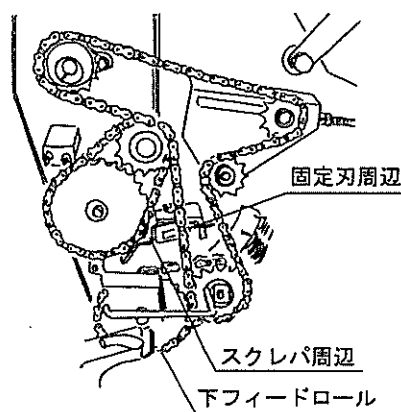
②ハーベスタ部への注油のしかた

カバーを取り外して注油してください。
注油後はカバーを取り付けてください。

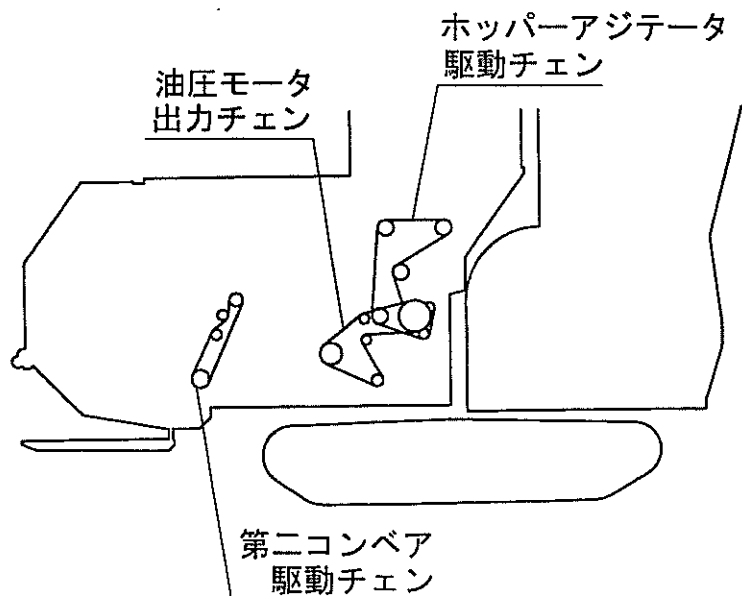
(ハーベスタ右側)



(ハーベスタ左側)

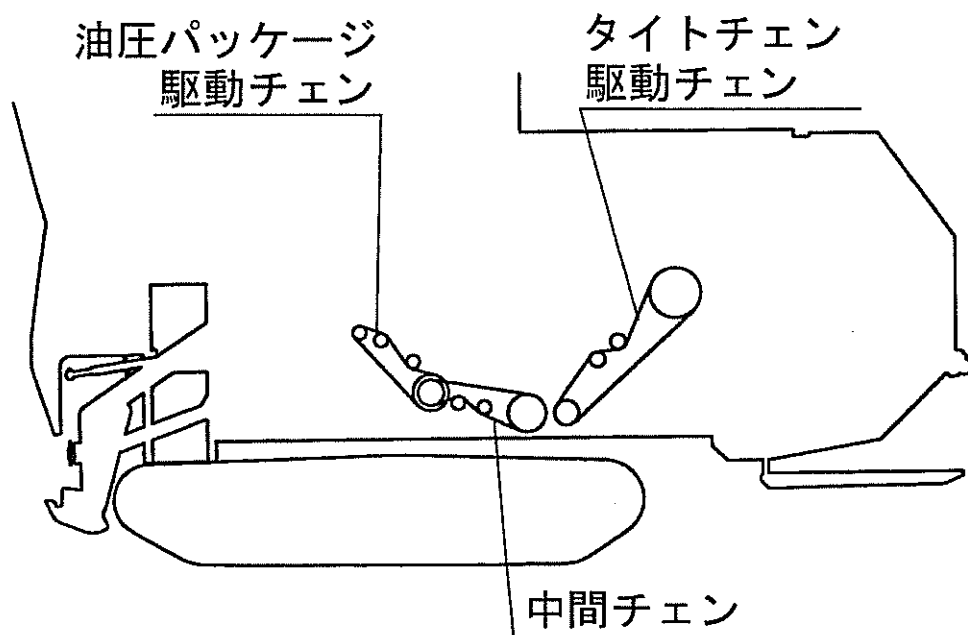


③ロールベアラ部への注油のしかた (右側)

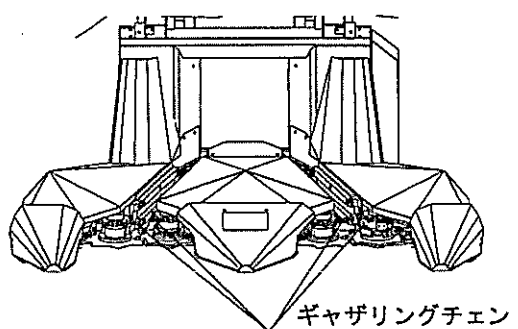


作業後の手入れと格納について

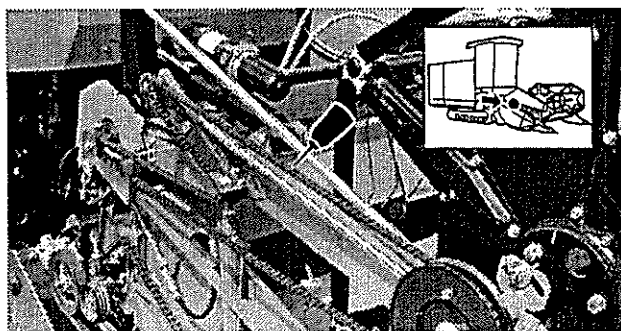
(左側)



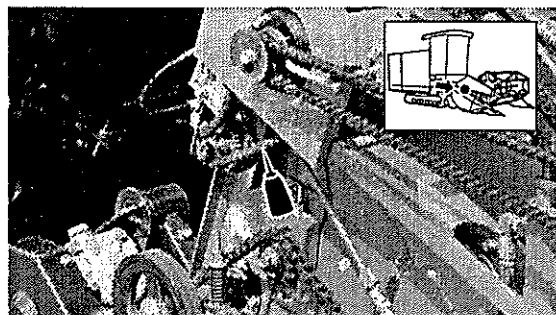
- ④ ロークロップ部への注油のしかた
ギヤザリングチェーン
必ず毎回十分に注油してください。



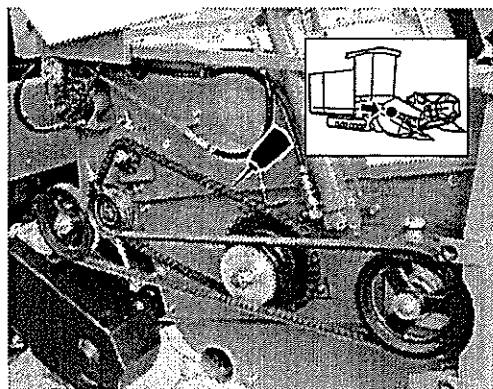
- ⑤ リールヘッダ部への注油のしかた
必ず毎回行ってください。
1. リール駆動チェーン



2. リールカウンタチェーン

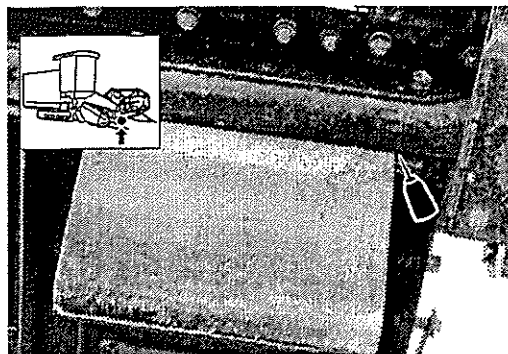


3. プラットホームオーガ駆動チェーン

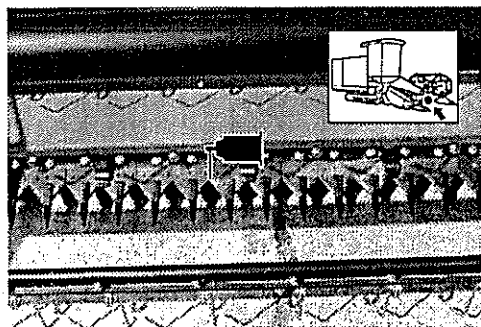


作業後の手入れと格納について

4. センサソリ

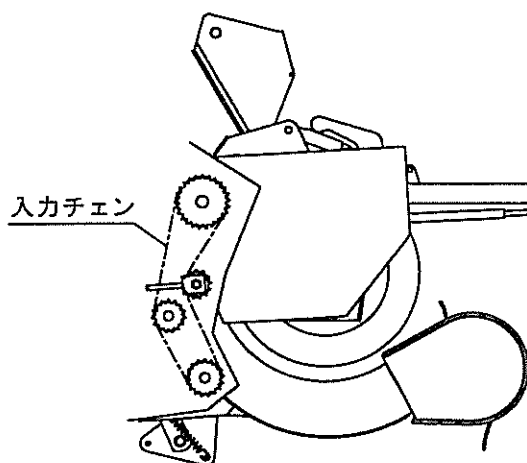


5. 刈刃

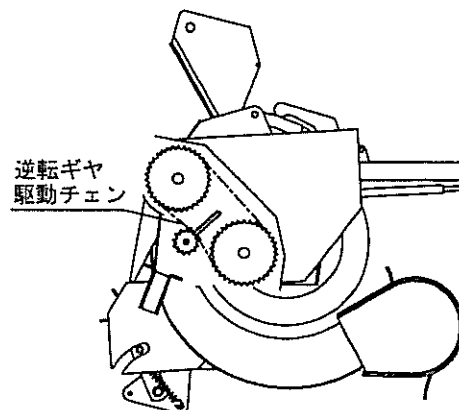


⑥ピックアップ部への注油のしかた
必ず毎回行ってください。

1. 入力チェーン

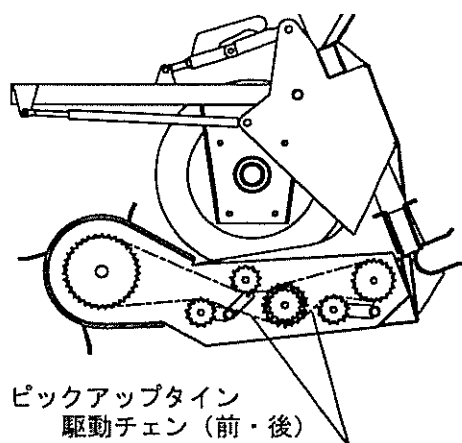


2. 逆転ギヤ駆動チェーン



3. ピックアップタイン駆動チェーン

(前・後)



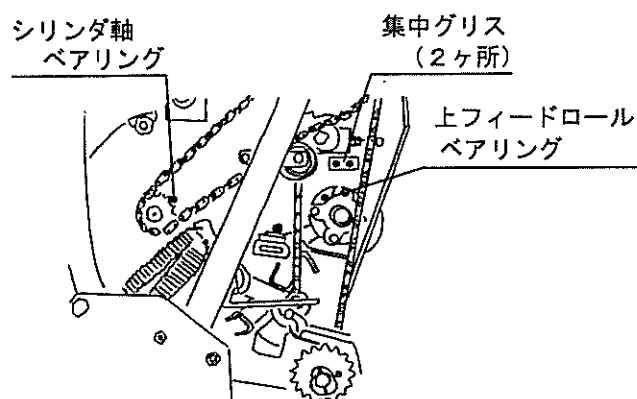
作業後の手入れと格納について

(4) 各部のグリスアップのしかた

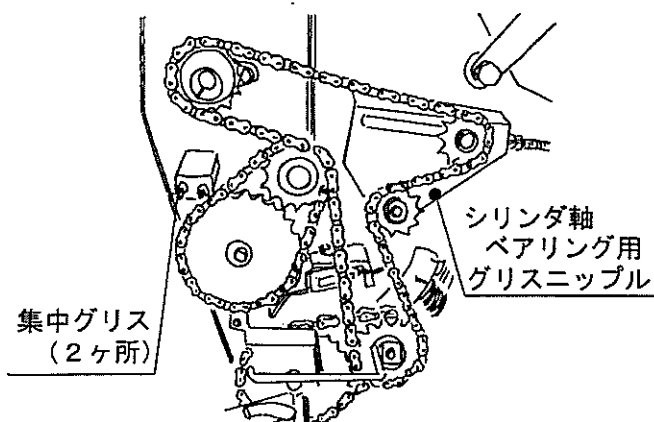
①ハーベスタ部へのグリスアップのしかた

実施時期は50時間毎です。

(右側)



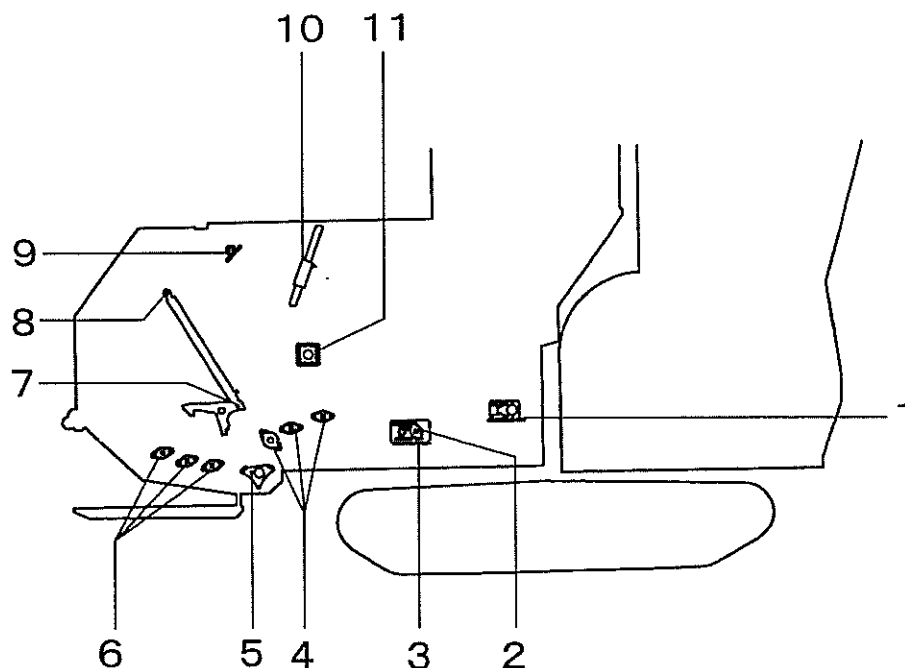
(左側)



②ロールベアラ部へのグリスアップのしかた

実施時期は50時間毎です。

(右側)



1. 第一コンベアテンションスライド部
2. 第二コンベアテンションベアリング
3. 第二コンベアテンションスライド部
4. 第二コンベアベアリング

(3ヶ所)

5. タイトチェン折り返しベアリング
6. タイトチェンリヤベアリング

(3ヶ所)

7. チャンバーシリンダ支点 (下)
8. チャンバーシリンダ支点 (上)
9. チャンバー開閉支点
10. タイトチェンテンション

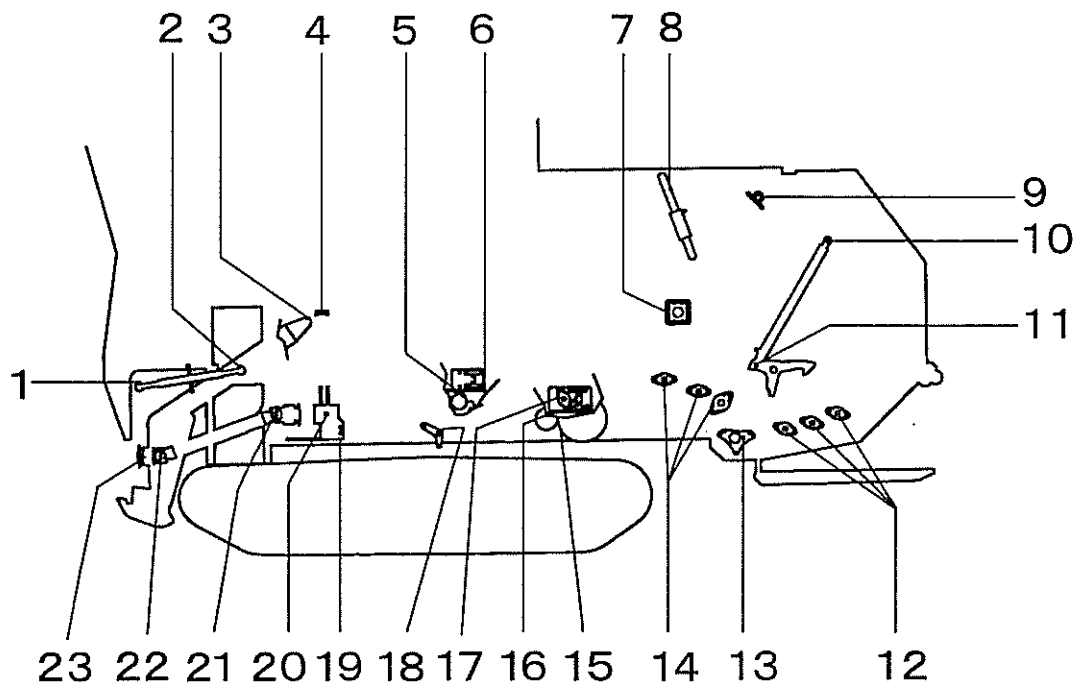
スライド部

11. タイトチェン駆動軸ベアリング

作業後の手入れと格納について

実施時期は50時間毎です。

(左側)



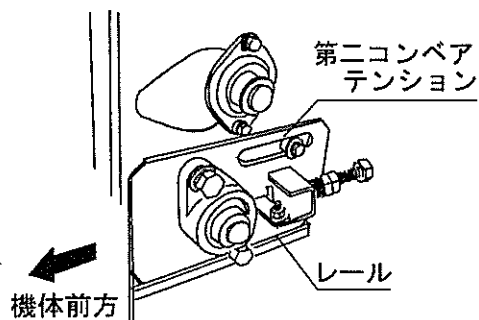
- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. ターンバックル (前) | 17. 第二コンベアテンションベアリング |
| 2. ターンバックル (後) | 18. ベーラテンション支点 |
| 3. 昇降アーム (手前) | 19. 集中グリス |
| 4. 集中グリス | (1ヶ所) |
| (3ヶ所) | ・ 接続ボス |
| ・ 昇降アーム (奥) | 20. テンションベース |
| ・ 昇降シリンダ (前後) | 21. ユニバーサルジョイント出力側 |
| 5. 中間ボス | (クロス部) |
| 6. 第一コンベアテンションスライド部 | 22. ユニバーサルジョイント入力側 |
| 7. タイトチェン駆動軸ベアリング | (クロス部) |
| 8. タイトチェンテンションスライド部 | 23. ユニバーサルジョイント |
| 9. チャンバー開閉支点 | (ワンウェイクラッチ部) |
| 10. チャンバーシリンダ支点 (上) | |
| 11. チャンバーシリンダ支点 (下) | |
| 12. タイトチェンリヤベアリング | |
| (3ヶ所) | |
| 13. タイトチェン折り返しベアリング | |
| 14. 第二コンベアベアリング | |
| (3ヶ所) | |
| 15. 逆転ギヤ | |
| 16. 第二コンベアテンションスライド部 | |

作業後の手入れと格納について

1. 第一・第二コンベアテンション

スライド部へのグリスアップのしかた
実施時期は50時間毎です。

下図のスライドするレール部にグリスを
塗り込んでください。

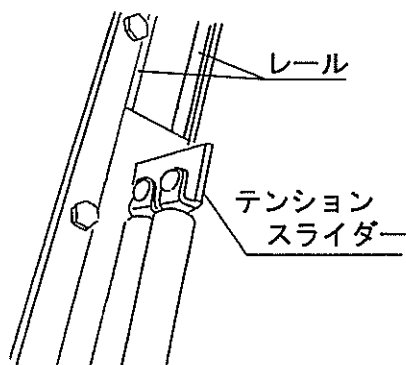


(図は、機体左前から見ています。)

2. タイトチェンテンション

スライド部へのグリスアップのしかた
実施時期は20時間毎です。

下図のスライドするレール部にグリスを
塗り込んでください。



(図は、機体右後から見ています。)

3. チャンバー開閉支点への グリスアップのしかた

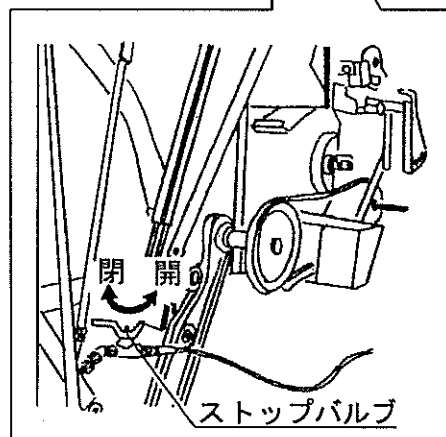
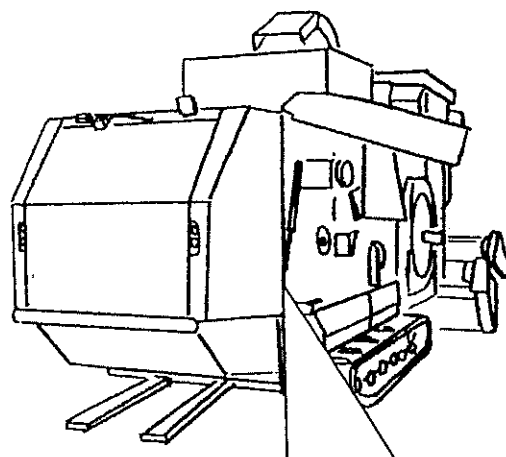
実施時期は20時間毎です。

以下の手順に従いグリスアップしてくだ
さい。

1. エンジンを始動してください。

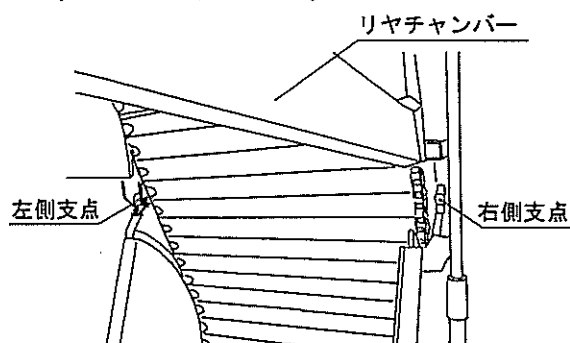
(75ページ参照)

2. エコモード切替スイッチが「切」にな
っていることを確認し、ベールクラッ
チを「入」にしてください。
3. コントロールボックスのチャンバース
イッチを「開」方向に「全開」ラン
プが点灯するまで、押し続けてチャン
バーを全開にしてください。
4. ベールクラッチを「切」にし、エン
ジンを停止してください。
5. 左右のチャンバーストップバルブを
「閉」の方向に回し、シリンダロック
してください。

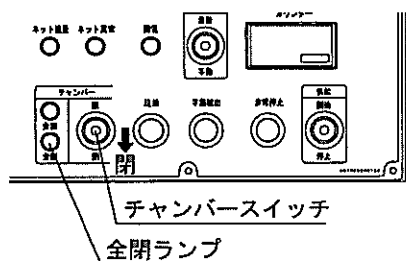


作業後の手入れと格納について

6. 下図の左右2ヶ所の支点部をグリスアップしてください。



7. 左右のチャンバーストップバルブを「開」の方向に回し、シリンダロックを解除してください。
8. エンジンを始動し、エコモード切替スイッチが「切」になっているのを確認後、ペールクラッチを「入」にし、コントロールボックスのチャンバースイッチを「閉」方向に「全閉」ランプが点灯するまで、倒し続けてください。

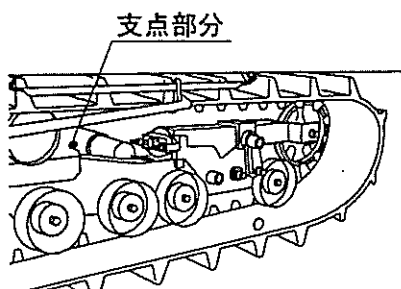


9. ペールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

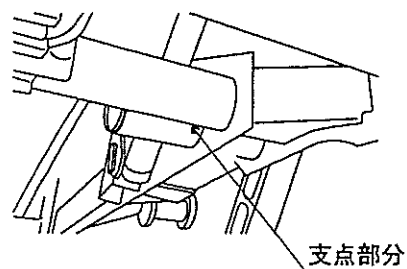
③台車部

実施時期は300時間または1年ごとのどちらか早い方です。

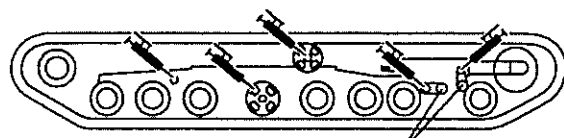
1. UFO支点部へのグリスアップのしかた



(図は、機体左側から見ています)



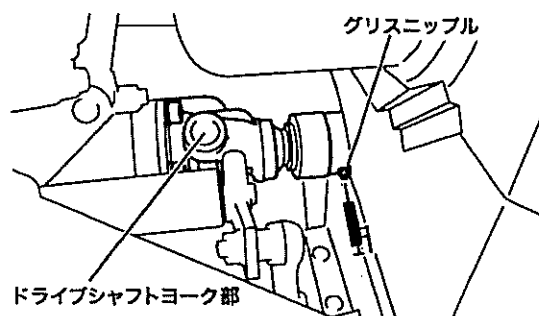
(図は、機体前から機体左側を見ています)



緩ナットを外してグリスアップをする
※緩ナットを取り付けるときは、
確実に締め付けて固定してください。

(図は、機体左側です)

2. トランスミッション入力ドライブ シャフト部へのグリスアップのしかた



[参考]

グリスニップルが見えないときは、ドライブシャフトヨークのすき間に丸棒を差し込み、手前に回転させてください。

作業後の手入れと格納について

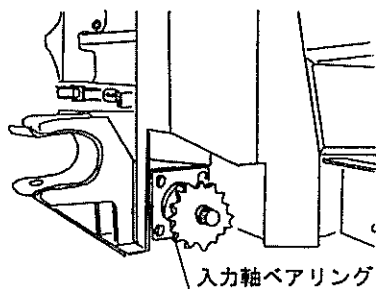
④アタッチ部

〈ロックロップ〉

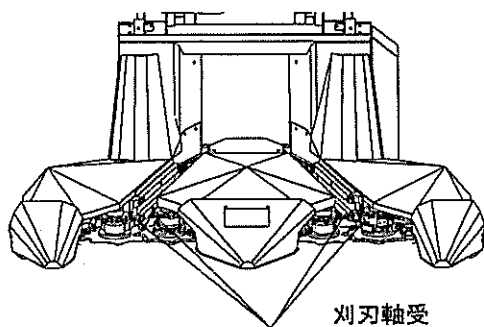
必ず毎回行ってください。

特に刈取刃軸受部は、軸受とスプロケットの間からグリスがはみ出たことを確認してください。

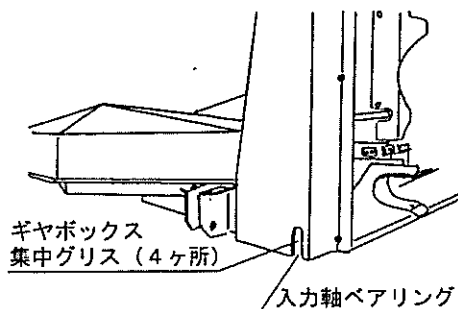
1. 入力ベアリング（機体右側）への
グリスアップのしかた



2. 刈刃軸受（4ヶ所）への
グリスアップのしかた



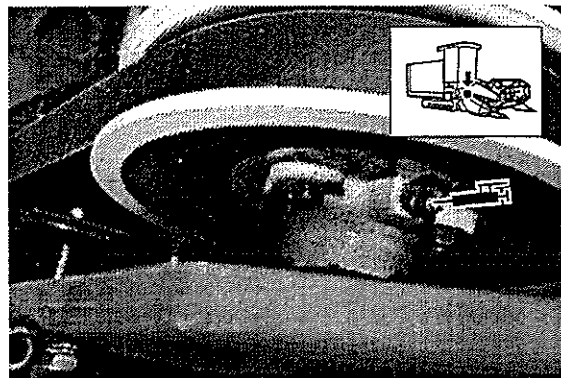
3. ギャザリングチェーン駆動ギヤボックス
入力軸ベアリング（機体左側）への
グリスアップのしかた



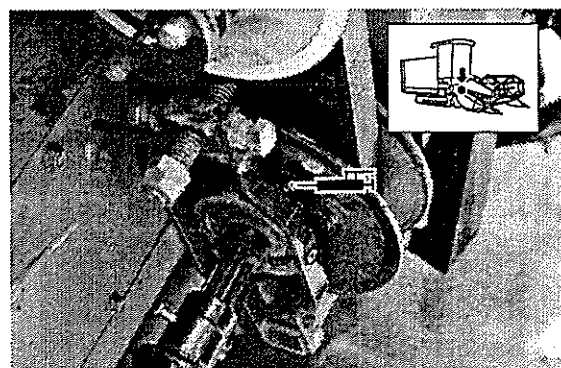
〈リールヘッダ〉

必ず毎回行ってください。

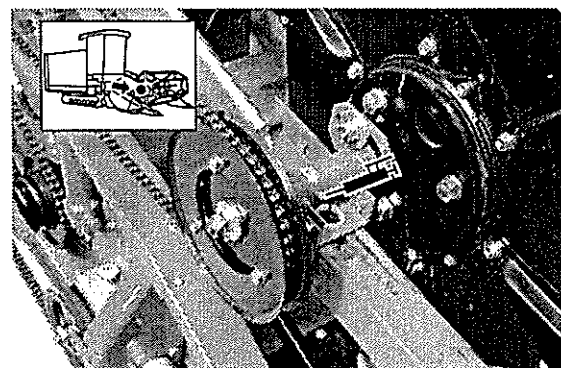
1. リール変速プーリ（上）への
グリスアップのしかた



2. リール変速プーリ（下）への
グリスアップのしかた

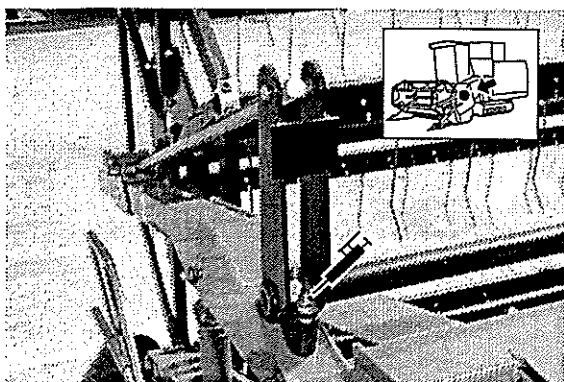


3. リールセンターシャフト右部・左部への
グリスアップのしかた



作業後の手入れと格納について

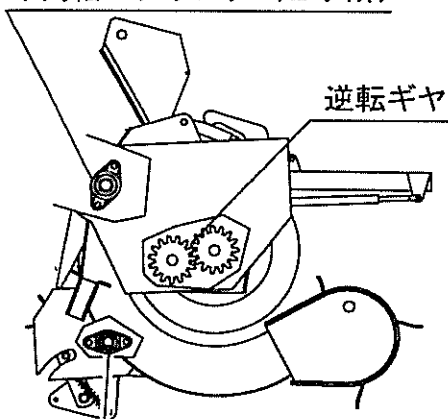
4. リール前後回転支点右部・左部への グリスアップのしかた



〈ピックアップ〉

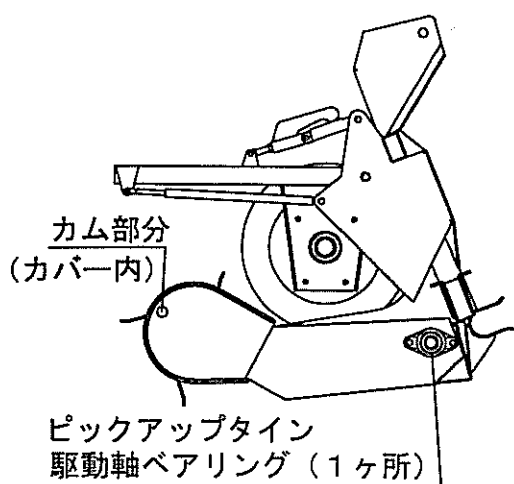
必ず毎回行ってください。

中間軸ベアリング（2ヶ所）



逆転ギヤ

入力軸ベアリング（1ヶ所）



カム部分
(カバー内)

ピックアップタイン
駆動軸ベアリング（1ヶ所）

(7) 格納のしかた

! 警告

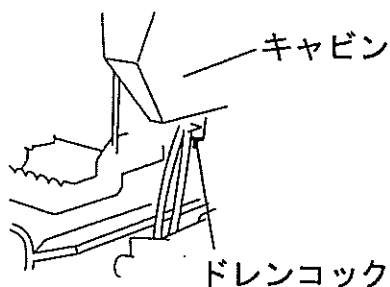
格納するときは、バッテリーを本機から取り外し、キーを抜いて保管してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

[重要]

- 各部にこく粒やワラクズが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、次の年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい屋内に置いてください。
- 床が汚れないように、本機の下に板を敷いてください。
- 各操作レバーを「切」位置、または「N」（中立）位置にしてください。
- 分草板に分草板カバーを取り付けて、刈取部をいっぱいに下げてください。
- 燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。
- 外部のサビやすい部分には、防錆油またはエンジンオイル・グリスなどを塗ってください。
- エアクリーナー・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないように、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。
- エアコンの冷媒（クーラーガス）を規定量入れてください。
- キースイッチのキーは、必ず抜き取って保管してください。

作業後の手入れと格納について

冷却水のドレンコックから冷却水を完全に抜き取ってください。



【参考】

ヤンマー不凍液を入れた冷却水でも、
- 10℃以下になると凍るおそれがあります。(169ページ参照)

【重要】

整備等でエンジンを運転する場合は、規定量の冷却水を給水してください。守らないとエンジンが破損します。

(8) 格納中の整備のしかた

格納期間中は、下記のような整備を行ってください。

- 1ヶ月に一度はエンジンをかけて、機械を動かしてください。各潤滑部に新たな油膜ができ、格納中の油膜切れが防げます。
- バッテリーは、使用しなくても自然に放電します。1ヶ月に一度は充電してください。
- 2～3週間ごとに1～2回は、エンジンをローアイドリング（低回転）で、エアコンを10分以上作動させてください。

(9) 運転再開のしかた

- 各部の給油・給脂箇所に、十分にオイル・グリスを給油・給脂してください。
- エンジン始動後は、暖機運転（15分以上）を行い、各部を十分になじませてください。

各部の点検・整備

(1) 定期点検一覧表

◇点検、○：補給、●交換、□：調整（掃除）、△：給油脂								
点検整備項目		毎日	50時間 ごと	100 時間 ごと	200 時間 ごと	300 時間 ごと	600 時間 ごと	参照 ページ
総体部	部品の脱落・破損の点検	◇						
	各部のボルト・ナットのゆるみ点検・増締	◇						
	エンジンの調子	◇						
	清掃	□						
燃料系統	燃料タンクの油量点検	○						163
	ウォーターセパレータの水抜き	◇						173
	燃料フィルタの交換					●		174
	燃料タンク混入水・沈殿物などのドレン抜き			□				174
	燃料パイプおよび接合部の亀裂・破損・ ゆるみの点検※					◇ (1年 ごと)	● (2年 ごと)	
冷却系統	冷却水の点検・交換	◇			● (1年 ごと)			169
	エンジン防塵装置の点検・掃除	□						175
	ラジエタ冷却フィンの点検・掃除	◇						178
	オイルクーラフィンの点検・掃除	◇						178
	コンデンサフィンの点検・掃除	◇						178
	冷却ファンベルトの張り点検・調整	◇	□			●		188
	ジェネレータ駆動ベルトの張り点検・調整	◇	□			●		188
	インタークーラファンベルト	◇	□			●		187
エア クリーナー	エアクリーナーの掃除・交換	□			●			175
	プレクリーナーの掃除	□						176
潤滑油	エンジンオイルの点検・交換	◇	● (1回目)	●				164
	エンジンオイルエレメントの交換		● (1回目)			●		171
	走行ミッションオイルの交換		● (1回目)			●		166
	吸入ストレーナの洗浄		□			□		176
	ハーベスタ直交ミッションオイルの交換		● (1回目)			●		168
	カウンターケース		● (1回目)			●		167

各部の点検・整備

◇点検、○：補給、●交換、□：調整（掃除）、△：給油脂								
点検整備項目		毎日	50時間 ごと	100 時間 ごと	200 時間 ごと	300 時間 ごと	600 時間 ごと	参照 ページ
潤滑油	ハーベスタ逆転ミッションオイルの交換		● (1回目)			●		169
	タイトチェン給油オイルの点検・補充	△						61
油圧系統	作動油タンクオイルの点検・補給・交換	◇				● (1回目)	●	166
	HSTフィルタの交換					● (1回目)		172
	油圧パッケージオイルの点検・補給・交換					● (1回目)	●	168
	油圧ホースの亀裂・破損有無点検※	◇						
注油	ベアラ部の注油		△					145
	ハーベスタ部の注油		△					145
	ロックロップ部の注油		△					146
	刈刃軸受の注油 (ロックロップ)	△						152
	リール部の注油 (リールヘッド)		△					146
	ピックアップ部の注油 (ピックアップ)		△					147
	クローラ部の注油		△					151
足回り	クローラの張り点検・調整	◇			□			198
操縦装置	アクセルの作動	◇						44
	オールマイティシフトレバーの作動	◇						45
	マルチハンドルの作動	◇						39
	副変速レバーの作動	◇						47
	セフティペダルの作動	◇						48
	刈取昇降スイッチの作動	◇						46
	リール昇降スイッチの作動 (リールヘッド)	◇						39
	ペールクラッチレバーの作動	◇						48
	駐車ブレーキワイヤー		□			●		197

各部の点検・整備

◇点検、○：補給、●交換、□：調整（掃除）、△：給油脂								
点検整備項目		毎日	50時間 ごと	100 時間 ごと	200 時間 ごと	300 時間 ごと	600 時間 ごと	参照 ページ
電装関係	作業灯	◇						50
	アワメータの作動	◇						43
	回転計・燃料計の作動	◇						41 42
	コントロールボックスの作動	◇						200
	ペーラ感知スイッチの隙間調整		□					201
	配線の断線・ショート・ターミナルのゆるみ 点検・増締め	◇						
	バッテリー液量点検・補充	◇						180
	バッテリー液比重点検・補充電		◇必要時					
	警報モニター	◇						211
	ヒューズの点検・交換		●必要時					
駆動ベルト 関係	ハーベスタ駆動ベルトの点検・調整		◇		□			188
	ロールペーラ駆動ベルトの点検・調整		◇		□			189
収穫関係	刈刃のすき間点検・調整 (ロックロップ・リールヘッダ)		◇	□				193
	ギャザリングチェンの点検・調整 (ロックロップ)		◇	□				202
	リールカウンタチェンの点検・調整 (リールヘッダ)		◇	□				208
	プラットフォームオーガチェンの点検・調整 (リールヘッダ)		◇	□				208
	刈刃駆動ベルトの点検・調整 (リールヘッダ)		◇	□				209
	ピックアップ入力チェンの点検・調整 (ピックアップ)		◇	□				209
	オーガ駆動チェンの点検・調整 (ピックアップ)		◇	□				210

各部の点検・整備

◇点検、○：補給、●交換、□：調整（掃除）、△：給油脂								
点検整備項目		毎日	50時間 ごと	100 時間 ごと	200 時間 ごと	300 時間 ごと	500 時間 ごと	参照 ページ
ロー ペ ー ラ 関 係	ロールペーラ逆転ギヤ伝達チェンの 点検・調整		◇	□				190
	タイトチェン駆動チェンの点検・調整	◇		□			●	190
	第一コンベア駆動チェン点検・調整		◇	□				191
	アジテータ駆動チェンの点検・調整		◇	□				191
	第二コンベア駆動チェンの点検・調整		◇	□				191
	第一・第二コンベアベルトの点検・調整	◇		□			●	192

● の箇所は、保安上重要な箇所です。

(2) 規定量一覧表

点検・調整箇所	規定量	内容	参照ページ
刈刃のすき間調節 (ロークロップ)	0.2～0.3mm	刈刃上下間のすき間	202
ギャザリングチェン (ロークロップ)	50mm	バネ全長	202
刈刃のすき間調節 (リールヘッダ)	1.2mm	受刃と刈刃上面の最大すき間	203
	0.3～0.8mm	受刃と刈刃下面のすき間	
	0.8mm	刈刃の前後最大すき間	
プラットホーム底板とスクリュコンベアの すき間調節 (リールヘッダ)	6～8mm	プラットホーム底板とスクリュコンベアの すき間	203
プラットホームオーガリミットクラッチ (リールヘッダ)	63～65mm	リミットクラッチバネ長	205
刈刃上面とリールタイン先端すき間調節 (リールヘッダ)	10～20mm	刈刃上面とリールタイン先端すき間	206
スクリュコンベアの外周と リールタイン先端のすき間調節 (リールヘッダ)	10～20mm	スクリュコンベアの外周と リールタイン先端のすき間	207
リールカウンタチェン (リールヘッダ)	10～16mm	指で押したときのたわみ量	208
プラットホームオーガチェン (リールヘッダ)	14～20mm	指で押したときのたわみ量	208
刈刃駆動ベルト (リールヘッダ)	51～55mm	テンションバネのバネ長さ	209

各部の点検・整備

点検・調節箇所	規定量	内容	参照ページ
オーガと底板のすき間調節 (ピックアップ)	4～6 mm	オーガと底板のすき間	204
ピックアップ入力チェン (ピックアップ)	10～16 mm	指で押したときのたわみ量	209
オーガ駆動チェン (ピックアップ)	10～16 mm	指で押したときのたわみ量	210
ナイフとシャープのすき間調節	0.4～0.5 mm	ナイフとシャープのすき間	193
シリンダカットとフロントプレートのすき間調節	1～3 mm	シリンダカットとフロントプレートのすき間	194
フィードロール上とスクレパのすき間調節	0.3～0.8 mm	フィードロール上とスクレパのすき間	194
ジェネレータ駆動ベルト	10～15 mm	指で押したときのたわみ量	188
冷却ファンベルト	10～15 mm	テンションバネフック長	188
ハーベスタ駆動ベルト	100～103 mm	テンションバネフック長	188
ロールペーラ駆動ベルト	127～130 mm	テンションバネフック長	189
駐車ブレーキの調節	105～109 mm	テンションバネフック長	197
ロールペーラ逆転ギヤ伝達チェン	50～52 mm	テンションバネのバネ長さ	190
タイトチェン駆動チェン	50～52 mm	テンションバネのバネ長さ	190
第一コンベア駆動チェン	50～52 mm	テンションバネのバネ長さ	191
アジテータ駆動チェン	50～52 mm	テンションバネのバネ長さ	191
第二コンベア駆動チェン	50～52 mm	テンションバネのバネ長さ	191

各部の点検・整備

(3) オイル・グリス・不凍液一覧表

	ヤンマー(指定) 純正オイル	一般販売店の相当オイル		
		新日本石油 (ENEOS)	コスモ石油	ジャパンエナジー (JOMO)
燃料		ディーゼル軽油(JIS2号)		
エンジンオイル (API分類 CD級)	- ヤンマースーパー ノーキオイル 10W-30(CD級) - スーパーロイヤルオイル 10W-30(CD級)	ディーゼルエンジン用 SAE10W-30相当品(API分類、CD級以上)		
グリース (マルチパーパスタイプ)	—	エピノック グリースAP2	コスモグリース ダイナマックス EP2	リゾニック グリースEP2
不凍液 (JIS K2234 2種 パーマナントタイプ)	ヤンマーロイヤルフリーズ	アンチフリーズ PT	アンチフリーズ PT (ゴールド・ シルバー)	アンチフリーズ PT
ミッションオイル (油圧・HSTオイル兼用)	トランスミッション フルードTF-300	—		
ミッションオイル (駆動ケース)	オイル90番	—		
油圧パッケージオイル	シェルテラスオイル 68	〔ISO : VG68 耐摩耗性作動油相当品〕		
ミッションオイル (ハーベスタ直交ミッション)	オイル90番	—		
逆転ミッションオイル (ハーベスタ)	オイル90番	—		
カウンタケース	オイル90番	—		
食品機械用潤滑スプレー	部品コード:OIL-19030000			

各部の点検・整備

(4) 給油・給水一覧表

項目		給油量	種類	交換時期	参照ページ
燃料		100L	ディーゼル軽油	作業前	163
冷却水	ラジエータ	13L	清水・ヤンマー不凍液	1年ごと	169
	サブタンク	1L	清水・ヤンマー不凍液	1年ごと	169
ミッションオイル (ミッションケース内油量) (油圧作動油兼用)		18.5 L	TF-300 トランスミッションフルード	1回目:50時間または1シーズン 2回目:以降300時間ごと、または2年ごとのどちらか早い方	166
ミッション車軸ケース	右	0.5L	TF-300 トランスミッションフルード	400時間ごと (スプロケット交換と合せて実施)	166
	左	1.0L			
エンジンオイル		11.5 L	●ヤンマースーパー ノークオイル 10W-30(CD級) ●スーパーロイヤルオイル 10W-30(CD級)	1回目:50時間または1シーズン 2回目:以降100時間ごと、または1シーズンごとのどちらか早い方	164
カウンタケース		8L	ヤンマーミッションオイル 90番	300時間ごと	167
インタークーラファン駆動 ケース		0.2L	ヤンマーミッションオイル 90番	300時間ごと	—
油圧パッケージオイル		5L	シェルテラスオイル 68 [ISO:VG68 耐摩耗性作動 油相当品]	1回目:50時間または1シーズン 2回目:以降500時間ごと、または1シーズンごとのどちらか早い方	168
ミッションオイル (ハーベスタ直交ミッション)		0.8L	オイル90番	1回目:50時間または1シーズン 2回目:以降300時間ごと、または1シーズンごとのどちらか早い方	169
ミッションオイル (逆転ミッション)		0.8L	オイル90番	1回目:50時間または1シーズン 2回目:以降300時間ごと、または1シーズンごとのどちらか早い方	169

【重要】

定期点検を実施するとともに、オイルの交換は純正（指定）オイルをご使用ください。

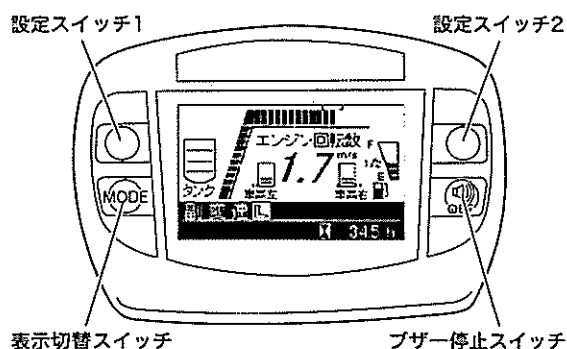
各部の点検・整備

(5) メンテナンス時間のリセットのしかた
画面上に表示するメンテナンス情報は、あくまで目安です。お客様の使用状況に合わせて「給油・給水一覧表」(161ページ参照)または「主要部品の耐久性と点検・交換時期の目安表」(232ページ参照)に従って交換してください。

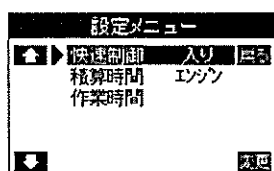
オイル交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面で、必ずメンテナンス情報時間をリセットしてください。

リセットしたときから、時間の積算を開始し、規定時間に達するとメンテナンス情報が表示されます。

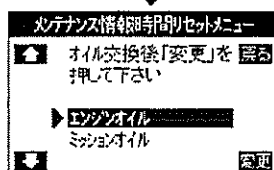
1. 表示切替スイッチ(↓)を押して、「設定メニュー」の画面にしてください。



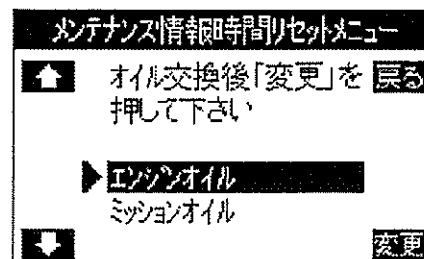
2. 「設定メニュー」の画面で表示切替スイッチ(↓)を押して、▶印を下に移動していくと、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面に切り替わります。



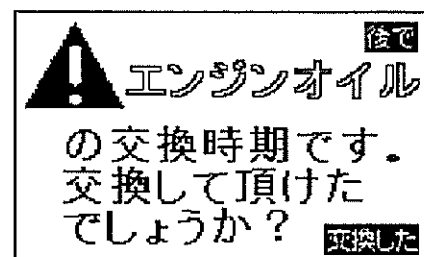
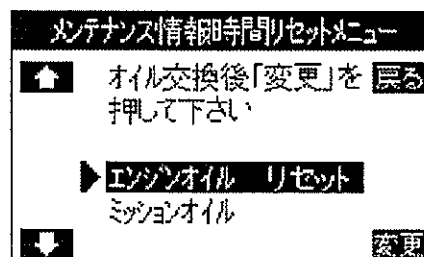
切り替わります



3. エンジンオイルを交換したときは、エンジンオイルの項目に、ミッションオイルを交換したときは、ミッションオイルの項目に、設定スイッチ1(↑)と表示切替スイッチ(↓)を押して、▶印を移動して、文字を反転した状態にしてください。



4. ブザー停止スイッチ(変更)を押してください。ブザー停止スイッチ(変更)を押すと、「リセット」の文字が表示され、時間のリセットが確定されますので、その時点から規定交換時間が経過すると、メンテナンス情報表示されるようになります。



5. 設定スイッチ2(戻る)を押すと、通常の画面に戻ります。

各部の点検・整備

(6) 燃料の点検・補給のしかた

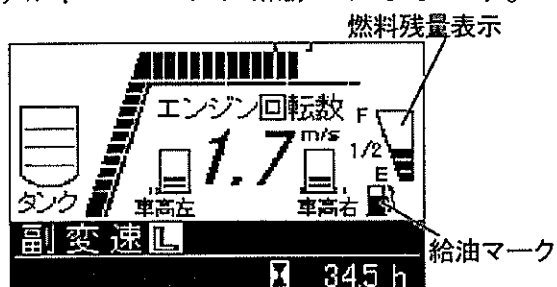
⚠ 危険

- 燃料の点検・補給をするときは、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こす原因になります。
- 燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。

① 燃料の残量点検のしかた

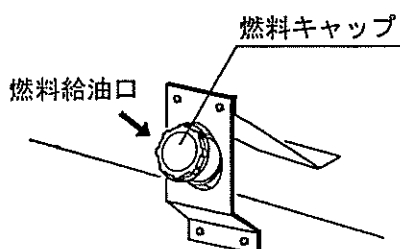
燃料の残量は、キースイッチを「入」にして、センターディスプレイの燃料残量表示で確認してください。

燃料の残量が少なくなったときは、**F** マークが点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。ブザーを止めるときは、ブザー停止スイッチを押してください。ブザーは鳴り止みますが、**F** マークは点滅したままです。



② 燃料キャップの取付け・取外しかた

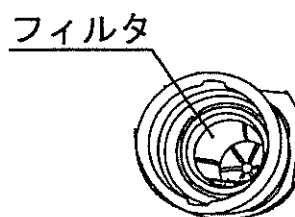
1. 燃料キャップを矢印方向に回して、燃料キャップを取外してください。
2. 取付けかたは、取外しの逆の手順で行ってください。



③ 燃料の補給のしかた

キースイッチを「入」の位置にしてください。(38ページ参照) 燃料キャップを取り外し、燃料をフィルタから液面が見え始めるまで補給してください。

燃料給油時に満量になると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが連続で鳴ります。ブザー停止ボタンを押すと、ブザーは鳴り止みます。



⚠ 注意

燃料を補給するときは、燃料フィルタを必ず装着してください。燃料フィルタを外したまま、燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。

[重要]

燃料補給は、給油口のフィルタ下方に液面が見えてきたら、給油をやめてください。守らないと、冬季など燃料の温度が低いときに、燃料を給油口いっぱいまで入れていると、気温の上昇とともに膨張し、ブリーザからもれることがあります。

各部の点検・整備

(7) オイルの点検・補給・交換のしかた

[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジンマウントゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジンマウントゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- オイルや燃料を補給・交換するときは、電装部品にかからないようにしてください。故障の原因になるおそれがあります。

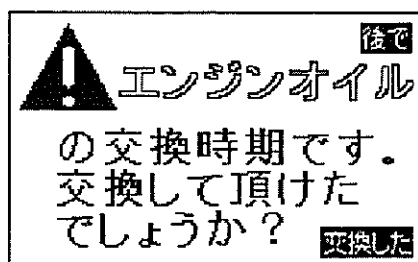
①エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。作業は、エンジンルームをオープンし、ルーム枠カバーを外してから行ってください。(128ページ参照) 作業終了後は、元通りにセットしてください。

推奨エンジン オイル	交換時間	規定量
ヤンマースーパー ノーキオイル 10W-30(CD級)	1回目:50時間後、 または1シーズン後 2回目以降:100時間 ごと、または1シーズン ごと	11.5L
スーパーロイヤル オイル10W-30 (CD級)		

〈交換時期について〉

「給油・給水一覧表」(161ページ参照)に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。



●表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、ブザー停止スイッチ(交換した)を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

●すぐに交換しない場合

設定スイッチ2(後で)を押してください。次にキースイッチを「入」位置にしたときにも、ブザー停止スイッチ(交換)を押すまで表示されます。

[参考]

メンテナンス情報は、約5秒で表示が消える設定になっています。また、メンテナンス情報の表示は3回までです。3回の表示が終わると、自動的に積算時間がリセットされますので注意してください。

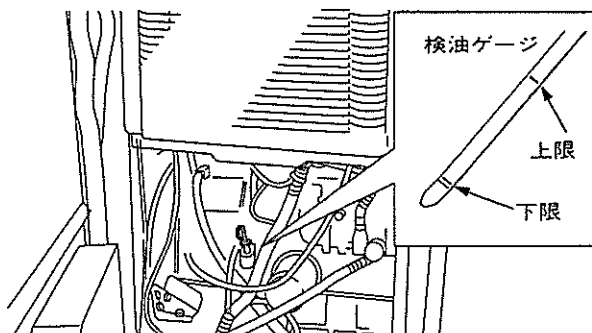
〈点検のしかた〉

1. 検油ゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ってください。
2. 検油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。
3. 点検後は、検油ゲージを元通りに取り付けてください。

各部の点検・整備

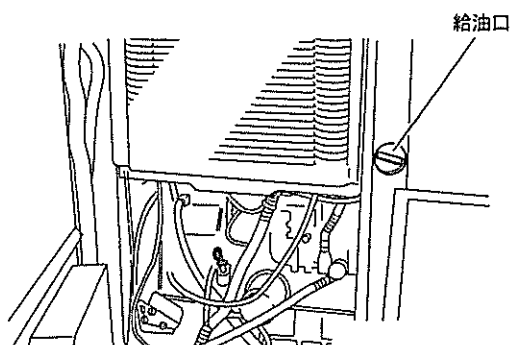
[参考]

点検時、オイルもれのないことを確認してください。



〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量になるまで補給してください。



〈交換のしかた〉

1. ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。

[参考]

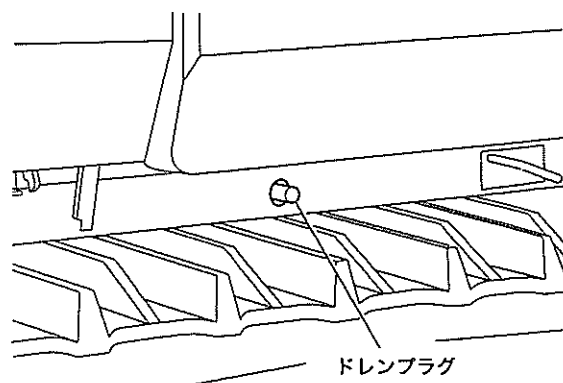
オイルがクローラにかからないように、厚紙などを折り曲げて、とい状にしたものを使用してオイルを受けてください。

2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。



4. 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油してください。
5. 給油口にふたを取り付けてください。
6. エンジンを始動し、5分程度、低速回転で回してください。
7. エンジンを停止し、油圧警報が表示されないことを確認し、約5分間待ってください。
8. 検油ゲージでオイル量を点検してください。不足している場合は、補給してください。

[重要]

センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にエンジンオイル交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。(162ページ参照)

メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前に、メンテナンス情報を表示してしまいます。

各部の点検・整備

②ミッションオイル

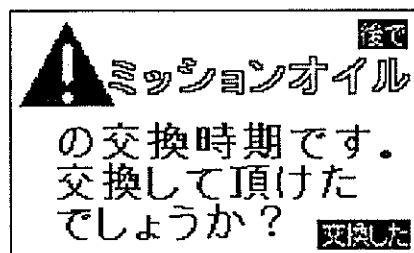
ミッションオイルの点検・補給・交換は、刈取部を最上げ状態にして、刈取部をロックし、落下防止の歯止めを行ってください。

作業終了後は、元通りにセットしてください。

推奨オイル	交換時期	規定量
TF-300 トランスミッション フルード	1回目: 50時間または 1シーズン 2回目以後: 300時間ごとまたは 2年ごとのどちらか 早い方	18.5L

〈交換時期について〉

「給油・給水一覧表」(161ページ参照)に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。



●表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「ブザー停止スイッチ」(交換した)を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

●すぐに交換しない場合

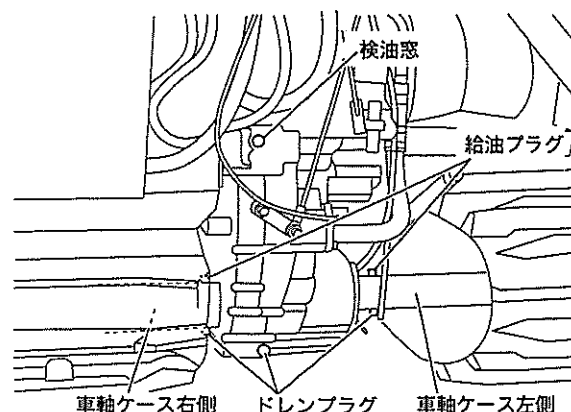
設定スイッチ2(後で)を押してください。次にキースwitchを「入」位置にしたときも、ブザー停止スイッチ(交換した)を押すまで表示されます。

〔参考〕

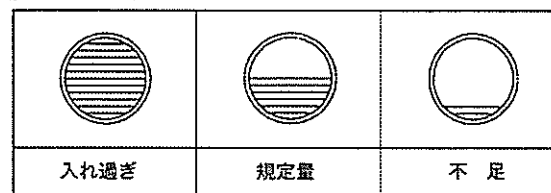
メンテナンス情報は、約5秒で表示が消える設定になっています。また、メンテナンス情報の表示は3回までです。3回の表示が終ると、自動的に積算時間がリセットされますので注意してください。

〈点検のしかた〉

1. 機体を水平にしてください。
2. 刈取昇降スイッチを「上」側にしてください。刈取部を最上げ位置にします。
3. ミッション前部の検油窓でオイル量を点検してください。規定量は検油窓の半分の位置です。



検油窓の見かた



〔参考〕

点検時、オイルもれのないことを確認してください。

〈車軸ケースオイルの交換のしかた〉

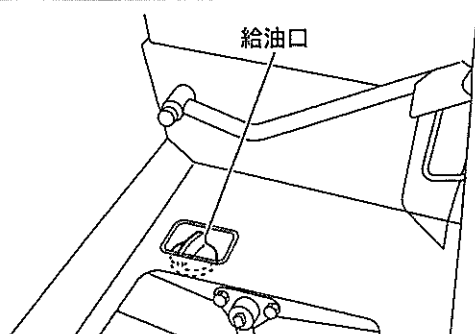
のミッションは、ミッションケース(本体)と車軸ケースのオイルがオイルシールで分離されています。車軸ケースのオイルを交換するときは、車軸ケース下のドレンプラグを取り外して行ってください。

推奨オイル	交換時期	規定量	
TF-300 トランスミッション フルード	400時間ごと (スプロケット交換と合せて実施)	右側	0.5L
		左側	1.0L

〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量(検油窓の半分の量)まで補給してください。給油口はステップ下部のマットを外すと見えます。

各部の点検・整備



〈交換のしかた〉

1. ミッションケース下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

【参考】

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。
4. 給油口からミッションオイルを給油してください。
5. 給油口のふたを取り付けてください。

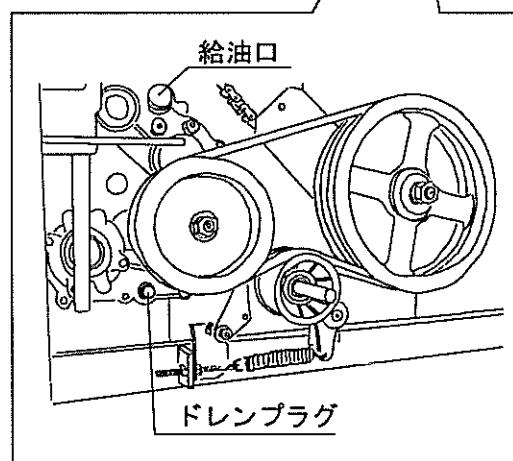
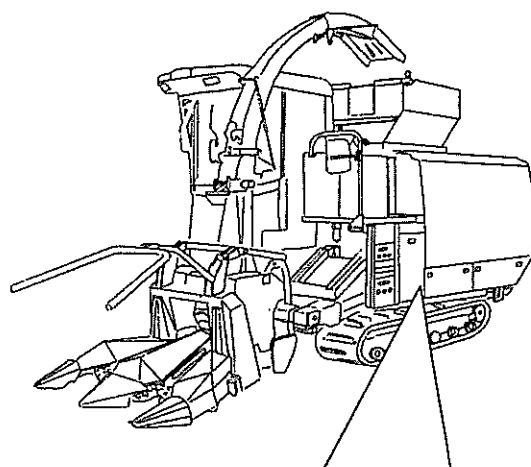
【重要】

- ミッションオイルの交換後は、前記の「点検のしかた」に従って、オイルが規定量あるか確認してください。
- センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にミッションオイルを交換したときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。(162ページ参照)
メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前に、メンテナンス情報を表示してしまいます。

③カウンタース

推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90番	300時間ごと	8L

1. 左側のカバーを開けてください。



2. オイルがクローラにかからないように、厚紙などを折り曲げて、とい状にしたものを使用してオイルを受けてください。

各部の点検・整備

④インタークーラファン駆動ケース

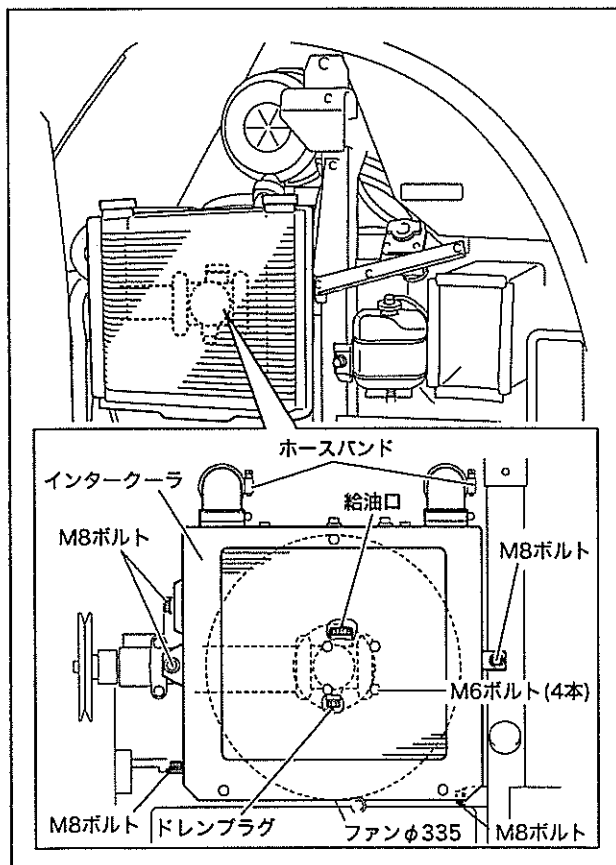
推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90番	300時間ごと	0.2L

〈補給のしかた〉

1. エンジンルームを開けてください。
2. 給油口を外して、補給してください。

〈交換のしかた〉

1. M8 ボルト(5本)を外し、ホースバンド(2か所)をゆるめて、インタークーラ本体を取り外してください。
2. M6 ボルト(4本)を外し、ファンφ355を取り外してください。
3. オイルがかからないように、厚紙などを折り曲げて、とい状にしたものを使用してオイルを受けてください。



⑤油圧パッケージ

推奨オイル	交換時期	規定量
シェルテラス オイル68	500時間ごと	5L

〈補給のしかた〉

1. カバーLを開けてください。
2. 給油口を外して、補給してください。

〈交換のしかた〉

1. ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。

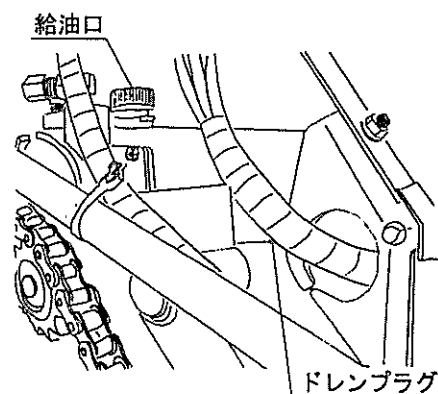
[参考]

オイルが回りにかからないように、厚紙などを折り曲げて、とい状にしたものを使用してオイルを受けてください。

2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。



各部の点検・整備

⑥ハーベスタ直交ミッション

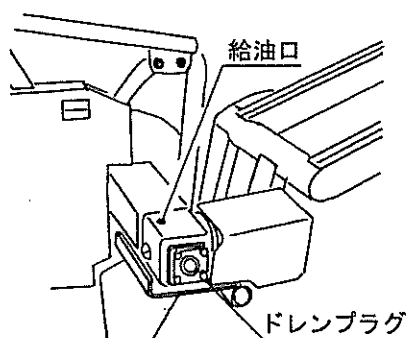
推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90番	300時間ごと	0.8L

〈補給のしかた〉

給油口を外して、補給してください。

〈交換のしかた〉

ドレンプラグを取り外してください。
このとき、オイルが周辺にかからないように、厚紙などを折り曲げて、とい状にしたものを使用してオイルを受けてください。



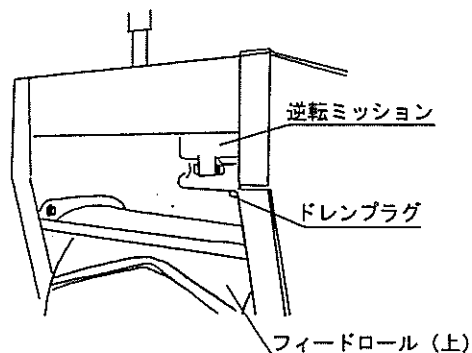
(図は、本機左側からみています。)

⑦逆転ミッション

推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90番	300時間ごと	0.8L

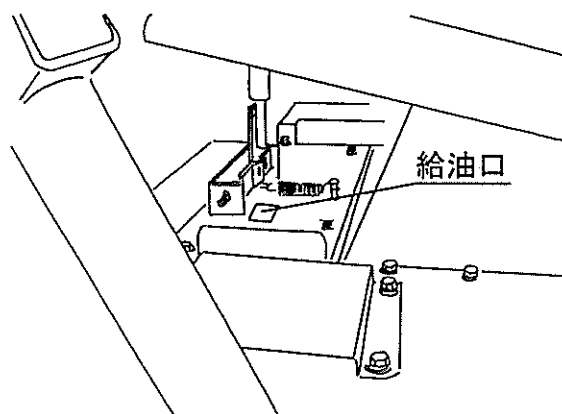
〈交換のしかた〉

1. アタッチを取り外してください。
(129ページ参照)
2. ドレンプラグを取り外してください。
このとき、オイルが周辺にかからないように、厚紙などを折り曲げて、とい状にしたものを使用してオイルを受けてください。



(図は、本機左前から見えています。)

3. 上面の給油口を開け、給油してください。



(8) 冷却水の点検・補給・交換のしかた

▲ 危険

ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後には絶対に外さないでください。外すと熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。エンジン停止後30分以上経過し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを徐々にゆるめ、蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

冷却水の点検・補給・交換は、エンジンルームを開けてから行ってください。

(128ページ参照) 作業終了後が元通りにセットしてください。

各部の点検・整備

〈点検のしかた〉

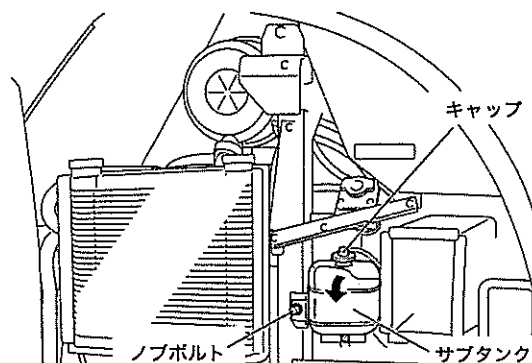
サブタンク内の冷却水が「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

〔参考〕

点検時、水もれのないことを確認してください。

〈補給のしかた〉

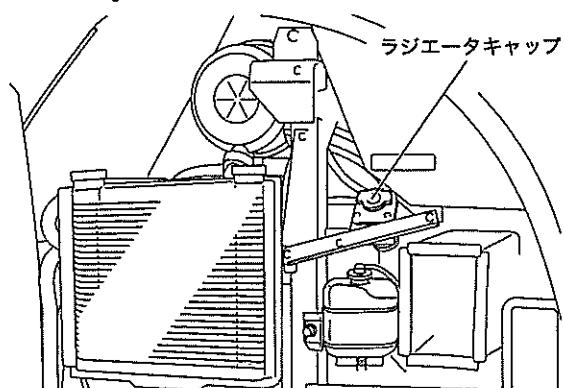
1. ノブボルトを外して、サブタンクを前に倒してください。
2. 冷却水が不足している場合は、サブタンクのキャップを外し、きれいな水道水を補給してください。



〈交換のしかた〉

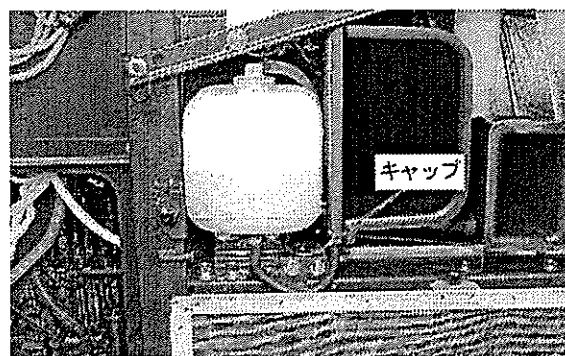
推奨不凍液	交換時期
スーパーフリーズ	1年ごと

1. ラジエータキャップを取り外してください。

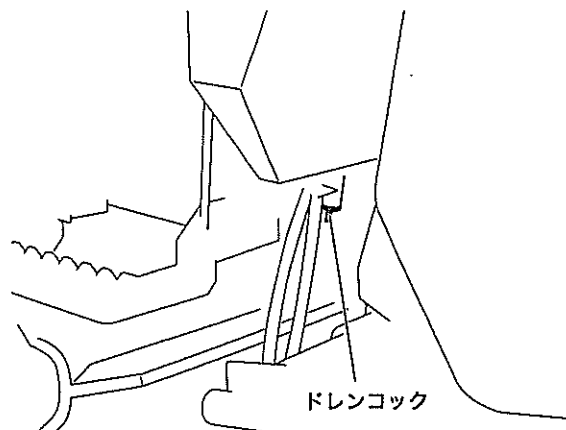


〔重要〕

写真のキャップは、取り外さないでください。



2. ドレンコックを取り外し、ラジエータ内の水をすべて抜いてください。



3. 水道水でゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内を洗います。

〔参考〕

ラジエータ内をきれいにしたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータに入れ、15分以上エンジンを空回転してから、水を抜き取ってください。

4. ドレンコックを元通りに取り付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れてください。
5. ラジエータキャップを取り付けてください。
6. エンジンを始動し、5分間エンジンを空回転して、不凍液の混合を早めてください。
7. エンジン停止後、再度サブタンク内の冷却水量が規定量あるか確認してください。

各部の点検・整備

〈不凍液の取扱いについて〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度がことなりますので、厳寒冷地などでは下記の表を参考にして、安全な濃度で使用してください。

不凍液混合率表

外気温度(℃)		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比 率	水(%)	85	75	70	65	60	55
	不凍液(%)	15	25	30	35	40	45

- 出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。
- 不凍液の混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合は、水道水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

〔重要〕

地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

(9) エンジンオイルエレメントの

交換のしかた

エンジンオイルエレメントは、エンジンオイル内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

交換時期	1回目：50時間または1シーズン後
	2回目以後：300時間ごと

作業は、エンジンルームを開けて、メンテカバーを外してから行ってください。

(128ページ参照)

作業終了後は、元通りにセットしてください。

〔参考〕

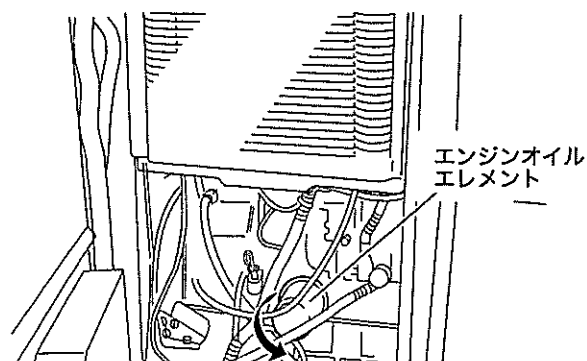
エンジンオイルエレメントの交換と同時に、エンジンオイルの交換も行ってください。(164ページ参照)

名称	コード No.
指定エレメント	Y1291-5035-152

〈交換のしかた〉

エンジンオイルエレメントの交換は、エンジンオイルを抜き取った後に行ってください。

1. オイルエレメントを、矢印方向に回して取り外してください。



各部の点検・整備

2. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
3. オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

【重要】

- 交換後は、オイルエレメント取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。
- エンジンオイルエレメントは、ヤンマー純正部品をご使用ください。

(10) HSTフィルタの交換のしかた

HSTオイルは、ミッションオイルと兼用しています。HSTフィルタは、カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

交換時期	1回目：50 時間
	2回目以後：300 時間ごと

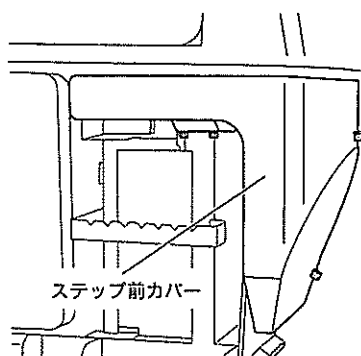
【参考】

HSTフィルタの交換と同時に、ミッションオイルの交換も行ってください。
(166 ページ参照)

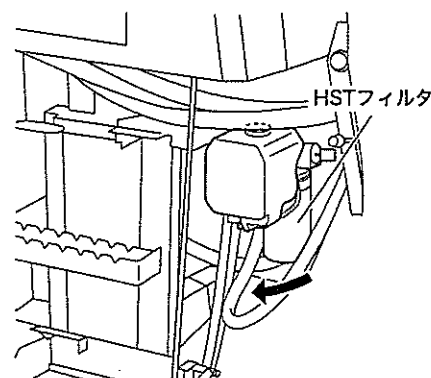
〈交換のしかた〉

HSTフィルタの交換は、ミッションオイルを抜き取った後に行ってください。

1. ステップ前カバーを外す。



2. HSTフィルタを、矢印方向に回して取り外してください。



3. 新しいHSTフィルタの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
4. HSTフィルタを、ゴムリングがミッションケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

【重要】

- 交換後は、HSTフィルタ取付面からオイルもれやにじみがないか、必ず確認してください。
- HSTフィルタは、ヤンマー純正部品をご使用ください。

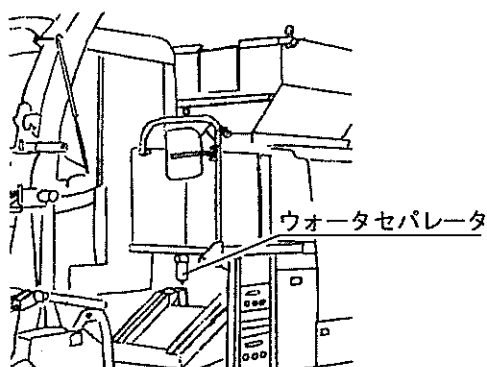
各部の点検・整備

(11) ウォータセパレータエレメントの点検・ドレン抜き・掃除・交換のしかた

交換時期	水がたまったとき
------	----------

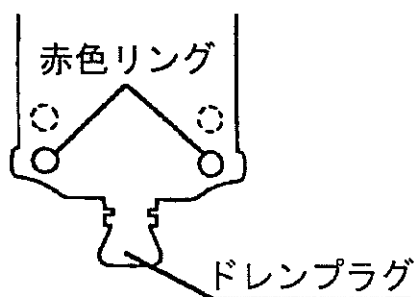
〈点検のしかた〉

燃料タンクの前側にウォータセパレータ(水分分離器)があります。ウォータセパレータ内の赤リングが基準線まで上がってきたら、中の水を抜いてください。



〈ドレン抜きのしかた〉

1. ドレンプラグを外して中の水を抜いてください。
2. ドレンプラグを元通りに組み付けてください。
3. 燃料タンクのドレン抜きを行ってください。(174ページ参照)
4. 燃料のエア抜きを行ってください。(175ページ参照)

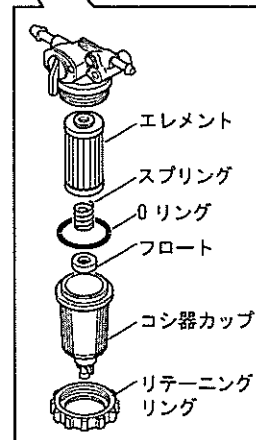
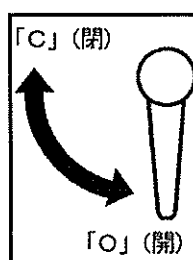
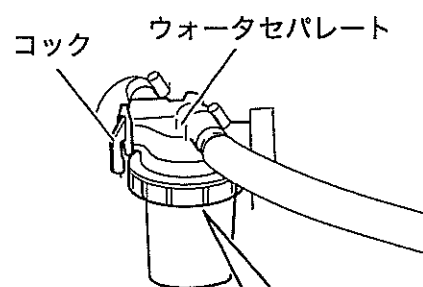


〔重要〕

空気が入ったときは、燃料のエア抜きをしてください。(175ページ参照)

〈掃除のしかた〉

1. ウォータセパレータのコックを「閉」位置にしてください。
2. コシ器カップとエレメントを取り外し、水・ゴミを取り除いてください。
3. コシ器の洗浄が終わったら、エレメントとコシ器カップを元通りに取り付けてください。
4. ウォータセパレータのコックを「開」位置にしてください。



〈交換のしかた〉

コシ器のエレメントは、300時間ごとに交換が必要です。要領は、掃除のしかたと同じです。前記2.のときに、エレメントを交換してください。

各部の点検・整備

(12) 燃料フィルタの交換のしかた

燃料フィルタは、燃料内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

交換時期	300時間ごと
------	---------

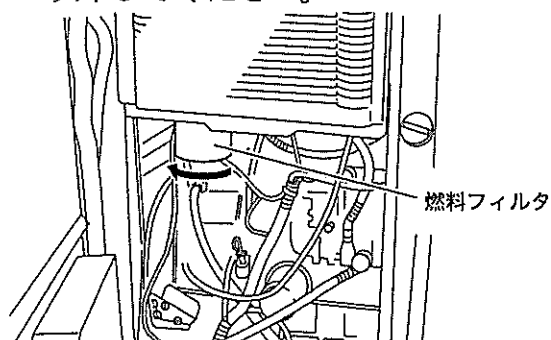
作業は、エンジンルームを開け、メンテカバーを外してから行ってください。

(128ページ参照)

作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈交換のしかた〉

1. カートリッジを、矢印方向に回して取り外してください。



2. 新しいカートリッジのゴムリングに。オイルを塗布してください。
3. カートリッジを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。
4. エア抜きを行ってください。
(175ページ参照)

【重要】

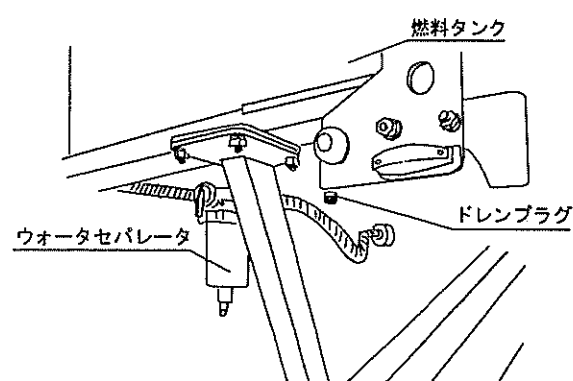
- 交換後は、カートリッジ取付面からの燃料もれやにじみがないか、必ず点検してください。
- 燃料フィルタは、ヤンマー純正部品をご使用ください。(230ページ参照)

(13) 燃料タンクドレン抜きのしかた

燃料タンクの底部には、水やゴミが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

〈ドレン抜きのしかた〉

1. 燃料タンク下部のドレンボルトをの下に、燃料を受ける容器を置いてください。
2. ドレンプラグを取り外してください。燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。



(図は、機体左前方から見ています。)

3. 排出後、ドレンプラグを取り付けてください。
4. 燃料キャップを取り外し、燃料を補給してください。(163ページ参照)
5. ドレンプラグ周辺から燃料のにじみ、もれがないことを確認してください。

各部の点検・整備

(14) 燃料の空気(エア)抜きのしかた

⚠ 警告

エンジン周りのベルト・防振ゴム・ホースなどに、燃料がかからないように注意してください。もし、燃料がかかった場合は、十分に水洗いしてください。燃料がかかっていると、火災の原因になり大変危険です。

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。下記の要領で空気抜きをしてください。

1. 燃料タンクを満タンにしてください。
2. キースイッチを「入」位置にしたまま20～30秒待ち、「始動」位置にしてください。
3. 自動的に空気(エア)抜きが行われ、エンジンが始動します。

以上で空気(エア)抜きは完了です。

(15) エアクリーナーの掃除・交換のしかた

エアクリーナーは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダライナやピストンリングの磨耗を防ぐ装置です。50時間ごとに掃除をし、300時間ごとにエレメントの交換をしてください。

作業は、エンジンルームを開けてから行ってください。(128ページ参照)

作業終了後は、元通りにセットしてください。

[参考]

エアクリーナーの掃除と同時に、プレクリーナーの掃除も行ってください。

(176ページ参照)

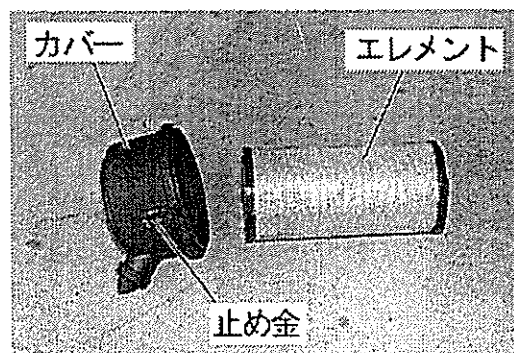
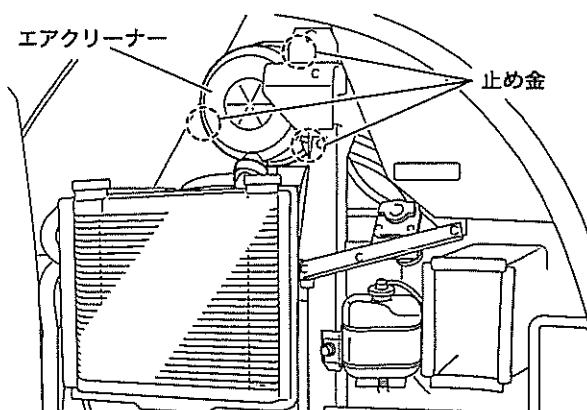
掃除時間	エレメントの交換時期
50時間ごと	300時間ごと (ホコリの多いところでは 200時間ごと)

〈掃除・交換のしかた〉

1. エンジンルームを開けてください。
2. カバーの止め金(3ヶ所)を外して、エレメントを取り出してください。
3. エレメントは、内側から空気(7 kg/cm²以下)を吹きつけてください。
4. 取り付けるときは、取り外しの逆手順で行ってください。

[重要]

- エレメントを洗ったときは、完全に乾かしてください。生乾きのエレメントは、絶対に使用しないでください。エンジン作動不良の原因になります。
- 中性洗剤の水溶液でザブ洗いするときは、ろ紙を傷つけないようにゆっくり洗ってください。
- エレメントを交換するときは、ヤンマー純正部品をご使用ください。
(230ページ参照)



各部の点検・整備

(16) プレクリーナーの掃除のしかた

⚠ 注意

エンジンルームなどの上には、直接登らないでください。高温になっている箇所もあり危険です。

プレクリーナーの中にたまったゴミは、毎日、作業後に掃除してください。

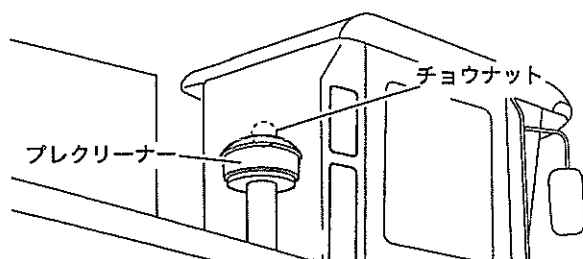
[参考]

プレクリーナーは、ホコリをすべて集めるものではありません。プレクリーナーの掃除と同時に、エアクリーナーも掃除してください。

(175 ページ参照)

〈掃除のしかた〉

プレクリーナー上部のチョウナットを外して、たまっているゴミを取り除いてください。

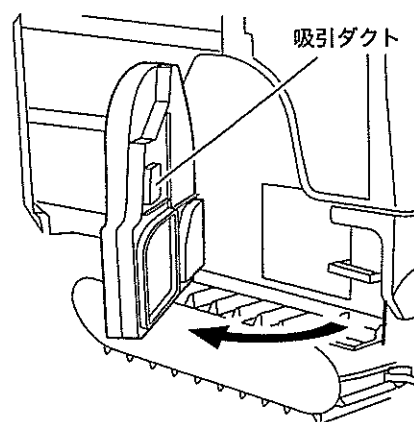
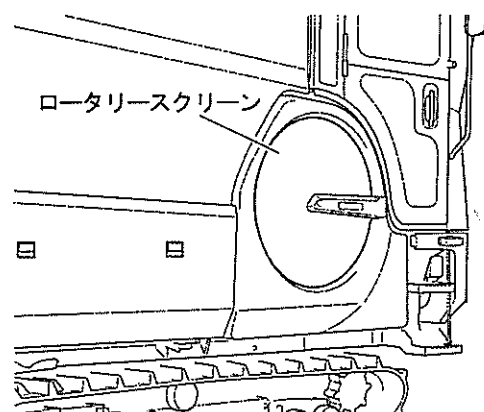


(17) 吸気口・ロータリースクリーン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

吸気口・ロータリースクリーン・ラジエータ冷却フィンは、エンジンの防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置ですから、作業前・作業後には必ず掃除をしてください。

①ロータリースクリーンの掃除のしかた

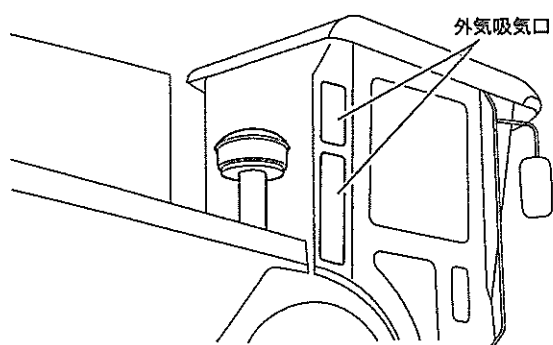
ロータリースクリーンの網面にゴミが付着したときは、軽く網面をこすってゴミを落としてください。吸引ダクトのゴミやホコリを掃除してください。



各部の点検・整備

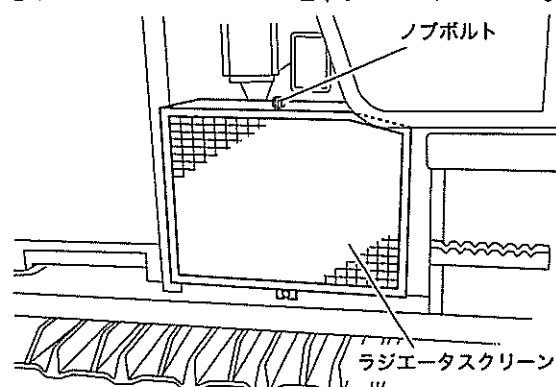
〈外気吸気口の掃除のしかた〉

吸気口網面にゴミが付着した場合は、エンジンを止めてから、軽く網面をこすってゴミを落としてください。エアコン用コンデンサフィンにゴミが付着した場合も、ゴミを払い落としてください。



②ラジエータスクリーンの掃除のしかた

1. エンジンルームを開けてください。
(128ページ参照)
2. ラジエータスクリーン上部のノブボルトを外して、ラジエータスクリーンを引き上げて取り外してください。
3. ラジエータスクリーンに付着したワラクズやホコリを、払い落としてください。
4. きれいに掃除した後、ラジエータスクリーンを、元通りに取り付けてください。
5. エンジンルームを閉じてください。



【重要】

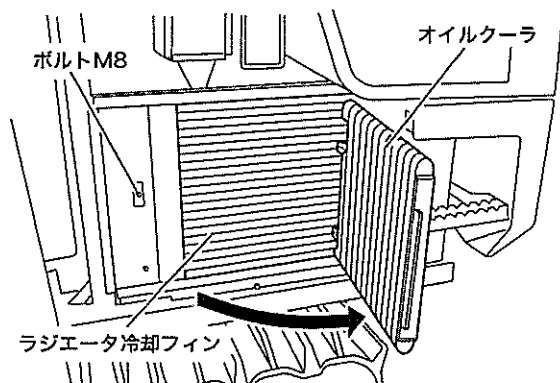
ラジエータスクリーンへのゴミの付着には常に注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジンの冷却不良の原因になります。

各部の点検・整備

③オイルクーラフィン・

ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた
粉塵が特に多い場所は、下記の要領でラジエータ冷却フィンを掃除してください。

1. エンジンルームを開けてください。
(128ページ参照)
2. ラジエータスクリーン上部のノブボルトを外して、ラジエータスクリーンを引き上げて取り外してください。
3. ボルトM8(1本)を外して、オイルクーラを開いてください。
4. オイルクーラフィン・ラジエータ冷却フィンに付着しているゴミを取り除いてください。
5. きれいに掃除した後、オイルクーラとラジエータスクリーンを、元通りに取り付けてください。
6. エンジンルームを閉じてください。



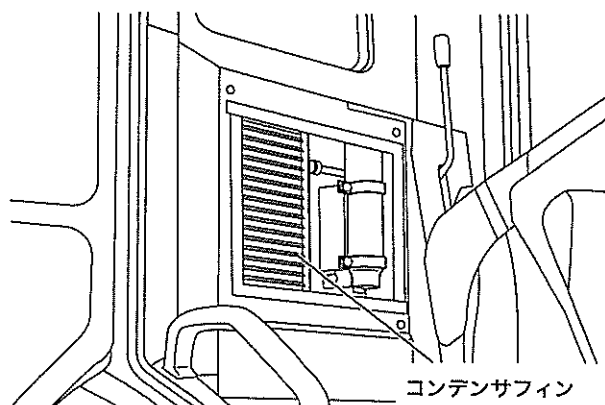
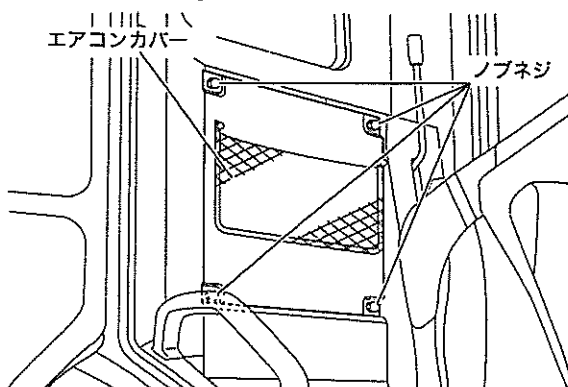
[重要]

ラジエータ冷却フィンを変形させないでください。

④エアコン用コンデンサフィンの

掃除のしかた

1. ドライバーシートを全面に倒してください。
2. キャビン室内後面のカバーのノブネジ(4本)を外して、カバーを取り外してください。



3. コンデンサフィンに付着しているゴミを取り除いてください。

[重要]

- 網面やスクリーンへのゴミの付着には常に注意し、ゴミが付着していれば必ず掃除してください。
- コンデンサが目詰まりすると、冷却能力が低下しますので、定期的に掃除をしてください。

各部の点検・整備

⑤フィルタの掃除のしかた

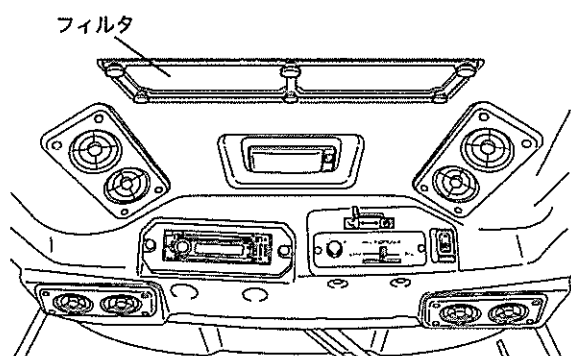
⚠ 警告

- フィルタの掃除や点検・整備をするときは、必ずキースイッチを「切」位置にしてください。
- 空気の吸い込み口や吹き出し口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転していますので、ケガの原因になります。

1. キースイッチを「切」位置にしてください。
2. フィルタを取り外して、圧縮空気で洗浄してください。

〈汚れや詰まりが著しい場合〉

1. 中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、上下左右に動かしながらか洗浄してください。
2. 清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させてください。

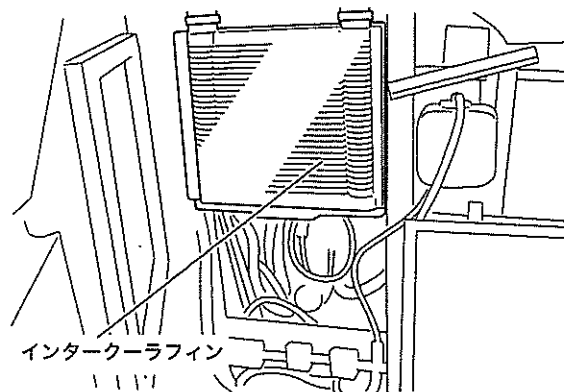


【重要】

洗浄に有機溶剤(ガソリン、シンナーなど)を仕様しないでください。

⑥インタークーラフィンの掃除のしかた

1. エンジンルームを開けてください。
(128ページ参照)
2. インタークーラフィンに付着しているゴミを取り除いてください。
3. きれいに掃除した後、エンジンルームを閉じてください。

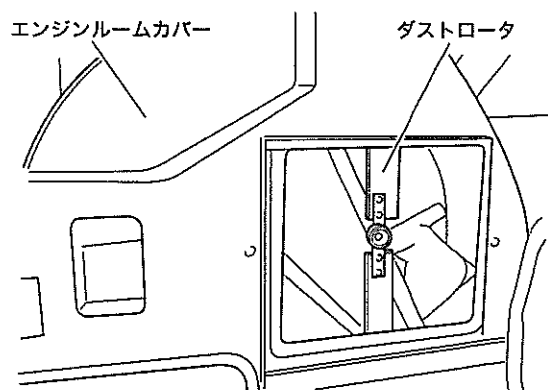


【重要】

インタークーラフィンを変形させないでください。

⑦ダストロータの点検のしかた

1. エンジンを開始して、エンジン回転数を定格回転にしてください。
2. エンジンルーム外側(本機右側面)から見て、ダストロータが回転していることを確認してください。



【重要】

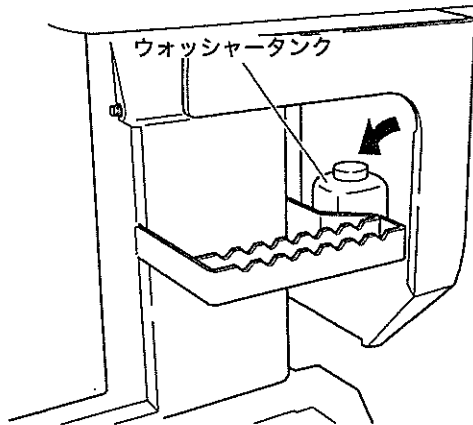
ダストロータが回転していない場合は、インタークーラ冷却用ファンが回転していない可能性があります。このまま使用していると必要な出力が出ません。エ

各部の点検・整備

エンジンを停止して、冷却用ファン駆動ベルトが掛かっていることを点検してください。

(18) ウォッシャー液の補充のしかた

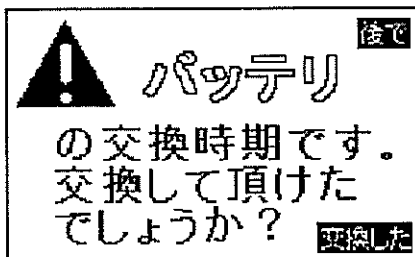
ウォッシャータンクは、ステップ前カバー内にあります。ウォッシャー液が無くなったときは、ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れてください。



(19) バッテリー点検・整備のしかた

⚠ 危険

- バッテリーの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。
交換時期(バッテリー電圧が 10.5V 以下)になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。



● 表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「ブザー停止スイッチ」(交換した)を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

● すぐに交換しない場合

設定スイッチ2(後で)を押してください。次にキースwitchを「入」位置にしたときにも、ブザー停止スイッチ(交換した)を押すまで表示されます。

⚠ 警告

- バッテリー液は、「下限(LOWER)」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。
- バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリー端子を取付けるときは、(+)側を先に取り付け、取外すときは(-)側から取外してください。守らないと、ショートしてヤケドや火災の原因になります。
- バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴をふさぐと、破損や火災の原因になります。

[重要]

- バッテリーの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、機械の金属部を腐蝕させます。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説

各部の点検・整備

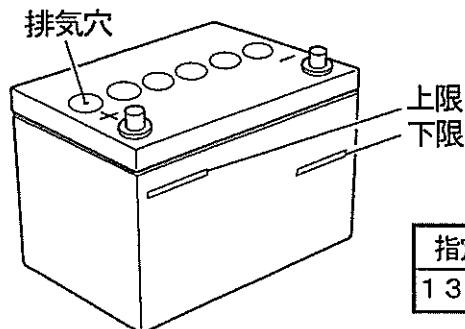
明書の指定した型式のバッテリーを使用してください。

指定 バッテリー	130E41L (部品コード No. Y1984-5051-510)
-------------	---------------------------------------

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

①バッテリー液の点検・補給のしかた

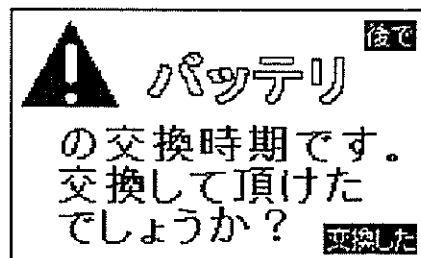
各槽のバッテリー液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは液口柱を外して、蒸留水を各槽均等に補給してください。



- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

②交換時期について

交換時期(バッテリー電圧が 10.5V 以下)になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。

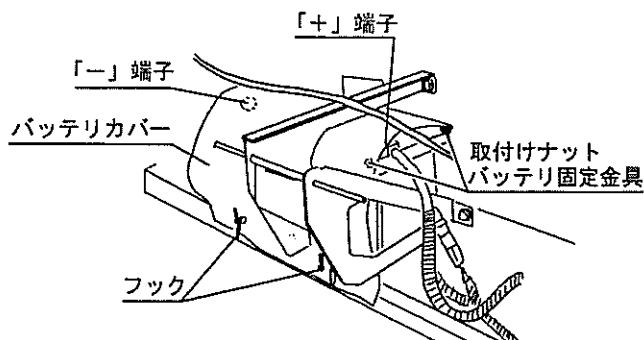


- 表示のリセットのしかた
交換を済ませた場合は、「ブザー停止スイッチ」(交換した)を押してください。
- すぐに交換しない場合
設定スイッチ 2 (後で)を押してください。メンテナンス情報の表示は、次回キースイッチを「入」位置にしたときにも表示されます。

③バッテリーの取外しかた

バッテリーは、右側後部にあります。以下の要領に従って取り外してください。

1. カバー R を開けてください。
2. アンダーカバーを取り外してください。
3. バッテリーカバーを固定しているフックを外して、バッテリーカバーを取り外してください。



4. バッテリーを固定している取付ナット (4 個)を外して、バッテリー固定金具を取り外してください。

各部の点検・整備

5. バッテリーコードの「-」端子を取り外した後「+」端子を取り外してください。
6. バッテリーを抜き出してください。
7. バッテリーの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

④ 補充電のしかた

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、下記の要領で補充電をしてください。

1. バッテリーを取り外してください。
2. 液口栓を外し、バッテリーの「+」を充電器の「+」に、バッテリーの「-」を充電器の「-」に接続してください。
3. 3アンペア程度で8～10時間行ってください。

[重要]

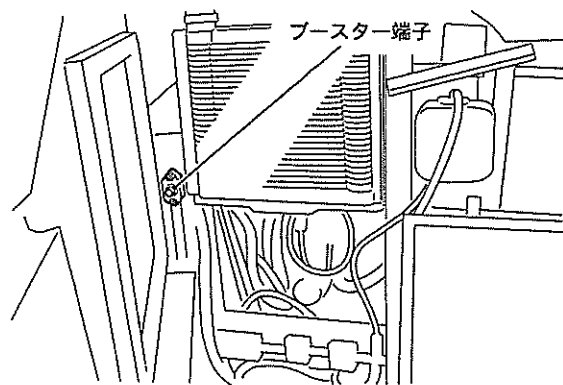
- 急速充電はしないでください。
- 取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリースを塗布してください。
- バッテリーの「+」ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。

⑤ ブースター端子を使った

エンジンの始動のしかた

ブースター端子は、ブースターケーブル用端子でバッテリーの電圧がかかっています。バッテリー容量が低下して、エンジンの始動ができない場合は、ブースター端子を使ってエンジンを始動することができます。

1. エンジンルームを開けてください。
2. ブースター端子にブースターケーブルの「+」側を、ブースターケーブルの「-」側をシャーシに接続してください。



3. この状態で、エンジンを始動することができます。
 4. エンジンが始動したら、ブースターケーブルを取り外してください。
 5. エンジンルームを閉めてください。
- 以上で、エンジンを始動することができます。

[重要]

- バッテリーの「+」ターミナルとブースター端子のゴムブーツは、必ず取り付けおいてください。
- 取り付けるときは、ターミナル接続部の油分などをふき取ってください。また、取付後は、ターミナル部にグリースを塗布してください。
- ブースター端子では、充電しないでください。

各部の点検・整備

⑥ バッテリーの手入れのしかた

バッテリー端子が腐蝕していたり、白い粉が付いている場合は、お湯で掃除し、グリースを塗布してください。

⑦ バッテリーの自然放電について

エンジンを長時間運転しないで放置していると、バッテリーは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電してください。

(20) パイプ類の点検のしかた

⚠ 警告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。守らないと、油が皮膚に侵入した場合、えそにかかるおそれがあります。
- 作業前・作業後に、燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか点検し、燃料もれのある燃料パイプは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料もれ、水もれがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでないか点検してください。

燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。

燃料パイプを交換したときは、空気(エア)抜きをしてください。(175ページ参照)

[重要]

エンジンオイルのドレンホースも必ず点検してください。エンジンオイルのドレンホースが破損していると、エンジンの焼付きの原因になります。

(21) 電気配線の点検のしかた

⚠ 警告

バッテリーや配線に付着しているワラクスやゴミは、作業前・作業後にきれいに取除いてください。ワラクスやゴミが付着していると、火災の原因になります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、販売店で修理してください。

配線コードは、傷みがなくても50時間使用または1年ごとに、定期点検を受けてください。

(22) ヒューズ・スローブロー

ヒューズの点検・交換のしかた

⚠ 警告

ヒューズおよびスローブローヒューズは、必ず規定アンペアのものを使用してください。守らないと、火災につながるおそれがあります。

〈ヒューズの交換のしかた〉

1. ヒューズボックスのふたを外して、ヒューズを点検してください。
2. ヒューズが切れていれば、規定容量のものと交換してください。

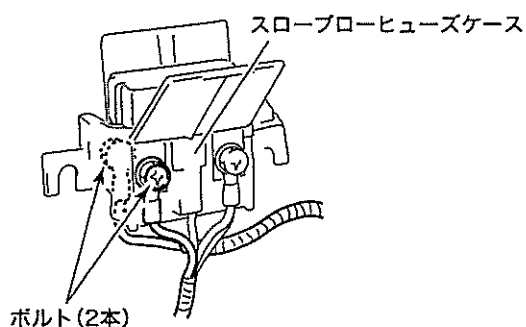
[重要]

規定容量のヒューズと交換してもすぐに切れてしまう場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

各部の点検・整備

〈スローブローヒューズ60A・80A・100Aの交換のしかた〉

1. バッテリーコードの「－」端子を外してください。
2. スローブローヒューズケースを固定している、ボルト2本を外してください。
3. ヒューズケース両側面のカバーを開き、交換するスローブローヒューズを固定しているボルト（2本）を外してください。



[参考]

ボルト（2本）は、スローブローヒューズごとにあります。

4. ヒューズケース上面のカバーを外し、スローブローヒューズを交換し、元通りに取り付けてください。

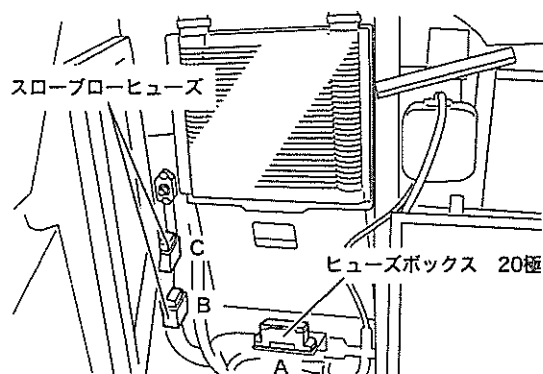
[参考]

スローブローヒューズはヒューズの一つで万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。溶断したらお買い上げいただいた特販点、またはJ Aで点検を受けてください。

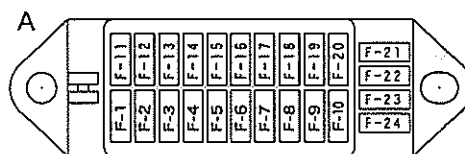
①本機側ヒューズ

- ヒューズおよびスローブローヒューズは3か所にあります。
- スローブローヒューズは、エンジンルーム内にあります。

〈本機ヒューズおよびスローブローヒューズ〉



ヒューズボックス 20極

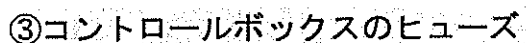


F-1 5A	キースイッチ	F-11 5A	車速センサ
F-2 20A	作業灯	F-12 20A	ロータリースクリーンモーク
F-3 30A	ロールベアラ電源	F-13 10A	ホーン/ヘッドライト
F-4 5A	作業クラッチ	F-14 10A	フラッシュ
F-5 10A	バックモニタ	F-15 5A	キースイッチON
F-6 20A	リール変速	F-16 30A	リール前後
F-7 10A	コラム電源	F-17 15A	作業電磁弁
F-8 15A	エコカパナ	F-18 5A	バックプザー/ランプ
F-9 15A	ミッション走行コントローラ	F-19 10A	フューエルポンプ
F-10 5A	ステップセンサ	F-20 10A	ブレーキランプ

F-24 30A	F-23 20A	F-22 10A	F-21 5A	予備
-------------	-------------	-------------	------------	----

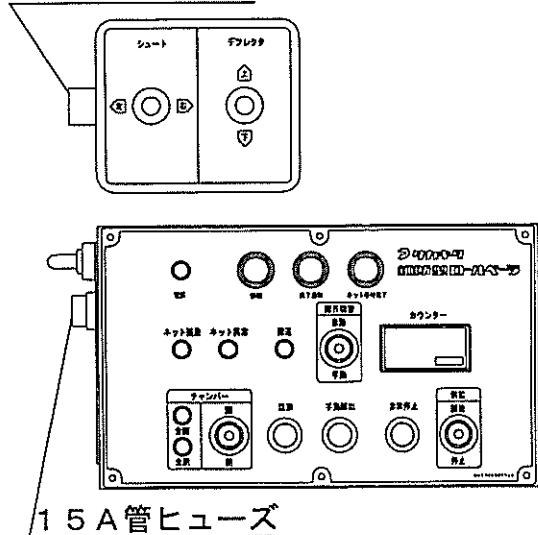
②キャビン内のヒューズ

ヒューズ



コントロールボックスの側面にあります。

20A管ヒューズ



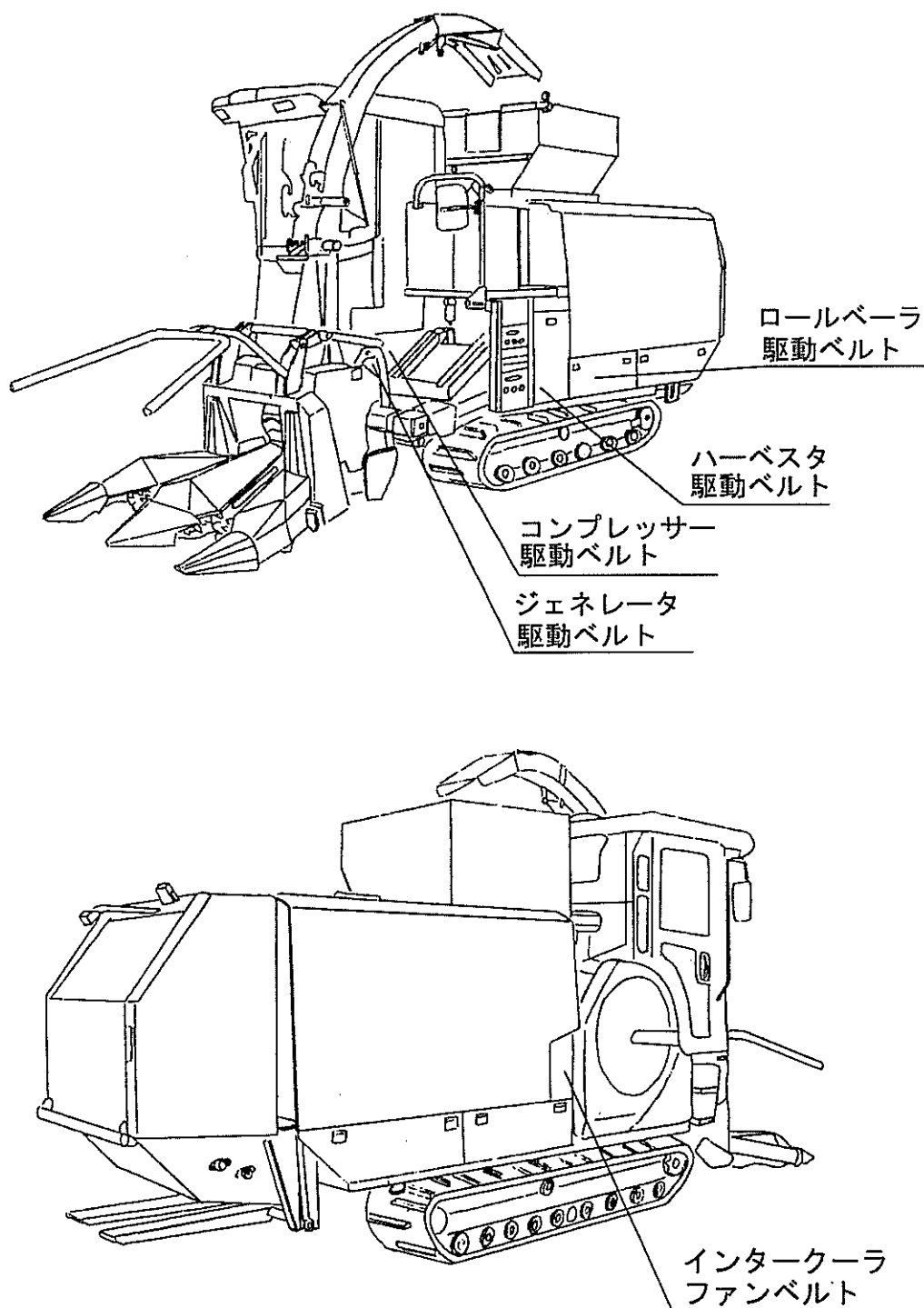
各部の点検・整備

(23) 各部ベルトの点検・調節のしかた

ベルトにキズがあるときや切れたときは、主要消耗部品（230ページ参照）に紹介されているベルトと交換してください。

[参考]

ベルトの位置を探すときの参考にしてください。



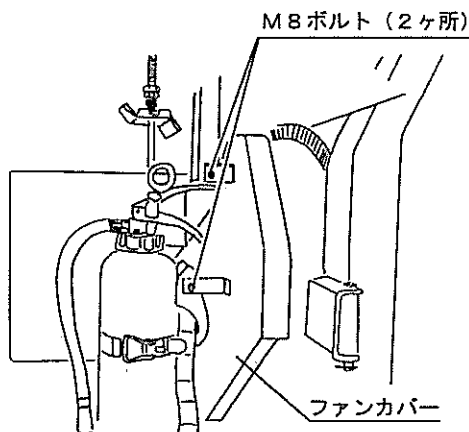
(図は、ロークropp仕様)

各部の点検・整備

① インタークーラファンベルト

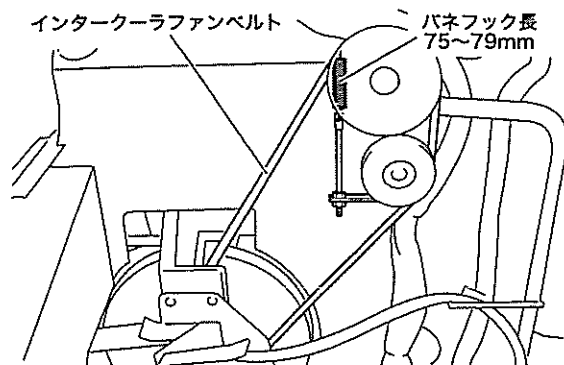
使用ベルト LA-60 (1本)

カバーRを開けて、ファンカバーを取り外してください。(ボルトM8:2本)

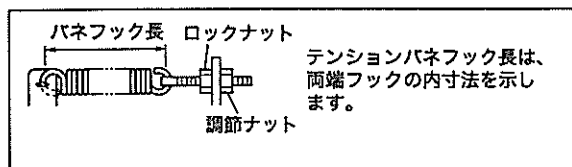


〈点検のしかた〉

テンションバネのフック長を測り、75～79mmであるか確認してください。



※図は、エンジンルームを後から見えています。



② コンプレッサ駆動ベルト

使用ベルト マルチプライA-29

(1本)

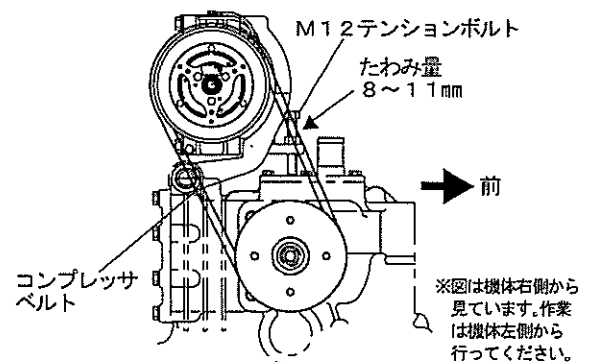
刈取部を開けて、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに収納してください。

〈点検のしかた〉

ベルトの中央を指で押さえて、たわみ量を8～11mmに調節してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. M12テンションボルトを調節してください。
3. ロックナットを締め込んでください。



各部の点検・整備

③ジェネレータ駆動ベルト

使用ベルト LA-47 (1本)

下記の点検・調節をしてください。

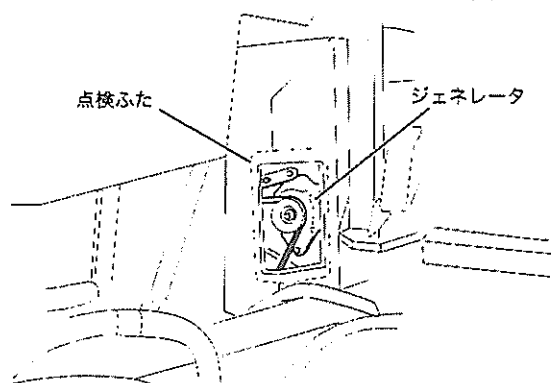
点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉

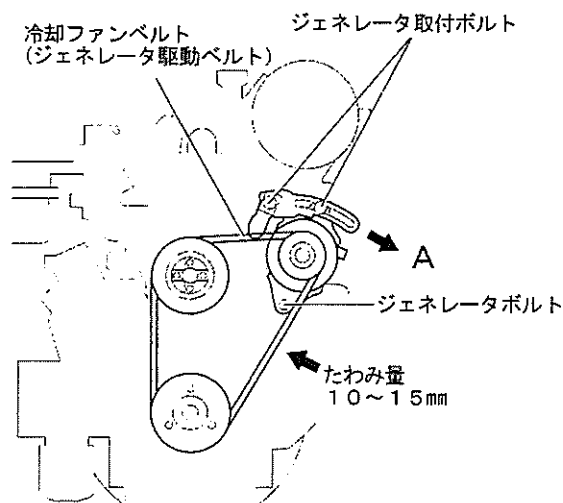
ベルトの中央を指で押したとき、たわみ量が10～15mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. 運転席左側下の点検ふたを取り外してください。(ボルトM6:4本)



2. ジェネレータ取付ボルトとジェネレータボルトをゆるめてください。
3. ジェネレータを下図の矢印Aの方向に引っ張り、ベルトを張ってください。
4. ジェネレータ取付ボルトとジェネレータボルトを締め付けて固定してください。



④ハーベスタ駆動ベルト

使用ベルト スーパーゴールド

LB-65 (4本)

サイドカバーLを取り外してください。

下記の点検・調節をしてください。

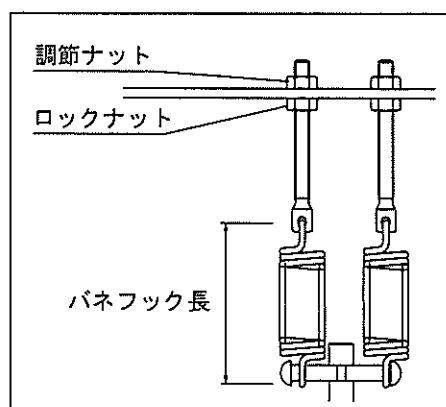
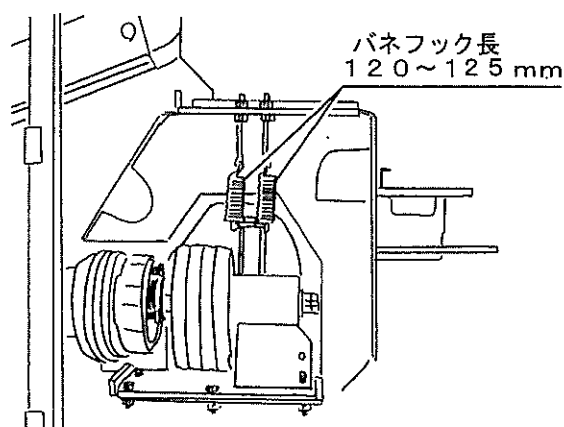
点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉

テンションバネフック長を測り、120～125mm

〈調節のしかた〉

ロックナットをゆるめ調節してください。このとき、2本とも同じ長さにしてください。



各部の点検・整備

⑤ ロールベアラ駆動ベルト

使用ベルト スーパーゴールド

LB-52 (3本)

カバーLを開け、アンダーカバーL1を取り外してください。

下記の点検・調節をしてください。

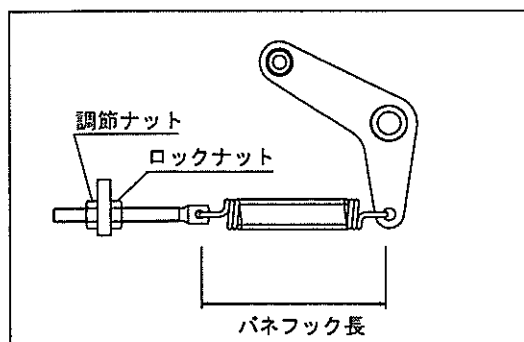
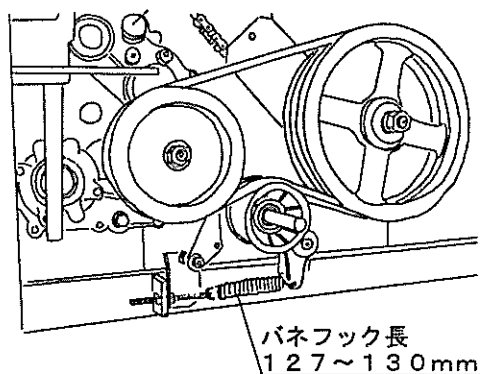
点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉

テンションバネフック長を測り、127～130mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

ロックナットをゆるめ調節してください。



(24) 各部のチェーン調整

〈ハーベスタ部〉

① アタッチ駆動チェーン

ハーベスタカバーRを取り外してください。

下記の点検・調節をしてください。

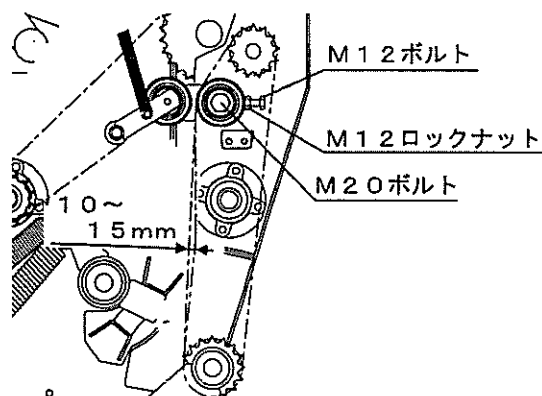
点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉

指でチェーンを押し、たわみが10～15mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

M20ボルトおよびM12ロックナットをゆるめ、M12ボルトで調節してください。



(図は、本体右側から見ています。)

各部の点検・整備

②切断長調整チェーン

ハーベスタカバーLを取り外してください。

下記の点検・調節をしてください。

点検・調節後は、元通りに閉めてください。

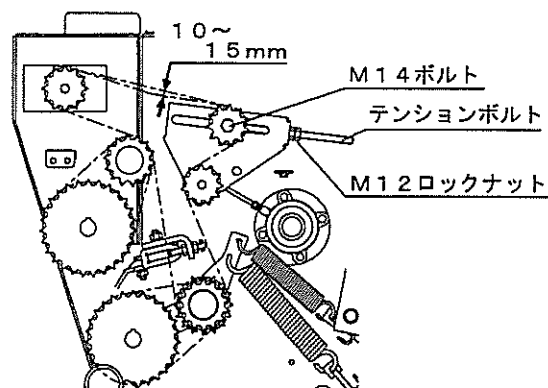
〈点検のしかた〉

指でチェーンを押し、たわみが10～15 mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

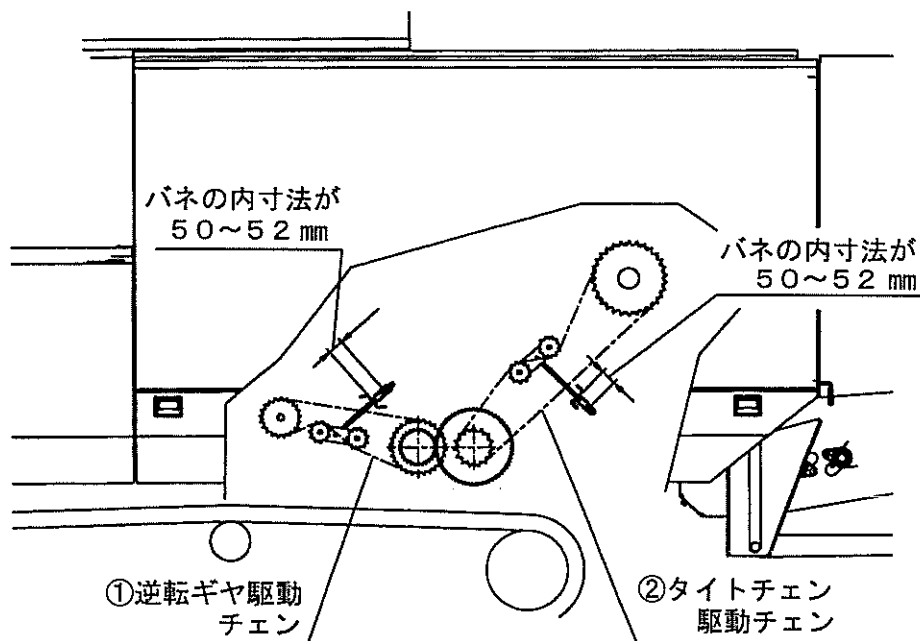
M14ボルトおよびM12ロックナット

トをゆるめ、テンションボルトで調節してください。



(図は、本体左側から見ています。)

〈ロールベアラ右側〉



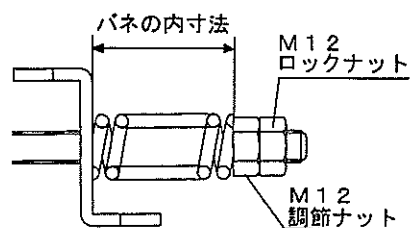
(図は、本体右側から見ています。)

〈点検のしかた〉

カバーRを開け、3ヶ所のテンションバネの内寸法を測り、48～50 mmであるか確認してください。

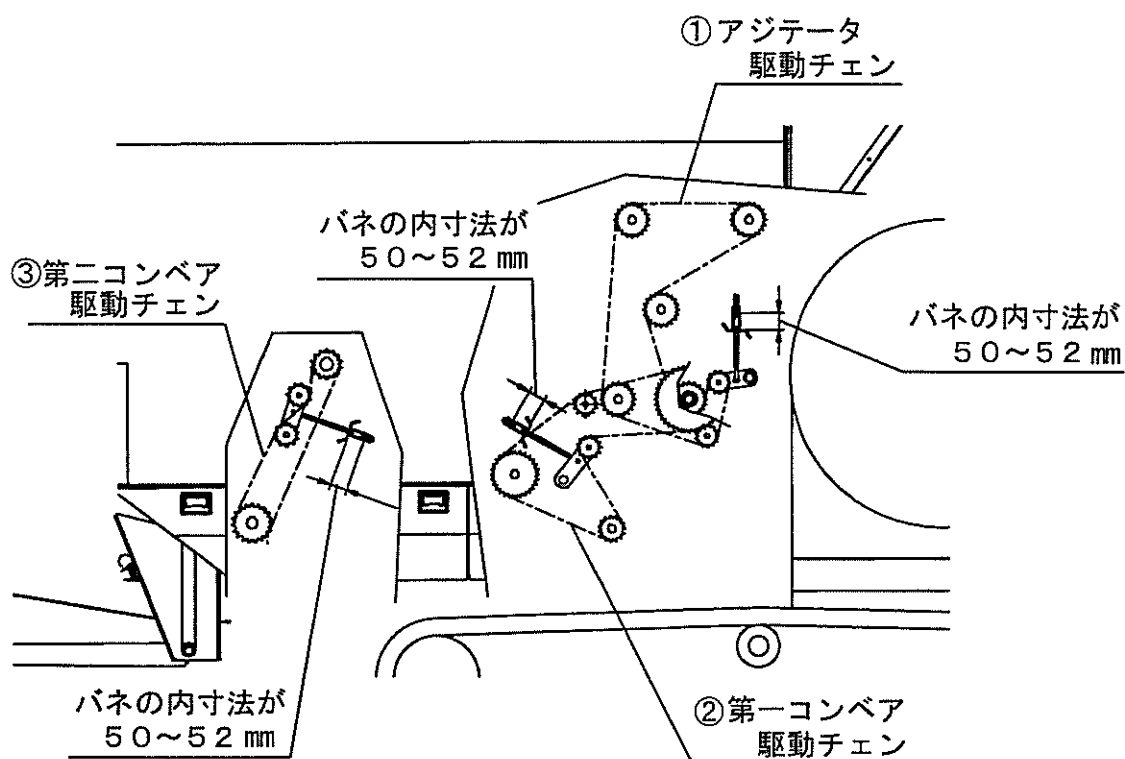
〈調節のしかた〉

M12のロックナットをゆるめ、M12調節ナットで調節してください。



各部の点検・整備

〈ロールペーラ左側〉



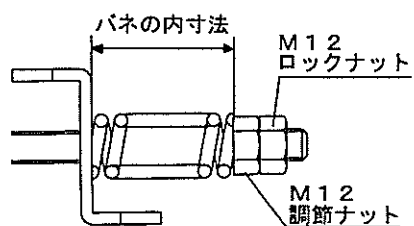
(図は、本体右側から見ています。)

〈点検のしかた〉

カバーRを開け、3ヶ所のテンションバネの内寸法を測り、50~52 mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

M12のロックナットをゆるめ、M12調節ナットで調節してください。

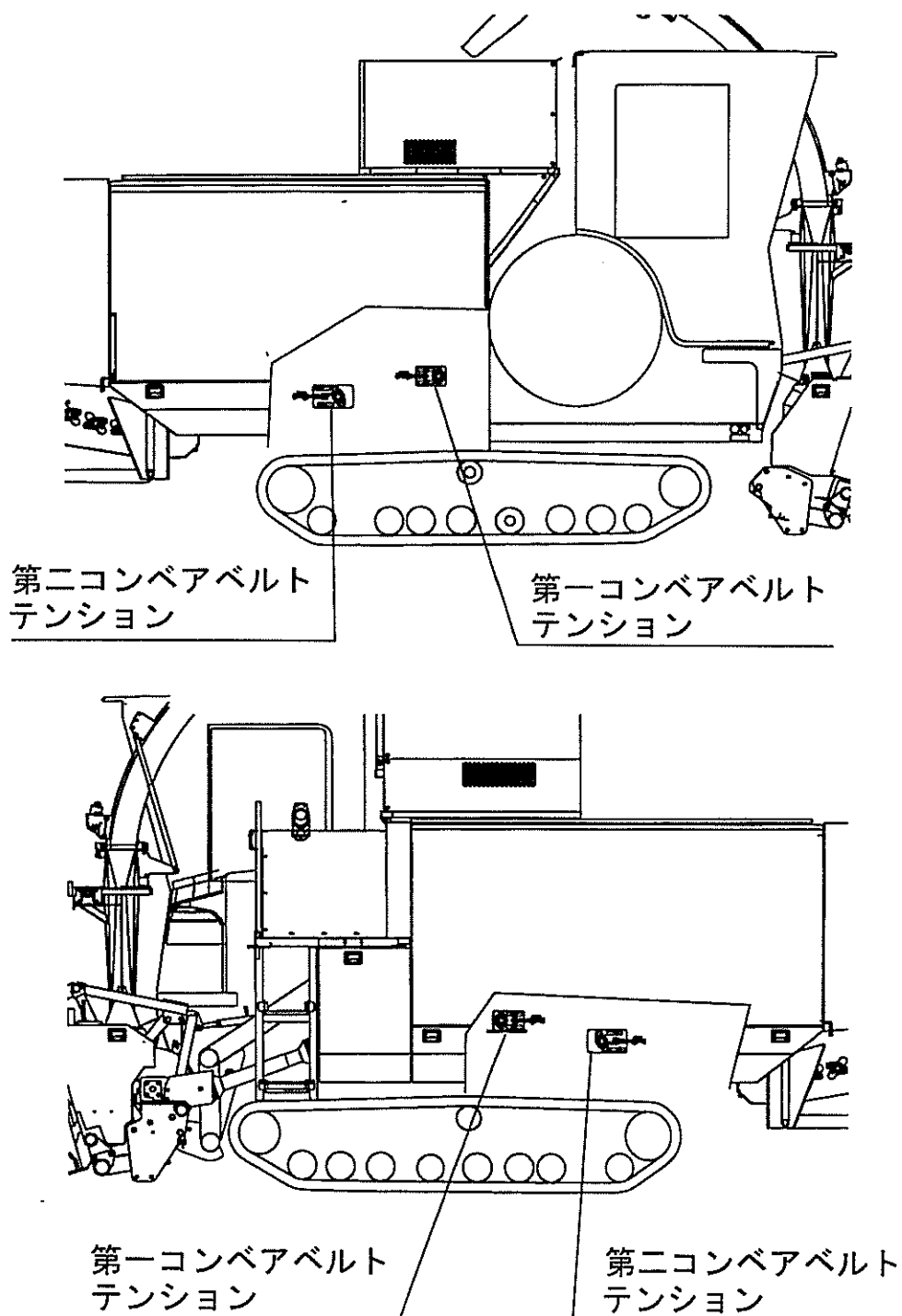


各部の点検・整備

(25) 第一・第二コンベアベルトの調整

〈点検のしかた〉

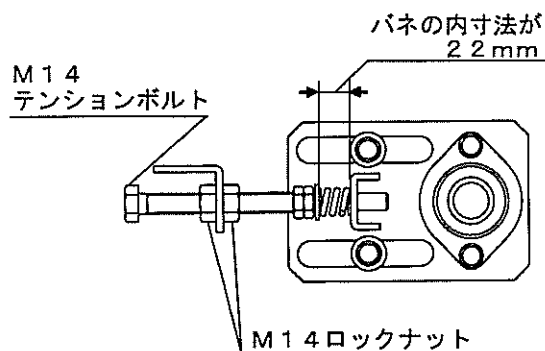
カバーL・カバーRを開けて、左右各2ヶ所のバネの内寸法を測り、22mmであるか確認してください。



各部の点検・整備

〈調節のしかた〉

M14のロックナットをゆるめ、
M14テンションボルトで調節して
ください。



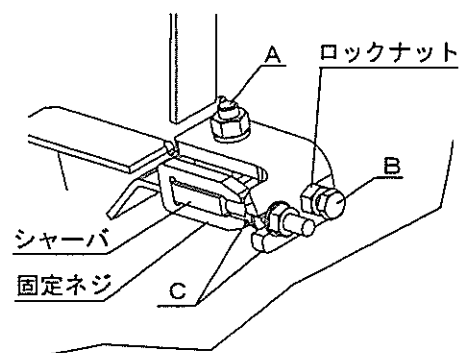
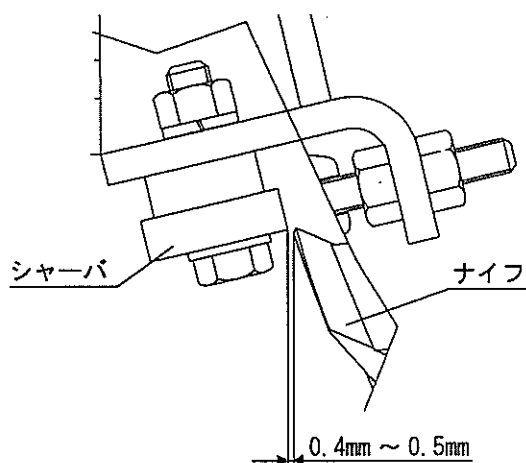
(図は、右側第一コンベアテンション)

(26) ハーベスタ各部のクリアランス

各部のクリアランス調節は下表に従って
行ってください。

場 所	基 準	方 法
刈取刃・受刃	0.2~0.3mm	シム調節
フィードロール上・下	(4~10)mm	目視確認
ナイフ・シャーバ	0.4~0.5mm	ネジ調節
フロントプレート・ナイフ	1~3mm	長穴調節
アッパーロール・スクレパ	0.3~0.8mm	長穴調節

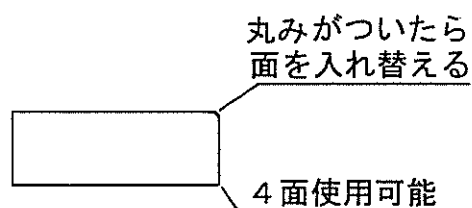
〈ナイフ・シャーバのクリアランス〉



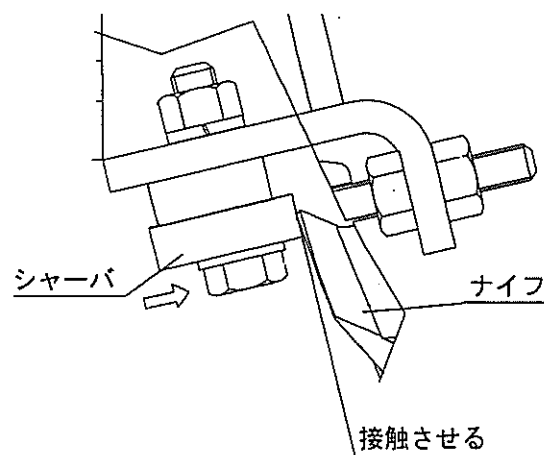
調節する前に、砥石でナイフの刃先を研
磨してください。

(195ページ“ナイフの研磨方法”参
照)

また、シャーバは4面使用できますので、
角部に丸みが付いてきたら、別の面を使
用してください。



- ①Aのナット、固定ネジのCナット(2ヶ)
を少し緩め、Bのボルトを逃がし(反時
計回し)、シャーバを出してカタヘッ
ドを逆に回転(左回転)させシャーバと
ナイフが当たった状態にします。



この時はケースの左右で確認してくだ
さい。

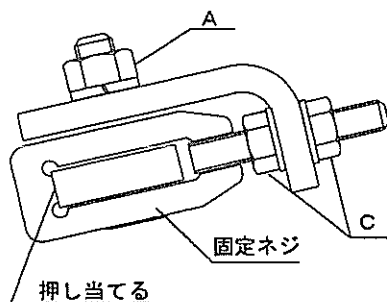
各部の点検・整備

- ②Bのボルトをシャーバに軽く当て、左右とも1/6回転(60°)ねじ込みます。
(移動量0.25mm)
- ③Aのボルトを締付け、すき間ゲージ(はがき1枚程度)にてクリアランスを測定します。すき間ゲージをシャーバに近づけ、通り抜けるかどうか見ます。
- ④もし、以上の作業により0.4mm以上のクリアランスが得られない場合はAのボルトを再度緩め、下表を参考にBのボルトを必要量だけねじ込んでからAのボルトを締付けてください。

回 転	1 / 1 2	1 / 6	1 / 4	1 / 3
移動量 (mm)	0.125	0.250	0.375	0.500

回 転	1 / 2	2 / 3	3 / 4	1
移動量 (mm)	0.750	1.000	1.125	1.500

- ⑤最後に固定ネジの端をシャーバに押し当てて、Cのナットで固定します



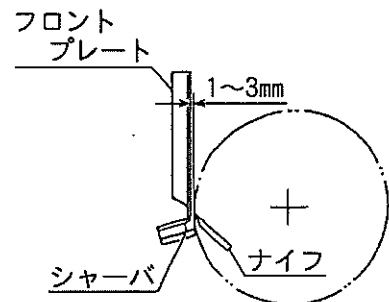
⚠ 注 意

ナイフとシャーバのクリアランスは必ず0.4mm以上あることを確認してください。守らないとナイフとシャーバが衝突し、ナイフを破損させ、大変危険です。

[参考]

ハーベスタ後方より見て、右側のクリアランスを少し多めにとっておくと、クリアランス調節ミスによるナイフとシャーバの衝突による破損を少なくすることができます。

＜フロントプレートとナイフのクリアランス＞



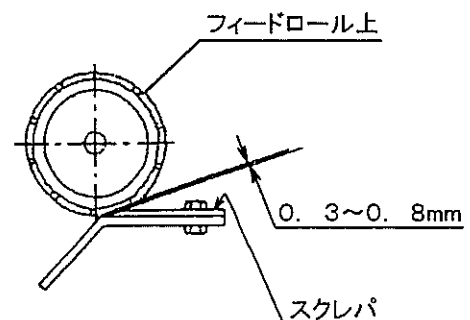
フロントプレートをナイフに近づけクリアランスを1~3mmに調節してください。この隙間が大きいとコーンの飛びが悪くなります。

＜フィードロール上とフィードロール下のクリアランス＞

ほとんど必要はありません。
オーバーホール等の後、目視で確認してください。

＜フィードロール上とスクレパのクリアランス＞

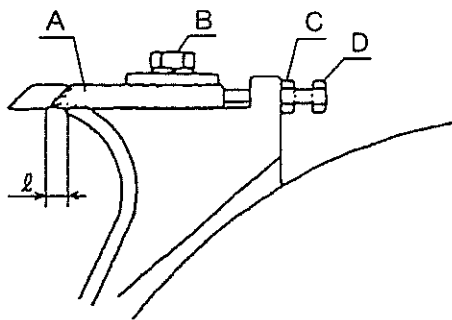
スクレパをフィードロール上に当てた後、少し後方へずらし、アッパーロールを回転させてスムーズに回ることを確認してください。



各部の点検・整備

(27) シリンダナイフの取付け調節

ナイフの磨耗が多くなった場合（図中のℓの長さが10mm以下）にはナイフを出してください。



⚠ 注意

切断各部の取り付け調節をするときは必ずエンジンを止め、また二人以上で作業する場合は合図をして行ってください。これを怠ると傷害事故が発生する恐れがあります。

●方法

①シャープ（受刃）をいっぱい前方へ逃がして固定してください。

②ℓの長さを測定してください。

③ℓの長さが15mmになるよう、どの程度出したらよいか計算してください。

（例）測定したℓの長さが10.5mmであれば

$$15 - 10.5 = 4.5$$

4.5mm出すことになります。

④Bのボルトを緩め、Cのロックナットを緩め、Dのボルトを締め込んで刃を前方に送ります。この時、左右のボルトとも下の表により同一回転だけ回してください。また、すべての刃についても、同一回転だけ回してください。

回 転	1	3.5	4	4.5	5
移動量 (mm)	1.25	4.38	5.00	5.63	6.25

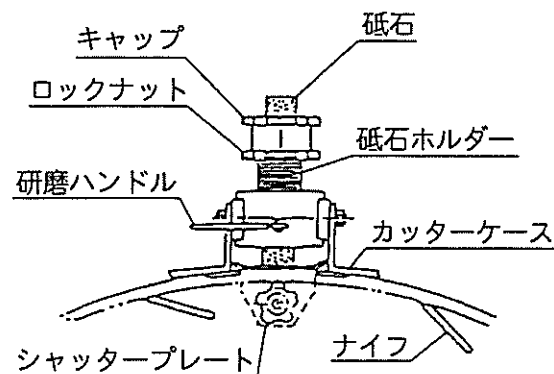
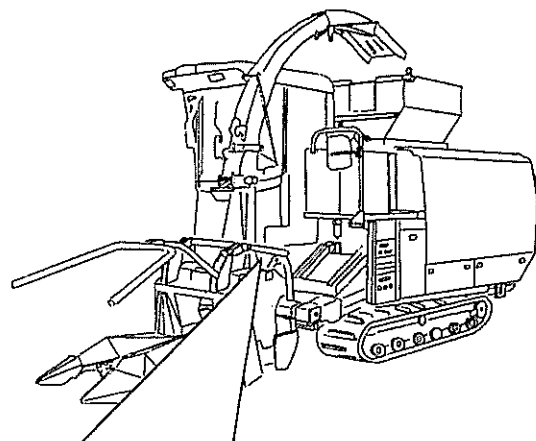
⑤Bのボルトを締め付けます。この時、ボルトは100N・m（10kg・m）程度のトルクで締め付けてください。その後Cのロックナットも締め付けてください。

⑥カッターヘッドをゆっくり手で回し、刃の出し過ぎでケース内のどこかに干渉したりしないことを確認してください。

⑦ナイフのクリアランス調節は前述の項を参照して調整してください。

(28) ナイフの研磨のしかた

ナイフが磨耗したままで使用すると、シャープとのクリアランスが大きくなり切れ味が低下し、切断長が不揃いになり所要動力上昇の原因になります。常に正しい刃先を保持することが必要です。



[注意]

飼料稲の収穫時は、特にナイフが磨耗しますので、必ず10ha毎に研磨してください。

各部の点検・整備

- ①シャッタープレートを外し、砥石をホルダーごとナイフに近づけます。
- ②エンジンを始動しエコモード切替スイッチが「切」になっていることを確認後、エンジン回転はアイドリングの状態で、ボールクラッチを「入」にします。
- ③砥石とナイフが接触したら研磨ハンドルを左右にスライドさせ、一往復毎にホルダーを1/4回転くらいずつ手で回し、砥石を下げていきます。
- ④この作業を繰り返すことによりナイフは円筒研磨されます。
- ⑤研磨が終了したら、ボールクラッチを「切」にし、エンジンを停止し、砥石を上げシャッタープレートを元の位置に入れ、砥石でシャッタープレートを軽く押さえておいてください。
- ⑥砥石が減った時は、ロックナットを緩め、キャップを外して砥石を手で押し出してください。(ホルダー先端より砥石が10～12mm出るようにしてください。)

[注意]

砥石は絶対にナイフに強く押し付けしないでください。砥石が割れ危険です。

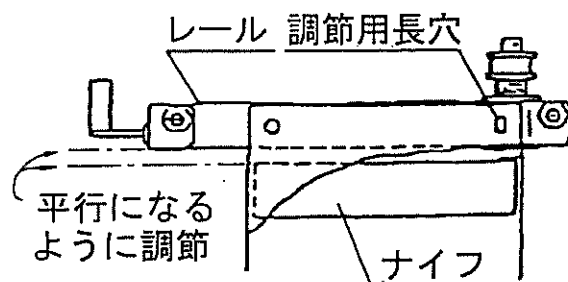
警告

ナイフの研磨時など、エンジンを始動させる時は、必ず周りの安全を確かめ、二人以上の共同作業の時は必ず合図をするようにしてください。
これを怠ると傷害事故が発生する恐れがあります。

[注意]

- ①ナイフを交換、あるいは調節した後、初めて研磨する場合、ナイフの片側しか研磨されない場合があります。
この場合は、そのまま研磨を続けると

長時間を必要としますのでレールとナイフの平行度を調節してください。

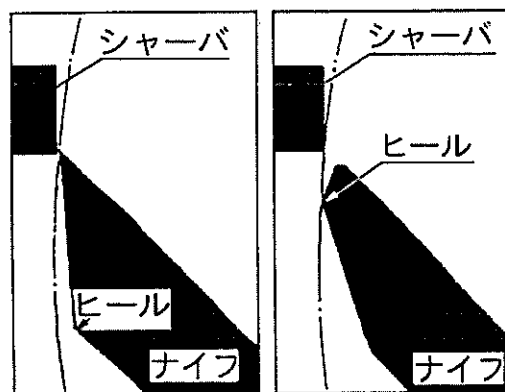


調節はボルトを緩め、ナイフの左右でナイフと砥石が均等に当たるように長穴の部分調節してください。

- ②次項のように、正しく研磨された刃先であれば正確なクリアランス調節が可能ですが、次の図のように磨耗あるいは折損したナイフで調節した場合には、ヒール部分で合わせることになり、スムーズな切断ができません。

必ず次項のように刃先が整えられていることを確認してください。

切断時の省力化が望めると共に、効率の良い作業を行うことができます。



正しい刃先

磨耗・折損した不適切な刃先

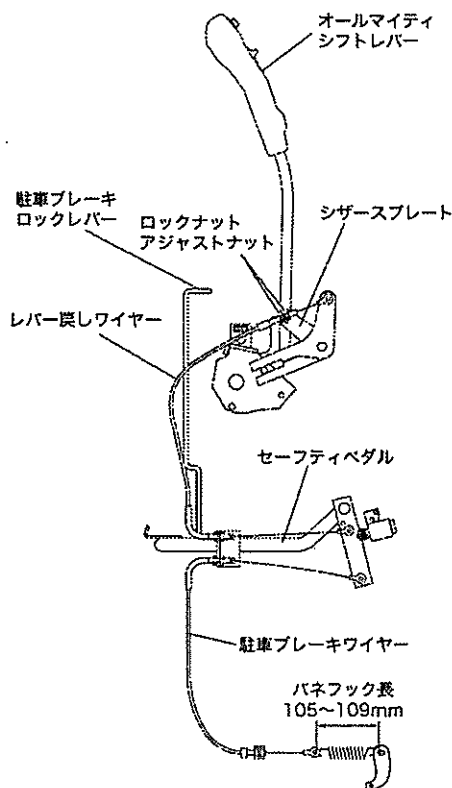
研磨後は『ナイフ・シャーバのクリアランス』の項を(193ページ)を参照して適正なクリアランス調節を行ってください。

各部の点検・整備

(29) 駐車ブレーキの点検・調節のしかた
アタッチを取り外し(129ページ参照)
サイドコラムカバーを取り外して、下記の
点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに取り付けてくだ
さい。

〈点検のしかた〉

1. セフティペダルを踏み込み、駐車ブレーキロックレバーでペダルをロックしてください。
2. オールマイティシフトレバーを前後に動かし、ガタがあるか確認してください。
3. ガタがなければ、駐車ブレーキバネのバネ長を105～109mmに調節してください。
4. ガタがある場合は、シザースプレートに付いているレバー戻しワイヤーのロックナットとアジャストナットでワイヤーを調節し、オールマイティシフトレバーのガタを無くしてください。
5. ガタがないことを確認後、駐車ブレーキバネを105～109mmに調節してください。



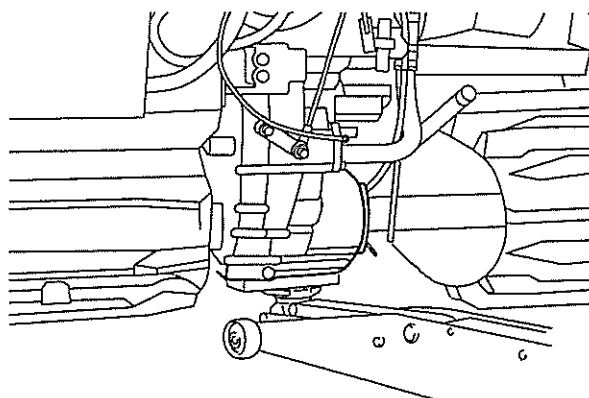
(30) クローラの点検・調節のしかた

ミッション下部およびシャーシ左後・右後の3か所を同時にジャッキアップし、クローラを浮かせた状態で下記の点検・調節をしてください。

〈ジャッキアップ時の注意事項〉

ジャッキアップをするときはアタッチは取り外し、地面が固く、平坦な場所で、必ず2800kg以上の容量のジャッキを使用して行ってください。

ミッション下部



〔重要〕

トランスミッションケースは、アルミ製ですので、ジャッキとの間に木材などの緩衝材を入れてください。入れないと、ケースが破損するおそれがあります。

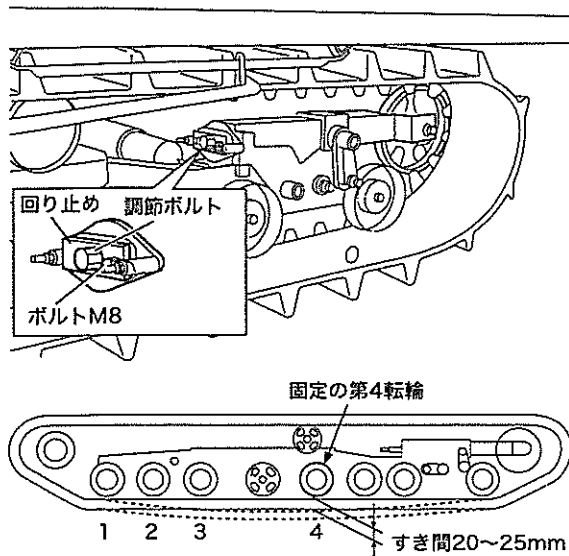
〈点検のしかた〉

固定の第4転輪とクローラのすき間を測り、20～25mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ボルトM8を外してください。
2. 回り止め金具を取り外してください。
3. 調節ボルトで、クローラの張りを調節してください。
4. 回り止め金具を取り付けて、ボルトM8で固定してください。

各部の点検・整備



[参考]

調節ボルトを右へ回すと、アイドラが縮みクローラがゆるみます。

調節ボルトを左へ回すと、アイドラが伸びクローラが張られます。

(31) 排気ガスの色について

エンジンの始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色……エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色・白色の排気ガスが、エンジンに負荷をかけなくてもでるときは、販売店、またはJAで整備してください。

(32) クーラーガス（冷媒）の

点検のしかた

クーラーガス（冷媒）が不足していると、冷房性能が低下します。

整備工場で点検・補充を受けてください。

警告

- クーラーガスは、液が目に入ったり、手にかかると、失明したり凍傷にかかるおそれがあります。冷媒回路の部品はゆるめないでください。
- エンジン回転中は、エンジンや回転部に手を触れないよう十分に注意してください。

[重要]

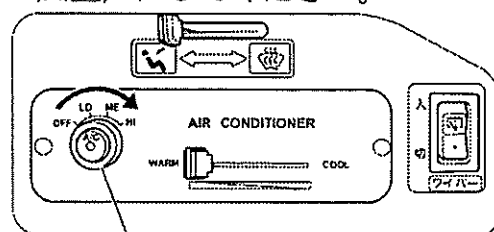
- クーラーガスはR-134aを使用しています。これ以外のクーラーガスは、絶対に使用しないでください。

仕様冷媒（クーラーガス）	フロンR-134a
充てん量	730±50g

- フロン類をむやみに大気中へ放出することは、法律で禁じられていますので、絶対にしないでください。

〈点検のしかた〉

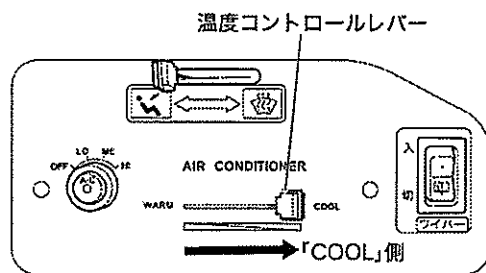
1. エンジンを始動し、エンジン回転数を定格回転にしてください。
2. ファンスイッチを「HI」位置（最大風量）にしてください。



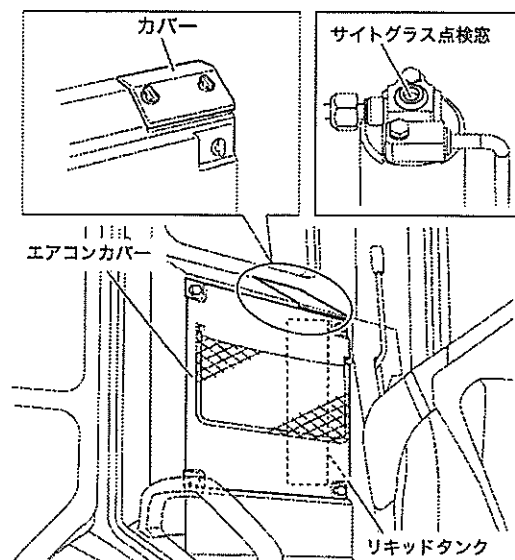
ファンスイッチ

3. 温度コントロールレバーを「COOL」位置（強冷）にしてください。

各部の点検・整備



4. エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてください。
5. エアコンカバー上部のカバーを外してください。
6. リキッドタンクのサイトグラス（点検窓）から、クーラーガスの気泡の流れを見て、ガス量の点検をしてください。



クーラーガス量チェック表

クーラーの状態	異常なし	異常あり		
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい。 温度差がはっきりある。 ●コンプレッサ吐出側温度 70℃ ●コンプレッサ吸入側温度 5℃	高圧パイプは暖かく、低圧パイプはやや冷たい。 温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや暖かい。 温度差はあまりない。
サイトグラスの状態	ほとんど透明。気泡の流れが見えても、エンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1	気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。	ドアを全開にして、ファンを最大風量にし、アイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れが著しい所がある。	異常なし。
このクーラーの状態は	ガス量も不足なく異常はない。	少しガスがもれている所がある。	ガスがほとんどもれてなくなってしまう。	ガスが過充てんになっている。

※1 外気温度が低いときには、ガス充てん量が適正でも気泡が見えることがあります。

※2 クーラーガスがない場合があるので、高・低圧パイプの温度差がないことを確認してください。この場合、全く冷えない状態にあります。

各部の点検・整備

[重要]

- 連続した気泡が見えるときには、冷媒が不足していますので、販売店ですぐに補充を受けてください。冷媒不足の状態では運転を続けると、コンプレッサの破損の原因になります。
- 点検窓に全く冷媒が確認できず、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしても冷えないときは、冷媒が空の状態です。販売店にご連絡ください。
- 冷媒もれによって、サイクル内のオイルが不足していると、そのまま冷媒だけを追加してもコンプレッサロックの原因

冷媒ガス（フロン類）の処理について

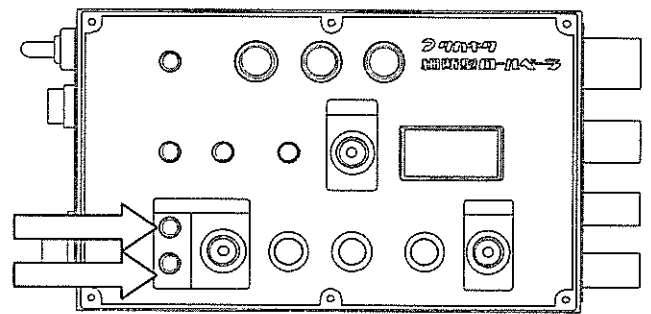
- フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられていますので絶対にしないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）は、回収が必要です。廃棄する場合は、専門の業者に引き取ってもらってください。

(33) ロールベアラ電装部の確認

①電装の確認

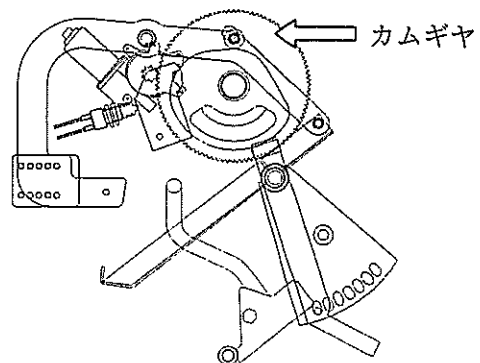
作業前には必ず以下の手順に従って電装系の確認を行ってください。

- ① キースイッチを「入」の位置にし、コントロールボックスの電源を入れて以下を確認してください。
 - ・ 電源ランプが点灯している。
 - ・ チャンバー開ランプが消灯している。
 - ・ チャンバー閉ランプが点灯している。



- ② コントロールボックスの「供給開始」ボタンを押して以下を確認してください。
 - ・ 緑色のランプが点灯する。

- ③ 感知センサのチェンを軽く引張り、以下を確認してください。
 - ・ 感知ブザーが鳴る。
 - ・ カムギヤが一周して止まる。
 - ・ ブザー（断続音）が鳴り、エラーになる。



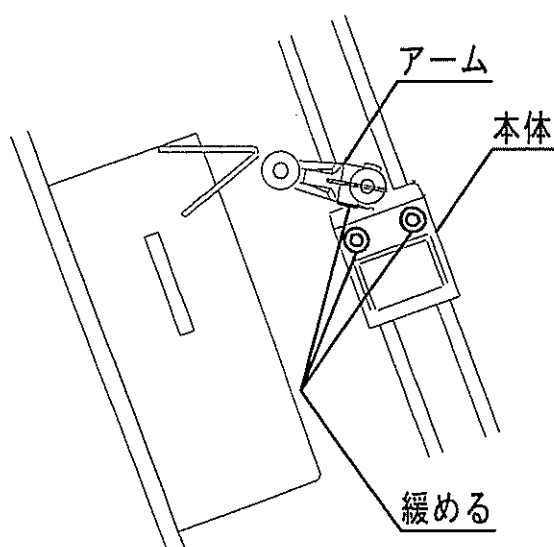
- ④ キースイッチを「切」の位置にし、コントロールボックスの電源を切ってください。

各部の点検・整備

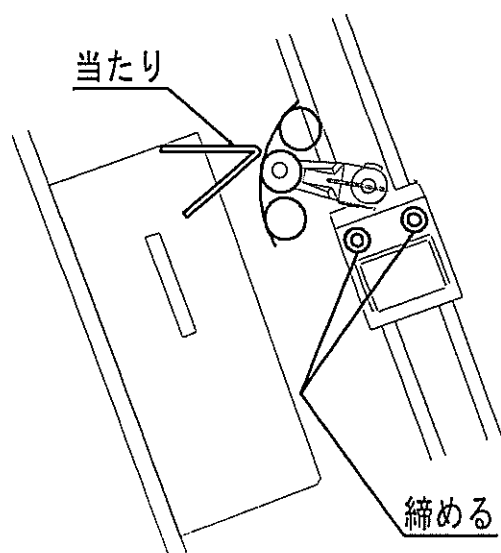
② 感知センサの調節方法

ロールを150個程(3ha)作るとタイトチェンが初期伸びしますので、以下の方法に従って感知センサの調整をし直してください。

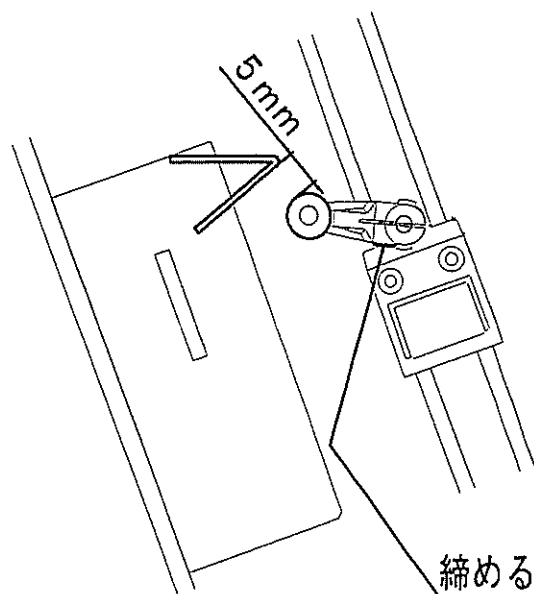
- ① 4mmの六角レンチで図1の感知センサの「アーム」と「本体」の固定ネジを緩めてください。



- ② 感知センサの「アーム」を回転させてもブラケットの「当たり」と接触しない近い位置に「本体」を固定してください。

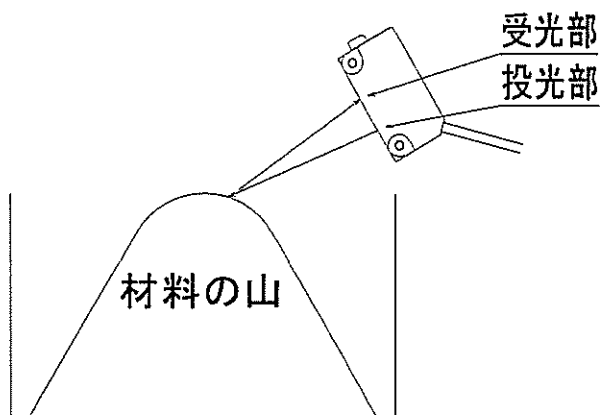


- ③ 「当たり」と「アーム」の距離が5mmになるところで「アーム」を固定してください。



③ ホッパー満了センサの掃除

ホッパー満了センサ(光電センサ)は「投光部」から赤外線を出し、「材料の山」からの反射を「受光部」で検出しています。



よって、「投光部」「受光部」に材料が付着すると赤外線が邪魔され、誤検出しますので、作業前には必ずセンサの「投光部」「受光部」を布でふいてください。

各部の点検・整備

(34) アタッチ部の手入れのしかた

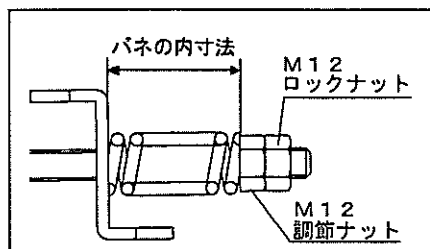
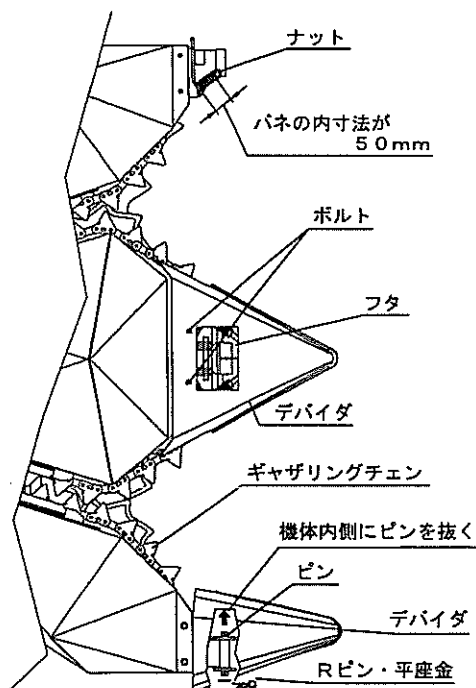
〈ロークropp〉

①ロークroppギャザリングチェン

の調節のしかた

ロークroppのギャザリングチェンは次の要領で調整してください

- ① 左右のデバイダは機体外側のRピン及び平座金を取外し、機体内側にピンを抜き取って外してください。
- ② 中央のデバイダはボルトを外し、フタを外してください。
- ③ バネの内寸法が50mmになるようにナットで調整してください。

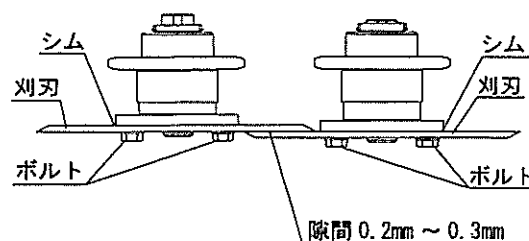
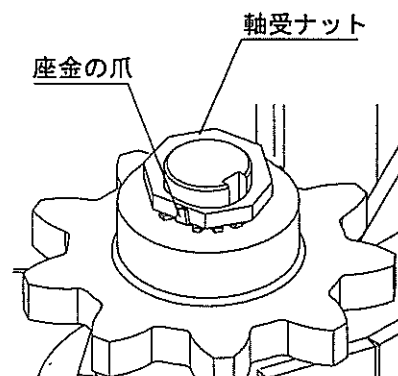


②刈刃のクリアランス調節のしかた

受刃と取り付け台の間のシムを調整して合わせてください。

刈取刃にガタがある場合は、次図軸受ナットの座金の爪を戻し、ナットを締め付け、座金の爪を軸受ナットの溝に折り曲げてください

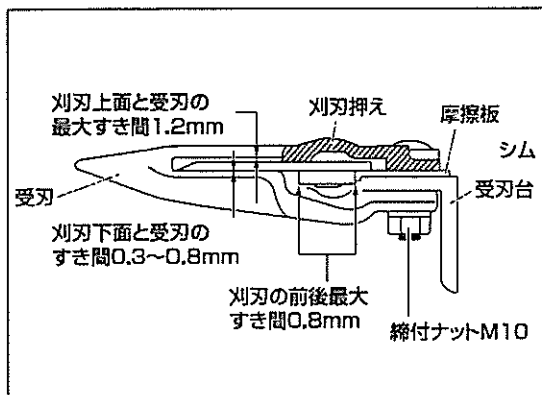
また、刈刃のボルトを確実に締めた後、クリアランスをもう一度確認してください。



各部の点検・整備

〈リールヘッド〉

①刈刃の手入れのしかた



【重要】

- 締付ナットは、締め付けすぎないように注意してください。
 - 刈刃には食品衛生上、食品機械用潤滑スプレーを使用して、たっぷり注油してください。
- シーズン終了後には、刈刃に付着した泥やワラズを取り除き、注油してください。

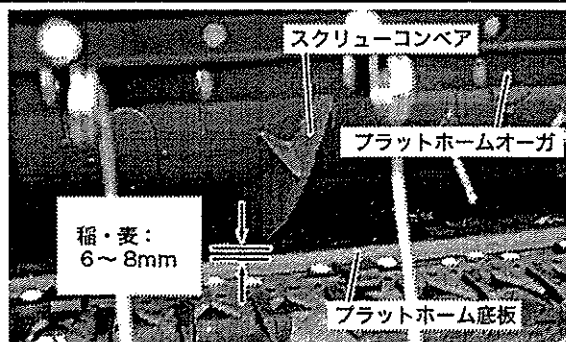
②プラットホーム底板とスクリーコンベアのすき間調節のしかた

⚠ 警告

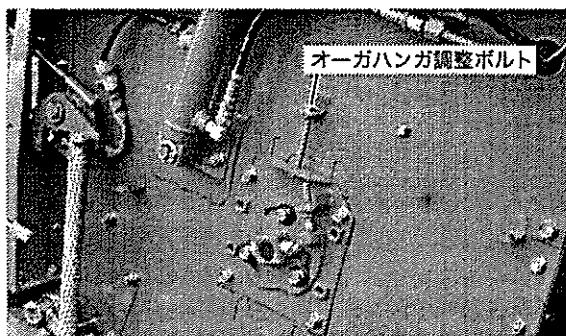
プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

〈調節のしかた〉

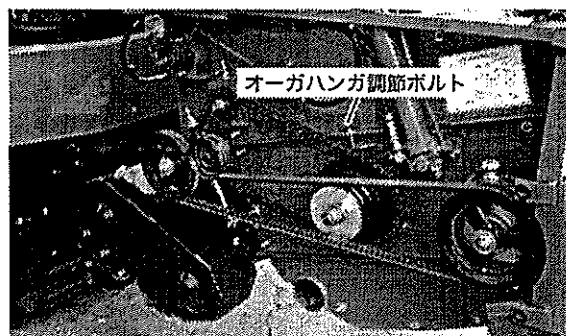
1. リールを最上げにしてください。
2. プラットホーム底板とスクリーコンベアとのすき間が、稲・麦の場合は6~8mmなるように、オーガハンガ調節ボルトで調節してください。



プラットホーム左側



プラットホーム右側



各部の点検・整備

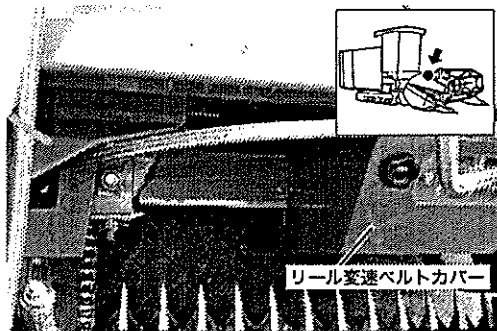
③ リール変速ベルトの交換のしかた

⚠ 警告

刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

＜調節のしかた＞

1. リール変速ベルトカバーを取り外してください。



2. 軸継手のスナップピン・平頭ピンを外し、軸継手をプラットホーム側へ寄せて、軸継手を外してください。
3. 止めボルト(2本)と平頭ピン・スナップピンを外して、変速ヨークを外してください。
4. リール変速ベルトを交換してください。



5. 作業終了後、カバーは元通りに取り付けてください。

④ プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間調節のしかた

⚠ 警告

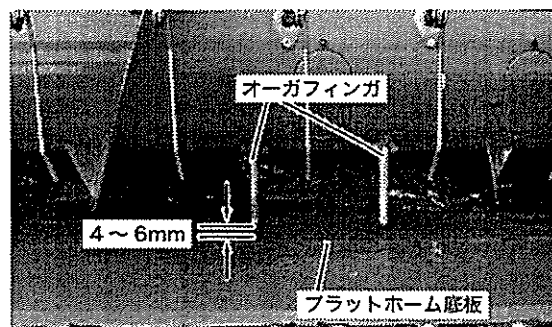
プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

＜点検のしかた＞

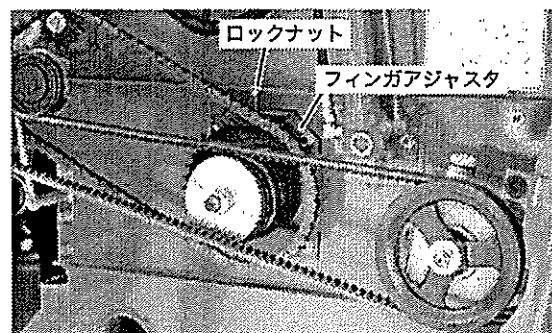
1. リールを最上げにしてください。
2. プラットホームオーガを手で回転させ、中央部のオーガフィンガが、プラットホーム底板に最も近い位置で、底板からフィンガ先端までの寸法を測定し、4～6mmになっていることを確認してください。

＜調節のしかた＞

1. 基準範囲内(4～6mm)にないときは、ボルト(3本)と左右のフィンガアジャスタのロックナットをゆるめてください。
2. フィンガアジャスタを回転させて調節してください。
3. ストップボルトで固定してください。

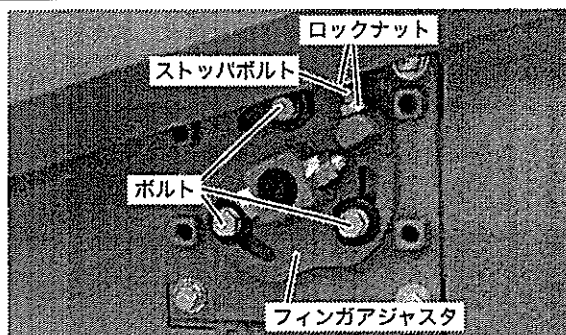


右側



左側

各部の点検・整備



⑤ ストリッパとスクリュコンベアの すき間調節のしかた

⚠ 警告

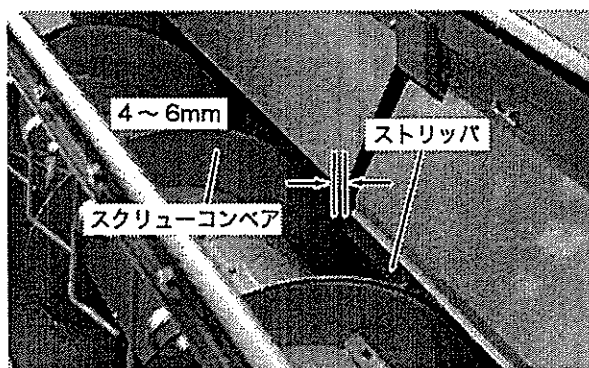
プラットホームオーガを手で回転させる
ときは、刈刃やリールが動くので、十分
注意してください。

＜点検のしかた＞

1. リールを最上げにしてください。
2. フィーダハウス入口のストリッパとスクリュコンベアとのすき間が、4～6 mmになっていることを確認してください。

＜調節のしかた＞

基準範囲内(4～6 mm)にないときは、スト
リッパを動かして調節してください。



⑥ プラットホームオーガリミット クラッチの点検・調節のしかた

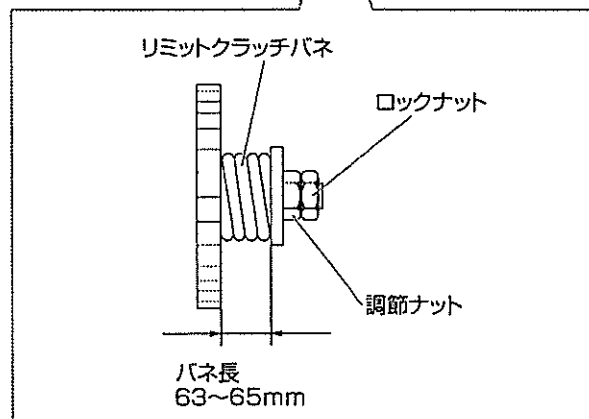
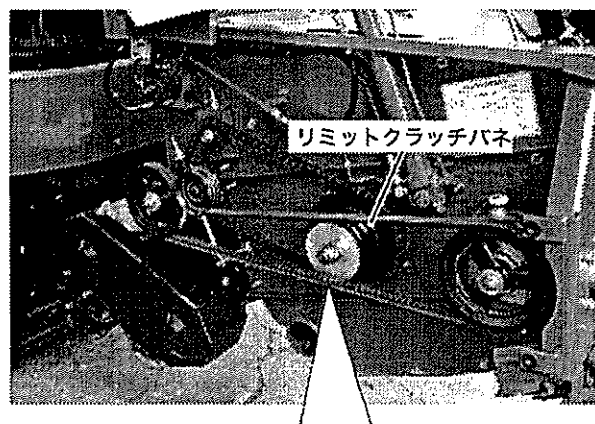
刈取サイドカバー右を取り外して、下記の
点検・調節をしてください。点検・調節後
は元通りに取り付けてください。

＜点検のしかた＞

リミットクラッチのバネ長が63～65
mmであるか確認してください。

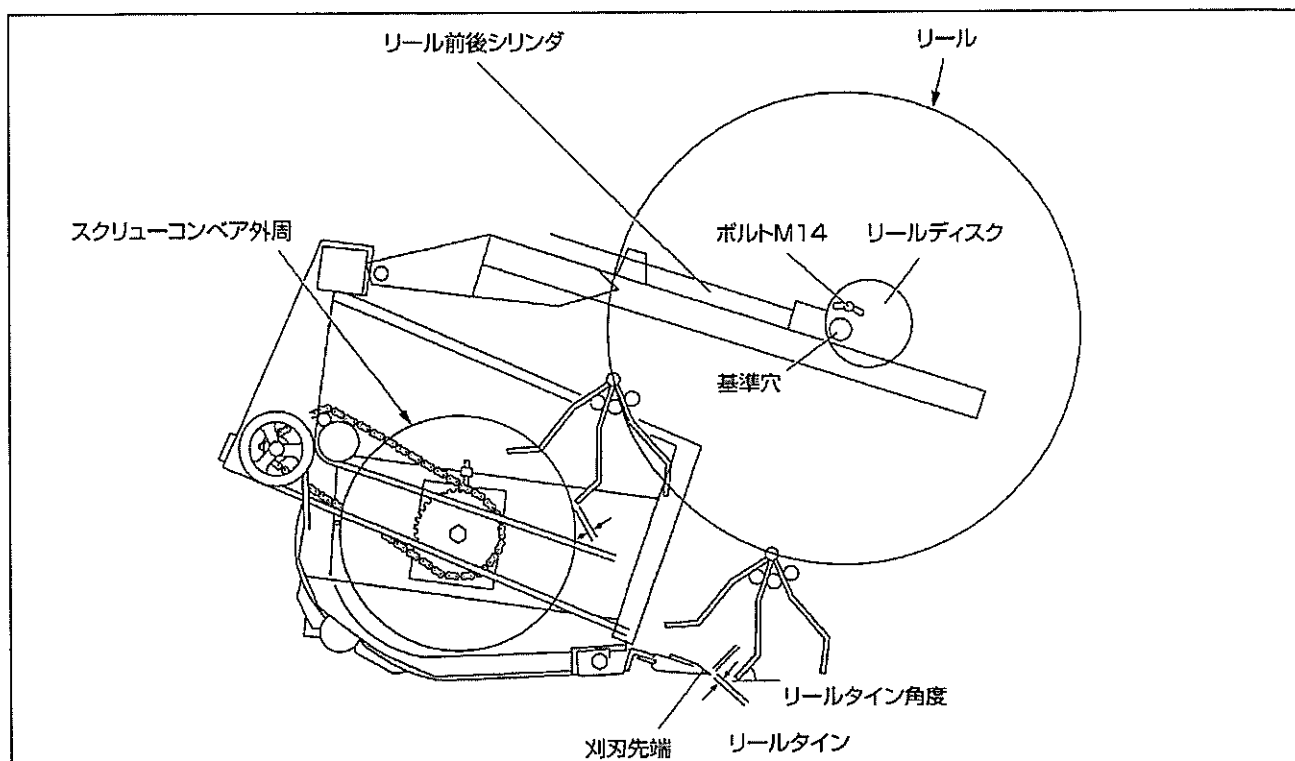
＜調節のしかた＞

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



各部の点検・整備

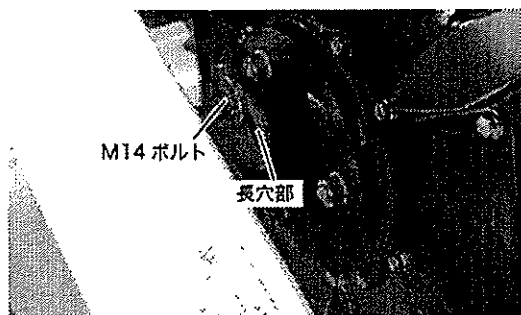
⑦リール調節のしかた



⑧刈刃上面のリールタイン先端の すき間調節のしかた

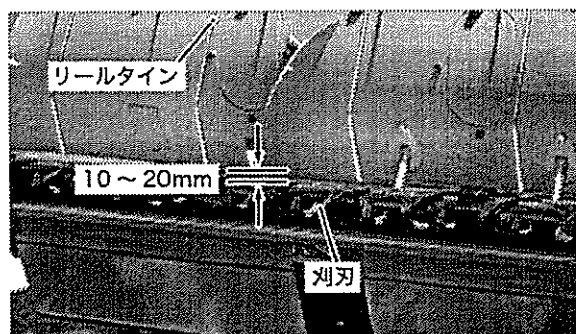
〈調節のしかた〉

1. ボルトM14をゆるめてください。
2. ボルトM14の中心とリールブラケットRの長穴部の中心が合うように、リールディスクを動かしてください。
3. ボルトM14を締め付けてください。



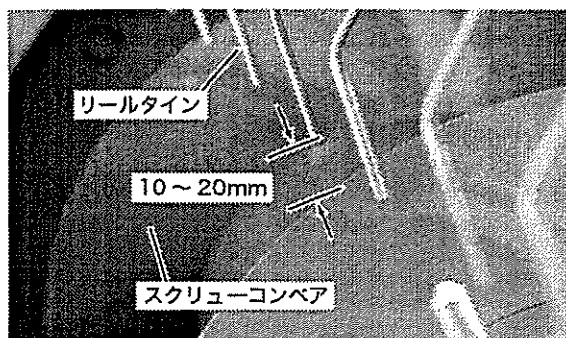
4. エンジンを始動してください。
5. リールクロススイッチを「後」側にしてリールを後方へ移動し、リール高さ調節スイッチを「下降」側にして、リールをいっぱいまで下げてください。
6. エンジンを停止してください。

7. 刈刃上面とリールタイン先端のすき間が、刈刃先端で10～20mmになるように、リール上下シリンダのアイボルトで調節してください。



各部の点検・整備

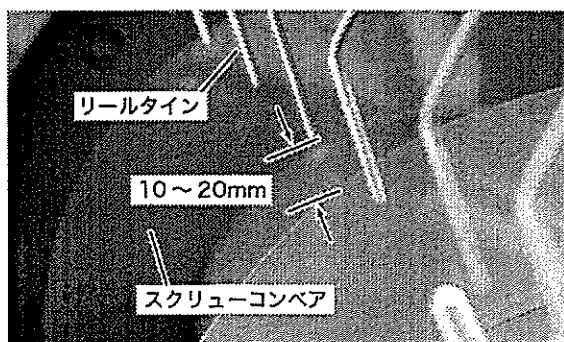
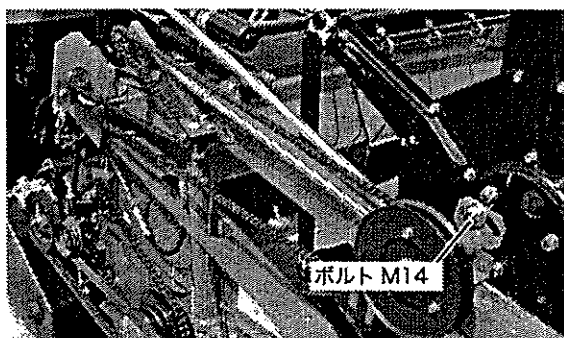
- リールを回転させて、プラットホームオーガのスクリーコンベアの外周とリールティン先端のすき間が、10～20mm以下でスクリーコンベアの外周と接触しないことを確認してください。



⑨スクリーコンベアの外周とリールティン先端のすき間が、適正でない場合の調節

＜調節のしかた＞

- ボルトM14をゆるめ、すき間が10～20mm以下で、スクリーコンベアの外周と接触しないように調節してください。
- ボルトM14を締め付けてください。



- 再度、刈刃上面とリールティン先端のすき間を確認してください。

このとき、リールティンとオーガフィンガが接触し、音が出る場合は、リールティンが当たらないように、リールティンを左右方向に動かしてください。

⑩倒伏した作物で引き起こし性能が不足する場合

＜調節のしかた＞

- リールディスクの位置を前に動かし、ティン角度を小さくしてください。
(106ページ参照)
- 小さくしすぎると、プラットホームオーガと当たる場合がありますが、このときはリールを少し前へ出してください。

⑪立毛した作物で、リールの回転によりリールが稈を持ち回る場合

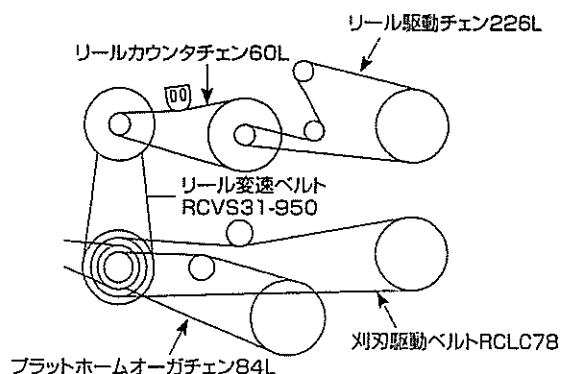
＜調節のしかた＞

リールディスクを後に動かし、ティン角度を大きくしてください。

(106ページ参照)

⑫リールヘッダの各部のチェン・ベルトについて

ベルトにキズがあるときや切れたときは、主要消耗部品(230ページ参照)に紹介されているベルトと交換してください。



各部の点検・整備

⑬ リールカウンタチェンの点検・調節のしかた

リールチェンカバーと刈取サイドカバー右を取り外して、下記の点検・調節をしてください。

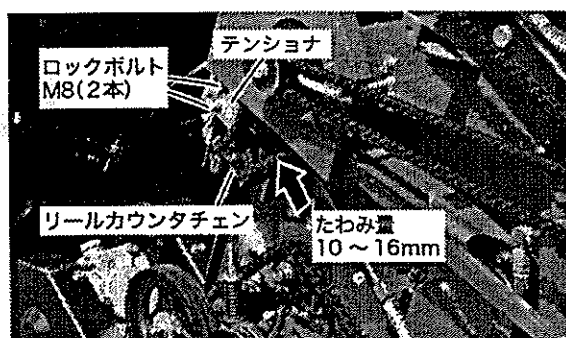
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

チェンの中央を軽く指で押さえたときのたわみ量が、10～16mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックボルトM8(2本)をゆるめてください。
2. テンショナーを移動させてチェンを張ってください。
3. ロックボルトを締め付けて固定してください。



⑭ プラットホームオーガチェンの点検・調節のしかた

刈取サイドカバー右を取り外して、下記の点検・調節をしてください。

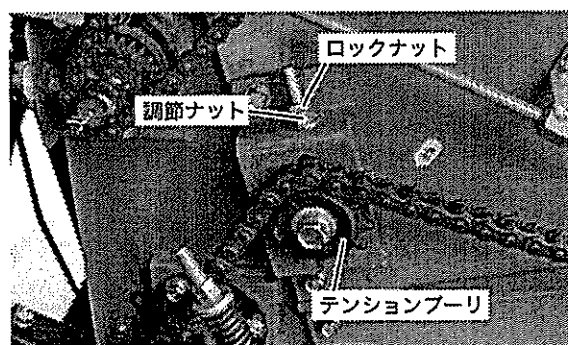
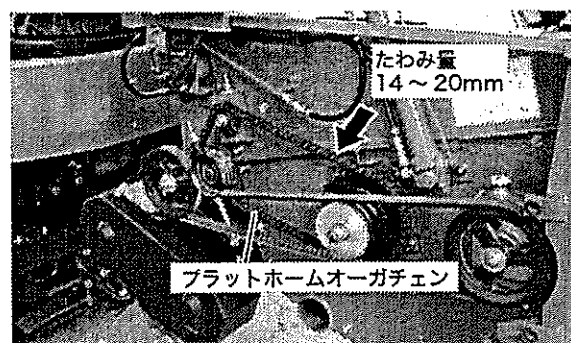
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

プラットホームオーガチェンの中央を指で押したとき、たわみ量が14～20mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、テンションプーリを調節してチェンを張ってください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



各部の点検・整備

⑮刈刃駆動ベルト

刈取サイドカバー右を取り外して、下記の点検・調節をしてください。

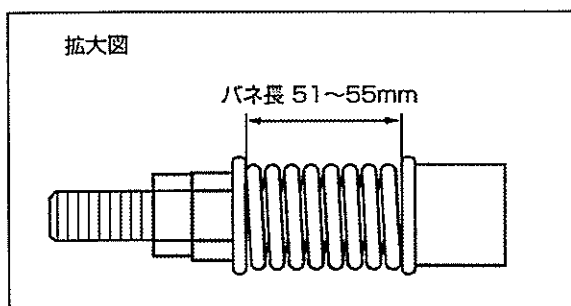
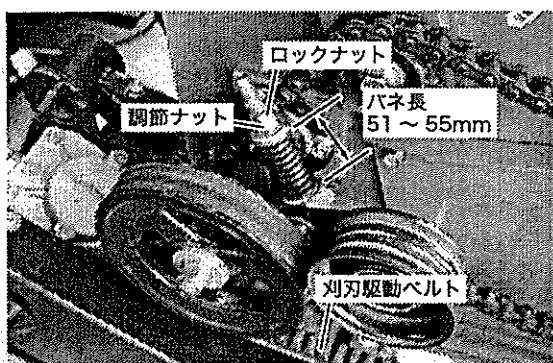
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

＜点検のしかた＞

1. テンションバネのバネ長が、51～55mmであるか確認してください。

＜調節のしかた＞

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

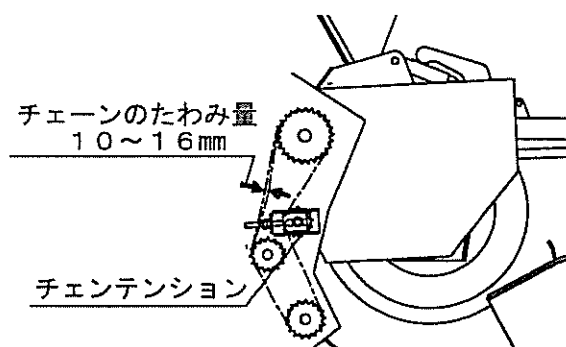


＜ピックアップ＞

①入力チェーンの調節のしかた

＜点検のしかた＞

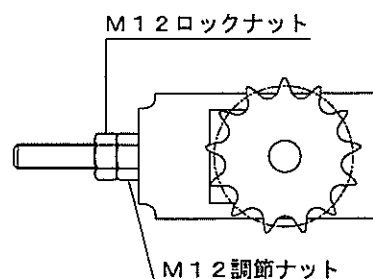
チェーンの中央を軽く指で押さえたときのたわみ量が、10～16mmであるか確認してください。



(図は、本機右側から見ています。)

＜調節のしかた＞

1. M12 ロックナットをゆるめてください。
2. M12 調節ナットをまわして調節してください。
3. 調節後はM12 ロックナットで固定してください。

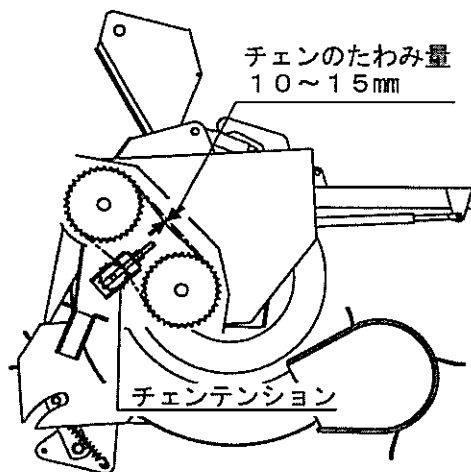


各部の点検・整備

②逆転ギヤ入力チェーンの調節のしかた

＜点検のしかた＞

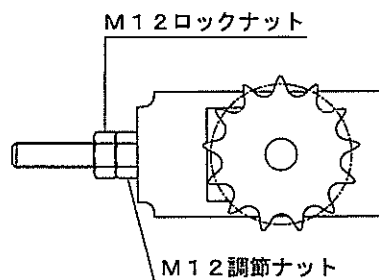
チェーンの中央を軽く指で押さえたときのたわみ量が、10～15mmであるか確認してください。



(図は、本機右側から見ています。)

＜調節のしかた＞

1. M12ロックナットをゆるめてください。
2. M12調節ナットをまわして調節してください。



不調診断のしかた

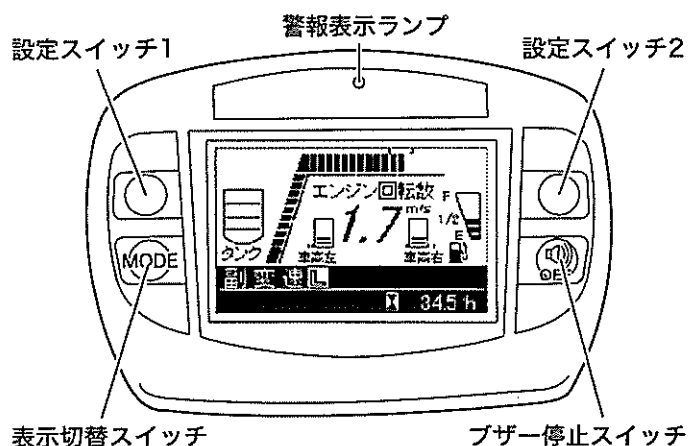


警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、最寄りの販売店に連絡してください。

(1) センターディスプレイの注意画面について



①エンジン始動時に表示された画面

キースイッチを「始動」位置にしても、以下の条件の場合はエンジンの始動ができません。表示された注意画面に従って再度エンジンを始動させてください。

表示画面	警報の種類	処置	参照ページ
 	—	セフティペダルを踏まずにキーを回した場合は、セフティペダルをしっかりと踏み込んでから再度キーを回してください。	48
 	—	ベールクラッチレバーが「入」位置になっている場合は、ベールクラッチレバーを「切」位置にしてから、再度キーを回してください。	48

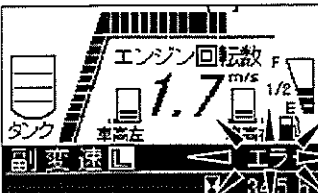
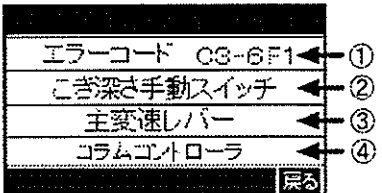
◎は警告表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

○はブザーのみ鳴ります。

不調診断のしかた

②エラー表示

エラーが発生した場合は、画面隅に「エラー」の文字が点滅します。ブザー停止スイッチを5秒以上押し続けると画面表示が切り替わり、エラーの発生した部品の名称とその部品のあ
る場所、その部品の信号を処置しているコントローラ名称が表示されます。もう一度ブザー
停止スイッチを押すと元の画面表示に戻ります。

表示画面	画面表示切り替え後 (ブザー停止スイッチを5秒以上押す)	警報の 種類	備考・処置	参照ページ
	 ①エラーコード ②エラー発生部品 ③エラー発生部品のある場所 ④信号を入力処置している コントローラ	—	チェッカ機能で各 コントローラに接 続されている、スイ ッチ・センサ・ラン プ・モータ。電磁弁 などのチェックを 行ってください。	

◎は赤色LEDランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

○はブザーのみ鳴ります。

③その他の注意

表示画面	警報の種類	備考・処置	参照ページ
燃料残量表示 	○	燃料の残量が少なくなったときに、給油マーク が点滅し、ブザーが断続で鳴ります。(燃料の残 量はおよそ3Lです。) ブザー停止スイッチを押すとブザーが鳴り止み ますが給油マークは点滅したままです。 燃料を補給してください。 満量になると、ブレーキランプが点滅し、鳴り 続けます。ブザー停止スイッチを押すと、ブザ ーは鳴り止みます。	163
タンクシグナル 	○ ブザーは断続音	ホッパー内がほぼ満量になると、ブザーが断続 に鳴り、ホッパーモニターが「4/4」の状態 で点滅するとともに、通常の画面ともみ満量の画 面を交互に表示します。 ブザーを停止する場合は、ブザー停止スイ ッチを押すか、ベールクラッチレバーを「切」位 置にしてください。ただし「4/4」のタンクシ グナルランプは点滅したままです。 [重要] ●ホッパー内に、作物がほとんど満量になっ ています。できるだけ早く成形室に供給してく ださい。 ●ホッパー内の作物が無くなると、センサが感 知し、ブザーが断続で数秒鳴ります。	201

◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

○はブザーのみ鳴ります。

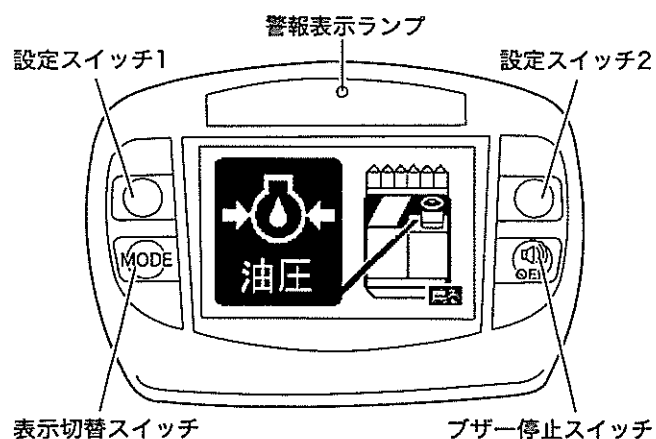
不調診断のしかた

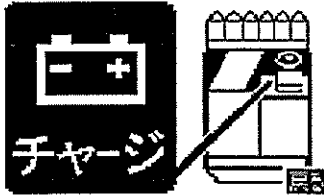
(2) センターディスプレイの異常表示と処置のしかた

警告

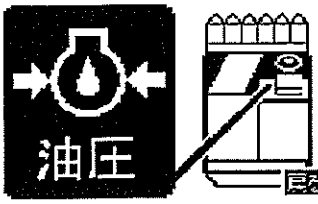
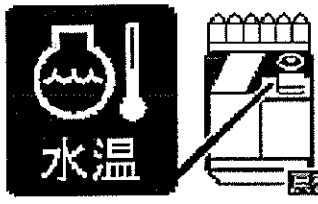
- 移動走行中に、警報画面が表示された場合は、安全な場所に停止してから点検・処置を行ってください。

警報が発生した場合は画面が切り替わり、異常箇所が文字とグラフィックで表示されます。
異常が発生したときのスイッチ操作

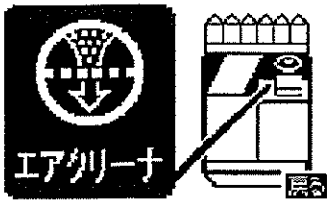
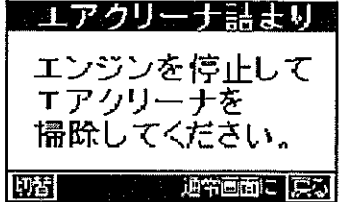
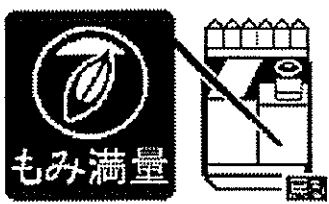
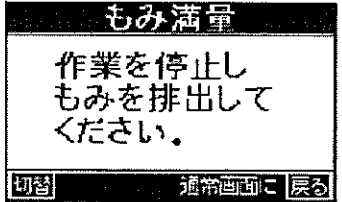
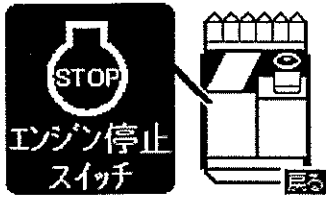
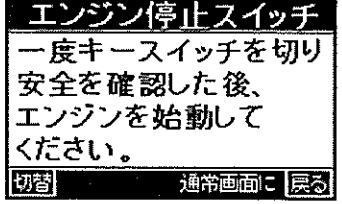


表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種類	備考・処置	参照 ページ
チャージ警報表示 	チャージ異常 バッテリへ 充電されていません。 充電回路の異常を 調べてください。 図46 通常画面に図47	◎	エンジン回転中にバッテリーに充電されません。ブザー停止スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	
	ジェネレータ駆動ベルトが緩んだり、破損していませんか。		ベルトの張り調節、または交換してください。	188
	ジェネレータが故障していませんか。		ジェネレータが故障している場合は、サービス工場に修理を依頼してください。	
			※その他の点検については ページを参照してください。	

不調診断のしかた

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種類	備考・処置	参照 ページ
油圧警報表示 	エンジン油圧異常 オイル量が正常か 点検をして 補給してください。 切替 通常画面に 戻る	◎	エンジン潤滑油の油圧が低下しています。ブザー停止スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	
	エンジンオイル量が少なくなっていないですか。		オイルを規定量まで補給してください。	164
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。		適正粘度のオイルと交換してください。	
	油圧スイッチ（プレッシャスイッチ）が故障していませんか。		油圧スイッチが故障の場合は、サービス工場に修理を依頼してください。	
	オイルポンプが故障していませんか。		オイルポンプが故障の場合は、サービス工場に修理を依頼してください。	
水温警報表示 	エンジン冷却水温異常 エンジンを停止し 冷却水が不足の場合は エンジンが冷えてから 補水してください。 切替 通常画面に 戻る	◎	エンジンの冷却水温が異常（オーバーヒート）です。すみやかに本機を停止し、作業クラッチを「切」、エコモード切替スイッチを「切」（アクセルランプ点灯）にして、エンジン回転をローアイドル（低回転）に下げ、冷却運転をしてください。「警報表示画面」の表示が消えてからエンジンを停止し、エンジンが十分に冷えてから適正な処置を行ってください。ブザー停止スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	
	冷却水が不足していませんか。		冷却水を補給してください。	169
	水漏れしていませんか。		水漏れの場合は、サービス工場に修理を依頼してください。	
	冷却ファンベルト（ジェネレータ駆動ベルト）が緩んだり、破損していませんか。		ベルトの張り調節、または交換してください。	188
	吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータ冷却ファンが目詰まりしていませんか。		掃除してください。	176
	作業中、ロータリスクリーンは作動（回転）していますか。		ロータリスクリーンが不具合の場合は、サービス工場に修理を依頼してください。	
	エンジンオイル量が少なくなっていないですか。		オイルを補給してください。	164
	過負荷運転をしていませんか。		負荷を軽くしてください。（作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。）	
			※その他の点検については ページを参照してください。	

不調診断のしかた

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種類	備考・処置	参照 ページ
エアクリーナーモニター 		◎	エアクリーナーが目詰まりしています。 エアクリーナーを掃除してください。ブザー停止スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	175
籾満量警報表示 		◎	ホッパー内の作物が満量になりました。成形室に供給してください。 ベールクラッチレバーを「切」位置にするとブザーは鳴り止みますが、警報画面はそのままです。ブザー停止スイッチではブザーを停止することができません。	
エンジン緊急停止スイッチ 警報表示 		— (エンジン停止)	エンジン緊急停止スイッチが押されました。一度キースイッチを「切」位置にして、安全を確認した後、エンジンを始動してください。	49
その他のエラー表示			上記以外エラーが表示された場合は修理を依頼してください。	

◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

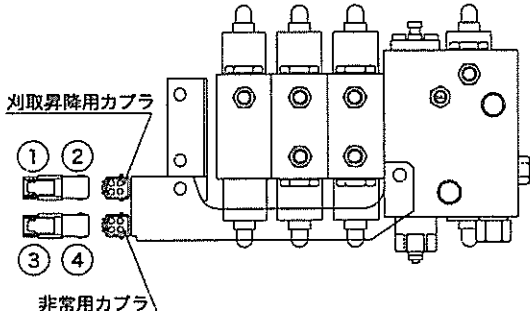
○はブザーのみ鳴ります。

不調診断のしかた

(3) センターディスプレイに表示されない不調について

状況	点検箇所	処置	参照ページ
キースイッチを回してもスタータが回らない。	バッテリー液は規定量入っていますか、また放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電にしてください。	180
	バッテリー端子部の緩み外れ、腐食はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けてください。 ※バッテリー端子を外す場合はまずキースイッチを必ず「切」にして、マイナス端子を外し、その後プラス端子を外してください。締め付ける場合はプラス端子を締め付けてください。	
	ヒューズが切れていませんか。 ●充電回路スローブローヒューズ 100A (エンジンルーム) ●スタータスローブローヒューズ 30A (エンジンルーム) ●キースイッチヒューズ 5A (エンジンルーム) ●エコガバナヒューズ 15A (エンジンルーム)	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	183
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満たんに給油し、エア抜きをしてください。	175
	ウォータセパレータのコックが「C」(閉)位置になっていませんか。	ウォータセパレータのコックを「O」(開)位置にしてください。	173
	燃料に水が入っていませんか。	ウォータセパレータに水がたまっていれば、水を抜いてください。	173
	ヒューズが切れていませんか。 ●エコガバナヒューズ 15A (エンジンルーム) ●燃料ポンプヒューズ 10A (グレンタンク後)	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	183
	エラーが表示されていませんか。 ●エンジン過回転 ●ラックアクチュエータ ●エンジン回転数	お買い上げいただいた特約店・販売店・JAにご連絡のうえ、修理を依頼してください。	
刈取部が昇降できない。	ミッションオイルが規定量入っていますか。	ミッションオイルを規定量補給してください。	166
	ストップバルブが「閉」になっていませんか。	ストップバルブを「開」に回してください。	61
	ヒューズが切れていませんか。 ●作業機電磁弁ヒューズ 15A (グレンタンク後) ●コラム電源ヒューズ 10A (エンジンルーム)	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	183

不調診断のしかた

	エラーが表示されていませんか。 ●刈取昇降スイッチ ●受信エラー (コラム→脱こく) ●送信エラー (コラム) お買い上げいただいた特販店、またはJ Aにご連絡のうえ、修理を依頼してください。	
	〈コントローラの出力回路が故障して、刈取部の昇降操作が行われない場合〉 非常用カブラにつなぎ替えることで、コラムコントローラが制御を行い、刈取部の昇降操作を行うことができます。 作業機電磁弁付近にある、4極カブラの接続を変更してください。 1. 刈取昇降用カブラ4極の①と②、および非常用カブラ4極の③と④を外してください。 2. 非常用銘板が付いているカブラ③と、刈取昇降用カブラの②を接続してください。 3. 残りのカブラ①と④を接続してください。  ※作業終了後は、サービス工場に修理の依頼をしてください。 ※異常が直りましたら、必ず元の状態に戻してください。	
車高調節・傾斜調節できない。	ミッションオイルが規定量入っていますか。 ミッションオイルを規定量補給してください。	1 6 6
	ヒューズが切れていませんか。 ●作業機電磁弁ヒューズ 15 A (グレンタンク後) ●コラム電源ヒューズ 10 A (エンジンルーム) ヒューズを交換してください。交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	1 8 3
	エラーが表示されていませんか。 ●車高調節スイッチ ●受信エラー (コラム→脱こく) ●送信エラー (コラム) お買い上げいただいた特販店、またはJ Aにご連絡のうえ、修理を依頼してください。	
ベールクラッチが入らない。	ヒューズが切れていませんか。 ●ミッションヒューズ 15 A (エンジンルーム) ●コラム電源ヒューズ 10 A (エンジンルーム) ヒューズを交換してください。交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	1 8 3
ハーベスタが動かない。	ハーベスタ駆動のVベルトがたるんだり切れたりしていませんか。 Vベルトのテンションの調整または、交換してください。	1 8 8
	ハーベスタ逆転ミッション入力スプロケットのシェアボルトが切断されていませんか。 シェアボルトを交換してください。	1 2 3

不調診断のしかた

	逆転ミッションの切換レバーが中立になっていませんか。	レバーを「正転」にしてください。	6 0
	ジョイントクラッチが滑っていませんか。	ハーベスタ内の詰まりを取り除いてください。	1 2 2
アタッチが動かない。	アタッチ駆動スプロケットのシェアボルトが切断されていませんか。	シェアボルトを交換してください。	1 2 3
	逆転ミッションの切換レバーが中立になっていませんか。	レバーを「正転」にしてください。	6 0
作物の切断長がばらつく	ハーベスタのシリンダナイフが磨耗していませんか。	研磨してください。	1 9 5
	シャーバが磨耗していませんか。	面を交換してください。	1 9 3
	シャーバとシリンダナイフのすき間がおおきくないですか。	すき間調節してください。	1 9 3
切断長が長い。	切断長設定スプロケットが間違っていないですか。	切断長設定スプロケットを交換してください。	8 9
シュートからの飛びが悪い。	フロントプレートとシリンダナイフのすき間が大きくないですか。	すき間調節してください。	1 9 4
フィードロール上作物が巻き付く。	フィードロール上のスクレパのすき間が大きくないですか。	すき間調節してください。	1 9 4
ロールベアラが動かない。	ロールベアラ駆動Vベルトがたるんだり切れたりしていませんか。	Vベルトのテンションの調整または、交換してください。	1 8 9
	ロールベアラクラッチが「切」になっていませんか。	ロールベアラクラッチを「入」にしてください。	1 0 0
	タイトチェーン駆動スプロケットのシェアボルトが切断されていませんか。	シェアボルトを交換してください。	1 2 3
コントロールボックスの供給開始できない。	コントロールボックスの電源が「入」になっていませんか。	電源をいれてください。	
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。(15A管ヒューズ)	
	チャンパー「全閉」のランプが着いていますか。	チャンパーを閉じて「全閉」のランプを点灯させてください。	
シュートが旋回しない。	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。(20A管ヒューズ)	
	旋回モータのコネクタが抜けていませんか。	コネクタを差してください。	
リール制御が働かない。	ヒューズが切れていませんか。 ●ミッションヒューズ 15A (エンジンルーム) ●コラム電源ヒューズ 10A (エンジンルーム)	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	1 8 3
	エラーが表示されていませんか。 ●ステアリング右スイッチ (左右) ●受信エラー (コラム→脱こく) ●送信エラー (コラム)	お買い上げいただいた特販店、またはJ Aにご連絡のうえ、修理を依頼してください。	
	コネクタ、油圧カプラは接続されていますか。	コネクタ、油圧カプラを接続してください。	1 3 3

不調診断のしかた

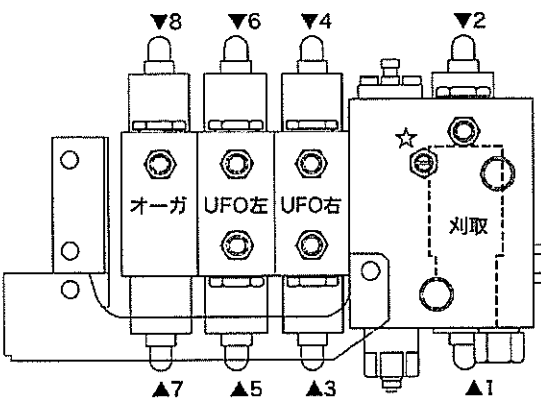
リヤチャンバーが開かない（閉まらない）。		チャンバーストップバルブが「閉」になっていませんか。	チャンバーストップバルブを「開」にしてください。	6 2
刈取オートセット・オートリフト装置が作動しない。		センサ部にわらくず、泥がたまっていますか。 ●刈取位置センサ	わらくず、泥を取り除いてください。	1 2 1
		エラーが表示されていませんか。 ●刈取位置センサ ●オートセット・オートリフトスイッチ ●刈高さ調節ダイヤル	お買い上げいただいた特販店、または J A にご連絡のうえ、修理を依頼してください。	
車高水平制御（U F O）装置が作動しない。		ヒューズが切れていませんか。 ●走行センサヒューズ 5 A（バッテリー）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	1 8 3
		エラーが表示されていませんか。 ●傾斜センサ ●車高センサ（右） ●車高センサ（左） ●傾斜設定ダイヤル ●U F O 自動スイッチ	お買い上げいただいた特販店、または J A にご連絡のうえ、修理を依頼してください。	
セフティリフト（リールヘッダのみ）が作動しない。		ヒューズが切れていませんか。 ●刈取センサヒューズ 5 A（バッテリー）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	1 8 3
		わら、泥がたまっていますか。 ●刈高さセンサ ●掻き込みセンサ	わらくず、泥を取り除いてください。	1 2 1
		エラー表示がされていませんか。 ●刈高さセンサ ●刈高さ設定ダイヤル ●刈高さ自動スイッチ	お買い上げいただいた特販店、または J A にご連絡のうえ、修理を依頼してください。	
キャビンが冷えない		風量が少ない。また、風がでないのではありませんか。	プロアモータの作動を調べてください。	5 5
		吹出し空気が送風になっていませんか。	温度コントロールレバーを「COOL」側にしてください。	5 6
		吹出し空気温度が高くありませんか。	コンプレッサの回転を調べてください。	1 8 7
		コンプレッサが回転しないのではありませんか。	ベルトの張りを適正に調整してください。 電磁クラッチの作動を調べてください。	1 8 7
		冷媒量が不足していませんか。	補充してください。	1 9 8
		コンデンサが詰まっていますか。	掃除してください。	1 7 8
ロークropp部	雑草がギャザリングチェーンの下に溜まる。	刈刃のすき間が開いていませんか。	刈刃のすき間調整をしてください。	2 0 2
		ギャザリングチェーンのスクレパが減っていませんか。	スクレパを交換してください。	3 5
	作物が搬送されない。	ギャザリングチェーンがゆるんでいますか。	ギャザリングチェーンのテンションを調節してください。	2 0 2
	株の引き抜きがある。	デバイダが株の根元に突っ込んでいませんか。	刈取昇降スイッチで、デバイダの先端を地面から 5 ～ 1 0 cm の範囲に調節してください。	

不調診断のしかた

		刈取速度が速すぎませんか。	作物・ほ場条件に合わせて、適正な速度で刈取りを行ってください。	
	作物を搬送しない。	刈刃駆動ベルトがスリップしていませんか。	刈刃駆動ベルトの調節を行ってください。	209
		刈刃や搬送部に、雑草、引き抜き株、泥、石など異物がかみ込んでいませんか。	刈刃・搬送部を点検して、異物があれば取り除いてください。	
	株の引き抜きがある。	デバイダが株の根元に突っ込んでいませんか。	刈取昇降スイッチで、デバイダの先端を地面から5～10cmの範囲に調節してください。	
		刈取速度が速すぎませんか。	作物・ほ場条件に合わせて、適正な速度で刈取りを行ってください。	
	株の引き抜きがある。	刈刃がよく切れますか。	刈刃と受刃のすき間を調節してください。	203
リールヘッダ部	刈取部でのロスが多い。	リール速度が間違っていますか。	リール速度を、走行速度より少し速くしてください。	106
		刈刃の前で作物が停滞していませんか。	リールの高さを低くセットし、作物が刈刃からオーガへスムーズに送り込まれるようにしてください。	106
		プラットホームが高すぎて、作物を短く刈りすぎていませんか。	作物をオーガへ均一に送り込むのに必要な長さになるまで、プラットホームを低くしてください。	
		向い刈りで、リールが作物を押さえつけていませんか。	リール高さを適正にしてください。	106
	リールに巻き上げや巻き付きがある。	リール速度が速すぎませんか。	リール速度を適正にしてください。	106
		タイン角度が小さすぎませんか。	タイン角度を適正にしてください。	106
		リール高さが低すぎませんか。	リールの高さを適正にしてください。	106
	土や石が入る。	プラットホームが低すぎませんか。	プラットホームは、できるだけ高く上げてください。	
ピックアップ部	ピックアップタインが動かない。	シェアボルトが切断されていませんか。	シェアボルトを交換してください。	125
	オーガの前で作物が停滞する。	作業速度が速すぎませんか。	作物・ほ場条件に合わせて、適正な速度で刈取りを行ってください。	
	土や石が入る。	ピックアップの位置が低くないですか。	刈取昇降スイッチで、デバイダの先端を地面から2～3cmの範囲に調節してください。	

不調診断のしかた

(4) 油圧が作動しない場合

この確認をしてください	処置
油圧バルブを操作する各操作レバーと、電磁弁のカプラの接続を確認してください。	各カプラを確実に差し込んでください。
	作動しない場合の応急処置 グレンタンクをオープンにして、油圧バルブを下記要領で手動操作してください。  ●刈取部を上げるとき、▲1を押す。 ●刈取部を下げるとき、☆印のネジをゆるめる。 1) スパナ14でナットをゆるめてください。 2) ネジをマイナスドライバーでゆっくりゆるめてください。 3) 操作後は、ネジをマイナスドライバーで確実に締め付けてください。 4) スパナ14でナットを締め付けてください。 ●UFO右を上げるとき、▼2を押しながら▲3を押す。 ●UFO右を下げるとき、▼2を押しながら▼4を押す。 ●UFO左を上げるとき、▼2を押しながら▲5を押す。 ●UFO左を下げるとき、▼2を押しながら▼6を押す。 ●オーガを上げるとき、▼2を押しながら▲7を押す。 ●オーガを下げるとき、▼2を押しながら▼8を押す。
ロールペーラの油圧が作動しない場合	63ページを参照してください。

不調診断のしかた

(5) コントロールボックスの表示について

○：点灯 ●：消灯 ★：点滅 —：特定しない

1. 準備完了表示

内容	コントロールボックス							パトライト	対応
	青	黄	赤	ネット異常	ネット残量	全開	全閉	黄	
作業開始時の表示	●	●	●	●	—	●	○	●	表示の状態になっていない場合は、供給開始ができません。「4. 動作不良表示」に従ってください。

2. 通常動作表示

内容	コントロールボックス							パトライト	対応
	青	黄	赤	ネット異常	ネット残量	全開	全閉	黄	
非常停止 (リセット)	●	●	●	●	●	●	○	●	説明：緊急停止する必要がある場合は、コントロールボックスの「非常停止」ボタンをおしてください。 「非常停止」スイッチを押すと、リセットされます。
供給中	○	●	●	●	—	●	○	●	説明：ホッパー内の作物を成形室に送り込んでいます。 解除：コントロールボックスの「供給停止」スイッチを押すと供給を停止することができます。
ネット巻き付け 中	●	○	●	●	—	●	○	○	説明：成形室が満了になり、満了感知したので、ネットを送り込み結束します。 ※成形室が一杯になっていないとネット巻きはできません。
ネット巻き 付け完了	●	○	○	●	—	●	○	○	説明：ネット巻き付けが完了しました。この後コントロールボックスの操作切替が「自動」になっていますと、チャンバーが開きロールが放出されます。

不調診断のしかた

3. ネット切れ表示

[注意] ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

内容	コントロールボックス							パトライト	対応
	青	黄	赤	ネット異常	ネット残量	全開	全閉	黄	
ネットがなくなる、切れる、巻き付く	●	○	●	✱	—	●	○	●	・ ネットがなくなった場合は、ネット交換方法のステッカーに従い、ネットを交換してください。 ・ ネットがゴムロール等に巻き付いた場合は、巻き付きをほどいてください。 ※①上記内容の対応後、エンジンを始動し、エコモード切替スイッチが「切」になっていることを確認後ベールクラッチを「入」にしてください。 ②ペーラ部が動き始めましたら、エコモード切替スイッチを「入」にし、エンジンを定格まであげてから、コントロールボックスの「手動繰出」を押してネットを投入してください。

4. 動作不良表示

[注意] ベールクラッチを「切」にし、エンジンを停止してください。

内容	コントロールボックス							パトライト	対応
	青	黄	赤	ネット異常	ネット残量	全開	全閉	黄	
ホッパー内の作物が成形室に搬送されない	✱	●	✱	●	—	●	○	●	原因：カムスイッチが押されていません。 対応：カムスイッチを固定しているナットが緩んでいないか確認してください。
	●	✱	●	●	—	●	○	●	原因：感知センサが押された状態になっています。 対応：感知センサを調節してください。
	○	—	—	●	—	●	○	●	原因：ネットホサキセンサに作物等が引っかかり、センサが押された状態になっています。 対応：ネットホサキセンサの引っ掛かりを取り除いてください。

不調診断のしかた

ホッパー内の 作物が成形室 に搬送 されない	●	●	●	—	—	●	●	●	原因：チャンバーロックが掛かっています。 対応：①エンジンを始動し、エコモード切替スイッチが「切」になっていることを確認し、ペールクラッチを「入」にしてください。 ②エンジン回転はアイドルのままで、チャンバースwitchを「閉」の方向に「全閉」もランプが点灯するまで倒してください。
	●	●	●	●	—	★	★	●	原因：チャンバー開および閉センサが同時に押されています。 対応：チャンバー開および閉センサ周辺の掃除をしてください。
操作切替スイッチが「自動」になっているのにロール放出後チャンバーが閉じない	★	★	—	—	—	—	—	—	原因：キッカーセンサが押されたままになっています。 対応：キッカーにロールが乗ったままになっていないか、または作物が溜まっていないか確認してください。
自動でチャンバーが開かない	●	○	●	★	—	●	○	●	原因：タイマーアームがネジタイマーに乗ったままになっています。 対応：ネットを手動繰出した後、ネット巻きを完了させると、自動でチャンバーが開きます
チャンバースwitchがきかない	—	—	—	—	—	—	—	—	原因：タイマーアームがネジタイマーに乗ったままになっています。 対応：タイマーアームを下ろしてください。
ホッパー内に作物が無いのに、モミ満了表示がでる	—	—	—	—	—	—	—	—	原因：ホッパー満了センサの投光部にクモの巣など反応するものがあります。 対応：掃除をしてください。
ホッパーが満了なのに、モミ満了表示がでない	—	—	—	—	—	—	—	—	原因：ホッパー満了センサ投光部、受光部が汚れています。 対応：掃除をしてください。

不調診断のしかた

(6) チェッカ機能について

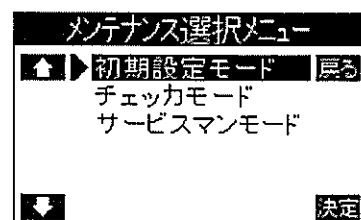
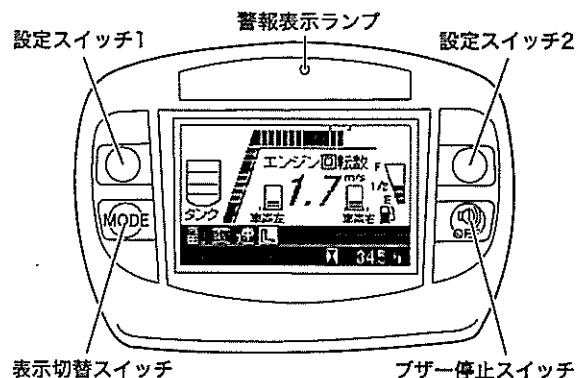
この機械には、チェッカ機能が内臓されています。各コントローラに接続されている、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などのチェックがセンターディスプレイの画面で行えます。

⚠ 危険

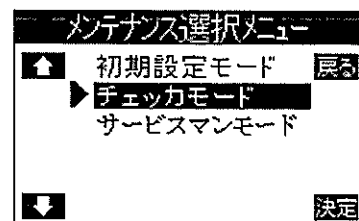
- 確認する内容によっては、一人作業ではできない内容もありますので、チェッカ機能を使用するときには、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。守らないと、不意に機械が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- チェック機能を使用するときには、安全な場所で機械を停止し、駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。また、基本的にはエンジンを停止させ、キースイッチを「入」位置にして行ってください。ただし、各電磁弁のチェックなどで、やむを得ずエンジンを始動するときには、周囲に合図を送り、安全を確認してから作業を行ってください。守らないと、不意に機械が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

① チェッカ機能の使いかた

1. 表示切替スイッチとブザー停止スイッチを、一緒に5秒以上押し続けてください。
ブザーが断続で鳴って「メンテナンス選択メニュー」の画面に切り替わります。

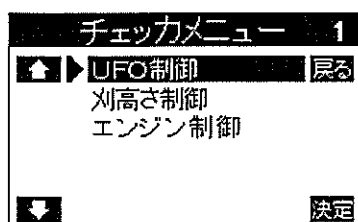


2. 「メンテナンス選択メニュー」の画面で、設定スイッチ1 (↑) または表示切替スイッチ (↓) を押して、▶ 印を「チェッカモード」の項目に移動して、文字を反転させ、ブザー停止スイッチ (決定) を押します。

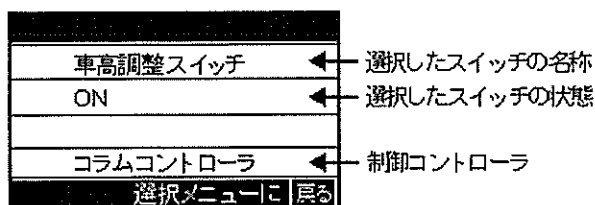
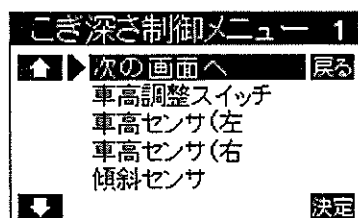


不調診断のしかた

3. 「チェッカメニュー」の画面が表示されますので、チェックを行いたい制御の項目に、設定スイッチ1 (↑) または表示切替スイッチ (↓) を押して、▶ 印を移動して、文字を反転させ、ブザー停止スイッチ (決定) を押します。



4. 各制御に関連するスイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などの「各制御メニュー」の画面が表示されますので、チェックを行いたい項目に、設定スイッチ1 (↑) または表示切替スイッチ (↓) を押して、▶ 印を移動して、文字を反転させ、ブザー停止スイッチ (決定) を押します。

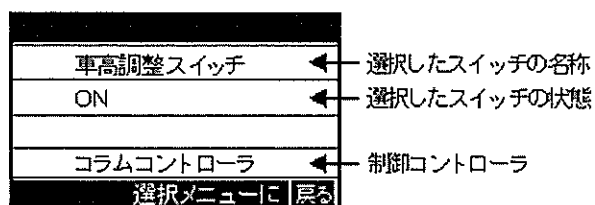


※図は、こぎ深さ制御のチェック例です。

5. 以下に、それぞれ選択したチェックしたい項目について説明します。

スイッチを選択した場合

- 1) スwitchの状態と、そのSwitchの入力を処理しているコントローラが表示されます。
- 2) Switch操作と表示が異なるときは、Switchの故障か、もしくはSwitchとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
- 3) カプラの外れやワラクズなどでSwitchが押された状態になっていないか確認してください。
- 4) カプラの外れで、カプラを差し込んでも、エラーが解除されない場合は、サービス向上に修理を依頼してください。



※図は、車高調整スイッチのチェック例です。

センサを選択した場合

- 1) センサの入力値(電圧・回転数・温度など)と正常なときのセンサ値の範囲、およびそのセンサの入力を処理しているコントローラが表示されます。
- 2) センサが異常値のときはセンサの故障か、もしくはセンサとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
- 3) カプラが外れていないか確認してください。

不調診断のしかた

- 4) カプラの外れで、カプラを差し込んでも、センサ値が正常値にない場合や、エラーが解除されない場合は、サービス工場に修理を依頼してください。

車高センサ (左)	← 選択したセンサの名称
0.58 V	← 選択したセンサの状態
低 0.57 V ↔ 4.47 V 高	← 選択したセンサの正常値
脱こくコントローラ	← 制御コントローラ
選択メニューに 戻る	

※図は、車高センサのチェック例です。

モータ・ランプ・電磁弁を

選択した場合

- 1) 設定スイッチ2 (駆動)を押しながら、設定スイッチ1 (浅)もしくは表示切替スイッチ (深)を押して、モータなどを動かすことができます。
- 2) 画面には動かしている状態と、出力しているコントローラが表示されます、
- 3) もし動かないときは、モータなどの故障か、もしくはモータなどとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
- 4) カプラが外れていないか確認してください。
- 5) カプラの外れで、カプラを差し込んでも。エラーが解除されない場合は、サービス工場に修理を依頼してください。

浅	駆動
車高水平自動ランプ	← 選択した機能の名称
消灯	← 駆動状態
駆動を押しながら点灯	← 操作方法
コラムコントローラ	← 制御コントローラ
深	選択メニューに 戻る

※図は、車高水平自動ランプのチェック例です。

6. ブザー停止スイッチ (戻る)を押して、「各制御メニュー」の画面に戻ります。さらに、制御に関するスイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などをチェックする場合は、手順4. の要領で行ってください。
7. 通常の画面に戻る場合は、キースイッチを「切」位置にして、再度「入」位置にするか、画面表示に従って、設定スイッチ2 (戻る)を押して戻ってください。

主要諸元

諸元		型式	汎用型飼料収穫機		
			SMR1000+RC (ロークロップ仕様)	SMR1000+RH (リールヘッダ仕様)	SMR1000+PU (ピックアップ仕様)
機体寸法	全 長 (mm)		6550	7150	6170
	全 幅 (mm)		1880	2360	1880
	全 高 (mm)		2680(シュートヘッド折りたたみ時) 3240(作業時)		
	質 量 (kg)		4935	5190	4935
エンジン	種 類		水冷 4 サイクル 4 気筒立形 (オフロード規制未対応)		
	型 式		4TNV98HT-RZ1C		
	総排気量(L)		3.318		
	出力/回転数 (kW<PS>/min ⁻¹)		定格: 68.4 (93) / 2600、最大: 72.1 (98) / 2400		
	燃料タンク容量(L)		100		
走行部	クローラ幅×接地長(mm) クローラ種類		550×1775~1975 JW550×90×58 リンク		
	転輪中心距離(mm)		1200		
	クローラ中心距離(mm)		1150		
	平均接地圧(KPa) [kgf/cm ²]		22.3~24.8 [0.227~0.253]	23.4~26.1 [0.239~0.266]	22.1~24.5 [0.225~0.250]
	変速方式		油圧サーボ付HST無断変速FDS		
	変速段数		前後進無段×副変速 3 段(油圧 2 段+ギヤ 2 段)		
	走行速度(m/sec)		低速: 前進 0~0.90、後進 0~0.85 標準: 前進 0~1.52、後進 0~1.47 走行: 前進 0~2.77、後進 0~2.62		
	ミッションフィット機能		有り		
	最大質量(kg)		5400(作業機、バール、オペレータを含む完成機最大積載状態)		
	傾斜調節		UFO		
	最低地上高(mm)		200~340		
	運転席		有り		
	エアクリーナ		6 インチ		
	オイルクーラ		26 段		
油圧・操作部	フィットステアリングスイッチ		多機能ハンドル部		
	シフトレバー		多機能 (UFO、リール前後、刈取昇降、オートリフト、セット、副変速)		
	バルブ		CV6-69GU(単動 2、複動 2)		
	作動油タンク		無し(ミッションオイル使用)		
	作業機操作用油圧ポンプ		5cc/rev(14.8L/min)		
	キャビン		標準装備		
	作業機クラッチレバー		1 本		
	ハンドル		多機能ハンドル		

主要諸元

切断部	切断方式	アップカットシリンダ
	切断刃数	12枚
	理論切断長(mm)	11, 15, 19, 29
成形部	ロール寸法(mm)	φ1000×850
	成形方法	チェーンバー(定径式)
	結束方法	ネット
	適応ネットサイズ(mm)	1000、1200
ロークロップ部	適応作物	長大作物(コーン、ソルゴー、ソルガム)
	適応条数	2条
	適応条間(mm)	750
	刈取刃	2枚
	搬送方式	ギャザリングチェーン
リールヘッダ部	適応作物	飼料稲・飼料麦
	適応条数	6条
	刈幅(mm)	2060
	適応草丈(mm)	300~1300
	リール径(mm)／バーの数	1000／6本
ピックアップ部	適応作物	予乾牧草
	適応水分	60%以下
	適応ウインドロー幅×高さ(mm)	800×400
	オーガ径(mm)	470

主要消耗品

主要消耗品

区分	No.	コード	名称	個数	備考
エンジン関係	1	Y1239-0755-801	燃料フィルタ	1	
	2	Y1291-5035-152	オイルエレメント	1	
	3	Y1191-1712-560	エアクリーナエレメント	1	
	4	Y2515-2004-700	ファンベルト A47 ローエッジコグ	1	
	5	Y1E89-4035-390	Vベルト 70B3-SG	1	作業機駆動
	6	Y1E82-5551-750	VベルトマルチブライA29	1	コンプレッサ
	7	Y2512-2006-002	VベルトトクA60H2	1	インタークーラ ファンベルト
クローラ	8	Y1E89-4073-480	クローラ 550×90×58JW	2	
スプロケット	9	Y1E6A-1073-400	スプロケット 90-8T/2	4	
バッテリー	10	Y1984-5051-510	バッテリー130E41L	1	
ワイヤー	11	Y1E89-4063-752	ブレーキワイヤ	1	
	12	Y1E89-4063-800	レバーモドシワイヤ	1	
ロールベアラ関係	13	03610-3120-650	LB-65 スーパーゴールド	4	ハーベスタ駆動 Vベルト
	14	03610-3120-520	LB-52 スーパーゴールド	3	ロールベアラ駆動 Vベルト
	15	38105-3740-010	タイトチェン	2	
	16	37117-3290-000	継ぎ手Assy	2	タイトチェン 継ぎ手
	17	39101-3341-000	タイトバー	81	
	18	39101-3350-000	タイトバー (キー付)	8	
	19	01211-2100-250	ボルト10×25 (11T、細目、黒染め)	178	タイトバー固定 ボルト
	20	02421-1000-100	高力座金 10	178	タイトバー固定 バネ座金
	21	02160-0101-800	タイトバーナット 10	178	タイトバー固定 ナット
	22	38105-3731-000	スライダーレール	2	
	23	33107-3640-000	テンションシリンダ	2	タイトチェン テンション
	24	38105-3720-000	スライダ	2	タイトチェン テンションスライダ
	25	33101-6570-000	コンベア	1	第一コンベアベルト
	26	37107-6420-001	コンベアベルト	1	第二コンベアベルト

主要消耗品

区分	No.	コード	名称	個数	備考
ロールベアラ関係	27	03621-0600-781	チェン#60×78+JL	1	平歯車入力
	28	03621-0800-841	チェン#80×84+JL	1	平歯車出力
	29	03628-0500-826	シールチェン#50×82+JL	1	油圧パッケージ入力
	30	03621-0600-761	チェン#60×75+JL	1	第二コンベア入力
	31	03621-0501-361	チェン#50×135+JL	1	油圧モータ出力
	32	03621-0501-741	チェン#50×173+JL	1	アジテータ駆動
	33	03610-0010-700	Vベルト LA-70	1	ネット装置
ハーベスタ関係	34	38105-3123-000	シリンダナイフ	12	
	35	38108-3831-000	砥石	1	シリンダナイフ 研磨用
	36	38108-2221-000	シャーバ	1	
	37	38108-2222-000	スクレバ	1	
	38	38108-2243-000	フロントプレート	1	
	39	03621-0600-663	チェン#60×63+OL+OL+JL	1	逆転ミッション入力
	40	03621-0600-823	チェン#80×79+OL+JL	1	切断長調節
	41	03621-0600-361	チェン#60×35+JL	2	フィードロール駆動
	42	03621-0600-712	チェン#60×71+OL+JL	1	アタッチ駆動
ロークロップ関係	43	38108-8441-000	刈取刃	2	
	44	38108-8410-000	ギャザリングチェン	2	外側
	45	38108-8420-000	ギャザリングチェンS	2	内側
	46	38108-8430-000	スクレバ	4	ギャザリングチェン
	47	38108-8381-000	チェンガイド(F)	4	
	48	38108-8382-000	チェンガイド(裏板)	4	
	49	38108-8383-000	チェンガイド	4	
	50	38108-8384-000	チェンガイド(S)	8	
	51	03621-0600-392	チェン#60×37+OL+JL	1	ロークロップ駆動
リールヘッド関係	52	Y1E66-8014-500	Vベルト RCVS-950	1	リール変速
	53	Y1E66-8014-501	Vベルト RCLC-78	1	刈刃駆動
	54	Y1E66-8113-640	タイン	87	
	55	Y1E84-5013-430	ブラケットA	18	
	56	Y1E84-5013-440	ブラケットB	18	
	57	Y1E66-8022-400	フィンガ	13	
	58	Y1E66-8122-420	フィンガガイド	13	
	59	Y1E66-8122-450	フィンガベアリング	13	
	60	Y1E87-9017-700	刈刃CMP	1	
	61	Y1E66-8117-800	刈刃	26	
	62	Y2264-1600-160	リベット(ヒラ6.0×16)	50	刈刃固定用

主要消耗品

分	No.	コード	名称	個数	備考
リールヘッド関係	63	Y2264-1600-200	リベット (ヒラ6. 0×20)	6	
	64	Y1E66-8417-551	受刃A	13	
	65	Y1E84-5017-860	受刃C	1	
	66	Y1E80-5017-810	ガイドL	1	
	67	Y1E80-5017-820	ガイドR	1	
	68	Y1E66-8113-682	リールプレート	6	
	69	Y1E66-8014-180	リールテンショナA	1	
	70	Y1E66-8014-050	チェン#415×60	1	リールカウンタ
	71	Y1E66-8014-200	チェン#415×226	1	リール駆動
	72	Y1E66-8021-070	チェン#50×84	1	検込駆動
	73	Y1K11-8027-460	チェン#60×36	1	リールヘッド駆動
ピックアップ関係	74	25107-5171-000	タイン	44	
シェアボルト関係	75	01158-5060-30A	シェアボルトアッシ (10セット入) M6×30 (8T・全ネジ) M6ナイロンナット		逆転ミッション入力 スプロケット部 -RC・-RH用
	76	01151-5060-30A	シェアボルトアッシ (10セット入) M6×30 (11T・全ネジ) M6ナイロンナット		逆転ミッション入力 スプロケット部 -MH用
	77	01158-5080-30C	シェアボルトアッシ (10セット入) M8×30 (8T・全ネジ) M8ナイロンナット		アタッチ駆動スプロ ケット部 ピックアップタイン 駆動スプロケット部
	78	01358-0080-40C	シェアボルトアッシ (10セット入) M8×40 (8T・半ネジ) M8ナイロンナット		タイトチェン駆動ス プロケット部

交換時期の目安

○:点検と調整・掃除・締結

●:初期運転後の点検と調整

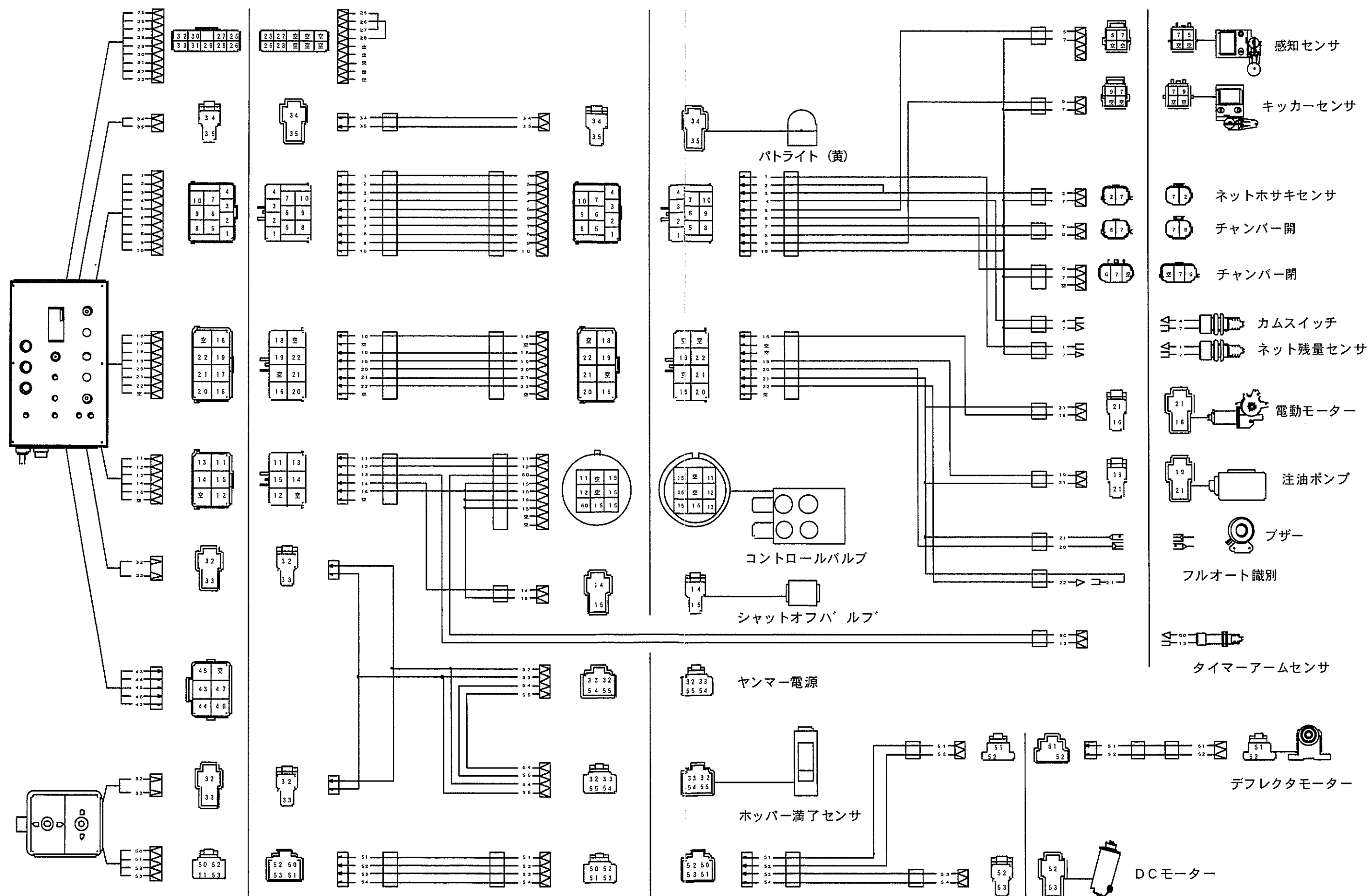
▲:交換

点検箇所		点検・交換時期																				それ以降（時間:h）		
		アワメータ表示時間（時間）																						
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
エンジン	ジェネレータ駆動ベルト	●		○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	ラジエタ冷却ファンベルト	●		○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	冷却水	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	毎日	200h(1年)
	インタークーラファンベルト	●		○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	エアクリーナーエレメント		○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	50hごと	300hごと
	プレクリーのほこり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	—
	防塵網、ラジエターフィンの目詰	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	—	
	燃料フィルタ (交換部品:カートリッ							▲						▲					▲			—	300hごと	
	油水分離器(交換部品:エレメント)			○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲	○	100hごと	300hごと	
	オイルフィルタ		▲					▲						▲						▲		—	300hごと	
	燃料ホース※				○			▲			○			▲			○			▲		150hごと	300hごと	
	ラジエタホース※						○					▲					○				▲	250hごと	500hごと	
	エンジンオイル※				○			▲			○			▲			○			▲		150hごと	300hごと	
	ドレンホース																							
ラジエタスクリーン、オイル		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hごと	—	
ウォータセパレータ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	—	
エンジンオイル		▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	50hごと	100hごと	
防振ゴム			○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲	○	100hごと	300hごと		
ミッション	ドライブシャフト											○									▲	500hごと	1000hごと	
	駐車ブレーキワイヤー		●	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	50hごと	300hごと	
	ブレーキディスク※											▲									▲	—	500hごと	
	ミッションオイル		▲						▲						▲						▲	—	300hごと	
	サクションフィルタ							○						▲					○			300hごと	600hごと	
	HSTオイルフィルタ (交換部品:カートリッ		▲					▲						▲					▲			—	300hごと	
	車軸オイルシール									○								▲				400hごと	800hごと	
走行	主変速レバー戻しワイヤ	●	○	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	50hごと	400hごと	
	カウンタベルト	●			○					▲				○				▲			○	200hごと	400hごと	
	コンプレッサ駆動ベルト	●			○					▲				○				▲			○	200hごと	400hごと	
	ブレーキワイヤー	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	50hごと	800hごと	
	クローラ				○					○				○				▲			○	200hごと	800hごと	
	スプロケット									▲								▲				—	400hごと	
	転輪																	▲				—	800hごと	
	転輪ベアリング																	▲				—	800hごと	
	転輪オイル					○				▲				○				▲			○	200hごと	400hごと	
	転輪オイルシール (メカニカルシール)										▲							▲				—	800hごと	
	アイドラ																	▲				—	800hごと	
	アイドラベアリング																	▲				—	800hごと	
	アイドラオイル					○				▲				○				▲			○	200hごと	400hごと	
	アイドラオルシール (メカニカルシール)																	▲				—	800hごと	
	クローラガイド																	▲				—	800hごと	
	可動転輪																	▲				—	800hごと	
	キャリアローラ																	▲				—	800hごと	
	可動転輪、キャリアローラベアリング										▲							▲				—	400hごと	
可動転輪、キャリアローラオイルシール										▲							▲				—	400hごと		
キャビン	コンプレッサ駆動ベルト	●		○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	内気フィルタ	30時間ごとに掃除																						
	コンデンサフィン (キャビン右後防塵網含			○		○		○		○		○		○		○		○		○		100hごと	—	
	エバポレータ掃除			○				○						○						○		300hごと	—	

点検箇所		点検・交換時期																				それ以降（時間:h）		
		アワメータ表示時間（時間）																						
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
電装	バッテリー	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hごと	—
	充電または交換																							
	ワイヤーハーネス、※ バッテリーケーブル	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hごと	—
	破損している時交換																							
	ヒューズ、 スローブローヒューズ		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100hごと	—
	破損している時交換																							
ランプ		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100hごと	—	
破損している時交換																								
ホーンスイッチ		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100hごと	—	
破損している時交換																								
コントロールボックスヒューズ		○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100hごと	—	
破損している時交換																								
ロールベアラ	タイトチェーン	●	○		○		○		○		▲	○	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと	
	タイトバー	●	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100hごと	—	
	破損している時交換																							
	第一コンベアベルト	●	○		○		○		○		▲	○	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと	
	第二コンベアベルト	●	○		○		○		○		▲	○	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと	
	平歯車入力チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと	
	平歯車出力チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと	
	油圧パッケージチェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと	
	第二コンベアチェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと	
	油圧モータチェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと	
アジテータ駆動チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと		
ロールベアラ駆動ベルト	●			○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと		
ハーベスタ	ハーベスタ直交ミッション	●					●						●							●		—	300hごと	
	ハーベスタ逆転ミッション	●					●						●							●		—	300hごと	
	シリンダナイフ	○		○		○	▲	○		○		○	▲	○		○		○	▲	○		100hごと	300hごと	
	シャープ	○		○		○	▲	○		○		○	▲	○		○		○	▲	○		100hごと	300hごと	
	切断長調節チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと	
	アタッチ駆動チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと	
	逆転ミッション入力チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと	
	ハーベスタ駆動ベルト	●			○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと	
	フィードロールチェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○			100hごと	500hごと	
	刈刃		○		○		○	▲	○		○		○	▲	○		○		○	▲	○		100hごと	300hごと
ロークロープ	ギヤザリングチェーン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	500hごと	
	刈取駆動ベルト	●			○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと	
	刈刃		○		○		▲	○		○		○	▲	○		○		○	▲		○	100hごと	300hごと	
	刈刃駆動ベルト	●			○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと	
	リール変速ベルト	●			○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと	
	刈刃駆動ケースオイル	▲						▲					▲						▲		—	300hごと		
	刈刃駆動アームベアリング							▲					▲						▲		—	300hごと		
	刈刃駆動チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと	
	カウンタチェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと	
	リール駆動チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと	
リールヘッド	掻込チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと	
	リールヘッド駆動チェーン	●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと	
	入力チェーン		●	○		○		○				▲	●	○		○		○		○		100hごと	500hごと	
	逆転ギヤ入力チェーン		●	○		○		○				▲	●	○		○		○		○		100hごと	500hごと	
	タイン駆動チェーン		●	○		○		○				▲	●	○		○		○		○		100hごと	500hごと	
ピックアップ																								

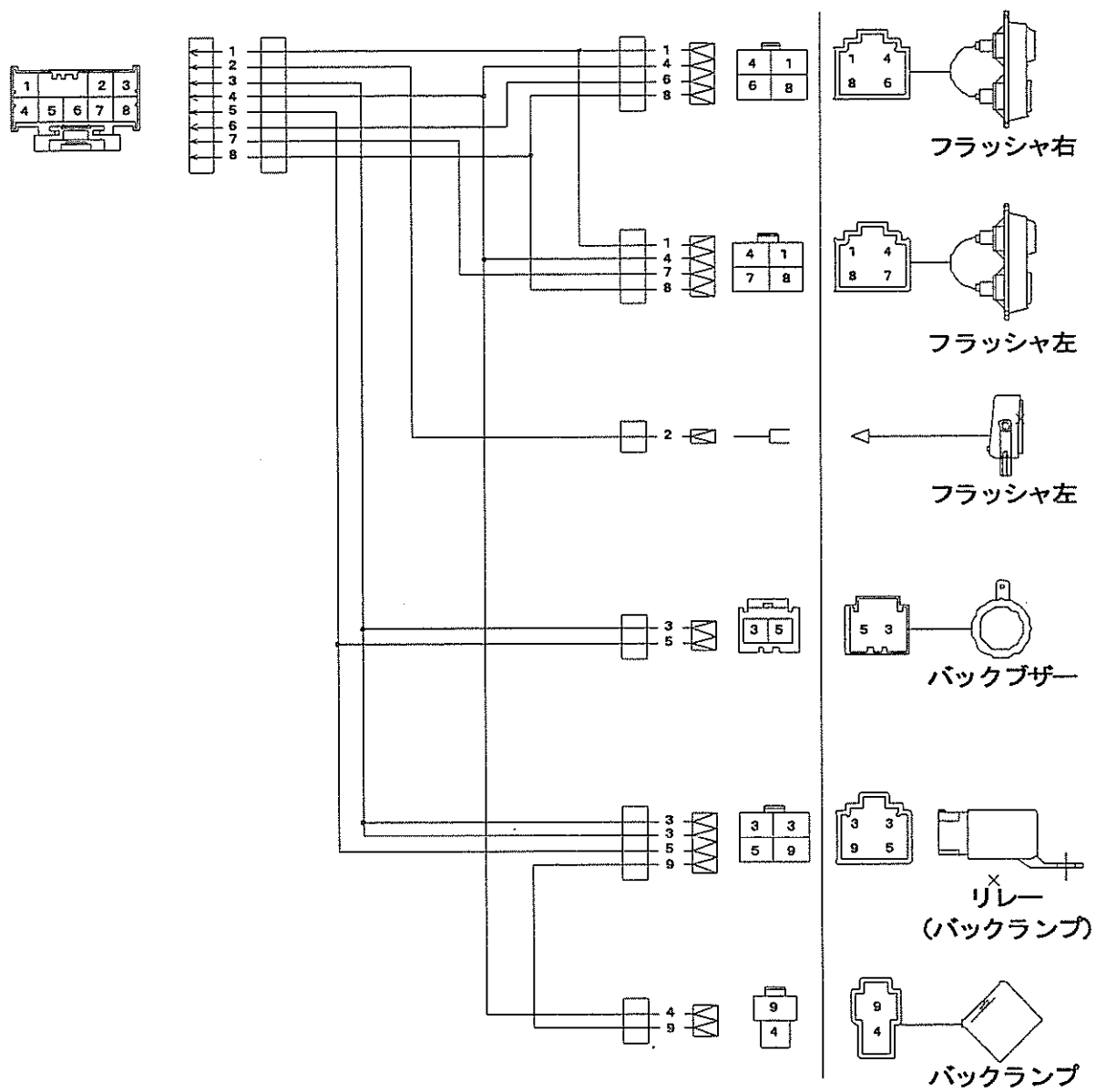
付表

1. 電気配線図 (ロールペーラー)



付表

(2) 電気配線図 (後保安)



付表

(3) 油圧回路図 (ロールベアラ部)

